

栃木県埋蔵文化財調査報告第 418 集

小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡

—農地整備事業（経営体育成型）小泉・本沼地区における埋蔵文化財発掘調査—

（第 2 分冊）

2024. 3

栃 木 県
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

こいずみ ぶんこう うら いせき もとぬま おおつか いせき
小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡

—農地整備事業（経営体育成型）小泉・本沼地区における埋蔵文化財発掘調査—

（第2分冊）

2024.3

栃 木 県
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

第2分冊 目次

第3章 小泉分校裏遺跡	403
第17節 O区	403
1. 地下式坑 2. 溝 3. 土坑 4. 遺構外の遺物	
第18節 P区	414
1. 竪穴建物跡 2. 方形竪穴 3. 土坑 4. ビット 5. 遺構外の遺物	
第19節 Q区	441
1. 竪穴建物跡 2. 溝 3. 土坑 4. その他	
第20節 R区	458
1. 地下式坑 2. 溝 3. 遺構外の遺物	
第21節 S区	464
1. 竪穴建物跡 2. 方形竪穴 3. 地下式坑 4. 溝 5. 土坑 6. ビット	
7. 遺構外の遺物	
第22節 T区	474
1. 溝 2. 土坑 3. ビット	
第4章 本沼大塚遺跡	477
第1節 縄文・弥生時代の遺構・遺物	477
第2節 塚	480
第3節 本沼大塚墳丘下より確認された遺構	483
第4節 トレンチより確認された遺構と遺物	485
1. 1トレンチ 2. 2トレンチ 3. 3トレンチ 4. 4トレンチ 5. 5トレンチ	
6. 6トレンチ 7. 7トレンチ 8. 8トレンチ	
第5章 総括	491
第1節 置きカマドについて	491
第2節 須恵器	494
第3節 瓦	495
第4節 集落の変遷	498
第5節 集落の性格	500
附編 理化学分析	505
第1節 小泉分校裏遺跡出土の人骨について	505
第2節 放射性炭素年代測定	507
第3節 炭化材の樹種同定	509
第4節 小泉分校裏遺跡の石材同定	514

挿図目次

第316図	O区全体図	403	第358図	R区SK-1・2遺構実測図	458
第317図	O区SK-1・4遺構実測図	404	第359図	R区SK-1・2、SD-3出土遺物実測図	459
第318図	O区SD-20・25遺構実測図	405	第360図	R区SD-3遺構実測図	462
第319図	O区SK-2・3・5・6・8-19遺構実測図	411	第361図	R区遺構外出土遺物実測図	463
第320図	O区SK-21-24・26-30遺構・SK-13・29出土遺物実測図	412	第362図	S区全体図(ピットは別図あり)	464
第321図	O区遺構外出土遺物実測図	413	第363図	S区SI-12遺構・出土遺物実測図	465
第322図	P区全体図(ピットは別図あり)	414	第364図	S区SK-7・9遺構・出土遺物実測図	467
第323図	P区SI-5遺構実測図	415	第365図	S区SK-8遺構・出土遺物実測図	468
第324図	P区SI-10・11遺構実測図	416	第366図	S区SD-5・11遺構実測図	469
第325図	P区SI-19遺構・出土遺物実測図	416	第367図	S区SK-1-4・6・10・13遺構・SK-1・6出土遺物実測図	471
第326図	P区SI-21遺構実測図	417	第368図	S区ピット遺構実測図	472
第327図	P区SI-21出土遺物実測図	418	第369図	S区遺構外出土遺物実測図	473
第328図	P区SI-27・28遺構実測図	419	第370図	T区全体図	474
第329図	P区SI-27・28出土遺物実測図	420	第371図	T区SD-5・6遺構実測図	475
第330図	P区SI-35・36遺構実測図	421	第372図	T区SK-1遺構実測図	475
第331図	P区SI-35・36出土遺物実測図	422	第373図	T区ピット遺構実測図	476
第332図	P区SI-37遺構実測図	424	第374図	本沼大塚遺跡全体図	477
第333図	P区SI-37出土遺物実測図(1)	425	第375図	本沼大塚遺跡縄文・弥生土器・石器遺物実測図	478
第334図	P区SI-37出土遺物実測図(2)	426	第376図	本沼大塚遺跡塚調査前現状測量図	481
第335図	P区SI-39遺構実測図	428	第377図	本沼大塚遺跡塚表土除去後南面見通し図	481
第336図	P区SI-39出土遺物実測図	429	第378図	本沼大塚遺跡塚遺構実測図	482
第337図	P区SK-1遺構実測図	431	第379図	本沼大塚遺跡塚出土遺物実測図	483
第338図	P区SK-2-4・6-9・12-16遺構実測図	436	第380図	本沼大塚遺跡SK-20・21・24遺構実測図	484
第339図	P区SK-20・22-26・29-34・38遺構実測図	437	第381図	本沼大塚遺跡1トレンチ遺構実測図	486
第340図	P区SK-38出土遺物実測図	438	第382図	本沼大塚遺跡2トレンチ遺構・出土遺物実測図	486
第341図	P区ピット平面図	439	第383図	本沼大塚遺跡3トレンチ遺構実測図	487
第342図	P区遺構外出土遺物実測図	440	第384図	本沼大塚遺跡4トレンチ遺構実測図	487
第343図	Q区全体図	441	第385図	本沼大塚遺跡5トレンチ遺構・出土遺物実測図	488
第344図	Q区SI-2遺構・出土遺物実測図	443	第386図	本沼大塚遺跡6トレンチ遺構・出土遺物実測図	489
第345図	Q区SI-4遺構実測図	444	第387図	本沼大塚遺跡7トレンチ遺構実測図	490
第346図	Q区SI-7遺構実測図	445	第388図	本沼大塚遺跡8トレンチ遺構実測図	490
第347図	Q区SI-9・10遺構・出土遺物実測図	446	第389図	古墳時代の置きカマド	492
第348図	Q区SI-12遺構・出土遺物実測図	447	第390図	市貝町多田羅遺跡出土置きカマド	493
第349図	Q区SI-16遺構実測図	448	第391図	出土須恵器 時期・産地別の割合	494
第350図	Q区SI-18遺構・出土遺物実測図	448	第392図	平瓦叩き具分類図	496
第351図	Q区SI-20・21遺構実測図	450	第393図	小泉分校表・本沼大塚遺跡変遷図	499
第352図	Q区SI-20・21出土遺物実測図	451	第394図	D・E区竪穴建物・掘立柱建物・円形有段遺構変遷図	500
第353図	Q区SD-3・6遺構・SD-6出土遺物実測図	454	第395図	D・E区墨書土器出土状況	502
第354図	Q区SK-5・8・11・13・22-24遺構・出土遺物実測図	456	第396図	G・P・R区墨書土器出土状況	503
第355図	Q区SK-22出土遺物実測図	457			
第356図	Q区SK-19遺構・出土遺物実測図	457			
第357図	R区全体図	457			

表 目 次

第199表	O区地下式坑計測表	404	第230表	R区遺構外出土遺物観察表	463
第200表	O区溝計測表	405	第231表	S区竪穴建物跡計測表	465
第201表	O区土坑計測表	406	第232表	S区SI-12出土遺物観察表	466
第202表	O区土坑出土遺物観察表	412	第233表	S区方形竪穴遺構計測表	466
第203表	O区遺構外出土遺物観察表	413	第234表	S区SK-7出土遺物観察表	467
第204表	P区竪穴建物跡計測表	414・415	第235表	S区地下式坑計測表	467
第205表	P区SI-19出土遺物観察表	417	第236表	S区SK-8出土遺物観察表	468
第206表	P区SI-21出土遺物観察表	418・419	第237表	S区溝計測表	468
第207表	P区SI-27・28出土遺物観察表	420	第238表	S区土坑計測表	469
第208表	P区SI-35・36出土遺物観察表	423	第239表	S区SK-1・6出土遺物観察表	471
第209表	P区SI-37出土遺物観察表	426・437	第240表	S区ビット計測表	472
第210表	P区SI-39出土遺物観察表	430	第241表	S区遺構外出土遺物観察表	473
第211表	P区方形竪穴計測表	430	第242表	T区溝計測表	475
第212表	P区土坑計測表	431	第243表	T区土坑計測表	475
第213表	P区SK-38出土遺物観察表	438	第244表	T区ビット計測表	476
第214表	P区ビット計測表	439	第245表	本沼大塚遺跡出土石器観察表	479
第215表	P区遺構外出土遺物観察表	440	第246表	本沼大塚遺跡塚出土遺物観察表	482・483
第216表	Q区竪穴建物跡計測表	442	第247表	本沼大塚遺跡土坑計測表	484
第217表	Q区SI-2出土遺物観察表	443	第248表	本沼大塚遺跡竪穴建物跡計測表	485
第218表	Q区SI-9出土遺物観察表	446	第249表	本沼大塚遺跡トレンチ内土坑・ビット遺構計測表	485
第219表	Q区SI-12出土遺物観察表	448	第250表	本沼大塚遺跡2トレンチ出土遺物観察表	486
第220表	Q区SI-18出土遺物観察表	449	第251表	本沼大塚遺跡5トレンチ出土遺物観察表	488
第221表	Q区SI-20・21出土遺物観察表	452	第252表	本沼大塚遺跡6トレンチ出土遺物観察表	489
第222表	Q区溝計測表	453	第253表	小泉分校裏遺跡報告書掲載載置器の時期・産地別一覧表	493
第223表	Q区SD-6出土遺物観察表	453	第254表	瓦甲き具の分類と時期	495
第224表	Q区土坑計測表	455	第255表	小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡 竪穴建物・掘立柱建物跡調査区別時期一覧表	498
第225表	Q区SK-22出土遺物観察表	457	第256表	小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡 竪穴建物・掘立柱建物時期別清單	500
第226表	Q区SX-19出土遺物観察表	457			
第227表	R区地下式坑計測表	458			
第228表	R区SK-1・2、SD-3出土遺物観察表	460			
第229表	R区溝計測表	462			

図 版 目 次

巻頭図版

M区SI-25 費と置きカマド

図版一 遺構

小泉分校裏遺跡(南から)
D区・E区全景(上空から)

図版二 遺構(A区)

A区SI-1 土層堆積状況(南から)
A区SI-1 遺物出土状況(南から)
A区SI-1 遺物出土状況(南から)
A区SI-1 遺物出土状況(南東から)
A区SI-1 カマド(南から)
A区SI-1 完掘(南から)
A区SI-2 土層堆積状況(東から)
A区SI-2 遺物出土状況(南から)

図版三 遺構(A区)

A区SI-2 カマド付近遺物出土状況(南東から)
A区SI-2 カマド付近遺物出土状況(南西から)
A区SI-2 完掘(南西から)
A区SI-2 カマド掘方(南から)
A区SI-3 土層堆積状況(東から)
A区SI-3 遺物出土状況(北東から)
A区SI-3 完掘(南から)
A区SI-4 土層堆積状況(東から)

図版四 遺構(A区)

A区SI-4 遺物出土状況(南から)
A区SD-20 完掘(北から)
A区SD-29 完掘(北東から)
A区SD-91 完掘(北東から)

A区SK-14 完掘（東から）
A区SK-16・17 完掘（西から）
A区SK-28 完掘（西から）
A区SK-32・P-33 完掘（東から）

図版五 遺構（A・B区）

A区SK-43 完掘（東から）
A区SK-95 完掘（北から）
A区北東ビット群（西から）
A区北西ビット群（南東から）
A区 全景（西から）
B区SD-4 完掘（南から）
B区SD-5 完掘（南東から）
B区SD-4・5 完掘（北から）

図版六 遺構（B区）

B区SD-6 土層堆積状況（西から）
B区SD-6 完掘（東から）
B区SK-1 遺構確認状況（南西から）
B区SK-1 土層堆積状況（南から）
B区SK-1 土層堆積状況（南西から）
B区SK-1 人骨等出土状況（南西から）
B区SK-1 人骨等出土状況（北東から）
B区SK-1 作業風景（東から）

図版七 遺構（B区）

B区SK-1 人骨出土状況（北から）
B区SK-1 人骨出土状況（南西から）
B区SK-1 人骨出土状況アップ（南から）
B区SK-1 完掘（北東から）
B区SK-2 遺構確認状況（南西から）
B区SK-2 土層堆積状況（南から）
B区SK-2 土層堆積状況（南西から）
B区SK-2 人骨等確認状況（北東から）

図版八 遺構（B区）

B区SK-2 遺物出土状況アップ（東から）
B区SK-2 完掘（南西から）
B区SK-3 遺構確認状況（南西から）
B区SK-3 土層堆積状況（南西から）
B区SK-3 土層堆積状況（西から）
B区SK-3 人骨等確認状況（北東から）
B区SK-3 遺物出土状況（東から）
B区SK-3 遺物出土状況（東から）

図版九 遺構（B・C区）

B区SK-3 完掘（東から）
B区SK-1～3 完掘（東から）
C区SE-3 土層堆積状況（北東から）
C区SD-2・SK-1 完掘（西から）
C区SD-5 作業風景（南から）
C区SD-5 作業風景（南から）
C区SK-7 土層堆積状況（北東から）
C区南ビット群（南西から）

図版一〇 遺構（C・D区）

C区 全景（南から）
D区SI-6 土層堆積状況（南西から）
D区SI-6 遺物出土状況（西から）
D区SI-6 土路出土状況（北西から）
D区SI-6 カマド（西から）
D区SI-7 北東隅遺物出土状況（西から）
D区SI-7 完掘（南から）
D区SI-7 カマド（東から）

図版一一 遺構（D区）

D区SI-9 遺物出土状況（南東から）
D区SI-11 遺物出土状況（南から）
D区SI-11・12 完掘（北西から）
D区SI-13 土層堆積状況（南から）
D区SI-13 遺物出土状況（西から）
D区SI-13 カマド（南西から）
D区SI-14 東カマド（西から）
D区SI-14 P1 土層断面状況（南東から）

図版一二 遺構（D区）

D区SI-14 P3 土層断面状況（南東から）
D区SI-14 P4 土層断面状況（南東から）
D区SI-14 南側張り出し（北西から）
D区SI-14 完掘（南から）
D区SI-16 カマド掘方（南東から）
D区SI-23 土層堆積状況（南から）
D区SI-23 遺物出土状況（西から）
D区SI-23 完掘（南から）

図版一三 遺構（D区）

D区SI-23 カマド（南東から）
D区SI-24 土層堆積状況（南から）
D区SI-24 遺物出土状況（南西から）
D区SI-24 遺物出土状況（南から）
D区SI-24 完掘（南西から）
D区SI-24 カマド（南から）
D区SI-24 カマド掘方（南東から）
D区SI-25 土層堆積状況（南から）

図版一四 遺構（D区）

D区SI-25 カマド遺物出土状況（西から）
D区SI-25 完掘（西から）
D区SI-26 土層堆積状況（南から）
D区SI-26 遺物出土状況（南から）
D区SI-26 カマド（南西から）
D区SI-28 カマド掘方（西から）
D区SI-29 P1 土層断面状況（南東から）
D区SI-29 P2 土層断面状況（南東から）

図版一五 遺構（D区）

D区SI-29 P3 土層断面状況（南東から）
D区SI-29 P4 土層断面状況（南東から）
D区SI-29 完掘（南から）
D区SI-29 カマド（南から）

	D区 SI-43 上層堆積状況 (南から)
	D区 SI-43 完掘 (南東から)
	D区 SB-10 柱痕確認状況 (南西から)
	D区 SB-10 P4 石出土状況 (南西から)
図版一六	遺構 (D区)
	D区 SB-10 P2 上層断面状況 (南から)
	D区 SB-10 完掘 (南から)
	D区 SB-19 柱痕確認状況 (東から)
	D区 SB-19 P1 上層断面状況 (北西から)
	D区 SB-19 P4 上層断面状況 (西から)
	D区 SB-19 P7 上層断面状況 (南東から)
	D区 SB-19 P7 完掘 (南から)
	D区 SB-27・SB-19 柱痕確認状況 (南から)
図版一七	遺構 (D区)
	D区 SB-27 P9 上層断面状況 (南西から)
	D区 SB-30・31・32 柱痕確認状況 (南東から)
	D区 SB-30 P4 上層断面状況 (東から)
	D区 SB-30 P6 上層断面状況 (西から)
	D区 SB-30 P8 上層断面状況 (西から)
	D区 SB-31 柱痕確認状況 (南から)
	D区 SB-31 P1 完掘 (南から)
	D区 SB-31 完掘 (南東から)
図版一八	遺構 (D区)
	D区 SB-32 P6 上層断面状況 (南から)
	D区 SB-32 完掘 (南東から)
	D区 SB-34 柱痕確認状況 (南から)
	D区 SB-34 P8 上層断面状況 (西から)
	D区 SB-35 柱痕確認状況 (南から)
	D区 SB-35 P10 上層断面状況 (西から)
	D区 SB-36 柱痕確認状況 (南から)
	D区 SB-37 柱痕確認状況 (西から)
図版一九	遺構 (D区)
	D区 SB-37 P4 上層断面状況 (西から)
	D区 SB-35・36・37 完掘 (南から)
	D区 SB-39 柱痕確認状況 (西から)
	D区 SB-39 P9 上層断面状況 (西から)
	D区 SB-41 柱痕確認状況 (南西から)
	D区 SB-42 P6 上層断面状況 (南東から)
	D区 SD-1・3 上層堆積状況 (南東から)
	D区 SK-20 完掘 (南西から)
図版二〇	遺構 (D区)
	D区 SK-33 上層堆積状況 (南東から)
	D区 SK-33 完掘 (東から)
	D区 SK-44 上層堆積状況 (東から)
	D区 SK-45 上層堆積状況 (南から)
	D区 SK-46 完掘 (南から)
	D区 調査風景 (南から)
	D区 SI-14 周辺全景 (西から)
	D区 SI-29 周辺全景 (西から)

図版二一	遺構 (E区)
	E区 SI-4 上層堆積状況 (北東から)
	E区 SI-4 カマド (南東から)
	E区 SI-4 完掘 (南東から)
	E区 SI-9 上層堆積状況・完掘 (西から)
	E区 SI-10 カマド (南東から)
	E区 SI-11 カマド (南東から)
	E区 SI-11 完掘 (南東から)
	E区 SI-12 上層堆積状況 (南東から)

図版二二	遺構 (E区)
	E区 SI-12 遺物出土状況 (北東から)
	E区 SI-12 遺物出土状況 (北西から)
	E区 SI-12 カマド遺物出土状況 (北西から)
	E区 SI-12 完掘 (南から)
	E区 SI-15 カマド掘方 (南から)
	E区 SI-25 カマド遺物出土状況 (西から)
	E区 SI-29 カマド掘方 (西から)
	E区 SI-29 完掘 (西から)

図版二三	遺構 (E区)
	E区 SI-29 作業風景 (北から)
	E区 SI-35 東カマド掘方 (西から)
	E区 SI-43・SK-59・201 遺物出土状況 (西から)
	E区 SI-43 カマド上層堆積状況 (南西から)
	E区 SI-44 上層堆積状況 (北から)
	E区 SI-44 カマド上層堆積状況 (南から)
	E区 SI-44 遺物出土状況 (西から)
	E区 SI-44 かわらけ出土状況 (北から)

図版二四	遺構 (E区)
	E区 SI-44 カマド遺物出土状況 (南西から)
	E区 SI-43・44・128 完掘 (東から)
	E区 SI-49 上層堆積状況・完掘 (南から)
	E区 SI-49 上層堆積状況 (南東から)
	E区 SI-51 作業風景 (南から)
	E区 SI-51 遺物出土状況 (南から)
	E区 SI-51 北東部遺物出土状況 (南から)
	E区 SI-51 西壁際遺物出土状況 (南から)

図版二五	遺構 (E区)
	E区 SI-51 遺物出土状況 (南から)
	E区 SI-51 カマド遺物出土状況 (南から)
	E区 SI-51 カマド袖遺物出土状況 (南から)
	E区 SI-61 上層堆積状況 (南から)
	E区 SI-61 遺物出土状況 (北西から)
	E区 SI-61 カマド遺物出土状況 (西から)
	E区 SI-61 遺物出土状況 (南から)
	E区 SI-61 カマド掘方・SK-73 完掘 (南西から)

図版二六	遺構 (E区)
	E区 SI-64 上層堆積状況 (南西から)
	E区 SI-64 遺物出土状況 (西から)
	E区 SI-64 カマド袖遺物出土状況 (西から)
	E区 SI-64 カマド掘方 (西から)

- E区 SI-67 上層堆積状況 (南から)
 E区 SI-67 刀装具出土状況 (南西から)
 E区 SI-67 カマド 上層堆積状況 (南から)
 E区 SI-67 北カマド (南から)
- 図版二七 遺構 (E区)
 E区 SI-67 東カマド 上層堆積状況 (北西から)
 E区 SI-67 東カマド 遺物出土状況 (南から)
 E区 SI-67 北カマド 袖断り状況 (南から)
 E区 SI-67 完掘 (南から)
 E区 SI-68 上層堆積状況 (南から)
 E区 SI-68 遺物出土状況 (南東から)
 E区 SI-68 完掘 (南東から)
 E区 SI-68 カマド 掘方 (南から)

- 図版二八 遺構 (E区)
 E区 SI-72 上層堆積状況 (南から)
 E区 SI-72 遺物出土状況 (南から)
 E区 SI-72 東カマド 遺物出土状況 (南から)
 E区 SI-72 北カマド 上層堆積状況 (西から)
 E区 SI-72 北カマド 遺物出土状況 (南西から)
 E区 SI-72 東カマド 上層堆積状況 (南から)
 E区 SI-72 調査風景 (南東から)
 E区 SI-72 完掘 (南西から)

- 図版二九 遺構 (E区)
 E区 SI-72 北カマド 掘方 (南から)
 E区 SI-74 上層堆積状況 (南から)
 E区 SI-74 完掘 (南から)
 E区 SI-74・75 周辺全景 (西から)
 E区 SI-75 上層堆積状況 (南から)
 E区 SI-75 カマド 上層堆積状況 (東から)
 E区 SI-75 遺物出土状況 (南から)
 E区 SI-75 南西部 遺物出土状況 (南東から)

- 図版三〇 遺構 (E区)
 E区 SI-75 南西部 遺物出土状況 (西から)
 E区 SI-75 中央部 遺物出土状況 (南から)
 E区 SI-75 完掘 (西から)
 E区 SI-75 カマド 掘方 (南から)
 E区 SI-76 上層堆積状況 (北西から)
 E区 SI-76 カマド 遺物出土状況 (南西から)
 E区 SI-77 上層堆積状況 (南から)
 E区 SI-77 遺物出土状況 (南から)

- 図版三一 遺構 (E区)
 E区 SI-77 カマド 遺物出土状況 (西から)
 E区 SI-77 カマド (西から)
 E区 SI-77・84 完掘 (西から)
 E区 SI-78 遺物出土状況 (北西から)
 E区 SI-78 北東部 遺物出土状況 (南から)
 E区 SI-78 遺物出土状況 (南西から)
 E区 SI-78 カマド 遺物出土状況 (西から)
 E区 SI-78 掘方 完掘 (北西から)

- 図版三二 遺構 (E区)
 E区 SI-84 上層堆積状況 (南から)
 E区 SI-84 遺物出土状況 (西から)
 E区 SI-84 北東部 遺物出土状況 (南西から)
 E区 SI-84 北カマド 掘方 (南から)
 E区 SI-84 新カマド 上層堆積状況 (東から)
 E区 SI-84 新カマド (南から)
 E区 SI-84 完掘 (西から)
 E区 SI-86 上層堆積状況 (東から)

- 図版三三 遺構 (E区)
 E区 SI-86 完掘 (南から)
 E区 SI-86 カマド 上層堆積状況 (東から)
 E区 SI-87 上層堆積状況 (東から)
 E区 SI-87 遺物出土状況 (南から)
 E区 SI-87 東カマド 上層堆積状況 (東から)
 E区 SI-87 東カマド 上層堆積状況 (東から)
 E区 SI-87 北カマド 上層堆積状況 (東から)
 E区 SI-87 北カマド 遺物出土状況 (東から)

- 図版三四 遺構 (E区)
 E区 SI-87 東カマド 石出土状況 (南から)
 E区 SI-87 完掘 (南から)
 E区 SI-89 上層堆積状況 (南から)
 E区 SI-89 遺物出土状況 (東から)
 E区 SI-89 カマド 遺物出土状況 (南から)
 E区 SI-92 上層堆積状況 (北から)
 E区 SI-92 カマド① 上層堆積状況 (東から)
 E区 SI-92 カマド② 上層堆積状況 (東から)

- 図版三五 遺構 (E区)
 E区 SI-92 カマド② 上層堆積状況 (南から)
 E区 SI-92 カマド③ 燃出部分 (南から)
 E区 SI-92 カマド③ 上層堆積状況 (西から)
 E区 SI-92 カマド③ 上層堆積状況 (北から)
 E区 SI-92 カマド③ 燃出部分 (南から)
 E区 SI-92 遺物出土状況 (東から)
 E区 SI-92 鉄製品出土状況 (西から)
 E区 SI-92 カマド③ 遺物出土状況 (西から)

- 図版三六 遺構 (E区)
 E区 SI-92 カマド① (南から)
 E区 SI-92 カマド② (南から)
 E区 SI-92 カマド② 掘方 (南から)
 E区 SI-92 カマド③ 袖断り (西から)
 E区 SI-92 カマド③ (西から)
 E区 SI-92 カマド③ (南から)
 E区 SI-92 カマド③ (北西から)
 E区 SI-92 カマド③ 燃道内 上層堆積状況 (北から)

- 図版三七 遺構 (E区)
 E区 SI-92 カマド③ 燃道内 上層堆積状況 (北西から)

	E区 SI-92 カマド③煙道 (西から)	E区 SK-2 土層堆積状況 (東から)
	E区 SI-92 カマド③煙道 (南から)	E区 SK-2 遺物出土状況 (北東から)
	E区 SI-92 カマド③煙道 (北西から)	
	E区 SI-92 カマド③煙道石 (西から)	図版四三 遺構 (E区)
	E区 SI-92 カマド③掘方 (西から)	E区 SK-2 遺物出土状況 (東から)
	E区 SI-92 完掘 (南から)	E区 SK-2 底面ビット土層堆積状況 (西から)
	E区 SI-92 完掘 (北西から)	E区 SK-2 底面ビット完掘 (南から)
図版三八 遺構 (E区)		E区 SK-2 作業風景 (南西から)
	E区 SI-115 土層堆積状況・完掘 (北から)	E区 SK-2 完掘 (南西から)
	E区 SI-128 土層堆積状況 (南から)	E区 SK-36 土層堆積状況 (東から)
	E区 SI-128 完掘 (東から)	E区 SK-36 作業風景 (東から)
	E区 SB-69 柱直確認状況 (南から)	E区 SK-36 底面ビット土層堆積状況 (南から)
	E区 SB-69 P1 土層断面状況 (西から)	
	E区 SB-69 P4 土層断面状況 (北から)	図版四四 遺構 (E区)
	E区 SB-69 P5 土層断面状況 (東から)	E区 SK-36 完掘 (西から)
	E区 SB-69 P7 土層断面状況 (南から)	E区 SK-83 土層堆積状況 (南西から)
図版三九 遺構 (E区)		E区 SK-83 遺物出土状況 (南から)
	E区 SB-69 P8 土層断面状況 (西から)	E区 SK-83 遺物出土状況 (北から)
	E区 SB-69 P9 土層断面状況 (西から)	E区 SK-83 底面ビット土層堆積状況 (南東から)
	E区 SB-69 P10 土層断面状況 (西から)	E区 SK-83 完掘 (東から)
	E区 SB-69 完掘 (東から)	E区 SK-83 底面ビット完掘 (南から)
	E区 SB-139 柱直確認状況 (東から)	E区 SK-5・6 完掘 (南西から)
	E区 SB-139 P1 土層断面状況 (南から)	
	E区 SB-139 P2 土層断面状況 (東から)	図版四五 遺構 (E区)
	E区 SB-139 P3 土層断面状況 (東から)	E区 SK-13 遺物出土状況 (南西から)
図版四〇 遺構 (E区)		E区 SK-19 遺物出土状況 (西から)
	E区 SB-139 P4 土層断面状況 (南東から)	E区 SK-22 土層堆積状況 (南東から)
	E区 SB-139 P7 完掘 (南から)	E区 SK-22 完掘 (西から)
	E区 SB-139 P8 土層断面状況 (南西から)	E区 SK-24 遺物出土状況 (南から)
	E区 SB-139 P9 土層断面状況 (南西から)	E区 SK-30・31 遺物出土状況 (東から)
	E区 SB-139 完掘 (東から)	E区 SK-31 遺物出土状況 (南から)
	E区 SB-139 全景 (西から)	E区 SK-32 土層堆積状況 (東から)
	E区 SB-183 P3 土層断面状況 (東から)	
	E区 SB-183 完掘 (南から)	図版四六 遺構 (E区)
図版四一 遺構 (E区)		E区 SK-33 完掘・34 遺物出土状況 (南から)
	E区 SB-183 全景 (北から)	E区 SK-37 完掘 (南から)
	E区 SB-185 P3 完掘 (北東から)	E区 SK-38 完掘 (南から)
	E区 SB-185 P4 遺物出土状況 (南西から)	E区 SK-40 完掘 (南西から)
	E区 SB-185 P5 完掘 (南西から)	E区 SK-41 完掘 (南から)
	E区 SB-185 P9 完掘 (南から)	E区 SK-47 完掘 (南から)
	E区 SB-185 P10 完掘 (西から)	E区 SK-52・53 完掘 (南西から)
	E区 SB-185 完掘 (北から)	E区 SK-55 土層堆積状況 (南から)
	E区 SB-185 全景 (北から)	
図版四二 遺構 (E区)		図版四七 遺構 (E区)
	E区 SD-3 遺物出土状況 (北西から)	E区 SK-56 土層堆積状況 (南から)
	E区 SD-3 完掘 (南東から)	E区 SK-59 土層堆積状況 (南から)
	E区 SK-2 遺物出土状況 (西から)	E区 SK-62 完掘 (南から)
	E区 SK-2 遺物出土状況 (東から)	E区 SK-73 完掘 (南から)
	E区 SK-2 作業風景 (南西から)	E区 SK-82 土層堆積状況 (北東から)
	E区 SK-2 遺物出土状況 (北東から)	E区 SK-82 完掘 (東から)
		E区 SK-88 土層堆積状況 (南西から)
		E区 SK-88 粘土出土状況 (南から)
図版四八 遺構 (E区)		
	E区 SK-88 完掘 (南西から)	

	E区 SK-90 完掘 (南から)		G区 SI-2 枕上痕確認状況 (東から)
	E区 SK-93 遺物出土状況 (西から)		G区 SI-3 遺物出土状況 (南西から)
	E区 SK-94 完掘 (南から)		
	E区 SK-96 完掘 (東から)		
	E区 SK-97 完掘 (南から)		
	E区 SK-106 遺物出土状況 (南から)		
	E区 SK-107 完掘 (南から)		
図版四九	遺構 (E区)		
	E区 SK-114 完掘 (東から)		
	E区 SK-124 遺物出土状況 (西から)		
	E区 SK-124 完掘 (南から)		
	E区 SK-126 上層堆積状況 (南から)		
	E区 SK-129 上層堆積状況 (東から)		
	E区 SK-137 上層堆積状況 (東から)		
	E区 SK-143 完掘 (南から)		
	E区 SK-147 完掘 (南から)		
図版五〇	遺構 (E区)		
	E区 SK-150 完掘 (東から)		
	E区 SK-153 完掘 (南から)		
	E区 SK-155 完掘 (南から)		
	E区 SK-158 上層堆積状況 (東から)		
	E区 SK-165 完掘 (西から)		
	E区 SK-166・167 完掘 (南東から)		
	E区 SK-178 完掘 (南から)		
	E区 SI-43 内 SK-184 上層堆積状況 (東から)		
図版五一	遺構 (E・F区)		
	E区 SK-184 完掘 (西から)		
	E区 SX-63 完掘 (南から)		
	E区 P-138 上層堆積状況・完掘 (南西から)		
	F区 SK-1 完掘 (南東から)		
	F区 SK-2 遺物出土状況 (南から)		
	F区 SK-3 完掘 (東から)		
	F区 SK-4 完掘 (南から)		
	F区 SK-6 上層堆積状況 (南西から)		
図版五二	遺構 (F・G区)		
	F区 SK-7 完掘 (南西から)		
	F区 表上除去作業 (北西から)		
	F区 北区全景 (東から)		
	G区 谷部サブレンチ上層堆積状況 (東から)		
	G区 SI-1 上層堆積状況 (西から)		
	G区 SI-1 カマド (西から)		
	G区 SI-1 カマド遺物出土状況 (北西から)		
	G区 SI-1 完掘 (西から)		
図版五三	遺構 (G区)		
	G区 SI-2 上層堆積状況 (南から)		
	G区 SI-2 遺物出土状況 (南から)		
	G区 SI-2 遺物出土状況 (南から)		
	G区 SI-2 完掘 (南から)		
	G区 SI-2 カマド袖断割り (南から)		
	G区 SI-2 カマド側方 (南東から)		

	G区 SI-2 枕上痕確認状況 (東から)
	G区 SI-3 遺物出土状況 (南西から)
図版五四	遺構 (G区)
	G区 SI-3P1 遺物出土状況 (南東から)
	G区 SI-3 完掘 (北西から)
	G区 SI-4 上層堆積状況 (南から)
	G区 SI-4 遺物出土状況 (南から)
	G区 SI-4 遺物出土状況 (東から)
	G区 SI-4 遺物出土状況 (南から)
	G区 SI-4 カマド遺物出土状況 (東から)
	G区 SI-4 カマド遺物出土状況 (南から)
図版五五	遺構 (G区)
	G区 SI-4 カマド袖断割り (南から)
	G区 SI-4 カマド袖芯材 (南から)
	G区 SI-5・SK-7 切り合い状況 (北東から)
	G区 SI-5 上層堆積状況 (西から)
	G区 SI-5 遺物出土状況 (北西から)
	G区 SI-5 カマド 上層堆積状況 (東から)
	G区 SI-5 カマド遺物出土状況 (北から)
	G区 SI-5 完掘 (北西から)
図版五六	遺構 (G区)
	G区 SI-6 上層堆積状況 (西から)
	G区 SI-6 遺物出土状況 (西から)
	G区 SI-6 カマド 上層堆積状況 (南東から)
	G区 SI-6 遺物出土状況 (西から)
	G区 SI-6 カマド側方 (西から)
	G区 SI-8a 上層堆積状況 (南から)
	G区 SI-8a カマド確認状況 (西から)
	G区 SI-8a カマド 上層堆積状況 (西から)
図版五七	遺構 (G区)
	G区 SI-8b カマド 上層堆積状況 (南から)
	G区 SI-8b 完掘 (北東から)
	G区 SI-8a・b 周辺 (南西から)
	G区 SI-38 遺物出土状況 (南西から)
	G区 SI-38 遺物出土状況 (北から)
	G区 SI-38 カマド (南から)
	G区 SI-40 上層堆積・遺物出土状況 (南東から)
	G区 SI-40・41 切り合い状況 (東から)
図版五八	遺構 (G区)
	G区 SI-40 遺物出土状況 (西から)
	G区 SI-40 遺物出土状況 (北から)
	G区 SI-40 南壁遺物出土状況 (北西から)
	G区 SI-40 遺物出土状況 (西から)
	G区 SI-40 P1 上層堆積状況 (北から)
	G区 SI-40 完掘 (北から)
	G区 SI-41 上層堆積状況 (西から)
	G区 SI-41 遺物出土状況 (西から)
図版五九	遺構 (G区)
	G区 SI-41 遺物出土状況 (西から)

G区 SI-41 遺物出土状況（西から）
G区 SI-41 カマド 上層堆積状況（西から）
G区 SI-41 カマド 上層堆積状況（南から）
G区 SI-41 完掘（西から）
G区 SI-41 カマド 遺物出土状況（西から）
G区 SI-41 カマド 遺物出土状況（東から）
G区 SI-42・SD-45 上層堆積状況（南から）

図版六〇 遺構（G区）

G区 SI-42 炭化材出土状況（西から）
G区 SI-42 炭化材出土状況（東から）
G区 SI-42 完掘（北東から）
G区 SI-43 上層堆積状況（南東から）
G区 SI-43 カマド 上層堆積状況（東から）
G区 SI-43 カマド 遺物出土状況（南から）
G区 SI-43 完掘（南から）
G区 SI-43 目カマド（南から）

図版六一 遺構（G区）

G区 SI-44 上層堆積状況（西から）
G区 SI-44 P1 土層断面状況（南から）
G区 SI-44 P3 土層断面状況（南から）
G区 SI-44 遺物出土状況（南西から）
G区 SI-44 P3 粘土出土状況（北西から）
G区 SI-44 カマド 遺物出土状況（南西から）
G区 SI-44 完掘（南西から）
G区 SI-44 カマド 遺物出土状況（南西から）

図版六二 遺構（G区）

G区 SI-44 カマド 遺物出土状況（南から）
G区 SI-44 カマド 掘方（南西から）
G区 SI-40・41・43・44 全景（西から）
G区 SI-46 上層堆積状況（東から）
G区 SI-46 カマド 上層堆積状況（南から）
G区 SI-46 遺物出土状況（南から）
G区 SI-47 上層堆積状況（西から）
G区 SI-47 P1 底面（南から）

図版六三 遺構（G区）

G区 SI-47 完掘（西から）
G区 SI-71 カマド 掘方（西から）
G区 SI-71・72 上層堆積状況（東から）
G区 SI-72 上層堆積状況（南から）
G区 SI-72 遺物出土状況（東から）
G区 SI-72 遺物出土状況（南から）
G区 SI-72 遺物出土状況（西から）
G区 SI-72 カマド 遺物出土状況（南から）

図版六四 遺構（G区）

G区 SI-72 P2・3 完掘（南から）
G区 SI-72 完掘（南から）
G区 SI-73 上層堆積・遺物出土状況（東から）
G区 SI-73 貯蔵穴・P2 上層堆積状況（南から）
G区 SI-73 遺物出土状況（南東から）
G区 SI-73 遺物出土状況（南から）

G区 SI-73 遺物出土状況（東から）
G区 SI-73 カマド 遺物出土状況（東から）

図版六五 遺構（G区）

G区 SI-73 カマド 上層堆積状況（東から）
G区 SB-79 P2（東から）
G区 SB-79 P2 完掘（西から）
G区 SD-20・24 上層堆積状況（東から）
G区 SD-20・24・74 上層堆積状況（東から）
G区 SD-20・24・74 完掘（東から）
G区 SD-25 完掘（東から）
G区 SD-25 完掘（西から）

図版六六 遺構（G区）

G区 SD-45 上層堆積状況（北西から）
G区 SD-45 完掘（南東から）
G区 SD-74 上層堆積状況（南から）
G区 SD-74 完掘（南東から）
G区 SD-75 上層堆積状況（東から）
G区 SD-75・SK-76 完掘（北から）
G区 SK-7 堆土確認状況（南西から）
G区 SK-17 上層堆積状況（南から）

図版六七 遺構（G区）

G区 SK-19 完掘（南から）
G区 SK-19 底面アップ（北西から）
G区 SK-26・27 上層堆積状況（南東から）
G区 SK-29 上層堆積状況（南から）
G区 SK-36 完掘（北東から）
G区 SK-51 上層堆積状況（南から）
G区 SK-52 遺物出土状況（東から）
G区 SK-53 P-49・50・55 完掘（南西から）

図版六八 遺構（G区）

G区 SK-54 完掘（西から）
G区 SK-55 完掘（東から）
G区 SK-56 完掘（北西から）
G区 SK-57 遺物出土状況（東から）
G区 SK-57 遺物出土状況（東から）
G区 SK-76 上層堆積状況（西から）
G区 SK-77 上層堆積状況・完掘（西から）
G区 SK-81 完掘（北から）

図版六九 遺構（G・H区）

G区 SK-85 上層堆積状況（南から）
G区 重機表上除去（西から）
G区 作業風景（東から）
H-1区 西端上部 上層堆積状況（南西から）
H-2区 確認状況（北東から）
H区 東端南北トレンチ完掘（南から）
H区 SI-5 上層堆積状況（南東から）
H区 SI-5 遺物出土状況（東から）

図版七〇 遺構（H区）

H区 SI-5 貼床 上層堆積状況（南東から）

H区SI-8 土層堆積状況（東から）
H区SI-8 硬化部分（南西から）
H区SI-8 完掘（北から）
H区SI-10 粘土出土状況（南西から）
H区SI-10 土層堆積状況（南西から）
H区SI-10 遺物出土状況（南西から）
H区SI-10 石製模造品出土状況（北西から）

図版七一 遺構（H区）

H区SI-10・11 完掘（南西から）
H区SI-13 作業風景（南西から）
H区SI-13 遺物出土状況（南西から）
H区SI-13 遺物出土状況（東から）
H区SI-13 遺物出土状況（北東から）
H区SI-13 遺物出土状況（北西から）
H区SI-13 完掘（西から）
H-1区SI-14 土層堆積状況・完掘（北西から）

図版七二 遺構（H区）

H区SI-17 遺物出土状況（南西から）
H区SI-19 遺物出土状況（西から）
H区SI-19 遺物出土状況（北西から）
H区SI-19 遺物出土状況（北から）
H区SI-19 完掘（西から）
H区SI-21 遺物出土状況（西から）
H区SI-21 カマド（南から）
H区SI-21 カマド掘方（西から）

図版七三 遺構（H区）

H区SI-21・SK-34 完掘（西から）
H区SI-27 遺物出土状況（北西から）
H区SI-27 遺物出土状況（南西から）
H区SI-27 完掘（南西から）
H区SI-29 土層堆積状況（北西から）
H区SI-29 遺物出土状況（北西から）
H区SI-29 遺物出土状況（北から）
H区SI-29 遺物出土状況（北西から）

図版七四 遺構（H区）

H区SD-9 土層堆積状況（北西から）
H区SD-9 遺物出土状況（南西から）
H区SD-28・SI-29 遺物出土状況（西から）
H区SD-30 土層堆積状況（東から）
H区SK-34 土層堆積状況（西から）
H区SK-34 完掘（南西から）
H区SK-4 石出土状況（北西から）
H区SK-22・23・24・25 完掘（西から）

図版七五 遺構（H・I区）

H区SK-25 土層堆積状況（西から）
H区SK-26 土層堆積状況・完掘（西から）
H-1区 全景（南西から）
H-1区 全景（北東から）
SD-53・H-2区土層堆積状況・完掘（南東から）
I-1区 全景（南東から）

I区SI-1 土層堆積状況（東から）
I区SI-1 遺物出土状況（南東から）

図版七六 遺構（I・J区）

I-2区SI-1 遺物出土状況（東から）
I-2区SI-1 カマド遺物出土状況（南東から）
I-2区SI-1 カマド 土層堆積状況（南東から）
I-2区SI-1 掘方土層堆積状況（東から）
I区SK-2 完掘（南東から）
I-2区トレンチ作業風景（北西から）
I-2区 全景（南東から）
J区SD-1 完掘（北東から）

図版七七 遺構（J区）

J-2区 遺構確認状況（南東から）
J区SD-2 土層堆積状況（南西から）
J区SD-3 完掘（南東から）
J区SD-5 完掘（北東から）
J区SD-6・7 完掘（南西から）
J区SK-4 完掘（北東から）
J-3区 トレンチ掘削（南東から）
J-3区 遺構確認状況（北西から）

図版七八 遺構（J・K・L区）

J区SD-9 土層堆積状況（南東から）
J区SD-8・9 完掘（北東から）
J区SD-10 完掘（北東から）
J-4区 遺構確認状況（北西から）
K区 土層堆積状況（南東から）
K区 全景（南東から）
L区SI-1 土層堆積状況・完掘（南西から）
L区SI-2 完掘（西から）

図版七九 遺構（L区）

L区SI-7 土層堆積状況・完掘（北東から）
L区SI-12 土層堆積状況・完掘（北東から）
L区SI-13 土層堆積状況・完掘（南西から）
L区SI-15 土層堆積状況・完掘（南西から）
L区SI-18 土層堆積状況・完掘（北東から）
L区SI-18 紡錘車出土状況（東から）
L区SI-18 カマド（北東から）
L区SI-24 完掘（南東から）

図版八〇 遺構（L区）

L区SI-25 遺物出土状況（西から）
L区SI-25 遺物出土状況（南西から）
L区SI-25 土層堆積状況・遺物出土状況（南西から）
L区SI-26 土層堆積状況・遺物出土状況（北東から）
L区SI-29 土層堆積状況・完掘（南西から）
L区SI-34 土層堆積状況・遺物出土状況（北東から）
L区SI-34 遺物出土状況（北東から）
L区SI-38 遺物出土状況（南から）

図版八一 遺構（L区）

L区SI-38 遺物出土状況（北東から）

- L区 SI-39・40 完掘（北東から）
 L区 SI-42・SK-37 土層堆積状況・完掘（南西から）
 L区 SB-43 柱痕確認状況（南西から）
 L区 SD-6 土層堆積状況・完掘（北東から）
 L区 SD-10 土層堆積状況・完掘（北東から）
 L区 SD-10 集石出土状況（東から）
 L区 SD-10 完掘（東から）
- 図版八二 遺構（L区）
 L区 SD-17 土層堆積状況（東から）
 L区 SD-17 完掘（南東から）
 L区 SD-19・SK-20 土層堆積状況・完掘（北東から）
 L区 SK-41 土層堆積状況・完掘（北東から）
 L区 SK-16 土層堆積状況・完掘（北東から）
 L区 SK-21 土層堆積状況・完掘（西から）
 L区 SK-23 土層堆積状況（北東から）
 L区 SK-33 土層堆積状況・完掘（北東から）
- 図版八三 遺構（L・M区）
 L区 SK-36 土層堆積状況・完掘（南西から）
 L-1区 全景（北西から）
 L-2区 全景（南東から）
 M区 5区谷部サブトレレンチ土層堆積状況（西から）
 M区 SI-2 遺物出土状況（西から）
 M区 SI-2 遺物出土状況（南西から）
 M区 SI-2 紡錘車出土状況（北から）
 M区 SI-2 遺物出土状況（北から）
- 図版八四 遺構（M区）
 M区 SI-2・SK-1 完掘（南西から）
 M区 SI-3 遺物出土状況（北西から）
 M区 SI-4 遺物出土状況（南西から）
 M区 SI-3・4 完掘（南東から）
 M区 SI-5 完掘（南東から）
 M区 SI-6 完掘（南東から）
 M区 SI-8 完掘（南から）
 M区 SI-9 遺物出土状況（北西から）
- 図版八五 遺構（M区）
 M区 SI-9 遺物出土状況（南西から）
 M区 SI-10 粘土出土状況（西から）
 M区 SI-12 遺物出土状況（南東から）
 M区 SI-12 貯蔵穴 P2 土層断面状況（東から）
 M区 SI-12・SD-11 完掘（南東から）
 M区 SI-13・SK-14 土層堆積状況（南東から）
 M区 SI-13・SK-14 完掘（南から）
 M区 SI-15 周辺全景（南東から）
- 図版八六 遺構（M区）
 M区 SI-21 遺物出土状況（西から）
 M区 SI-21 遺物出土状況（南から）
 M区 SI-21 間仕切り溝（西から）
 M区 SI-21 完掘（西から）
 M区 SI-24 遺物出土状況（南から）
 M区 SI-24 遺物出土状況（東から）
- M区 SI-24 カマド確認状況（南から）
 M区 SI-24 カマド（南から）
- 図版八七 遺構（M区）
 M区 SI-24 完掘（南東から）
 M区 SI-25 遺物出土状況（東から）
 M区 SI-25 置きカマド出土状況（南東から）
 M区 SI-25 完掘（北から）
 M区 SI-26 完掘（北西から）
 M区 SI-26 掘方完掘（南から）
 M区 SI-26 完掘（南から）
 M区 SI-27 南部土層堆積状況（南西から）
- 図版八八 遺構（M区）
 M区 SI-27 遺物出土状況（西から）
 M区 SI-27 中央部炭化材出土状況（北から）
 M区 SI-27 北部土層堆積状況（南西から）
 M区 SI-27 遺物出土状況（南西から）
 M区 SI-28 遺物出土状況（南東から）
 M区 SI-28 遺物出土状況（北東から）
 M区 SI-28 完掘（北西から）
 M区 SI-31・SK-32 遺物出土状況（南東から）
- 図版八九 遺構（M区）
 M区 SI-31 炭化材出土状況（西から）
 M区 SI-31 炭化材出土状況（北東から）
 M-2区 全景（南東から）
 M区 SI-34・SK-35 完掘（南西から）
 M区 SI-36 遺物出土状況（南東から）
 M区 SI-36a 遺物出土状況（南西から）
 M区 SI-36a 遺物出土状況（南西から）
 M区 SI-36a 炭化材出土状況（南西から）
- 図版九〇 遺構（M区）
 M区 SI-36b 遺物出土状況（北から）
 M区 SI-36 完掘（北西から）
 M区 SK-29 粘土出土状況（北東から）
 M区 SK-29・30 遺物出土状況（北東から）
 M区 SK-32 土層堆積状況（東から）
 M区 SK-32 粘土出土状況（南から）
 M区 SK-32 完掘（北から）
 M区 SD-7 完掘（西から）
- 図版九一 遺構（M・O区）
 M区 SD-17 完掘（南東から）
 M区 SD-23 完掘（南東から）
 M区 SD-33 完掘（西から）
 M区 SD-37 全景（南東から）
 M区 SK-14 土層堆積状況（北東から）
 M区 表土除去作業（北西から）
 M区 埋没谷（南から）
 O区 SK-1 土層堆積状況（西から）
- 図版九二 遺構（O区）
 O区 SK-1 完掘（西から）

○区 SK 3・4・9 土層堆積状況（南東から）
○区 SK 3・4・9 完掘（南西から）
○区 SD-20 完掘（南東から）
○区 SK-2 完掘（西から）
○区 SK 5・6・8 完掘（南西から）
○区 SK 6 土層堆積状況（東から）
○区 SK 8 土層堆積状況（南から）

図版九三 遺構（○・P区）

○区 SK-12・14・15 土層堆積状況（南から）
○区 SK-12～17 完掘（東から）
○区 SK 26・27 土層堆積状況（北西から）
○区 SK 26・27 完掘（南東から）
○区 SK 29 土層堆積状況（北から）
○区 SK 29 完掘（北から）
○区 下段全景（北西から）
P区 SI-5 土層堆積状況（西から）

図版九四 遺構（P区）

P区 SI-10 カマド土層堆積状況（南西から）
P区 SI-11 カマド土層堆積状況（南西から）
P区 SI-19 土層堆積状況（西から）
P区 SI-19 カマド（西から）
P区 SI-19 完掘（西から）
P区 SI-21 完掘（北西から）
P区 SI-21 カマド掘方（西から）
P区 SI-27 カマド掘方（西から）

図版九五 遺構（P区）

P区 SI-28 カマド土層堆積状況（北西から）
P区 SI-28 カマド掘方（西から）
P区 SI-35 土層堆積状況（南から）
P区 SI-35 完掘（南から）
P区 SI-36 完掘（西から）
P区 SI-37 土層堆積状況（南東から）
P区 SI-37 遺物出土状況（西から）
P区 SI-37 遺物出土状況（西から）

図版九六 遺構（P区）

P区 SI-37 カマド遺物出土状況（西から）
P区 SI-39 土層堆積状況（西から）
P区 SI-39 遺物出土状況（南から）
P区 SI-39 完掘（南から）
P区 SK-1 土層堆積状況（南東から）
P区 SK-1 完掘（東から）
P区 SK-1 完掘（西から）
P区 SK-1 P1 完掘（南から）

図版九七 遺構（P区）

P区 SK-1 P2 完掘（東から）
P区 SK-1 P2 完掘（北東から）
P区 SK-6 土層堆積状況（南から）
P区 SK-12 土層堆積状況（南西から）
P区 SK-13 土層堆積状況（南西から）
P区 SK-14 土層堆積状況（南西から）

P区 SK-15 土層堆積状況（南から）
P区 SK-15 完掘（南東から）

図版九八 遺構（P区）

P区 SK-16 土層堆積状況（南から）
P区 SK-16 完掘（北から）
P区 SK-22 土層堆積状況（南から）
P区 SK-22 完掘（南西から）
P区 SK-31 土層堆積状況・完掘（北西から）
P区 SK-33・34 土層堆積状況（南東から）
P区 SK-33・34 完掘（南東から）
P区 SK-38 土層堆積・遺物出土状況（北東から）

図版九九 遺構（P・Q区）

P区 作業風景（南東から）
P区 作業風景（南から）
P区 南部全景（西から）
Q区 SI-2 土層堆積状況（東から）
Q区 SI-2 カマド掘方（南から）
Q区 SI-2 貯蔵穴土層堆積状況（南東から）
Q区 SI-2 貯蔵穴遺物出土状況（東から）
Q区 SI-2 完掘（南から）

図版一〇〇 遺構（Q区）

Q区 SI-4 カマド（南から）
Q区 SI-4・SK 5 完掘（南から）
Q区 SI-7 カマド掘方（西から）
Q区 SI-7 完掘（南西から）
Q区 SI-9 土層堆積状況（南から）
Q区 SI-9 遺物出土状況（東から）
Q区 SI-9 カマド（南から）
Q区 SI-9 完掘（南から）

図版一〇一 遺構（Q区）

Q区 SI-10 土層堆積状況（西から）
Q区 SI-10 完掘（西から）
Q区 SI-12 遺物出土状況（西から）
Q区 SI-12 完掘（西から）
Q区 SI-12 カマド（西から）
Q区 SI-12 カマド掘方（南西から）
Q区 SI-16 カマド完掘（南東から）
Q区 SI-18 カマド完掘（南東から）

図版一〇二 遺構（Q区）

Q区 SI-20 カマド（北西から）
Q区 SI-20 カマド土器出土状況（北西から）
Q区 SI-20 カマド土器出土状況・アップ（西から）
Q区 SI-20 遺物出土状況（北西から）
Q区 SI-21 カマド遺物出土状況（南から）
Q区 SI-21 完掘（南東から）
Q区 SI-21 カマド掘方（南から）
Q区 SD-3 前壁土層堆積状況（北から）

図版一〇三 遺構（Q区）

Q区 SD-3 完掘（南から）

- Q区SD-6完掘(東から)
 Q区SK-11完掘(北から)
 Q区SK-13上層堆積状況(西から)
 Q区SK-22上層堆積状況(東から)
 Q区SK-22完掘(東から)
 Q区SK-19上層堆積状況(西から)
 Q区SK-19完掘(西から)
- 図版一〇四 遺構(Q・R・S区)
 Q区全景(北から)
 Q区全景(南東から)
 R区SK-1・2・SD-3上層堆積状況(北東から)
 R区SK-1・2・SD-3上層堆積状況(南西から)
 R区南全景(東から)
 R区北全景(北東から)
 R区南西壁上層堆積状況(東から)
 S区SI-12・SK-6上層堆積状況・完掘(北東から)
- 図版一〇五 遺構(S区)
 S区SI-12遺物出土状況(南東から)
 S区SI-12カマド(南西から)
 S区SI-12カマド掘方(南西から)
 S区SI-12・SK-2・6・13全景(南西から)
 S区SK-7上層堆積状況・完掘(南から)
 S区SK-9上層堆積状況(北東から)
 S区SK-9完掘(南から)
 S区SD-5完掘(南東から)
- 図版一〇六 遺構(S・T区)
 S区SD-11完掘(北から)
 S区SK-1完掘(南から)
 S区SK-4上層堆積状況(南東から)
 S区SK-6・13上層堆積状況・完掘(東から)
 S区SK-10上層堆積状況(南東から)
 S区全景(南東から)
 T区SD-5上層堆積状況(北東から)
 T区SD-6上層堆積状況(北東から)
- 図版一〇七 遺構(T区)
 T区SD-5・6調査風景(東から)
 T区SD-5・6完掘(北から)
 T区P-2完掘(南東から)
 T区P-3完掘(南東から)
 T区P-4上層断面状況(南東から)
 T区P-4完掘(南東から)
 T区全景(南東から)
 T区全景(北西から)
- 図版一〇八 遺構(本沼大塚)
 本沼大塚遺跡全景(北上空から)
- 図版一〇九 遺構(本沼大塚)
 本沼大塚現況(南西から)
 塚上層断面(北西から)
 塚東西上層断面(南から)
- 塚南北上層断面(東から)
 塚南上層断面(南から)
 塚上位南北上層断面南(東から)
 SK-20完掘(東から)
 SK-21完掘(南から)
- 図版一一〇 遺構(本沼大塚)
 1 トレンチ掘削痕(北西から)
 2 トレンチ掘削痕(北から)
 3 トレンチ完掘(南東から)
 SK-3上層堆積状況(南東から)
 SK-3完掘(南東から)
 4 トレンチ完掘(東から)
 5 トレンチ作業風景(南東から)
 6 トレンチ完掘(南から)
- 図版一一一 遺構(本沼大塚)
 SI-1遺物出土状況(南から)
 SI-1カマド掘方(南から)
 SI-1完掘(南から)
 SK-2完掘(西から)
 7 トレンチ掘削痕(南西から)
 SD-23上層堆積状況(南から)
 SK-22完掘(南から)
 作業風景(南東から)
- 図版一一二 遺物(A・B・D区)
 A-SI-1~3
 A-SI-2~3・6
 A-SI-3~3
 A-SD-29-1・2
 B-SD-5・2
 B-SD-6・3
 D-SI-6-1・2・4・5・7・11
- 図版一一三 遺物(D区)
 D-SI-6・8・10・13~16
 D-SI-13-1・2
 D-SI-14-1・3~7・9・12・13
- 図版一一四 遺物(D区)
 D-SI-14・15・23~25・33・34・36・38・
 41・46・48~50・57・58・61
- 図版一一五 遺物(D区)
 D-SI-14-68・69・72・79~81・83
 D-SI-23-1・2
 D-SI-24-1~4
 D-SI-25-1・3・5
- 図版一一六 遺物(D区)
 D-SI-25-7・8
 D-SI-26-1・3
 D-SI-28-1・2
 D-SI-29-1・7

- D-SI-43-1~3·7
D-SB-19-1
- 図版一一七 遺物 (D・E区)
D-SB-19-6
D-SB-21-2
D-SB-30-1・3
D-SB-35-1
D-SB-41-2・3
D-SD-1-2
D-SK-46-1
E-SI-12-1・4~6
E-SI-15-1
E-SI-29-2
E-SI-43-1・14・15
- 図版一一八 遺物 (E区)
E-SI-43-20・24・25
E-SI-44-1・6・10・11・20・29・30
E-SI-51-1~6
- 図版一一九 遺物 (E区)
E-SI-51-7・8・21・23~25・27・29
E-SI-61-1~4
- 図版一二〇 遺物 (E区)
E-SI-51-28
E-SI-61-9
E-SI-64-1~3・7
E-SI-67-1・3・6
E-SI-68-1・2
- 図版一二一 遺物 (E区)
E-SI-68-3・4・6~11・13・14
E-SI-72-1~4・6・8
E-SI-75-1・2
- 図版一二二 遺物 (E区)
E-SI-75-3~6・8・9・12・15
E-SI-76-2~7
E-SI-77-1
- 図版一二三 遺物 (E区)
E-SI-77-2・4・5・8
E-SI-78-1~4・8・9・16
E-SI-84-3
E-SI-86-1~5
E-SI-87-4・5
- 図版一二四 遺物 (E区)
E-SI-89-2
E-SI-92-1・2・8・9・26
E-SI-128-5
E-SB-139-2
E-SD-1-1・2
- E-SK-2-1・3・4・8~12・15
- 図版一二五 遺物 (E区)
E-SK-2-16・19・20~31・33・35
- 図版一二六 遺物 (E区)
E-SK-2-39・40・41
E-SK-36-2・4・5
E-SK-83-1・3・5・7
- 図版一二七 遺物 (E区)
E-SK-83-8~10・15・19・22・23・27・28・
33・39
E-SK13-4
E-SK-25-7
E-SK-30-10
E-SK-31-12
E-SK-73-19
E-SK-88-20
- 図版一二八 遺物 (E・F・G区)
E-SK-124-22・23
E-SK-129-24
E-SK-154-25
E-遺構外-1・2
F-遺構外-2
G-SI-1-1・4・5・9
G-SI-2-2~4・8・11
G-SI-3-1・2
- 図版一二九 遺物 (G区)
G-SI-4-3・4・6・7・9・10
G-SI-5-2・3
G-SI-6-1・3・6・9
G-SI-8-5・6
- 図版一三〇 遺物 (G区)
G-SI-38-3
G-SI-40-1・2・15・16
G-SI-41-1~5・9
G-SI-42-4
G-SI-43-10
G-SI-44-1~3
- 図版一三一 遺物 (G区)
G-SI-44-4~9・17~22・25
G-SI-46-1
G-SI-72-1
- 図版一三二 遺物 (G区)
G-SI-72-4・9・11・12
G-SI-73-2~7
- 図版一三三 遺物 (G・H区)
G-SI-73-8・11

- G-SB-79.1
G-SK-51.1
G-SK-52.2
G-SK-57.3
H-SI-5.1
H-SI-8.1・9・10
H-SI-10.6・12
H-SI-11.14
H-SI-13.5・6・8
- 図版一三四 遺物 (H区)
H-SI-13.7・9・12・13・14・16
H-SI-17.1
H-SI-19.1～4
- 図版一三五 遺物 (H区)
H-SI-19.5～11・14
H-SI-21.1・2
H-SI-27.1・3・7・9・10
- 図版一三六 遺物 (H区)
H-SI-27.11～15
H-SI-29.2～5・8・11・12・15
- 図版一三七 遺物 (H・I・J区)
H-SI-29.16・17
H-SK-26.1
I-SI-1.3・5・6
J-SD-9.1
- 図版一三八 遺物 (L・M区)
L-SI-2.1
L-SI-12.2
L-SI-18.1
L-SI-24.12
L-SI-25.8
L-SI-29.2
L-SI-34.3
L-SI-38.1・2
L-SI-42.2
L-SK-30.6
M-SI-2.1・3
M-SI-3.1
- 図版一三九 遺物 (M区)
M-SI-3.2・3
M-SI-4.5～7
M-SI-6.2
M-SI-9.1・4
M-SI-10.1
M-SI-12.1
M-SI-13.1・2
M-SI-21.1～3・5
M-SI-24.2
- 図版一四〇 遺物 (M・O区)
M-SI-24.1
M-SI-25.1・2・4・5
M-SI-27.6
M-SI-28.1・4・6
M-SI-36a.2
M-SI-36b.18・19
O-道構外-1
- 図版一四一 遺物 (P区)
P-SI-19.1
P-SI-21.5・10
P-SI-35.1・2・5・6・8
P-SI-36.14・15
P-SI-37.1・2・4・7・8・11・12・17
- 図版一四二 遺物 (P・Q区)
P-SI-37.18
P-SI-39.8・10・11
P-SK-38.2
Q-SI-9.2・3
Q-SI-12.1～3
Q-SI-18.1
Q-SI-20.3・4
Q-SI-21.6
- 図版一四三 遺物 (Q・R区)
Q-SI-21.8・10～13
R-SK-1・2・SD-3.1・2・8・13～16
R-SD-3.23
R-道構外-1・3
- 図版一四四 遺物 (R・S区・旧石器時代石器・縄文時代土器)
R-道構外-5・6
S-SI-12.1・2
旧石器時代石器 1・2
A-縄文土器 1
B-縄文土器 2・3
C-縄文土器 4
D-縄文土器 5・7
E-縄文土器 8～10・12～17
G-縄文土器 18～20
H-縄文土器 21
L-縄文土器 23・24
M-縄文土器 26
P-縄文土器 27
Q-縄文土器 28
- 図版一四五 遺物 (縄文時代土器・石器・弥生時代土器)
R-縄文土器 30～34
縄文時代石器 1～4
A-弥生土器 1～3
B-弥生土器 4
C-弥生土器 5～9
D-弥生土器 10～20・23・28・29・33・38・

40・44～46

図版一四六 遺物（弥生～古墳時代前期土器・本沼大塚）

E・F・弥生土器 47・49～55・57・60～64

G・弥生土器 65～68・71・74・75・78～81・83・84

H・弥生土器 85

L・弥生土器 86・89

M・弥生土器 91・101

R・弥生土器 102

表採 103・104

M 古墳時代前期土器 105

本沼大塚・塚6

図版一四七 遺物（本沼大塚）

塚・8・9・11・12

6トレンチSI-I-1・2

縄文土器 2・3・8～17・19～20

石器 7・22・23・25～28・30

弥生土器 29

図版一四八 遺物（本沼大塚・確認調査・金属製品1）

本沼大塚・弥生土器 4・6・18

確認調査 3・13

金属製品

D-SI-6-17

D-SI-14-85～87

D-SB-19-7

D-SB-30-6

E-SI-12-9

E-SI-43-27

E-SI-44-32・33

E-SI-51-31

E-SI-61-12

E-SI-67-7～9

E-SI-78-17・18

図版一四九 遺物（金属製品2）

E-SI-92-31・32

E-SI-128-8

ESB-185-3

E-SK-40-27

E-SK-53-28

F-SK-9-3

G-SI-1-11-

G-SI-6-10

G-SI-41-11

G-SD-25-1

G-SK-57-4

G-遺構外-2

H-SI-29-19・20

H-遺構外-2・3

図版一五〇 遺物（金属製品3）

L-SI-42-3

L-遺構外-6

M-SI-4-9

M-SI-5-1

M-SI-6-4

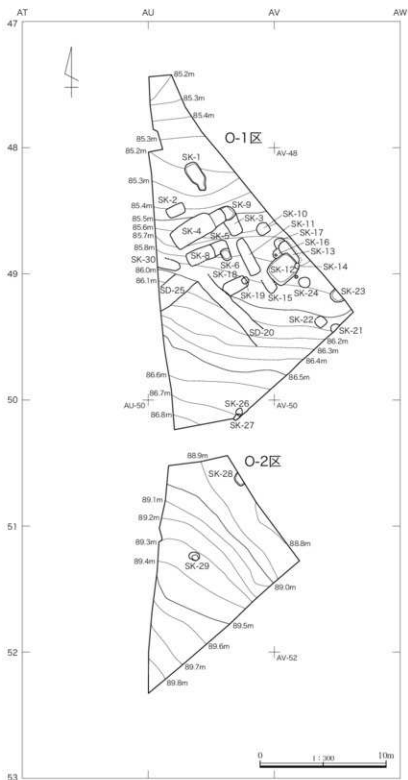
M-SI-36a-6～15

P-SK-38-3

S-遺構外-2

第17節 O区

O区は、本遺跡の南東部台地上～北に向かって傾斜する斜面にかかる調査区で、地下式坑2基、溝2条、土坑25基が確認された。O-1区に集中する。重複するものが多い。確認面はロームで、表土下約0.7mである。



第316図 O区全体図

1 地下式坑

台地の落ち際に立地する。2基が確認され、竪穴の主軸方向はほぼ直角となっている。確認面は削平されているため、本来の深さより浅くなっている。

第199表 O区地下式坑計測表

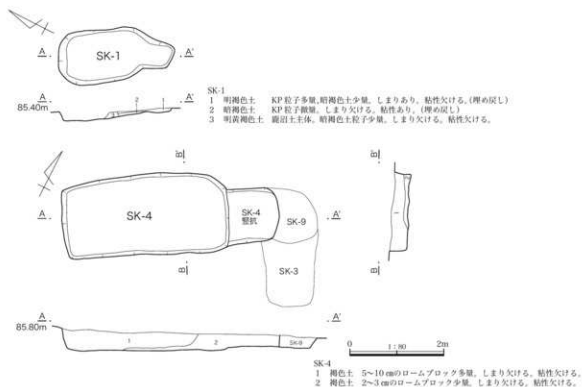
遺構番号	旧番号	区	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係・備考
SK-1	SZ-1	1	AU-48	N-35°-W	隅丸長方形	主室 1.80 竪坑 0.60	主室 1.20 竪坑 0.50	主室 0.20 竪坑 0.10	箱形	無	
SK-4	SK-4	1	AU-48	N-60°-E	長方形	主室 3.50 竪坑 1.15	主室 1.70 竪坑 1.10	主室 0.45 竪坑 0.45	箱形	無	SK-3・9より新 SK-3との新旧は不明

O区SK-1 (第317図、第199表、図版九一・九二)

位置 1区北部にあたるAU-48グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向に長い隅丸長方形の主室と、その南側に取り付く竪坑からなる。主室は長軸180cm、幅120cm、深さ20cmで、竪坑は南北50cm、東西60cm、深さ10cmである。**主軸方向** N-35°-W **覆土** 鹿沼軽石粒子を多量に含む明褐色土、暗褐色土、暗褐色土粒子をわずかに含む鹿沼軽石が堆積している。いずれも人為的な埋め戻しとみられる。**底面** 主室・竪坑ともに地山である黒色土中に作られている。竪坑部分はやや丸みを帯び、主室部分は竪坑から北側に向かってスロープ状に低くなっている。壁は急斜度で立ち上がっている。**出土遺物** 出土していない。**時期** 形状などから中近世と推測される。

O区SK-4 (第317図、第199表、図版九二)

位置 1区中央部にあたるAU-48グリッドに位置する。**重複関係** SK-3・9と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 東西方向に長い長方形の主室と、東壁に取り付く竪坑からなる。主室は長軸350cm、



短軸 170 cm、深さ 45 cm、竪坑は南北 115 cm、東西 110 cm、深さ 45 cmである。 **主軸方向** N-60° - E

覆土 地山由来のローム粒子・ロームブロックの含有量が異なる褐色土 2層を確認した。 **底面** 主室・竪坑ともにローム層中に作られている。竪坑はやや凹凸が目立ち、主室方向に向かって緩く下がっている。主室は竪坑より 10 cmほど低い位置に作られており平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 形状などから中近世と推測される。

2 溝

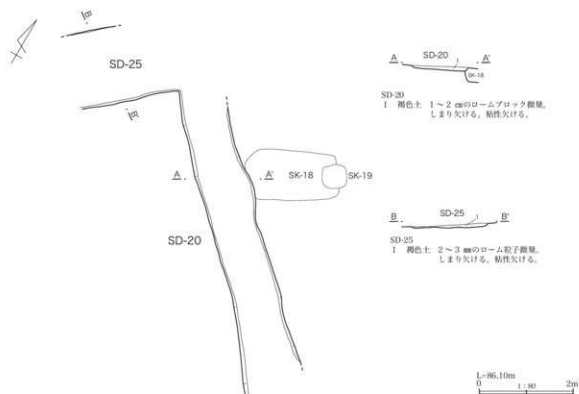
台地の傾斜に対し直交する SD-25 と、SD-25 と直交する SD-20 の 2本が確認される。

第200表 O区 溝計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	断面形	出土遺物	重複関係
SD-20	I	AU-49	N-45° - W	直線状	[6.30]	1.00	0.08	逆台形	無	SK-18 上り新 SD-25 と重複
SD-25	I	AU-49	N-50° - E	直線状	[2.20]	1.60	0.08	逆台形	無	SD-20 と重複

O区 SD-20 (第318図、第200表、図版九二)

位置 1区南部にあたる AU-49 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-18、SD-25 と重複しており、SK-18 より新しい。SD-25 との新旧関係については遺存状況が悪く不明である。 **平面形状・規模** 北西-南東方向に直線的に延びる溝である。遺存している範囲で、長さ 6.3 m以上、幅 1 m、深さ 8 cmである。 **主軸方向** N-45° - W **覆土** しまりのない褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は緩やかに立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。



第318図 O区 SD-20・25 遺構実測図

O区 SD-25 (第318図, 第200表)

位置 1区西部にあたるAU-49グリッドに位置する。**重複関係** SD-20と重複しているが、遺存状態が悪く新旧関係は不明である。**平面形状・規模** 北東-南西方向に直線的に延びる溝である。確認できた範囲で、長さ2.2m以上、幅1.6m、深さ8cmである。**主軸方向** N-50°-E **覆土** ローム粒子を含む褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は比較的緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

3 土坑

O-1区の台地の落ち際に集中して25基が確認されている。

第201表 O区土坑計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	断面形	出土遺物	重複関係・備考
SK-2	1	AU-48	N-65°-E	長方形	1.47	0.85	0.38	箱形 スロープ状	無	
SK-3	1	AU-48	N-35°-W	長方形か	[1.40]	1.20	0.25	箱形	無	SK-4より古
SK-5	1	AU-48	N-65°-E	長方形か	[1.15]	1.02	0.12	逆台形	無	SK-8より古 SK-6より新
SK-6	1	AU-48	N-20°-W	隅丸長方形	0.95	0.73	0.36	逆台形	無	SK-5より古
SK-8	1	AU-48	N-65°-E	長方形	2.25	1.10	0.34	箱形	有	SK-5より新
SK-9	1	AU-48	N-65°-E	楕円形か	1.15	[1.00]	0.25	逆台形	無	SK-4より古 SK-3より新
SK-10	1	AU-48	N-55°-E	方形	0.97	0.95	0.20	箱形	無	
SK-11	1	AU-48-49 AV-48-49	N-30°-W	長方形	3.05	0.85	0.20	箱形	有	
SK-12	1	AU-48-49 AV-48-49	N-50°-E	方形	2.30	1.95	0.52	逆台形	有	SK-14-16より古 SK-13-15より新
SK-13	1	AV-48	N-35°-W	隅丸長方形	2.20	1.00	0.35	袋状	有	SK-12より古 SK-14-16-17より新
SK-14	1	AV-48	N-10°-E	楕円形	0.42	0.35	0.25	U字状	無	SK-12-13より新
SK-15	1	AU-49 AV-49	N-30°-W	長方形か	[1.20]	0.80	0.15	箱形	有	SK-12より古
SK-16	1	AV-48	-	円形か	[0.75]	[0.73]	0.33	U字状	無	SK-12-13より古 SK-17より新
SK-17	1	AV-48	-	円形か	0.90	[0.70]	0.15	逆台形	無	SK-13-16より古
SK-18	1	AU-49	N-65°-E	長方形	1.90	1.05	0.25	逆台形	無	SK-19, SD-20より古
SK-19	1	AU-49	-	方形	0.50	0.48	0.14	逆台形	無	SK-18より新
SK-21	1	AV-49	-	円形か	0.80	[0.80]	0.16	逆台形	無	
SK-22	1	AV-49	-	方形	0.80	0.80	0.06	皿状	無	
SK-23	1	AV-49	-	円形か	1.05	(1.05)	0.12	皿状	無	
SK-24	1	AV-49	N-60°-W	楕円形	0.90	0.80	0.10	皿状	無	
SK-26	1	AU-50	N-30°-E	楕円形	0.55	0.50	0.28	逆台形	無	SK-27より新
SK-27	1	AU-50	N-50°-E	不整形円形	0.65	0.36	0.36	逆台形	無	SK-26より古
SK-28	2	AU-50	不明	楕円形または 隅丸長方形か	1.00	[0.50]	0.25	逆台形	無	
SK-29	2	AU-51	N-75°-W	楕円形	0.85	0.65	0.30	逆台形	有	
SK-30	1	AU-48	N-82°-W	楕円形か	[1.70]	0.80	0.06	皿状	無	

O区 SK-2 (第319図, 第201表, 図版九二)

位置 1区中央から西部にあたるAU-48グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向に長い長方形である。長軸147cm、短軸85cm、深さ38cmである。**主軸方向** N-65°-E **覆土** しまりのない褐色土が堆積している。**底面** ローム層中につくられており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

O区 SK-3 (第319図、第201表、図版九二)

位置 1区中央部にあたるAU-48グリッドに位置する。**重複関係** SK-4・9と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 北側が重複によって失われているが、南北方向に長い長方形とみられる。長軸140cm以上、短軸120cm、深さ25cmである。**主軸方向** N-35°-W **覆土** 地山由来のロームブロックを少量含む褐色土が含まれる。**底面** ローム層中に作られており、やや凹凸がみられるが概ね平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

O区 SK-5 (第319図、第201表、図版九二)

位置 1区中央部にあたるAU-48グリッドに位置する。**重複関係** SK-6より新しくSK-8より古い。**平面形状・規模** 重複によって削平された部分が多いとみられるが、東西方向に長い長方形とみられる。遺存している範囲で、長軸115cm以上、短軸102cm、深さ12cmである。**主軸方向** N-65°-E **覆土** 地山由来のローム粒子・鹿沼軽石粒子を少量含む褐色土が含まれている。**底面** 鹿沼軽石層中に作られており、平坦となっている。壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

O区 SK-6 (第319図、第201表、図版九二)

位置 1区中央部にあたるAU-48グリッドに位置する。**重複関係** SK-5と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 南北方向に長い隅丸長方形である。長軸95cm、短軸73cm、深さ36cmである。**主軸方向** N-20°-W **覆土** 鹿沼軽石・ロームブロックを多量に含む褐色土が堆積している。**底面** 鹿沼軽石層中に作られており、平坦となっている。壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

O区 SK-8 (第319図、第201表、図版九二)

位置 1区中央部にあたるAU-48グリッドに位置する。**重複関係** SK-5と重複しており本遺構が新しい。**平面形状・規模** 東西方向に長い長方形で、長軸225cm、短軸110cm、深さ34cmである。**主軸方向** N-65°-E **覆土** 褐色土および明褐色土の混土層と暗褐色土層が認められた。いずれも鹿沼軽石粒子・ロームブロックを多量に含んでいる。**底面** 鹿沼軽石層中に作られており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環1点13.4g、高台付環1点9.99g、鏝3点46.2g、須臾器鏝1点12gが出土している。**時期** 不明。

O区 SK-9 (第319図、第201表、図版九二)

位置 1区中央部にあたるAU-48グリッドに位置する。**重複関係** SK-4より古く、SK-3より新しい。**平面形状・規模** 西側が重複によって失われているが、東西方向にやや長い楕円形とみられる。南北115cm、東西100cm以上、深さ25cmである。**主軸方向** N-65°-E **覆土** ロームブロックをわずかに含む褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、やや凹凸があるがおおむね平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

O区 SK-10 (第319図、第201表)

位置 1区中央部にあたるAU-48グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向

にわずかに長い方形である。長軸 97 cm、短軸 95 cm、深さ 20 cm ほどである。 **主軸方向** N-55° - E **覆土** ロームブロックをわずかに含む褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

O区 SK-11 (第319図、第201表)

位置 1区中央部にあたる AU-48・49 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 南北方向に長い長方形である。長軸 305 cm、短軸 85 cm、深さ 20 cm である。 **主軸方向** N-30° - W **覆土** 地山由来とみられるロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られており、こまかな凹凸が目立つ。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。 **出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕 1点 39.9 g が出土している。 **時期** 不明。

O区 SK-12 (第319図、第201表、図版九三)

位置 1区中央～東部にあたる AU-48・49、AV-48・49 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-14・16 より古く、SK-13・15 より新しい。 **平面形状・規模** 重複によってやや不明瞭な部分があるが、北東～南西方向にわずかに長い長方形である。長軸 230 cm、短軸 195 cm、深さ 52 cm と比較的大型の土坑である。調査時の所見から、土坑の南北に楕円形の 2本の柱穴が伴うと考えられる。P1 は長軸 18 cm、短軸 15 cm、深さ 12 cm である。P2 は長軸 24 cm、短軸 18 cm、深さ 10 cm である。 **主軸方向** N-50° - E **覆土** ローム粒子を多く含む褐色土と明褐色土が堆積している。 **底面** 鹿沼軽石層中に作られており、北側がやや低くなっているがおおむね平坦である。壁は急斜度で立ち上がる。 **出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環 1点 6.2 g、甕 2点 24.62 g、須恵器甕 2点 66.9 g が出土している。 **時期** 不明。

O区 SK-13 (第319-320図、第201-202表、図版九三)

位置 1区中央～東部にあたる AV-48 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-12・14・16・17 と重複しており、SK-12 より古く、その他は本遺構が新しい。 **平面形状・規模** 南北方向に長い隅丸長方形である。下端で長さ 220 cm、幅 100 cm、深さ 35 cm である。 **主軸方向** N-35° - W **覆土** ローム粒子や黒色土ブロックを少量含む褐色土が堆積している。 **底面** 鹿沼軽石層中に作られており平坦となっている。壁は西壁以外が 5～10 cm ほどオーバーハングする。 **出土遺物** 須恵器環 1点を図示した。このほかに土師器環 1点 31.76 g が出土している。 **時期** 不明。

O区 SK-14 (第319図、第201表、図版九三)

位置 1区中央～東部にあたる AV-48 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-12・13 と重複しており、本遺構が新しい。 **平面形状・規模** 南北方向にやや長い楕円形である。長軸 42 cm、短軸 35 cm、深さ 25 cm である。 **主軸方向** N-10° - E **覆土** 地山由来のローム粒子・ロームブロックを多量に含む明褐色土が堆積している。 **底面** 丸みを帯びており、壁は急斜度で立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

O区 SK-15 (第319図、第201表、図版九三)

位置 1区中央部にあたる AU・AV-49 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-12 と重複しており、本遺構

が古いとみられる。**平面形状・規模** 南北方向に長い長方形とみられるが、重複および削平によって北側の遺存状況は悪い。長軸 120 cm以上、短軸 80 cm、深さ 15 cmである。**主軸方向** N-30° -W **覆土** ローム粒子・ロームブロックを少量含む褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕2点 35.64 g、須恵器坏1点 31.14 g、甕1点 89.71 gが出土している。**時期** 不明。

O区 SK-16 (第319図、第201表、図版九三)

位置 1区中央～東部にあたる AV-48 グリッドに位置する。**重複関係** SK-12・13・17と重複しており、SK-17より新しくそれ以外より古い。**平面形状・規模** 重複によって大部分が削平されているが、円形を基調とした土坑とみられる。遺存している部分で、直径 75 cm以上、短軸 73 cm以上、深さ 33 cmである。**覆土** 不明。**底面** ローム層中に作られており、やや丸みを帯びる。壁は緩やかな立ち上がりを示す。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

O区 SK-17 (第319図、第201表、図版九三)

位置 1区中央～東部にあたる AV-48 グリッドに位置する。**重複関係** SK-13・16と重複しており、本遺構が最も古い。**平面形状・規模** 重複によって南側の大部分が削平されているが、円形を基調とした土坑とみられる。遺存している範囲で長軸 90 cm、短軸 70 cm以上、深さ 15 cmである。**覆土** 粘性のある褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は比較的緩やかな立ち上がりを示す。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

O区 SK-18 (第319図、第201表)

位置 1区中央部にあたる AU-49 グリッドに位置する。**重複関係** SK-19、SD-20と重複しており、本遺構が最も古い。**平面形状・規模** 東西方向に長い長方形である。長軸 190 cm、短軸 105 cm、深さ 25 cmである。**主軸方向** N-65° -E **覆土** ロームブロックを多量に含む褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

O区 SK-19 (第319図、第201表)

位置 1区中央部にあたる AU-49 グリッドに位置する。**重複関係** SK-18と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 重複によって西側が削平されているが、方形の土坑とみられる。遺存している範囲で一辺約 50 cm、深さ 14 cmである。**覆土** ロームブロックを多量に含む褐色土が堆積している。**底面** SK-18 覆土中に作られており、平坦となっている。壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

O区 SK-21 (第320図、第201表)

位置 1区東部にあたる AV-49 グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南東側が調査区外であるが、直径 80 cmほどの円形の土坑とみられる。深さは 16 cmである。**覆土** ロームブロックを少量含む褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、こまかな凹凸が目立つがおおむね平

坦となっている。壁は急斜度で立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

O区 SK-22 (第320図、第201表)

位置 1区東部にあたる AV-49 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 1辺 80 cm の方形である。深さは 6 cm と非常に浅い。 **覆土** ロームブロックを少量含む褐色土が堆積している。前述した SK-21 と共通している。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は緩やかに立ち上がっている。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

O区 SK-23 (第320図、第201表)

位置 1区東部にあたる AV-49 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 北東側が調査区外であるが、径 105 cm ほどの円形を基調とした土坑とみられる。深さは 12 cm ほどである。 **覆土** しまりのない明褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は緩やかな立ち上がりを示す。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

O区 SK-24 (第320図、第201表)

位置 1区東部にあたる AV-49 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 東西方向に長い楕円形である。長軸 90 cm、短軸 80 cm、深さ 10 cm ほどである。 **主軸方向** N-60° - W **覆土** 地山の崩落土を含む褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びている、壁は非常に緩やかな立ち上がりを示す。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

O区 SK-26 (第320図、第201表、図版九三)

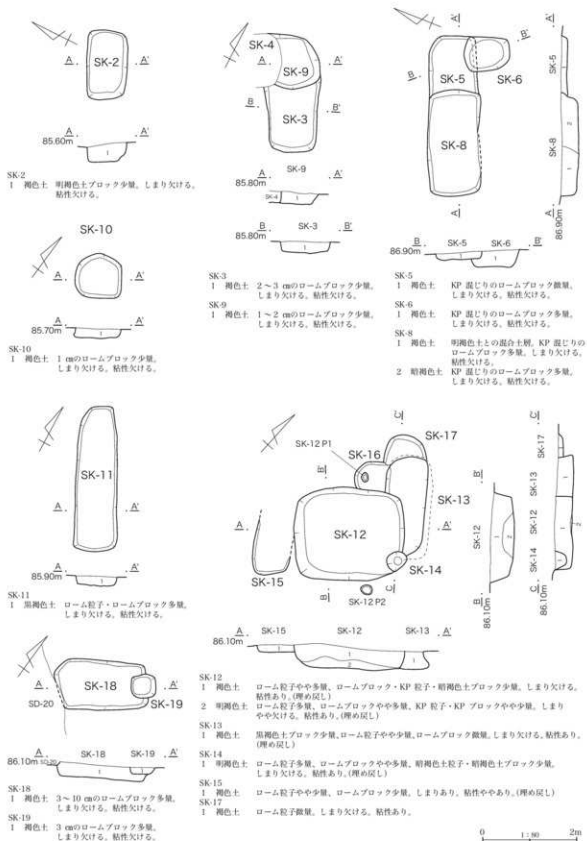
位置 1区南部にあたる AU-50 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-27 と重複しており、本遺構が新しい。 **平面形状・規模** 南北方向に長い楕円形である。長軸 55 cm 以上、短軸 50 cm、深さ 28 cm である。 **主軸方向** N-30° - E **覆土** 土坑上部を覆う暗褐色土と、底面を覆う暗黄褐色土の2層を確認した。暗黄褐色土には多量のローム粒子・ロームブロックが含まれる。 **底面** ローム層中に作られており、壁際がやや深く掘り込まれている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

O区 SK-27 (第320図、第201表、図版九三)

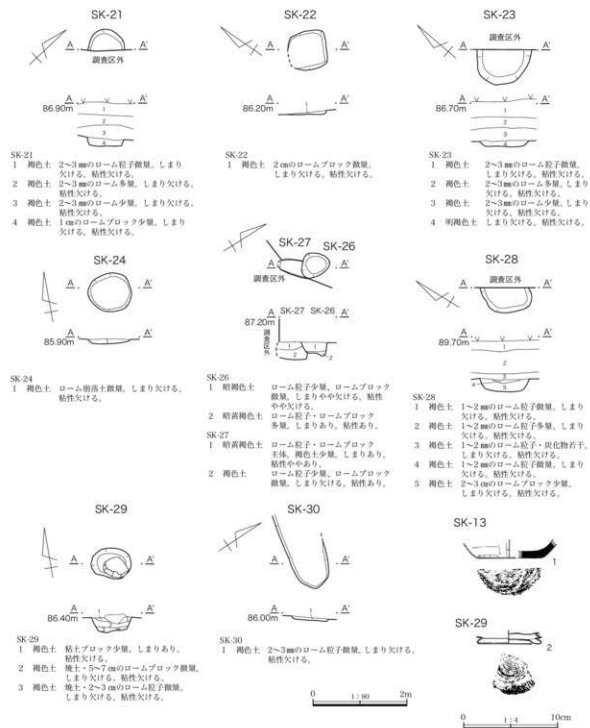
位置 1区南部にあたる AU-50 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-26 と重複しており、本遺構が古い。 **平面形状・規模** 南北方向に長い不整な楕円形である。長軸 65 cm、短軸 36 cm、深さ 36 cm である。 **主軸方向** N-50° - E **覆土** ローム粒子・ロームブロックを主体とした暗黄褐色土と、それらの混入の少ない褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は南西壁が斜り込まれており、それ以外はほぼ垂直に立ち上がっている。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

O区 SK-28 (第320図、第201表)

位置 2区北部にあたる AU-50 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 東側が調査区外であるが、楕円形または隅丸方形基調の土坑とみられる。確認できた範囲で、長軸 100 cm、短軸 50 cm、深さ 25 cm である。 **主軸方向** 不明。 **覆土** 褐色土が2層堆積しており、上面中央の褐色土にはローム粒



第319図 O区SK-2・3・5・6・8~19 遺構実測図



第320図 O区 SK-21 ~ 24・26 ~ 30遺構・SK-13・29出土遺物実測図

第202表 O区 SK-13・29出土遺物観察表

排出口 No	種類 名称	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の形状	形状・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
320	1 銅匙環 環	口径 - 底径 (6.8) 断面高 (1.9)	外面 7.5YR4/4 暗 内面 7.5YR7/4 にぶい艶	砂粒散見、赤 色粘土若干	不具		底面ヘラクレス刃後ナデ	底面 1/3 残存	覆土中	O区 SK-13	産地不明
320	2 土銅器 高台付環	口径 - 底径 (6.4) 断面高 (1.2)	7.5YR3/1 黒相	砂粒散見、赤 色粘土・黒色 粘土若干	良好		内面ミガキ 底面糸切り後ナデ 高台付付	底面 1/6 残存	覆土中	O区 SK-29	一括

子が、その他にはロームブロックが含まれている。底面 ローム層中に作られており、やや丸みを帯びている。壁は急斜度で立ち上がる。出土遺物 出土していない。時期 不明。

O区 SK-29 (第320図、第201-202表、図版九三)

位置 2区中央部にあたるAU-51グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 東西方向に長い楕円形である。長軸85cm、短軸65cm、深さ30cmほどである。土坑上面には平面規模55×45cm、厚さ20cmの大型の礫が、平坦面を上にして確認されている。主軸方向 N-75°-W 覆土 褐色土が3層確認されている。石の下層は強く締まっている。底面 ローム層中に作られており、やや丸みを帯びる。石の下にあたる部分は変色し硬化していた。壁は急斜度で立ち上がる。出土遺物 土師器高台付坏1点を図示した。このほかに土師器坏2点11.3g、高台付坏1点17.5g、糞13点509.1g、石1点が出土している。時期 不明。

O区 SK-30 (第320図、第201表)

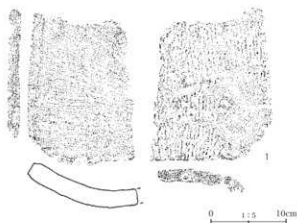
位置 1区西部にあたるAU-48グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 西側が一部消失、または調査区外へ延びているが、東西方向に長い楕円形とみられる。遺存している範囲で、長軸170cm以上、短軸80cm、深さ6cmほどである。主軸方向 N-82°-W 覆土 しまりのない褐色土が堆積している。底面 ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は急斜度で立ち上がる。出土遺物 出土していない。時期 不明。

4 遺構外の遺物

表土中から出土したものを掲載する。

O区遺構外の遺物 (第321図、第203表、図版一四〇)

瓦が出土している。



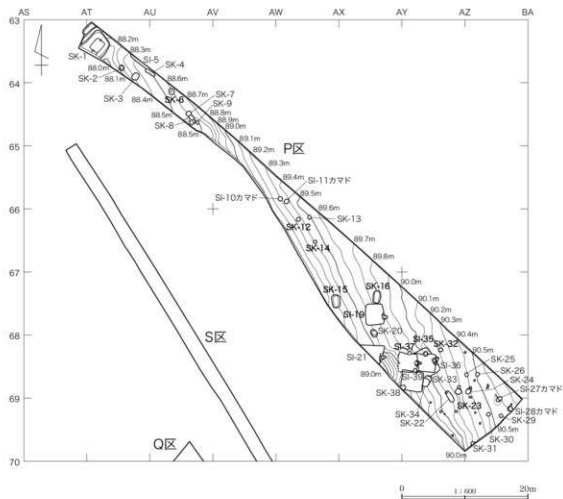
第321図 O区遺構外出土遺物実測図

第203表 O区 遺構外出土遺物観察表

検出 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
321	1	瓦片	厚 2.3 重 1041.7	外面 S/S/1 内面 2.S/S/1 裏面	砂粒・礫少量	良好		外面 縦タテキ 凹面 右目短・糸切痕 側面 ヘラケズリ 広断面 ヘラケズリ	一部残存	表土中	O区一括	

第18節 P区

P区は、本遺跡の東端D・E区の東、台地の東斜面上に位置する。竪穴建物跡11軒、方形竪穴1基、土坑25基、ピット15基が確認されている。確認面はロームで、表土下0.5mである。



第322図 P区全体図（ピット別図）

1 竪穴建物跡

調査区の北端と南端の台地～斜面上に11軒が確認されている。

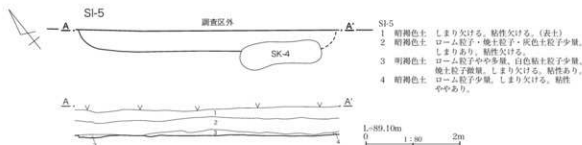
第204表 P区竪穴建物跡計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	東西 (m)	南北 (m)	深さ (m)	ピット	竪穴	カマド	貯蔵穴	灰溝	閉じ切溝	出土 遺物	参照関係
SI-5	AU-63	不明	方形か	5.40	[0.40]	0.40	無	無	無	無	無	無	無	SK-4より古
SI-10 カマド	AW-65	不明	円形	-	-	-	無	無	有	無	無	無	無	
SI-11 カマド	AW-65	不明	楕円形	-	-	-	無	無	有	無	無	無	有	
SI-19	AX-67	N-85° 北	長方形	2.70	3.35	0.26	無	無	有	無	無	無	有	
SI-21	AX-68	N-83° 北	方形か	[3.90]	[2.90]	0.40	無	無	有	無	無	無	有	

SI-27 カマド	AZ-68+69	不明	方形か	-	-	-	無	無	有	無	無	無	有	SI-28と重複か
SI-28 カマド	AZ-69	不明	方形か	-	-	0.15	無	無	有	無	無	無	有	SI-27と重複か
SI-35	AY-68	N40°	方形	3.50	2.80	0.32	無	無	有	無	無	無	有	SI-37より古 SI-36より新
SI-36	AY-68	N-30° -W	方形	4.00	[2.50]	0.21	無	無	有	無	無	無	有	SI-35-37-39, SK-33より古
SI-37	AX-AY-68	N-90° -E	方形	3.20	3.00	0.34	1	無	2	無	無	無	有	SI-35-36-39より新
SI-39	AX-AY-68	N-0°	方形	3.40	3.20	0.43	無	無	有	無	無	無	有	SI-37, SK-38より古 SI-36, SK-34より新

P区 SI-5 (第323図、第204表、図版九三)

位置 調査区北西部にあたる AT-63・AU-63 グリッドに位置する。**重複関係** SK-4と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 大部分が調査区外であり、確認できたのは方形を基調とした竪穴建物跡の南西壁部分とみられる。後世の削平によって壁はほとんど遺存しておらず、床面の硬化やわずかな覆土の違いで、遺構と認識した。東西 5.4 m以上、南北 0.4 m以上、深さは 40 cmである。**主軸方向** 不明。**覆土** 焼土粒子を微量に含む明褐色土(3層)が本遺構の覆土とみられる。**床面** わずかな踏み締まりが認められる程度であった。**柱穴等・カマド** 確認されていない。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。



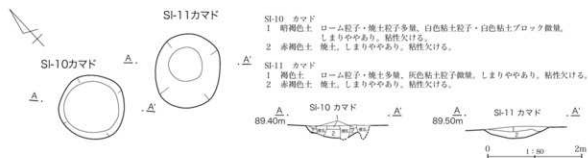
第323図 P区 SI-5 遺構実測図

P区 SI-10 (第324図、第204表、図版九四)

位置 調査区中央部にあたる AW-65 グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 後世の削平によって遺構の大部分が失われており、確認できたのは、カマド下部の掘方の一部である。**主軸方向** 不明。**柱穴等** 確認されていない。**カマド** ローム粒子や白色粘土を含む暗褐色土と、赤褐色を呈する焼土層からなる。1層に含まれる白色粘土はカマドの袖や天井に由来するものとみられる。直径 140 cmほど、深さは 26 cmの円形の掘方である。底面は凹凸が著しい。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

P区 SI-11 (第324図、第204表、図版九四)

位置 調査区中央部にあたる AW-65 グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 後世の削平によって遺構の大部分が失われており、確認できたのは、カマド下部の掘方の一部である。北東-南西方向に長い楕円形の掘方である。**主軸方向** 不明。**柱穴等** 確認されていない。**カマド** ローム粒子や灰色粘土を含む褐色土と、赤褐色を呈する焼土層からなる。1層に含まれる灰色粘土はカマドの袖や天井に由来するものとみられる。長軸 158 cm、短軸 140 cm、深さは 24 cmである。底面は丸みを帯びている。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器裏3点 92.98 g が出土している。**時期** 8~9世紀か。

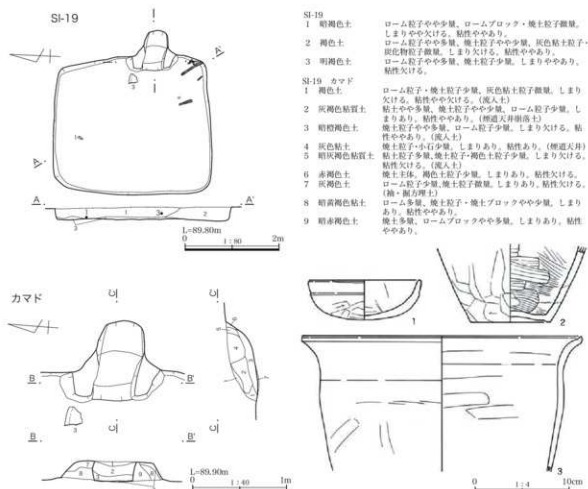


第324図 P区 SI-10・11 遺構実測図

P区 SI-19 (第325図、第204・205表、図版九四・一四一)

位置 調査区南東側にあたるAX-67グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向に長い長方形で、東西2.7m、南北3.35m、面積は9.05㎡、壁は遺存状況の良い部分で26cmほどである。

主軸方向 N-95° - E **覆土** 竪穴の大部分を覆う暗褐色土・褐色土と、床面上に薄く堆積する明褐色土の3層である。いずれの層にもわずかながら焼土粒子が含まれる。また南東隅付近では床面から浮いた状態でいくつかの炭化材が確認された。床面や壁に焼けた痕跡は見いだせなかったことから、堆積過程において流入したものと思われる。**床面** 明確な貼床等は確認できず、地山であるローム層を床面としている。細か



第325図 P区 SI-19 遺構・出土遺物実測図

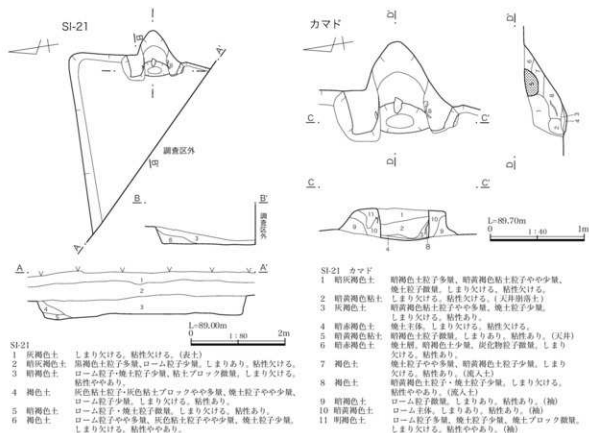
な凹凸があるが概ね平坦に作られている。柱穴等 確認されていない。カマド 東壁や南寄りに位置している。灰褐色・暗黄褐色の粘土を積んで構築した袖と、燃焼部が遺存していた。袖は幅40cm、竪穴壁からの長さ40cm、高さ20cm、両袖間の幅40cmである。燃焼部はわずかに焼土化しているが、袖の内側を含めて焼け方は弱い。出土遺物 カマド左袖手前において土師器製の破片が出土した。土師器環1点、甕1点、甌1点を図示した。このほかに土師器環7点54.72g、鉢4点68.52g、甕28点614.63g、陶器1点4.75gが出土している。時期 7世紀中葉。

第205表 P区SI-19出土遺物観察表

図号	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	形影・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
325	1	土師器 環	口径 (11.8) 底径 - 高さ 4.2	外面 10YR3/2 黒帯 内面 10YR2/1	砂粒・微少量	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ (体部内面、少欠り 内面ヘラナデ)	口縁~底 部 1/2 残存	床土上	P区SI-19 No.1	
325	2	土師器 甕	口径 - 底径 8.4 高さ [8.0]	外面 10YR3/1 黒帯 内面 7.5Y2/1	砂粒・透明陶 子少量	良好	底面 割落	外面 ナデ・ケズリ 内面 粗いイヤ	胴部下部 ~底部残 存	床土上 10cm	P区SI-19 一括	
325	3	土師器 甕	口径 [29.0] 底径 - 高さ [14.3]	外面 7.5YR5/4 に赤い濁 内面 7.5Y4/4 濁	砂粒少量、白 雲母多量	良好		口縁部 ココナデ 胴部 ナデ	口縁~胴 部 1/4 残 存	カマド 付付足	P区SI-19 No.1	

P区SI-21 (第326-327図、第204-206表、図版九四・一四一)

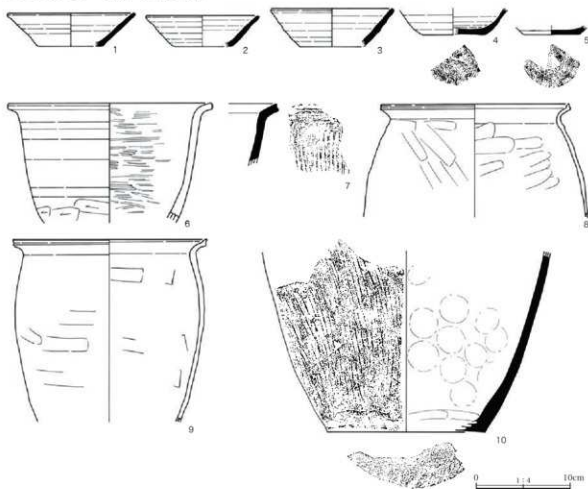
位置 調査区南東部にあたるAX-68グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 南西側が調査区外であるが、方形を基調とした竪穴建物跡である。確認できた範囲で、東西3.9m以上、南北2.9m以上、壁は遺存状況の良い部分で40cmほどである。主軸方向 N-93°-E 覆土 流入土とみられる



第326図 P区SI-21遺構実測図

暗褐色土と、壁の崩落土とみられる地山に近似した褐色土からなる。自然堆積とみられる。床面 貼床等は認められず、地山であるローム層中に作られており、平坦となっている。柱穴等 確認されていない。

カマド 東壁中央に位置している。ローム粒子を多量に含む暗褐色土やロームを積んで構築した袖が遺存していた。袖は幅 50 cm、壁穴壁からの長さ 53 cm、高さ 30 cm、両袖間の幅 50 cm である。右袖の内側には土師器製の破片が張り付けられていた。燃焼部は良く焼けており、赤褐色に焼土化していた。煙道は比較的急斜度で立ちあがっている。出土遺物 土師器鉢か飯 1 点、甕 2 点、須恵器杯 5 点、鉢か 1 点、甕 1 点を図示した。5 の側面には底部を切り離す時に誤って入れようとしたヘラの痕跡がみられる。このほかに土師器杯 16 点 173.98 g、壺 1 点 5.33 g、甕 102 点 1643.54 g、須恵器杯 11 点 47.77 g、甕 5 点 145.84 g が出土している。時期 9 世紀中葉。



第 327 図 P 区 SI-21 出土遺物実測図

第 206 表 P 区 SI-21 出土遺物観察表

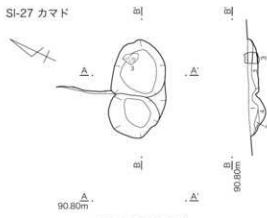
図号 No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	断面・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
327-1	須恵器 杯	口径 (13.0) 底径 (7.0) 器高 (3.5)	外面 7.5YR4/2 内面 7.5Y4/1 裏面	砂粒多量、礫 質	やや 不良		底部 ナデ	口縁-体部 1/4、底部一 部残存	甕土中	P 区 SI-21	鉢子産
327-2	須恵器 杯	口径 (12.0) 底径 (6.0) 器高 (3.2)	7.5YR5/4 にふい喝	砂粒少量、礫 若干	不良		底部へつ切り後ナデ	口縁-体部 1/6、底部一 部残存	甕土中	P 区 SI-21	鉢子産
327-3	須恵器 杯	口径 (12.8) 底径 (6.0) 器高 (4.0)	10YR5/3 にふい黄濁	砂粒少量、赤 色粘土質、 礫若干	不良			口縁-底部一 部残存	甕土中	P 区 SI-21	鉢子産

327	4	調査跡 環	口径 - 底径 (7.0) 器高 (2.7)	外面 7.5Y5/1 地灰 内面 7.5Y4/1 地灰	砂粒微量、礫 若干	良好		底部ヘラ切り後ヘラケズリ	底部 1/4 残存	覆土中	P区 SI-21	葦子産
327	5	調査跡 環	口径 - 底径 (6.2) 器高 (0.9)	外面 10YR6/4 にふい黄褐色 内面 10YR5/4 にふい黄褐色	砂粒微量、礫 若干	不良		側面ヘラの痕跡 底部ナシ	底部 2/5 残存	覆土中	P区 SI-21	葦子産
327	6	土師器 鉢か 鉢小	口径 (21.4) 底径 - 器高 (12.6)	外面 2YR5/6 明赤褐色 内面 N3/O 灰	砂粒・礫微量	良好	内面 黒色地味	口縁～胴部外面 ロコナデ 製部ト端 持ちヘラケズリ 内面ヘラミガキ	口縁～胴部一 部残存	覆土中	P区 SI-21	
327	7	調査跡 鉢小	口径 - 底径 - 器高 (6.6)	10YR6/4 にふい黄褐色	砂粒微量	良好		胴部外面 平行タタキ 内面ヘラナシ	口縁部一部残 存	覆土中	P区 SI-21	産地不明
327	8	土師器 甕	口径 (19.0) 底径 - 器高 (13.0)	7.5YR6/6 褐色	砂粒・礫少量、 透明粘土微量	良好		口縁部 ココナデ 製部内外面ナシ	口縁部 1/4、 胴部 1/8 残存	カマド内	P区 SI-21 No.3 カマ ド	
327	9	土師器 甕	口径 (20.4) 底径 - 器高 (19.3)	外面 7.5YR5/4 にふい褐色 内面 5YR5/6 明赤褐色	砂粒少量、礫・ 赤土等若干	良好		口縁部 ココナデ 製部内外面ナシ	口縁部 1/5 胴 部 1/8 残存	カマド内	P区 SI-21 カマド内・ 右壁内	
327	10	調査跡 甕	口径 - 底径 (16.8) 器高 (19.0)	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒・礫多量	良好		製部外面 平行タタキ 下端ヘラケズリ 内面 当具痕		覆土中	P区 SI-21	葦子産

P区 SI-27 (第328-329図、第204-207表、図版九四)

位置 調査区南東隅にあたるAZ-68・69グリッドに位置する。**重複関係** SI-28と重複していたものと思われる。**平面形状・規模** カマドおよび一部の壁・床面のみが確認できた状態で、壁は遺存状況の良い部分で10cmほどである。**主軸方向** 不明。**確認状況** 遺存状況が極めて悪く、カマドの掘方と周辺の床面、遺存高5cm未満の壁が確認できたに過ぎない。**覆土** 竪穴部分はほぼ削平されており明確には確認できなかった。**床面** カマド前面部を中心に地山が固く締まっており、床面の残存部とみられる。貼床等は確認されていない。**柱穴等** 確認されていない。**カマド** 袖などは削平されて遺存しておらず、煙道・燃烧部の一部と下部の掘方を確認した。全体の規模は長軸100cm、短軸60cmで、燃烧部は床面から深さ10cmほど掘り窪められている。燃烧部の中央西寄りにはカマドの構築材とみられる礫が置かれていた。**出土**

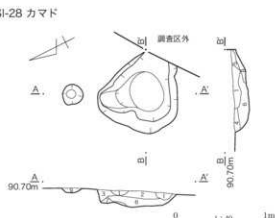
SI-27 カマド



SI-27 カマド

- 1 黒褐色土 焼土粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。(自然埋積)
- 2 黒褐色土 ロームブロック主体(ロームブロック1cm～やや大きめ)しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 褐色土 焼土主体。しまり欠ける。粘性欠ける。(燃焼部)
- 4 暗褐色土 山砂多量。焼土粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。

SI-28 カマド



SI-28 カマド

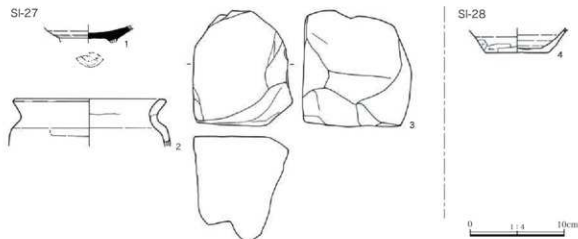
- 1 灰赤褐色土 ローム粒子・焼土粒子・灰色粘土粒子やや多量。しまりあり。粘性欠ける。
- 2 褐色土 ローム粒子やや多量。焼土粒子・焼土ブロックやや少量。しまりあり。粘性欠ける。
- 3 褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量。灰色粘土粒子少量。しまりあり。粘性欠ける。
- 4 明褐色土 ローム粒子やや多量。焼土粒子多量。焼土ブロックやや少量。しまりあり。粘性欠ける。
- 5 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。焼土粒子少量。しまりあり。粘性欠ける。
- 6 褐色土 ローム粒子・ロームブロックやや多量。焼土粒子少量。しまりややあり。粘性欠ける。
- 7 黄褐色土 ロームブロック主体。しまりあり。粘性欠ける。
- 8 褐色土 ローム粒子多量。ロームブロック微量。しまりあり。粘性欠ける。
- 9 赤褐色土 焼土からなる。しまりあり。粘性欠ける。

第328図 P区 SI-27・28カマド遺構実測図

遺物 土師器甕1点、須臾器高台付環1点、石1点を図示した。このほかに土師器環11点26.63g、甕14点303.93gが出土している。 **時期** 9世紀中葉。

P区 SI-28 (第328-329図、第204-207表、図版九五)

位置 調査区南東隅にあたるAZ-69グリッドに位置する。 **重複関係** SI-27と重複していたものと思われる。 **平面形状・規模** カマドのみが確認できた状態で、壁は遺存していない。 **主軸方向** 不明。 **確認状況** SI-27と同様に遺存状況が極めて悪く、カマドの燃焼部および掘方の一部のみが確認された。 **カマド** 燃焼部とみられる不整形の掘方と、煙道一部とみられるビット状の掘方からなる。燃焼部の掘方は南北85cm、東西95cm、深さ15cmである。 **出土遺物** 土師器環1点を図示した。このほかに土師器甕2点2.49gが出土している。 **時期** 9世紀後葉。



第329図 P区 SI-27・28カマド出土遺物実測図

第207表 P区 SI-27・28カマド出土遺物観察表

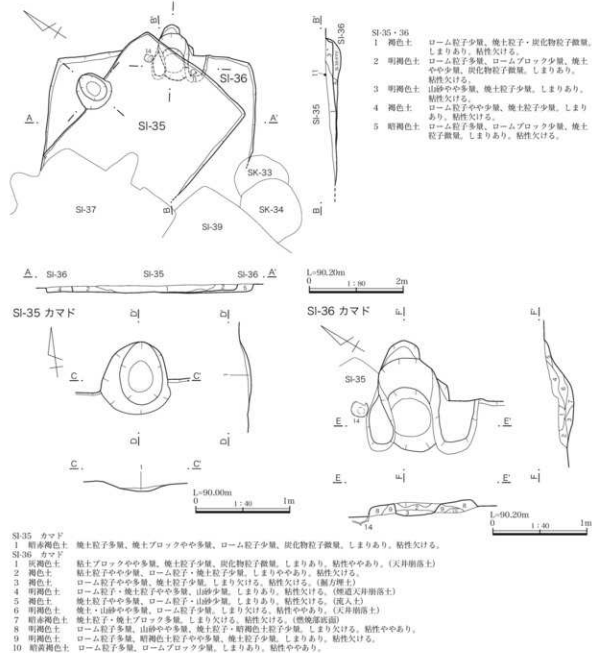
種別 No.	種別 器種	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の形状	器形・器形の特徵	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
329 1	須臾器 高台付環	口径 - 底径 - 器高 1.8	外面 2.5Y6/3 に少し黄 内面 2.5Y7/3 浅黄	砂粘微質	不良			底部1/3 残存、高 台部欠損	覆土中	P区 SI-27 一拵	
329 2	土師器 小形甕	口径 (16.0) 底径 (11.4) 器高 [5.0]	5YR5/6 明赤褐	砂粘・黒色粒 子少量	良好		口縁部ヨコナデ 胴部ナデ	口縁～胴 部一部残 存	覆土中	P区 SI-27 一拵	
327 3	カマド 構築材	長 12.2 幅 10.6 厚 11.4 重 1801.5		砂岩				一部残存	覆土中	P区 SI-27	
329 4	土師器か 埜	口径 - 底径 6.6 器高 [2.6]	7.5YR6/6 橙	砂粘・白雲母 少量	良好		口縁部～内面 ロクロナ デ 底部 手持ちヘラケズリ 後ナデ	底部2/3 残存	覆土中	P区 SI-28 カマド P区 SI-27 一拵	

P区 SI-35 (第330-331図、第204-208表、図版九五・一四一)

位置 調査区南東部にあたるAY-68グリッドに位置する。 **重複関係** SI-37より古く、SI-36より新しい。 **平面形状・規模** 重複によって西側を失っているが、方形を基調とした竪穴建物の西壁以外を確認した。東西で3.5m、南北で2.8mほどである。壁は遺存状況の良い部分で32cmほどである。 **主軸方向** N-0° **覆土** レンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積とみられる。 **床面** 確認された範囲では貼床等は確

認められず、地山であるローム層および重複するSI-36の覆土を床面としている。柱穴等 確認されていない。

カマド 北壁中央に位置している。遺存状況が極めて悪く、下部の掘方のみが確認された。平面形は楕円形で、南北74cm、東西74cm、深さは5cmほどである。掘方の埋土である暗赤褐色土には多量の焼土粒子が含まれており、燃焼面の一部である可能性がある。**出土遺物** 土師器環1点、甌か1点、甕2点、須恵器環5点、高台付環2点、甕2点を図示した。墨書が1・2・5・6の4点に確認されている。1は「曹」か。2は「市」か則天文字「天」と考えられる。そのほかは不明である。このほかに土師器環34点411.47g、高台付環7点64.62g、鉢1点40.8g、甕97点1,429.77g、須恵器環59点513.5g、甕6点180.16g、陶器1点2.82gが出土している。**時期** 9世紀中葉。



第330図 P区SI-35・36遺構実測図



第331図 P区SI-35・36出土遺物実測図

P区SI-36 (第330-331図、第204-208表、図版九五・一四一)

位置 調査区南東部にあたるAY-68グリッドに位置する。**重複関係** SI-35・37・39、SK-33と重複しており、本遺構が古いとみられる。**平面形状・規模** 重複によって南側を中心に大きく削平されているが、方形を基調とした竪穴建物の北壁および西・東壁の一部を確認した。東壁で4m、北壁で2.5m以上である。壁は遺存状況の良い部分で21cmほどである。**主軸方向** N-30°-W **覆土** SI-35に近似した褐色土や、山砂を多く含んだ明褐色土が堆積している。**床面** 確認された範囲では貼床等は確認されておらず、地山であるローム層を床面としている。**柱穴等** 確認されていない。**カマド** 東壁中央に位置し、SI-35から

の破壊をまめがれた床下の部分が存在する。地山由来のロームを多量に含む明褐色土を積んで構築した袖と、それに挟まれた焼部を確認した。袖は幅47cm、竪穴壁からの長さ55cm、高さ10cm、両袖間の幅40cmほどとなっている。焼部および袖の内側ともに、顕著な焼土化はみられず、焼土粒子の堆積も少ない。

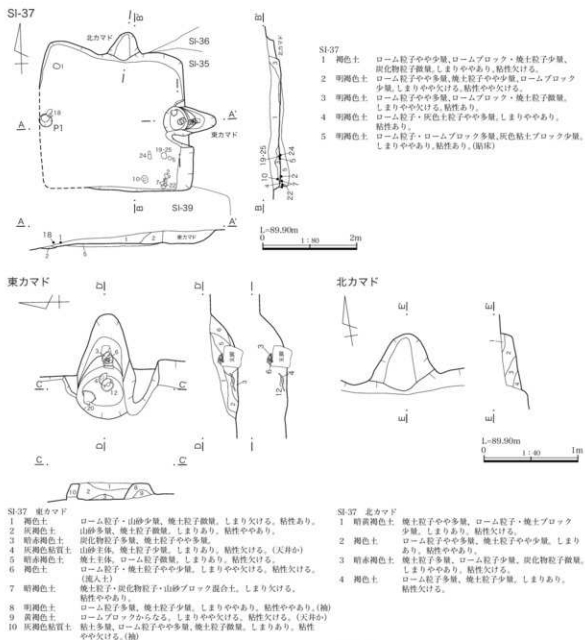
出土遺物 カマド脇から高台付環が出土している。土師器環2点、高台付環1点、須恵器環2点を図示した。墨書が14・15・16の3点で確認され、14は側面の対面に「曹」の墨書がある。このほかに土師器環24点182.06g、甕26点348.75g、須恵器蓋1点10.2gが出土している。時期 9世紀前葉。

第208表 P区SI-35・36出土遺物観察表

図号	種類	計量値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状況	器形・器形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	産地・備考
331-1	土師器環	口径 - 底径 - 距離 [3.2]	外面 10YR4/2 灰黄褐色 内面 N2/O	砂粒微量	良好	口縁部外面～ 内面 黒色処理 墨書あり「曹」 か	外面 ロクロナデ 内面 ヘラミガキ	口縁部一 部残存	覆土中	P区SI-35	
331-2	須恵器環	口径 (13.8) 底径 6.8 距離 4.0	2.5Y6/2 灰黄 赤色粒子微量	砂粒・礫少量	良好	墨書あり「市」 方朔大文字 「天」	口クロ目蓋裏 底部 ヘラ切り後ナデ	口縁一部 1/3 残存、底部 完存	覆土中	P区SI-35	磁子産
331-3	須恵器環	口径 (14.0) 底径 (6.8) 距離 [3.8]	5Y6/1 灰	砂粒微量	良好		体部下端 手持ヘラケズリ 或部 ヘラケズリ	口縁部 1/4、底部 1/3 残存	覆土中	P区SI-35	産地不明
331-4	須恵器環	口径 (16.8) 底径 - 距離 [4.8]	外面 5Y4/1 灰 内面 2.5Y5/2 暗黄褐色	砂粒・礫微量	良好		口クロ目蓋裏	口縁部 1/5 残存	覆土中	P区SI-35	産地不明
331-5	須恵器環	口径 - 底径 - 距離 [3.4]	外面 2.5Y7/1 灰G 内面 5Y6/1 灰	砂粒・礫微量	良好	墨書あり	口クロ目蓋裏	口縁部一 部残存	覆土中	P区SI-35	産地不明
331-6	須恵器環	口径 - 底径 - 距離 [1.0]	外面 7.5YR5/4 にふい～ 内面 10YR5/3 にふい黄褐色	砂粒・白雲母 微量	良好	底部内面 墨書 あり	底部ヘラ切り後ナデ	底部一部 残存	覆土中	P区SI-35	磁子産
331-7	須恵器高台付環	口径 (12.8) 底径 - 距離 [5.0]	外面 5YR6/6 暗 内面 10YR7/6 暗黄褐色	砂粒少量	良好		口クロナデ 高台付環	口縁部 1/5 残存	覆土中	P区SI-35	磁子産
331-8	須恵器高台付環	口径 - 底径 8.2 距離 [2.6]	外面 5Y5/2 灰オリーブ 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒・礫少量	良好		底部ヘラ切り後ナデ 高台付環	底部ほぼ 完存	覆土中	P区SI-35	磁子産
331-9	土師器 勒か	口径 (24.0) 底径 - 距離 [18.2]	外面 10YR5/3 にふい黄褐色 内面 5YR2/1 黒	砂粒微量	良好		口縁部 ココナデ 製部 タテ方向のヘラミ ガキ 内面 ココ方向のヘラミ ガキ	口縁部 1/4 残存	覆土中	P区SI-35	
331-10	土師器 蓋	口径 (18.0) 底径 - 距離 [10.2]	外面 5YR5/6 明赤褐色 内面 7.5YR4/3 暗	砂粒・礫少量	良好		口縁部 ココナデ 製部内外面 ナデか	口縁部 1/5 残存	覆土中	P区SI-35	
331-11	土師器 蓋	口径 (20.0) 底径 - 距離 [8.6]	5YR5/6 明赤褐色	砂粒少量	良好		口縁部 ココナデ 製部 ハナ目	口縁部 1/4 残存	床1約 15cm	P区SI-35 No.1	
331-12	須恵器 蓋	口径 - 底径 - 距離 [3.1]	5Y5/2 灰オリーブ	砂粒・礫少量	良好		ココナデ	口縁部一 部残存	覆土中	P区SI-35	磁子産
331-13	須恵器 蓋	口径 - 底径 - 距離 [11.9]	10YR4/1 暗灰	砂粒・礫少量	良好		製部外面 平行タタキ 内面 ナデ	製部一部 残存	覆土中	P区SI-35	磁子産
331-14	土師器 高台付環	口径 15.4 底径 8.7 距離 6.4	外面 10YR6/4 にふい黄褐色 内面 7.5YR3/1 黒黄	砂粒・白雲母 微量	良好	内面 黒色処理 墨書あり「曹」 高台付環	口縁部外面 ロクロナデ 体～底部外面 回転ヘラ ケズリ 内面 ヘラミガキ 高台付環	口縁部一 部欠損	カマド 付近	P区SI-36 No.1	
331-15	土師器 環	口径 - 底径 - 距離 [3.0]	外面 10YR6/4 にふい黄褐色 内面 N3/O 暗灰	砂粒微量	良好	内面 黒色処理 墨書あり	外面 ロクロナデ 内面 ヘラミガキ	口縁部一 部残存	覆土中	P区SI-36	
331-16	土師器 環	口径 - 底径 - 距離 [2.6]	外面 10YR6/4 にふい黄褐色 内面 7.5Y2/1 黒	砂粒微量	良好	内面 黒色処理 墨書あり	外面 ロクロナデ 内面 ヘラミガキ	体部一部 残存	覆土中	P区SI-36	
331-17	須恵器 環	口径 (7.0) 底径 [3.0]	7.5YR5/4 にふい～	砂粒少量、礫 若干	不良		体部下端 ヘラケズリ 底部ヘラ切り後ナデ	体部1/8、 底部1/4 残存	覆土中	P区SI-36	磁子産
331-18	須恵器 環	口径 (8.0) 底径 [2.2]	7.5YR5/4 にふい～	砂粒微量、黒 色粒子若干	不良		体部下端 ヘラケズリ 底部ヘラ切り後ナデ	体部一部、 底部1/4 残存	覆土中	P区SI-36	磁子産

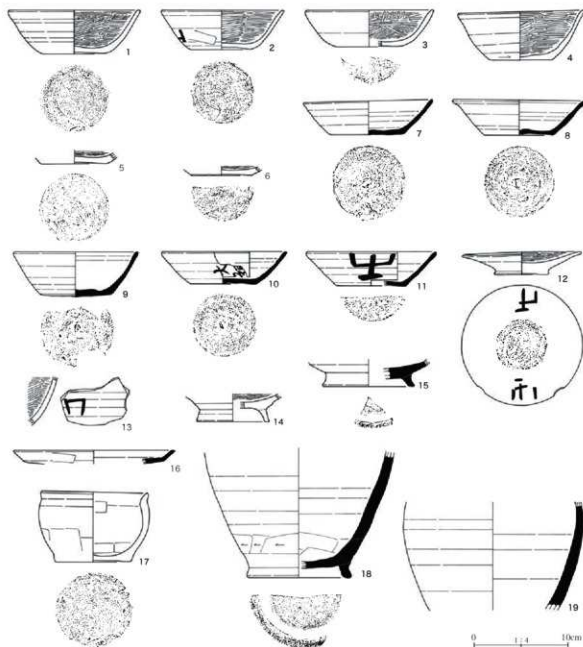
P区 SI-37 (第332-334図、第204-209表、図版九五・九六・一四一・一四二)

位置 調査区南東部にあたるAX・AY-68グリッドに位置する。**重複関係** SI-35・36・39と重複しており、本遺構が新しいとみられる。**平面形状・規模** 南西隅が失われているが東西3.2m、南北3mの方形である。面積は9.6㎡で、壁は遺存状況の良い部分で34cmほどである。**主軸方向** N-90°-E **覆土** 5層に分層され、5層は貼床、茶褐色土と明褐色土が堆積する。自然埋没と想定される。**床面** ほぼ全面にロームブロックを多量に含む明褐色土を用いた貼床が構築されている。貼床の厚さはおおむね8cmほどだが、北側部分では最大15cmほどと厚くなっている。**柱穴等** 西壁中央際と推定される位置に直径25cm、深さ11cmほどの小型のピットが存在する。**カマド** 北壁中央および東壁中央にそれぞれ位置している。北カマドから東カマドに作り替えている。北カマドは 竪穴壁から張り出した煙道部分の一部とみられる部分が遺存していた。東西南北ともに65cm、深さ15cmほどである。東カマドはロームブロックを多量に含む明褐色

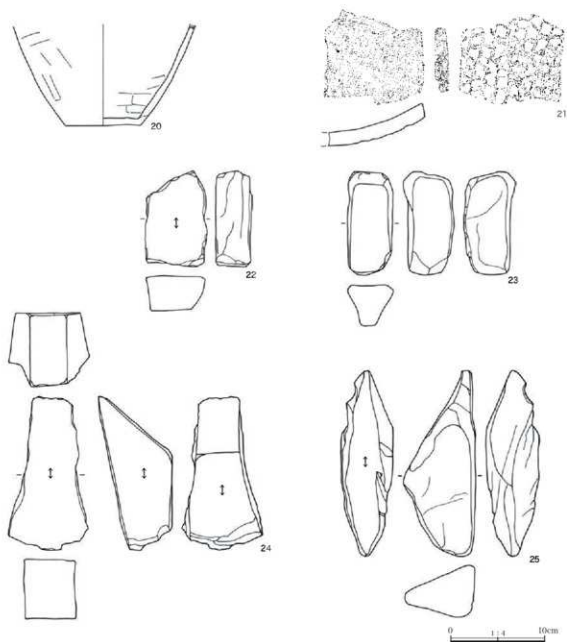


第332図 P区 SI-37 遺構実測図

土および黄褐色土を積んで構築した袖と燃焼部が確認された。袖は幅 40 cm、壁から長さ 50 cm、高さ 16 cm、両袖間の幅 45 cm で、カマドの左袖の遺存状態はあまり良くない。燃焼部および袖の内側には顕著な焼土化範囲はみられず、天井の崩落土とみられる土に、焼土粒子がやや多く含まれている。中央には大きめの割石が置かれており支脚として用いたものと考えられる。また石の上には土師器環を中心に 5～6 枚の土師器片 (3・6) が置かれており、石の手前にも逆位 (12) および斜位 (4) の状態の土師器が出土している。これらはカマド廃絶時における何らかの儀礼行為とみられる。出土遺物 土師器環 6 点、皿 1 点、碗か 1 点、高台付杯 1 点、鉢 1 点、甕 1 点、須恵器環 5 点、高台付杯 1 点、皿 1 点、壺 2 点、瓦 1 点、砥石 4 点を図示した。10 は側面で墨書が確認された。「大頭」か。11・12・13 は「市」か則天文字「天」。このほかに土師器環 44 点 339.5 g、高台付杯 4 点 32.75 g、甕 84 点 857.15 g、須恵器環 52 点 336.3 g、蓋 1 点 11.6 g、鉢 1 点 11.64 g、甕 14 点 196.89 g、瓦 1 点 79.92 g が出土している。時期 9 世紀中葉。



第 333 図 P 区 SI-37 出土遺物実測図 (1)



第334図 P区SI-37出土遺物実測図(2)

第209表 P区SI-37出土遺物観察表

採出 No.	種類 図柄	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
333 1	土師器 杯	口径 13.8 底径 6.6 器高 4.6	外面 10VR5/2 灰黄褐色 内面 7.5VR4/2 灰黒	砂粒微量	良好	内面 黒色色層 被熱	外面口縁～体部 ロウロナ ナデ 内面 ヘラミガキ 底部 糸切り	ほぼ完形	床土約 10cm	P区SI-37 No.2	
333 2	土師器 杯	口径 (12.8) 底径 6.5 器高 4.2	外面 10VR7/4 にぶい黄褐色 内面 N2/O 黒	砂粒少量、礫 微量	良好	内面 黒色色層 筆書あり	外面口縁～体部 ロウロナ ナデ 底部 糸切り後ヘラケズ 内面 ヘラミガキ	口縁部 1/4 残 存、底部 完形	床面直 上	P区SI-37 No.5	
333 3	土師器 杯	口径 (13.6) 底径 (7.0) 器高 3.9	外面 10VR5/3 にぶい黄褐色 内面 10VR6/3 にぶい黄褐色	砂粒微量	良好	一部被熱	口縁～体部 ロウロナナ デ 底部 糸切り 内面 ヘラミガキ	口縁部 1/2、底 部 1/4 残 存	東方マ カマド D内	P区SI-37 カマド No.9・東方 マド	

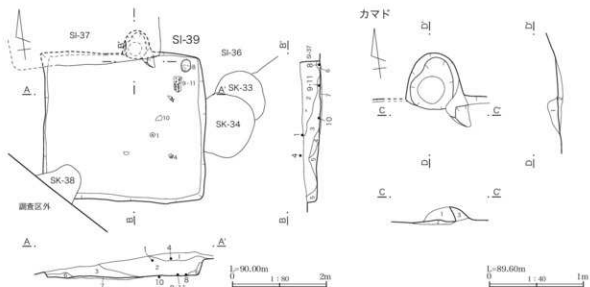
333	4	土師器 坏	口径 13.3 底径 6.6 器高 5.3	外面 7.5YR6/4 にふい黄褐色 内面 N2/O 黒	砂粒少量	良好	内面 黒色処理	外面口縁～体部 ロウロナ ナデ 下縁ヘラウズリ 底部糸切り襷ナデ 内面ヘラミガキ	口縁部 1/3欠損	東方マ ド内	P区SI-37 カマドNo.3	
333	5	土師器 坏	口径 - 底径 7.0 器高 [1.2]	外面 10YR6/4 にふい黄褐色 内面 2.5Y2/1 黒	砂粒・黒色粒 子少量、礫質	良好	内面 黒色処理 襷ナデ	底部糸切り 内面ヘラミガキ	底部完存	床面直上	P区SI-37 No.4	底部明確 を欠く
333	6	土師器 坏	口径 - 底径 6.5 器高 [0.9]	外面 10YR5/3 にふい黄褐色 内面 10YR6/3 にふい黄褐色	砂粒・礫少量	良好		底部糸切り 内面ヘラミガキ	底部1/2 残存	東方マ ド内	P区SI-37 カマド No.10	
333	7	葉土器 坏	口径 13.6 底径 7.8 器高 3.7	5Y5/2 オリーブ灰	砂粒・礫少量	良好		底部ヘラウ切り襷ナデ	口縁部 2/3残 存、底部 完存	床面直上	P区SI-37 No.6・8	磁子産
333	8	葉土器 坏	口径 14.0 底径 7.2 器高 3.8	2.5Y6/2 灰黄	砂粒・礫少量	良好		底部ヘラウ切り襷ナデ	ほぼ完存	東方マ ド内	P区SI-37 カマド	磁子産
333	9	葉土器 坏	口径 (13.2) 底径 7.6 器高 4.7	10YR5/3 にふい黄褐色	砂粒・礫少量	やや 不良	黒色物付着	底部ヘラウ切り襷ナデ	口縁部 2/3残 存	東方マ ド内	P区SI-37 7カマド・ カマド・東 方マド	磁子産か
333	10	葉土器 坏	口径 (13.2) 底径 6.8 器高 3.4	5Y5/1 灰	砂粒・礫少量	良好	筆書「大眼」か 削大文字「入」	底部ヘラウ切り襷ナ ズリ	口縁部 2/3欠損	東方マ ド内	P区SI-37 No.9	磁子産
333	11	葉土器 坏	口径 (13.8) 底径 7.4 器高 3.6	5Y5/2 灰オリーブ	砂粒・礫少量	良好	筆書あり「市」か 削大文字「入」	口縁口縁顯著	口縁～底 部1/3残 存	覆土中	P区SI-37	磁子産
333	12	土師器 皿	口径 12.7 底径 5.7 器高 2.5	外面 10YR6/3 にふい黄褐色 内面 7.5YR3/1 黒	砂粒少量	良好	内面 黒色処理 筆書あり「市」か 削大文字「入」	外面体部 ロウロナナ デ 底部糸切り 内面ヘラミガキ	完形	東方マ ド内	P区SI-37 カマドNo.2	
333	13	土師器 碗か	口径 - 底径 - 器高 [5.2]	外面 10YR6/4 にふい黄褐色 内面 N2/O 黒	砂粒少量	良好	内面 黒色処理 筆書あり「市」か 削大文字「入」	外面 ロウロナナ デ 内面ヘラミガキ	体部一部 残存	覆土中	P区SI-37	
333	14	土師器 高台付坏	口径 - 底径 (7.6) 器高 [2.9]	外面 10YR6/4 にふい黄褐色 内面 N2/O 黒	砂粒少量	良好	内面 黒色処理	内面ヘラミガキ 高台付	底～高台 部1/4残 存	覆土中	P区SI-37	
333	15	葉土器 高台付坏	口径 - 底径 (9.6) 器高 [3.0]	外面 5Y4/1 灰 内面 2.5Y3/1 黄灰	砂粒少量	良好		ロウロナナ 高台付	底～高台 部1/6残 存	覆土中	P区SI-37 カマド・ P区SI-39	覆ノ内産 P区SI- 39-5と同 一
333	16	葉土器 皿	口径 (17.0) 底径 - 器高 [1.4]	10YR7/4 にふい黄褐色	砂粒・白雲母 少量	不良		ロウロナナデ	口縁部 1/6残存	覆土中	P区SI-37	磁子産
333	17	土師器 鉢	口径 11.4 底径 8.0 器高 7.5	外面 7.5YR4/2 にふい黄褐色 内面 10YR2/1 黒	砂粒少量	良好	内外面 炭化物付着 襷ナデ	ロウロナナデ・ナ デ 底部糸切り	完形	覆土中	P区SI-37 葉カマド・ 灰床中 P区SI-39	
333	18	葉土器 碗	口径 - 底径 (10.8) 器高 [13.4]	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 10YR5/1 灰	砂粒・礫多量	良好		外面体部下端 手持ち ヘラウズリ	胴部1/6、底 部1/2、 高台部 1/3残存	床土約 15cm	P区SI-37 No.1	磁子産
333	19	葉土器 碗	口径 - 底径 - 器高 [11.5]	外面 7.5Y6/1 灰 内面 2.5Y6/1 黄灰	砂粒・礫多量 黒色粒子少量	良好	自然釉付着	ロウロナナデ	胴部1/4 残存	床面直上	P区SI-37 No.3	磁子産
334	20	土師器 甕	口径 (10.7) 底径 (8.0) 器高 (10.7)	外面 5YR5/6 明赤褐色 内面 7.5YR5/3 にふい黄褐色	砂粒・礫多量	良好	内外面 飛れている	内面 ナデか	胴部 1/4、底 部1/2残 存	東方マ ド内	P区SI-37 カマドNo.1	
334	21	灰瓦	厚 1.6 幅 2.39.68	外面 10YR6/3 にふい黄褐色 内面 7.5YR5/4 にふい黄褐色	砂粒多量、礫 少量、赤色粒 子微量	やや 不良		片面 格子タタキ 凹面 布目縞 側面 ヘラウズリ	一部残存	灰床中	P区SI-37 灰床中	
334	22	石製品 砥石	長 10.1 幅 6.6 厚 3.7 重 374.62g		砂質		やや荒くなってい る 襷ナデ	研削面1面	一部残存	床面直上	P区SI-37 No.7	
334	23	石製品 砥石か	長 11.0 幅 5.3 厚 4.8 重 343.0		砂質		研削か	研削面3面	一部欠損	灰床中	P区SI-37 灰床中	
334	24	石製品 砥石	長 16.3 幅 8.5 厚 7.8 重 1013.0		砂質		研削面3面 襷ナデ	研削面3面 襷ナデ	一部残存	床土約 6cm	P区SI-37 No.10	
334	25	石製品 砥石か	長 19.6 幅 7.6 厚 5.5 重 738.2		砂質		研削面1面か	ほぼ完存	床面直上	床面直上	P区SI-37 No.3	

P区 SI-39 (第335-336図, 第204-210表, 図版九六・一四二)

位置 調査区南東部にあたる AX・AY-68 グリッドに位置する。**重複関係** SI-36・37, SK-34・38 と重複しており, SI-37, SK-38 より古く, 他より新しい。**平面形状・規模** 東西方向にわずかに長い方形で, 東西 3.4 m, 南北 3.2 m, 面積は 10.88 m², 壁は遺存状況の良い部分で 43 cm ほどである。**主軸方向** N-0°

覆土 7層に分層される。7層は貼床, 他はロームブロックが多く含まれる。**床面** 竪穴の北壁～西壁側にはロームブロックを含む褐色土を用いた厚さ 5 cm 未満の貼床が構築されている。反対に南壁～東壁側は地山であるローム層を床面としている。床面はおおむね平坦ではあるが, 貼床が構築される北～西方向に向かってわずかに傾斜している。**柱穴等** 確認されていない。**カマド** 北壁中央に位置している。SI-37 に破壊されているため遺存状況は悪く黄褐色土で構築した袖の片方と, 竪穴壁から外側に張り出す掘方を確認した。袖は幅 25 cm, 竪穴壁からの長さ 30 cm, 高さ 12 cm である。袖の内側などに焼土化範囲は認められない。掘方の規模は南北 60 cm, 東西 54 cm, 深さ 5 cm で, 焼土粒子がやや多く含まれる褐色土が堆積している。

出土遺物 土師器甕 2 点, 須恵器杯 3 点, 高台付坏 2 点, 壺 1 点, 甕 2 点, 瓦 1 点を図示した。1 は側面に墨書が認められる。このほかに土師器坏 18 点 138.37 g, 高台付坏 1 点 23.75 g, 甕 43 点 697.21 g, 須恵器杯 25 点 260.13 g, 高台付坏 1 点 24.27 g, 壺 2 点 9.07 g, 甕 1 点 52.52 g, 瓦 2 点 77.04 g が出土している。**時期** 9 世紀中葉。



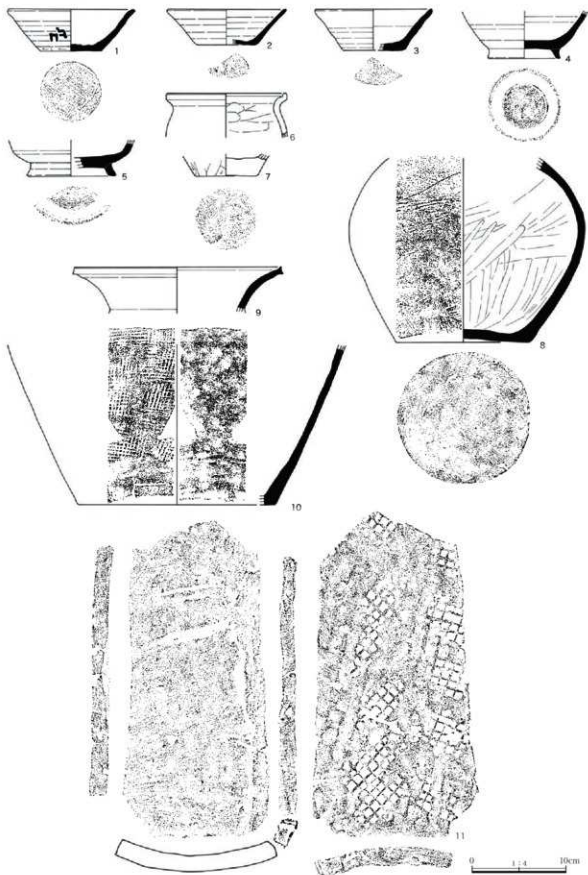
SI-39

- 1 明褐色土 ローム粒子やや多量, ロームブロック・焼土粒子微量, しまりあり, 粘性欠ける。
- 2 褐色土 ローム粒子少量, ロームブロック微量, しまりあり, 粘性欠ける。
- 3 明褐色土 ローム粒子多量, ロームブロックやや多量, 焼土粒子微量, しまりややあり, 粘性ややあり。
- 4 褐色土 ローム粒子少量, ロームブロック微量, しまりやや欠ける, 粘性ややあり。
- 5 褐色土 ローム粒子やや多量, ロームブロック少量, しまりやや欠ける, 粘性ややあり。
- 6 暗黄褐色土 ローム主体, しまりややあり, 粘性ややあり。
- 7 褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量, しまりあり, 粘性やや欠ける。(築床)

SI-39 カマド

- 1 褐色土 ローム粒子やや少量, 焼土粒子少量, しまり欠ける, 粘性ややあり。
- 2 褐色土 ローム粒子やや多量, ローム粒子少量, ロームブロック微量, しまり欠ける, 粘性やや欠ける。
- 3 黄褐色土 ローム土からなる, しまりややあり, 粘性ややあり。(袖)

第335図 P区 SI-39 遺構実測図



第336圖 P区SI-39出土物実測圖

第210表 P区 SI-39 出土遺物観察表

種別 No.	種類 西輪	位置 (m・°)	位置	土質・石質	構成	路面の状況	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
336 1	築土器 環	口径 (13.0) 底径 (6.4) 器高 4.4	2.5Y6/3 にぶい黄	砂粒多量、礫 少量	良好	築遺あり	口クロ目面著 体部下端～底部 一方 ヘラケズリ	口縁部 1/4、体部 1/2 残存、 底部完存	床上約 30 cm	P区 SI-39 No.5	甕ノ内産
336 2	築土器 環	口径 (12.4) 底径 (6.6) 器高 3.8	2.5Y4/1 黄灰	砂粒・礫少量	良好	刻痕あり	口クロ目面著	1/4 残存	覆土中	P区 SI-39	磁子産
336 3	築土器 環	口径 (12.2) 底径 (6.4) 器高 4.4	5Y6/2 灰オリーブ	砂粒・礫少量	良好	刻痕か	口クロ目やや面著	1/5 残存	覆土中	P区 SI-39	磁子産
336 4	築土器 高台付環	口径 - 底径 7.5 器高 [5.1]	2.5Y5/2 黄灰黄	砂粒・礫少量	良好	内面 華帯・摩耗	底部ヘラケズリ 高台付	体部一部 残存、底 部～高台 完存	床上約 30 cm	P区 SI-39 No.6	磁子産 転用疑か
336 5	築土器 高台付環	口径 - 底径 (3.8)	2.5Y3/1 黄灰	砂粒・礫微量	良好		口クロ目面著 高台付	体部一部、 底部～高 台部 1/4 残存	覆土中	P区 SI-39	甕ノ内産 P区 SI-37、 15と同一
336 6	土師器 環	口径 (12.4) 底径 - 器高 [4.8]	10YR4/2 灰黄褐色	砂粒・白 雲母少量	良好	やや酸化	口縁部 ココナデ 胴部内面ナデ	口縁部 1/4 残存	覆土中	P区 SI-39	
336 7	土師器 兼か	口径 - 底径 6.6 器高 [2.3]	外面 5YR6/6 橙 内面 5YR4/4 にぶい赤黄	砂粒・礫微量	良好		胴部下端ヘラケズリ 内面 ロクロナデ 底部 未切り	底部完存	覆土中	P区 SI-39	
336 8	築土器 甕	口径 - 底径 14.0 器高 [19.5]	外面 7.5Y5/1 灰 内面 2.5Y5/1 黄灰 輪 7.5Y8/3 黄赤	砂粒・礫少量	良好	内面 自然輪付着	胴部外面 平行タキ後ナ デ削し 内面 上平 斜め方向のヘラ ナデ 下平 タテ方切のヘラナデ 底部 ナデ	体部 1/2 残存、底 部完存	床面直 上	P区 SI-39 No.1	磁子産
336 9	築土器 甕	口径 (21.8) 底径 14.0 器高 [4.8]	外面 5Y4/1 灰 内面 2.5Y4/1 黄灰 輪 N2/0 黒	砂粒少量	良好	内面 自然輪付着	口クロナデ	口縁部 1/8 残存	床面直 上	P区 SI-39 No.2	磁子産
336 10	築土器 甕	口径 - 底径 (21.0) 器高 [16.8]	外面 5Y5/1 灰 内面 2.5Y6/2 灰黄	砂粒・礫少量	良好		胴部外面 格子タキか 内面 ナデ・風文当具痕あ り	胴部～底 部一部残 存	床面直 上	P区 SI-39 No.4	磁子産
336 11	瓦瓦	厚 2.1 重 169.0	外面 7.5YR6/6 橙 内面 7.5YR4/4 橙	砂粒・礫多量	不良		凸面 格子タキ後削ナデ 凹面 和目面・未切り痕 側面 ヘラケズリ 端面 ヘラケズリ	ほぼ完形	床面直 上	P区 SI-39 No.2	調査とし

2 方形竪穴

調査区の北端の台地上に1基確認されている。

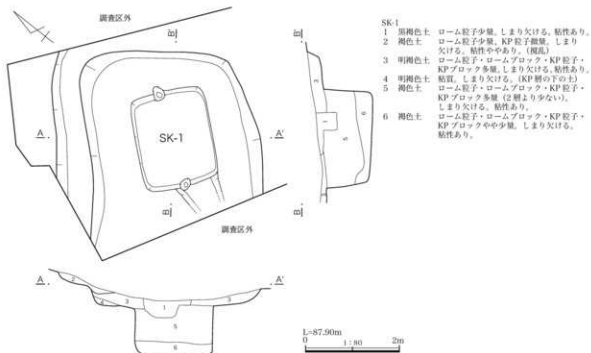
第211表 P区方形竪穴計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	東西 (m)	南北 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係・備考
SK-1	AS-AT-63	N-40° -E	長方形	3.60	[3.60]	1.00	箱形	有	

P区 SK-1 (第337図、第211表、図版九六・九七)

位置 調査区北西端のAS・AT-63グリッドに位置している。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南東側が調査区外であるが、北東～南西方向に長い、東西3.6m以上、南北3.6m、深さ0.4mほどの浅い掘り込みの中央に、ひと回り小さい長軸2m、短軸1.6m、深さ1mほどの深い竪穴が掘られている。**主軸方向** N-40° -E **覆土** ローム粒子・鹿沼軽石粒子やロームブロックを多く含んでいる。**床面** 上段・下段は黒色土中に作られており、いずれも平坦となっており、壁は垂直に立ち上がる。**柱穴等** 下段竪穴の北東壁(P1)と南西壁(P2)の中央に直径30cm、深さ120cmほどの柱穴が位置している。**出土遺物** 図示できる

遺物はないが、土師器杯2点12.54g、甕5点50.73g、須恵器杯1点11.07g、蓋1点10.6g、甕3点106.36gが出土している。出土した遺物は流れ込みと推測される。時期 形状から中近世か。



第337図 P区SK-1遺構実測図

3 土坑

台地の上・竪穴建物跡の周辺に25基が確認されている。

第212表 P区土坑計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	断面形	出土遺物	遺構関係・備考
SK-2	AT-63	N-25°-W	楕円形	0.90	0.82	0.20	逆台形	無	
SK-3	AT-63	N-35°-E	不整楕円形	1.20	1.02	0.25	逆台形	無	
SK-4	AT-AU-63	N-50°-W	楕円形	1.73	0.56	0.20	箱形	有	SK-5より新
SK-6	AU-64	N-0°	楕円形	0.48	0.44	0.55	U字状	無	柱穴か
SK-7	AU-64	N-50°-E	楕円形	0.84	0.80	0.16	逆台形	有	SK-8より古
SK-8	AU-64	N-30°-W	L字形	1.30	0.92	1.15	段有	無	SK-7より新 柱穴か
SK-9	AU-64	N-0°	楕円形	0.62	0.40	0.40	U字状	無	
SK-12	AW-66	N-0°	楕円形	0.70	0.60	0.12	U字状	無	
SK-13	AW-66	-	円形	0.62	0.62	0.20	箱形	無	
SK-14	AW-66	N-60°-E	楕円形	0.58	0.50	0.12	箱形	無	
SK-15	AW-AX-67	N-5°-W	隅丸長方形	2.06	1.32	1.40	逆台形	無	陥し穴か
SK-16	AX-67	N-0°	隅丸長方形	2.00	1.20	1.30	逆台形	無	陥し穴か
SK-20	AX-67-68	N-30°-W	楕円形	1.28	0.94	0.24	段有	無	
SK-22	AY-68-69	N-30°-W	楕円形	1.90	0.75	0.55	箱形	無	
SK-23	AY-68	N-80°-W	楕円形	0.95	0.85	0.25	逆台形	有	
SK-24	AZ-68	N-35°-E	不整楕円形	1.35	0.58	0.26	段有	有	
SK-25	AZ-68	N-25°-W	楕円形	0.60	0.50	0.50	U字状	有	
SK-26	AZ-68	N-0°	楕円形	0.62	0.60	0.43	逆台形	有	
SK-29	AZ-69	N-20°-W	楕円形	0.60	0.55	0.45	逆台形	無	
SK-30	AZ-69	N-50°-E	楕円形	0.57	0.52	0.23	U字状	無	
SK-31	AZ-69	N-40°-W	楕円形か	0.65	0.40	0.53	箱形	無	柱穴か
SK-32	AY-68	N-70°-E	楕円形	0.70	0.60	0.07	皿状	無	
SK-33	AY-68	不明	楕円形か	0.56	0.30	0.15	皿状	有	SK-34より古 SK-36より新
SK-34	AY-68	不明	楕円形	1.30	1.25	0.40	箱形	有	SK-39より古 SK-33より新
SK-38	AX-AY-68	不明	円形か	0.64	0.96	0.32	逆台形	有	SK-39より新

P区SK-2 (第338図、第212表)

位置 調査区北西端にあたるAT-63グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向に長い楕円形である。長軸90cm、短軸82cm、深さ20cmである。**主軸方向** N-25°-W **覆土** 地山由来のローム粒子を多量、ロームブロックを微量に含んでいる。**底面** ローム層中に作られており、凹凸が目立つ。壁は緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

P区SK-3 (第338図、第212表)

位置 調査区北西端にあたるAT-63グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向に長い、やや不整な楕円形である。長軸120cm、短軸102cm、深さ25cmである。**主軸方向** N-35°-E **覆土** 不明。**底面** ローム層中に作られており、やや凹凸が目立つがおおむね平坦となっている。壁は比較的急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

P区SK-4 (第338図、第212表)

位置 調査区北西側にあたるAT・AU-63グリッドに位置する。**重複関係** SI-5と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 北西-南東方向に細長く伸びる楕円形である。長軸173cm、短軸56cm、深さ20cmである。**主軸方向** N-50°-W **覆土** ローム粒子をやや多く含む褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕2点23.77g、須恵器甕1点14.16gが出土している。**時期** 不明。

P区SK-6 (第338図、第212表、図版九七)

位置 調査区北西側にあたるAU-64グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向にわずかに長い楕円形である。長軸48cm、短軸44cm、深さ55cmである。後述する覆土や底面の様相から柱穴とみられる。**主軸方向** N-0° **覆土** いずれの層も地山由来のロームブロックを多量に含む。1層は柱痕跡、2・3層は柱穴埋方土とみられる。**底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びている。底面中央の1層直下の地山は直径35cmほどの範囲が変色・硬化しており、柱痕跡とみられるが、周囲の他にピットが確認されていないため、土坑として扱った。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

P区SK-7 (第338図、第212表)

位置 調査区北西側にあたるAU-64グリッドに位置する。**重複関係** SK-8と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 長軸84cm、短軸80cm、深さ16cmの楕円形である。**主軸方向** N-50°-E **覆土** 地山由来のローム粒子・ロームブロックを多量に含む褐色土および明褐色土が堆積しており、人為的な埋め戻しとみられる。**底面** ローム層中に作られており、やや凹凸が目立つが、おおむね平坦となっている。壁は比較的緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器鉢1点18.69g、須恵器甕1点49.24gが出土している。**時期** 不明。

P区SK-8 (第338図、第212表)

位置 調査区北西側にあたるAU-64グリッドに位置する。**重複関係** SK-7と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** L字形をしており、長軸130cm、短軸92cm、深さは最大で115cmである。**主**

軸方向 N-30° -W **覆土** 地山由来のロームで構成される明褐色土が堆積しており、人為的な埋戻しとみられる。**底面** 丸みを帯びており、壁はほぼ垂直で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

P区 SK-9 (第338図、第212表)

位置 調査区北部にあたるAU-64グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向にわずかに長い楕円形である。長軸62cm、短軸40cm、深さ40cmである。**主軸方向** N-0° **覆土** ローム粒子・ロームブロックをわずかに含む褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びている。壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

P区 SK-12 (第338図、第212表、図版九七)

位置 調査区中央部にあたるAW-66グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向にわずかに長い楕円形となっている。長軸70cm、短軸60cm、深さ12cmである。**主軸方向** N-0° **覆土** 暗褐色土が2層堆積している。2層はローム粒子が多く含まれていることから人為的な埋戻しの可能性が高い。**底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びている。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

P区 SK-13 (第338図、第212表、図版九七)

位置 調査区中央部にあたるAW-66グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 直径62cmほどの円形で、深さは20cmほどである。**覆土** 地山由来のローム粒子が多量に含まれた明褐色土であり、人為的な埋戻しの可能性が高い。**底面** ローム層中に作られており、おおむね平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

P区 SK-14 (第338図、第212表、図版九七)

位置 調査区中央部にあたるAW-66グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向にわずかに長い楕円形となっている。長軸58cm、短軸50cm、深さ12cmとなっている。**主軸方向** N-60° -E **覆土** 地山由来のローム粒子を多量に含む暗褐色土が堆積しており、人為的な埋戻しとみられる。**底面** ローム層中に作られており、底面は平坦となっており、壁は垂直となっている。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

P区 SK-15 (第338図、第212表、図版九七)

位置 調査区中央部にあたるAW・AX-67グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向に長い楕円長方形となっている。長軸206cm、短軸132cm、深さ140cmである。**主軸方向** N-5° -W **覆土** 黒褐色系または褐色系の土が5層確認された。全体的にしまりのある層が多い。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。形状や覆土の状況から陥し穴と考えられる。

P区 SK-16 (第338図、第212表、図版九八)

位置 調査区中央部にあたる AX-67 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 南北方向に長いやや不整な隅丸長方形となっている。長軸 200 cm、短軸 120 cm、深さ 130 cm である。 **主軸方向** N-0° **覆土** 10 層に区分した地山由来のロームブロックや鹿沼軽石を多く含んでいる。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。形状や覆土の状況から陥し穴と考えられる。

P区 SK-20 (第339図、第212表)

位置 調査区中央部にあたる AX-67・68 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 南北方向に長い楕円形となっている。長軸 128 cm、短軸 94 cm、深さ 24 cm である。 **主軸方向** N-30° -W **覆土** 褐色または灰褐色系の土が堆積している。いずれも焼土粒子や炭化物が含まれる。 **底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びている。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

P区 SK-22 (第339図、第212表、図版九八)

位置 調査区南東部にあたる AY-68・69 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 南北方向に長い楕円形で、長軸 190 cm、短軸 75 cm、深さ 55 cm である。 **主軸方向** N-30° -W **覆土** 6 層確認した。地山由来とみられる褐色・暗黄褐色土と流入土とみられる暗褐色系の土に大別される。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

P区 SK-23 (第339図、第212表)

位置 調査区南東部にあたる AY-68 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 東西方向にわずかに長い楕円形で、長軸 95 cm、短軸 85 cm、深さ 25 cm である。 **主軸方向** N-80° -W **覆土** 地山由来のローム粒子を含む褐色土が 2 層確認された。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は緩やかな立ち上がりを示す。 **出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環 1 点 20.15 g、甕 1 点 9.85 g、須恵器環 1 点 26.32 g が出土している。 **時期** 不明。

P区 SK-24 (第339図、第212表)

位置 調査区南東隅にあたる AZ-68 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 東西方向に長い不整な楕円形である。長軸 135 cm、短軸 58 cm、深さ 26 cm である。 **主軸方向** N-35° -E **覆土** 褐色土 1 層である。 **底面** ローム層中に作られている。西側が深く、東側が浅くなる。壁は比較的急斜度で立ち上がる。 **出土遺物** 図示できる遺物はないが、須恵器環 1 点 8.47 g、甕 1 点 11.58 g が出土している。 **時期** 不明。

P区 SK-25 (第339図、第212表)

位置 調査区南東隅にあたる AZ-68 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 南北方向にやや長い楕円形である。長軸 60 cm、短軸 50 cm、深さ 50 cm ほどである。 **主軸方向** N-25° -W **覆土** 締まりのある褐色土と、ローム粒子を多量に含む明褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作ら

れており、やや丸みを帯びている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環4点24.06g、甕3点13.61g、須恵器甕1点16.54gが出土している。 **時期** 不明。

P区SK-26 (第339図、第212表)

位置 調査区南東隅にあたるAZ-68グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 楕円形で、長軸62cm、短軸60cm、深さ43cmである。 **主軸方向** N-0° **覆土** 地山由来のローム粒子をやや多く含んだ明褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。 **出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕4点19.5g、須恵器甕1点35.49gが出土している。 **時期** 不明。

P区SK-29 (第339図、第212表)

位置 調査区南東隅にあたるAZ-69グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 南北方向にわずかに長い楕円形で、長軸60cm、短軸55cm、深さ45cmである。 **主軸方向** N-20° -W **覆土** 明褐色土と暗黄褐色土の2層を確認した。いずれも地山由来とみられるローム粒子を多く含んでいる。 **底面** ローム層中に作られている。幅狭く、丸みを帯びており、壁は急斜度に近い形で立ち上がっている。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

P区SK-30 (第339図、第212表)

位置 調査区南東隅にあたるAZ-69グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 東西方向に長い楕円形で、長軸57cm、短軸52cm、深さ23cmである。 **主軸方向** N-50° -E **覆土** 地山由来とみられるローム粒子を多く含む明褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られており、底面は丸みを帯びる。壁は比較的緩やかな立ち上がりを示す。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

P区SK-31 (第339図、第212表、図版九八)

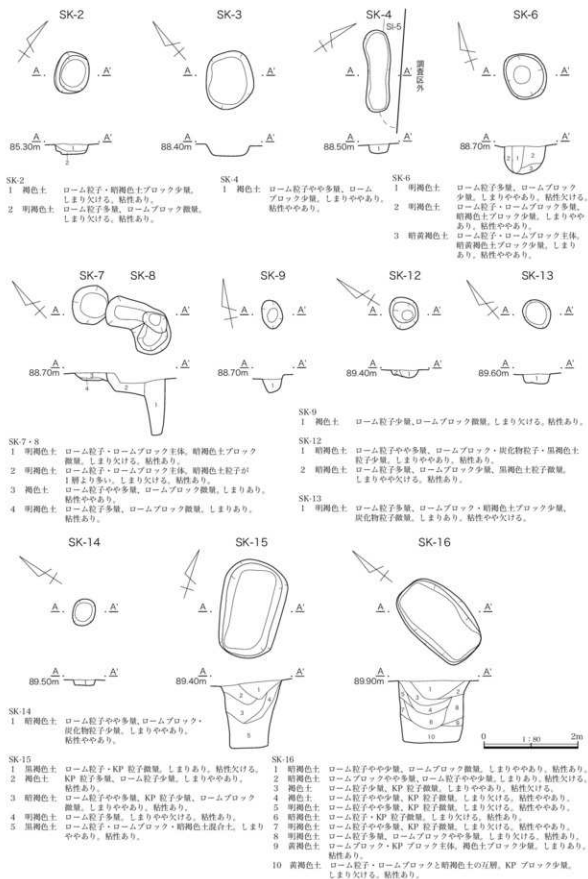
位置 調査区南東隅にあたるAZ-69グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 南側半分が調査区外であるが、円形基調の土坑とみられる。確認できた範囲で長軸65cm以上、短軸40cm、深さ53cmである。 **主軸方向** N-40° -W **覆土** 地山由来のローム粒子を多量に含む明褐色土と、中央に堆積する褐色土からなり、堆積状況から柱穴の可能性も考えられる。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

P区SK-32 (第339図、第212表)

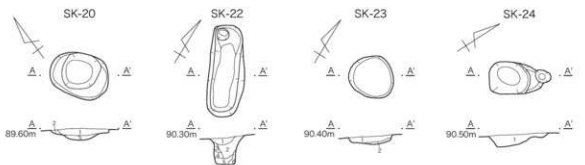
位置 調査区南東隅にあたるAY-68グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 東西方向に長い楕円形で、長軸70cm、短軸60cm、深さ7cmである。 **主軸方向** N-70° -E **覆土** 褐色土が1層堆積している。 **底面** ローム層中に作られており、やや丸みを帯びる。壁は非常に緩やかに立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

P区SK-33 (第339図、第212表、図版九八)

位置 調査区南東部にあたるAY-68グリッドに位置する。 **重複関係** SI-36より新しく、SK-34より古い。 **平面形状・規模** SK-34により西側が失われているが、楕円形とみられる。遺存している範囲で長軸56cm、



第338図 P区SK-2~4・6~9・12~16遺構実測図



SK-20

- 1 褐色土 炭化物粒子や中多量、ローム粒子微量、しまり欠ける。粘性ややあり。
- 2 灰褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量、しまり欠ける。粘性あり。
- 3 明灰褐色土 ローム粒子・炭化物粒子微量、しまり欠ける。粘性あり。

SK-22

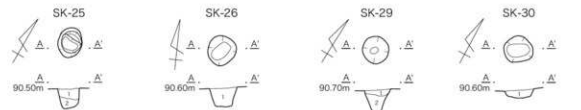
- 1 暗褐色土 ローム粒子微量、しまりあり、粘性欠ける。
- 2 褐色土 ローム粒子少量、しまり欠ける。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム主体、しまりあり、硬い。粘性欠ける。
- 4 暗褐色土 ローム粒子やや多量、赤褐色土粒子微量、しまりあり、粘性欠ける。
- 5 褐色土 ローム粒子やや多量、赤褐色土粒子微量、しまりあり、粘性ややあり。
- 6 褐色土 ローム粒子やや多量、しまりあり、硬い。粘性欠ける。

SK-23

- 1 褐色土 ローム粒子少量、しまりややあり、粘性欠ける。
- 2 褐色土 ローム粒子やや多量、しまり欠ける。粘性ややあり。

SK-24

- 1 褐色土 ローム粒子やや少量、炭化物粒子少量、ロームブロック微量、しまりややあり、粘性欠ける。



SK-25

- 1 褐色土 ローム粒子やや少量、ロームブロック微量、しまりあり、粘性欠ける。
- 2 明褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量、しまり欠ける。粘性やや欠ける。

SK-26

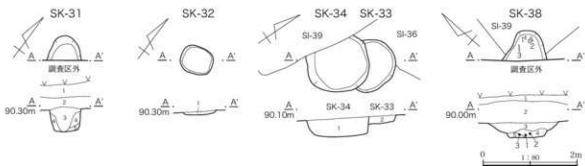
- 1 明褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロックやや少量、焼土粒子微量、しまりややあり、粘性欠ける。

SK-29

- 1 明褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック微量、しまりあり、粘性欠ける。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量、しまり欠ける。粘性欠ける。

SK-30

- 1 明褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、炭化物粒子微量、しまりあり、粘性欠ける。



SK-31

- 1 褐色土 しまりやや欠ける。粘性欠ける。(表土)
- 2 褐色土 ローム粒子少量、しまりあり、硬い。粘性欠ける。
- 3 褐色土 ローム粒子少量(2層より少ない)、ロームブロック微量、しまり欠ける。粘性ややあり。
- 4 明褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、しまりややあり、粘性やや欠ける。
- 5 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまり欠ける。粘性ややあり。

SK-32

- 1 褐色土 ローム粒子少量、赤褐色土粒子微量、しまりあり、粘性欠ける。

SK-33・34

- 1 明褐色土 ローム粒子多量、暗褐色土粒子やや多量、ロームブロック少量、しまり欠ける。粘性あり。
- 2 明褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック・KP粒子・赤褐色土粒子微量、しまりややあり、粘性ややあり。

SK-38

- 1 褐色土 しまり欠ける。粘性欠ける。(表土)
- 2 褐色土 ローム粒子少量、しまりあり、粘性欠ける。
- 3 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量、しまり欠ける。粘性ややあり。
- 4 暗褐色土 焼土粒子やや多量、焼土ブロック少量、しまり欠ける。粘性あり。
- 5 褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子微量、しまり欠ける。粘性ややあり。

第339図 P区SK-20・22～26・29～34・38遺構実測図

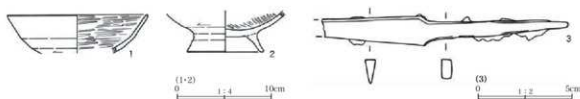
短軸 30 cm以上、深さ 15 cmである。 **主軸方向** 不明。 **覆土** ローム粒子を少量含む明褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られ、平坦となっている。壁は底面よりほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環3点 8.65 g、甕6点 29.72 gが出土している。 **時期** 不明。

P区SK-34 (第339図、第212表、図版九八)

位置 調査区南東部にあたるAY-68グリッドに位置する。 **重複関係** SK-33より新しく、SI-39より古い。 **平面形状・規模** 東西方向にわずかに長い楕円形で、長軸 130 cm、短軸 125 cm、深さ 40 cmである。 **主軸方向** 不明。 **覆土** 地山由来とみられるローム粒子を多量に含む明褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環7点 29.58 g、甕6点 29.31 gが出土している。 **時期** 不明。

P区SK-38 (第339-340図、第212-213表、図版九八・一四二・一五〇)

位置 調査区南東部にあたるAX・AY-68グリッドに位置する。 **重複関係** SI-39と重複しており、本遺構が新しい。 **平面形状・規模** 南西側が調査区外であるが、円形基調の土坑とみられる。確認できた範囲で、長軸 64 cm以上、短軸 96 cm、深さ 32 cmである。 **主軸方向** 不明。 **覆土** ローム粒子や焼土粒子を含む暗褐色土や褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中につくられ平坦となっている。壁は緩やかな立ち上がりを示す。 **出土遺物** 土師器環1点、高台付環1点、鉄製品1点を図示した。3の刀子は刃先が欠ける。このほかに土師器環10点 30.37 g、甕7点 46.8 g、須恵器環4点 15.77 gが出土している。 **時期** 9世紀中葉。



第340図 P区SK-38出土遺物実測図

第213表 P区SK-38出土遺物観察表

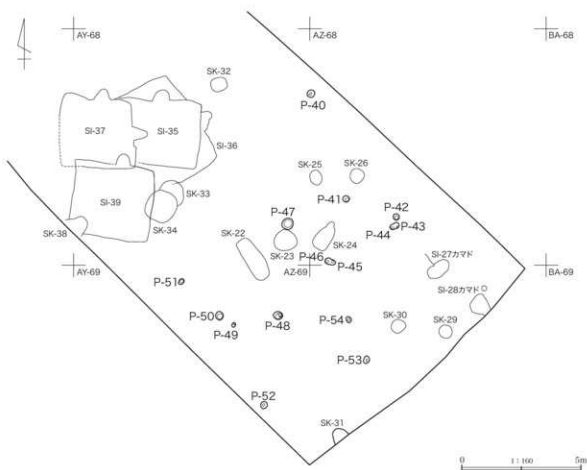
図版No.	No.	追加図録	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存状態	出土位置	注記	産地・備考
340	1	土師器環	口径 (14.8) 底径 - 器高 [4.1]	外面 10YR7/4 に赤い黄褐色 内面 10YR5/2 灰黒褐色	砂粒・雜少量	良好		口縁～体部外面 ロケナ ズ 底部下端 回転ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	口縁～体部 約 1/5 残 存	床面上 約 10 cm	P区SK-38 No.2	
340	2	土師器高台付環	口径 - 底径 8.1 器高 [4.4]	外面 10YR6/4 に赤い黄褐色 内面 7.5YR3/1 紫褐色	砂粒少量	良好	内面 黒色彫埋	体部下端ヘラケズリ 内面ヘラミガキ 高台貼付	底面完存	床面上 約 15 cm	P区SK-38 No.1	
340	3	鉄製品 刀子	長 [12.9] 幅 1.52 厚 0.55 重 16.36					両側	刃部一部 欠損	床面上 約 12 cm	P区SK-38 No.3	

4 ビット

P区では調査区の南東端の台地の落ち際に集中して15基のビットが確認されている。計測表にまとめている。このうちいくつかは掘立柱建物や柵列になる可能性も推測される。(P-40・47・48・52など)

第214表 P区ビット計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土 遺物	参照関係・備考
P-40	AY-AZ-68	N-0°	楕円形	0.35	0.30	0.13	無	
P-41	AZ-68	-	円形	0.25	0.25	0.25	無	
P-42	AZ-68	-	円形	0.25	0.25	0.10	無	
P-43	AZ-68	N-0°	楕円形	0.25	(0.20)	0.28	無	P-44と重複
P-44	AZ-68	N-0°	楕円形	0.23	(0.20)	0.37	無	P-43と重複
P-45	AZ-68	N-0°	楕円形	0.28	(0.25)	0.11	無	P-46と重複
P-46	AZ-68	N-0°	楕円形	0.23	(0.20)	0.20	無	P-45と重複
P-47	AY-68	-	円形	0.46	0.46	0.17	無	
P-48	AY-69	N-0°	楕円形	0.40	0.32	0.12	無	
P-49	AY-69	N-90°-E	楕円形	0.20	0.15	0.29	無	
P-50	AY-69	-	円形	0.33	0.32	0.30	無	
P-51	AY-69	N-49°-E	楕円形	0.36	0.20	0.30	無	
P-52	AY-69	-	円形	0.27	0.27	0.41	無	
P-53	AZ-69	N-0°	楕円形	0.30	0.25	0.26	無	
P-54	AZ-69	N-0°	楕円形	0.27	0.20	0.27	無	



第341図 P区ビット平面図

5 遺構外の遺物

表土中から出土したものを掲載する。

P区遺構外の遺物（第342図、第215表）

土師器の高台付坏と盤と推測される須恵器が出土している。



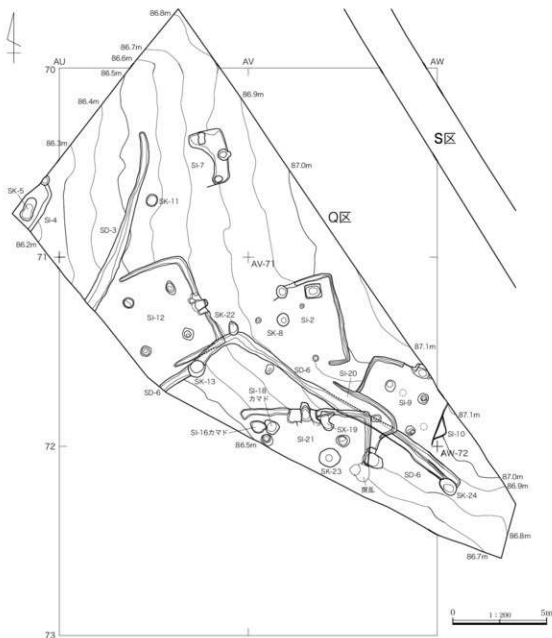
第342図 P区遺構外出土遺物実測図

第215表 P区遺構外出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 器種	寸法 (cm・g)	色調	素材・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
342	1	土師器 高台付坏	口径 - 底径 (8.0) 器高 [3.0]	外面 7.5YR6/6 内面 7.5YR5/4 におい変	砂粒・礫少量	良好	内面 黒色処理 外面 荒れている	外面 ロクロナデか 内面 ヘラミガキ 高台願付	底部 1/3 残存	表採	P区 中部一括	黒色処理 大部分消 失
342	2	須恵器 盤か	口径 - 底径 (6.4) 器高 [3.0]	2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒・礫少量	良好	外面 自然釉付着	高台願付	底部一部 残存	表採	P区 中部一括	曇子産 金属器模 倣

第19節 Q区

Q区は、本遺跡の南端、東から西に傾斜する台地～斜面上に立地する。竪穴建物跡10軒、溝2条、土坑7基が確認されている。確認面はロームで、表土下約0.5mである。



第343図 Q区全体図

1 竪穴建物跡

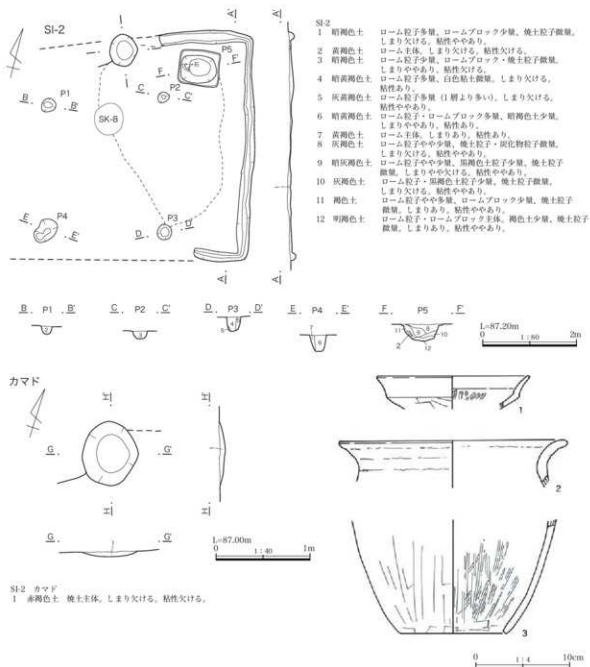
調査区中央の台地～斜面上に10軒の竪穴建物跡が集中して確認されている。

第216表 Q区竪穴建物跡計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	東西 (m)	南北 (m)	深さ (m)	ピット	貯	カマド	貯蔵穴	壁溝	出土 遺物	重複関係
SI-2	AV-71	N-10°-W	方形か	0.00	0.00	-	4	無	有	有	有	有	SK-8と重複
SI-4	AT-70	不明	方形か	1.30	2.30	0.10	無	無	有	無	有	無	SK-5より古
SI-7	AU-70	N-80°-E	方形か	2.20	2.90	-	2	無	有	無	無	無	
SI-9	AV-AW-71	N-24°-E	方形	4.60	3.50	0.10	4	2	有	無	有	有	SI-20-SD-6より古 SI-10より新
SI-10	AV-AW-71	不明	方形	0.92	0.80	0.12	無	無	無	無	無	無	SI-9より古
SI-12	AU-71	N-65°-E	方形	3.50	5.50	0.20	4	無	有	無	有	有	SD-6より古
SI-16 カマド	AV-71	N-60°-W	不整形円形	-	-	0.07	無	無	有	無	無	無	SI-21より古か SI-18と重複
SI-18 カマド	AV-71	N-38°-W	不整形円形	-	-	0.07	無	無	有	無	無	有	SI-21より古か SI-16と重複
SI-20	AV-71	N-115°-E	方形か	5.00	3.00	0.12	無	無	有	無	有	有	SD-6, SX-19より古 SI-9-21より新
SI-21	AU-AV-71 AV-72	N-0°	方形	6.80	2.80	0.08	2	無	有	無	有	有	SI-20, SD-6, SK-23, SX-19 より古 SI-16-18より新

Q区SI-2 (第344図、第216-217表、図版九九)

位置 調査区中央部にあたるAV-71グリッドに位置する。**重複関係** SK-8と重複しているが、新旧関係は不明である。**平面形状・規模** 重複および削平によって壁がほとんど遺存しておらず、壁溝や床の硬化範囲で確認した。南西側は重複によって詳細不明であるが、東壁が4.9mほどであることから、一辺5mほどの方形の竪穴建物と考えられる。**主軸方向** N-10°-W **覆土** 地山由来とみられるローム粒子を多量に含む暗褐色土が堆積している。**床面** 貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。やや凹凸が目立ち、中央部分では踏み締まりとみられる硬化が認められた。東壁周辺では幅12～30cm、深さ2～4cmの壁溝が確認されている。**柱穴等** 4基の柱穴を確認した。P1が長軸30cm、短軸25cm、深さ15cm、P2が長軸25cm、短軸20cm、深さ15cm、P3が長軸35cm、短軸20cm、深さ30cm、P4は長軸55cm、短軸40cm、深さ35cmである。**貯蔵穴** カマド脇にあたる北東隅部分に位置する(P5)。東西方向に長い長方形で、長軸85cm、短軸75cm、深さ35cmである。底面は床面と同様にローム層中に作られており、丸みを帯びている。覆土はロームブロックや焼土・炭化物を含む灰褐色土・褐色土・明褐色土など5層がブロック状の堆積を示す。**カマド** 北壁中央に位置している。遺存状況は悪く、燃焼部の一部と下部の掘方のみ遺存していた。南北方向に長い楕円形で、長軸140cm、短軸120cm、深さ10cmほどである。燃焼部である掘方埋土は赤褐色に焼土化し、焼土化範囲は下部のローム層にまで及んでいる。**出土遺物** 土師器環1点、甕1点、甕1点を図示した。このほかに土師器環6点33.26g、甕14点361.28g、須恵器環2点2.78g、甕1点11.12gが出土している。**時期** 6世紀後葉。



第344図 Q区SI-2遺構・出土遺物実測図

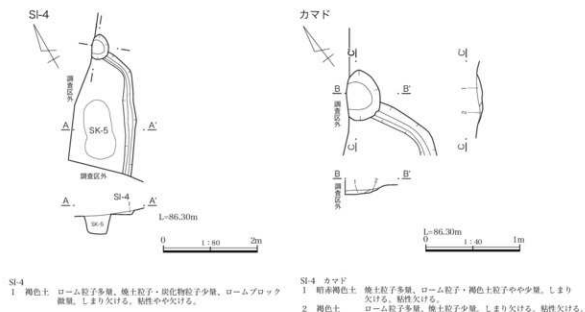
第217表 Q区SI-2出土遺物観察表

図号	No	種類 品名	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	形状・整形の特徴	遺存 状態	出土 位置	注記	産地・備考
344	1	土師器 杯	口径 (16.0) 底径 (11.0) 器高 (3.5)	外面 5YR5/4 にふい・赤褐色 内面 7.5YR6/4 にふい・暗	砂粒微量	良好	内外面 律仕上げ	口縁部 ココナデ 体部外面 ナデ 内面 ナデ後ヘラミガキ	口縁部 1/4 残存	腹土中	Q区SI-2	
344	2	土師器 甕	口径 24.0 底径 (11.0) 器高 (5.0)	外面 10YR7/4 にふい・黄褐色 内面 7.5YR6/6 暗	砂粒・塵少量	良好	荒れている	内外面 ココナデ	口縁部 1/2 残存	貯蔵穴 腹土中	Q区SI-2 貯蔵穴	
344	3	土師器 甕	口径 (11.0) 底径 (12.0) 器高 (12.0)	外面 7.5YR5/4 にふい・暗 内面 10YR1.7/1 黒	砂粒・塵少量	良好	外面 黒色物付着 内面 黒色地埋	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	底部 1/4 残存	貯蔵穴 腹土中	Q区SI-2 貯蔵穴	

Q区 SI-4 (第345図、第216表、図版一〇〇)

位置 調査区西部にあたる AT-70 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-5 と重複しており、本遺構が古い。

平面形状・規模 大部分が調査区外であることから、詳細不明であるが、方形を基調とした竪穴建物の北東隅と北壁・東壁の一部とみられる。確認できた範囲で、東西 1.3 m 以上、南北 2.3 m 以上、壁は遺存状況の良い部分で 10 cm ほどである。 **主軸方向** 不明。 **覆土** 地山由来とみられるローム粒子を多量に含む褐色土が堆積している。 **床面** 確認できた範囲では貼床等とはみとめられず、ローム層を床面としている。また壁に沿って幅 25 cm、深さ 5 cm 未満の壁溝が巡っている。 **柱穴等** 確認されていない。 **カマド** 北壁中央に位置している。北西側の一部が調査区外であるとともに、削平の影響で、袖などは遺存しておらず、燃焼部と下部の掘方を確認した。長軸 55 cm、短軸 35 cm 以上、深さ 5 cm ほどである。燃焼部は焼土粒子を多量に含む暗赤褐色土やローム粒子を多量に含む褐色土が堆積している。燃焼部底面にあたる地山部分も焼土化していた。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

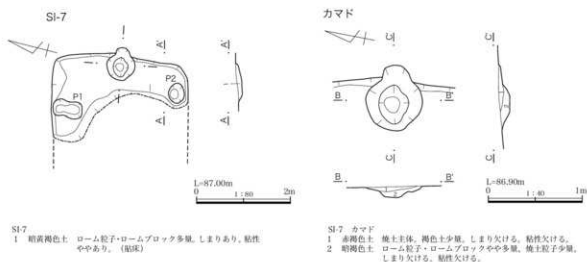


第345図 Q区 SI-4 遺構実測図

Q区 SI-7 (第346図、第216表、図版一〇〇)

位置 調査区北部にあたる AU-70 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 西側が削平され消失しているが、方形とみられる。東西 2.2 m 以上、南北 2.9 m、壁はほとんど遺存していなかった。

主軸方向 N-80°-E **覆土** 貼床の構築土とみられるロームブロックを多量に含む暗黄褐色土が堆積している。 **床面** 確認された範囲では全面に貼床が施されている。 **柱穴等** 2基が確認され、北壁に接する位置に P1、南東隅付近に P2 が存在する。P1 は南北方向に長い楕円形で長軸 62 cm、短軸 36 cm、深さ 40 cm である。P2 は東西方向に長い楕円形で、長軸 45 cm、短軸 35 cm、深さ 43 cm である。 **カマド** 東壁中央に位置している。遺存状況が良くなく、確認できたのは燃焼部および煙道の下部と掘方である。長軸 70 cm、短軸 60 cm、掘方の深さは 11 cm である。燃焼部は良く焼けており、赤褐色に焼土化している。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。



第346図 Q区 SI-7 遺構実測図

Q区 SI-9 (第347図、第216・218表、図版一〇〇・一四二)

位置 調査区南東部にあたる AV・AW-71 グリッドに位置する。**重複関係** SI-10・20、SD-6と重複しており、SI-20・SD-6より古く、SI-10より新しい。**平面形状・規模** 北東隅は調査区外、南側は重複によって遺存状況が悪いが、方形を基調とした竪穴建物である。東西4.6m、南北3.5m以上、壁は遺存状況の良い部分で10cmほどである。**主軸方向** N-24°-E **覆土** ローム粒子をやや多く含む暗褐色土が堆積している。**床面** 貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としており、平坦となっている。

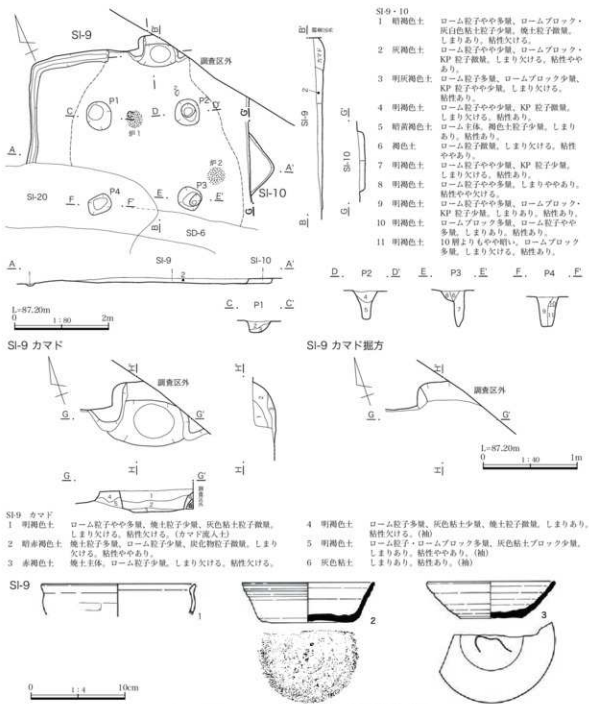
炉 一部床面が焼けており、P1-P2間に1箇所(炉1)、P3西側に1箇所(炉2)、いずれも直径30cm前後で、床面がわずかに焼土化する程度である。また北・西壁では壁に沿って、幅30cm、深さ5cmほどの壁溝が巡っている。**柱穴等** 方形に巡る4基の柱穴を確認した。いずれも楕円形で、P1が長軸60cm、短軸50cm、深さ60cm、P2が長軸54cm、短軸50cm、深さ75cm、P3が長軸50cm、短軸45cm、深さ60cm、P4が長軸50cm、短軸37cm、深さ23cmである。**カマド** 北壁中央に位置している。北東側が調査区外であるが、明褐色土を積んで構築した袖と燃焼部と煙道、下部の掘方が遺存していた。袖は幅38cm、竪穴壁からの長さ25cm、高さ17cm、両袖間の幅65cmである。燃焼部底面は赤褐色に焼土化している。**出土遺物** 土師器壺と推定されるもの1点、須恵器環2点を図示した。1は流れ込みと考えられる。このほかに土師器壺1点248.39g、須恵器環1点4.09g、蓋1点12.35g、壺1点81.19g、甕1点6.83gが出土している。

時期 8世紀中葉

Q区 SI-10 (第347図、第216表、図版一〇一)

位置 調査区南東部にあたる AV・AW-71 グリッドに位置する。**重複関係** SI-9と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 大部分が重複によって失われており、確認できたのは方形基調の竪穴の南東隅部分とみられる範囲である。東西0.92m以上、南北0.8m以上、深さ12cmである。**主軸方向** 不明。

覆土 ローム粒子を多量に含んだ褐色土が堆積している。**床面** 確認できた範囲では貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。**柱穴等・カマド** 不明。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。



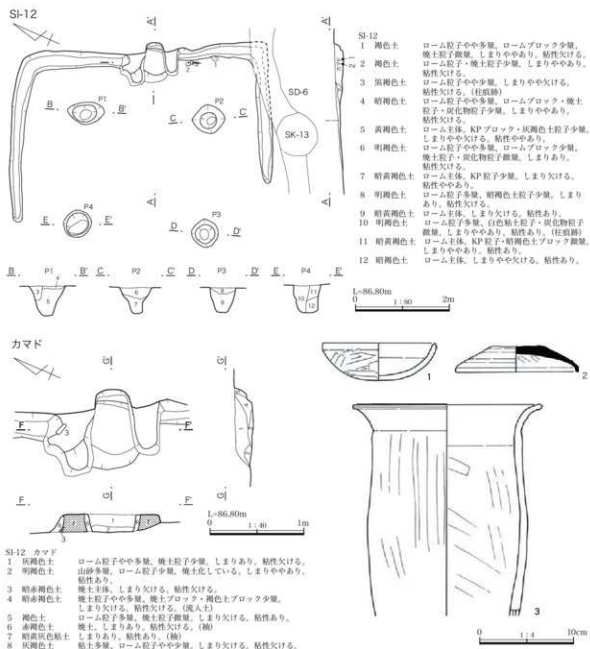
第347図 Q区SI-9・10遺構・出土遺物実測図

第218表 Q区SI-9出土遺物観察表

調査 No.	種別 No.	種別 名称	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・型形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
347	1	土師器 地かん	口径 (16.0) 底径 器高 (3.3)	外面 SVR4/4 にふいぶ期 内面 SVR5/6 明赤地	砂粒少量 色粒子若干	良好		口縁～体部 ミガキ平に 広いヨコナデ	口縁～体 部一部残 存	覆上中	Q区SI-9	
347	2	須恵器 環	口径 (14.0) 底径 (9.8) 器高 (4.3)	SVZ-2 灰青リブ	砂粒少量	良好	底部 摩耗顕著	ロク口口巾顕著 底部ヘラ切り幾ナデ	口縁～底 部1/2残 存	覆上約 10cm	Q区SI-9 No.1	益子産
347	3	須恵器 環	口径 (13.4) 底径 (6.6) 器高 (3.9)	10YR4/1 灰青	砂粒・塵多量	良好	刷書あり	ロク口口巾顕著 底部ヘラ切り幾ナデ	口縁部 1/3、底 部1/2残 存	覆上中	Q区SI-9	益子産

Q区 SI-12 (第348図, 第216-219表, 図版一〇一・一四二)

位置 調査区西部にあたるAU-71グリッドに位置する。**重複関係** SD-6と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 西側が削平によって消失しているが、方形とみられる。東西3.5m以上、南北5.5m、壁は遺存状況の良い部分で20cmである。**主軸方向** N-65°-E **覆土** ローム粒子や焼土粒子を含む褐色土が2層堆積している。**床面** 貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としており、平坦となっている。また壁に沿って幅20~40cm、深さ5cmほどの壁溝が巡っている。**柱穴等** 4基の柱穴を確認した。P1・4が楕円形、P2・3が方形基調である。P1が長軸75cm、短軸45cm、深さ63cm、P2が長軸60cm、短軸55cm、深さ55cm、P3が長軸55cm、短軸50cm、深さ53cm、P4が長軸60cm、短軸55cm、深さ61cmである。**カマド** 東壁中央に位置している。灰黄褐色土を積んで構築した袖と燃焼部・煙道を確認した。袖は暗黄褐色粘土を積んで構築されており、幅50cm、竪穴壁からの長さ65cm、高さ20cm、両袖間の幅42



cmとなっている。燃焼部および袖の内側は非常に良く焼けており、赤褐色に焼土化している。煙道先端部には段が認められる。**出土遺物** 土師器環1点、裏1点、須恵器蓋1点を図示した。このほか土師器環5点 38.85 g、裏11点 309.06 g、須恵器環2点 12.93 gが出土している。**時期** 7世紀中葉。

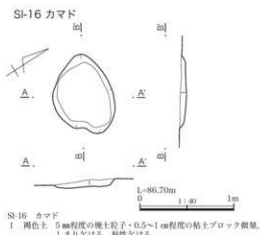
第219表 Q区 SI-12 出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 位置	注記	所在地・備考
348	1	土師器 環	口径 (12.0) 底径 - 器高 [4.0]	5YR4/2 灰濁	砂粒少量	良好	内外面 部仕上げ か	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/4 残存	床面直 上	Q区 SI-12 No.3	
348	2	須恵器 蓋	口径 13.0 底径 - 器高 [2.8]	外周 5Y5/2 灰キリープ 内周 7.5Y6/2 灰キリープ	砂粒・礫少量	良好	大丹部 摩耗	大丹部内面 ロクロナデ 後ナデ	大丹部完 存。底部 2/3 残存	床面直 上	Q区 SI-12 No.1	葦子産
348	3	土師器 裏	口径 (20.0) 底径 - 器高 [22.2]	外周 7.5YR5/4 に赤い帯 内周 7.5YR6/4 に赤い帯	砂粒・礫多量	良好		口縁部 ヨコナデ 胴部 ヘラケズリ	口縁部 1/2 残存	カマド 内	Q区 SI-12 カマド	

Q区 SI-16 (第349図、第216表、図版一〇一)

位置 調査区南部にあたる AV-71 グリッドに位置する。

重複関係 SI-18・21 と重複しているが、いずれも遺存状況が良くないため、新旧関係は不明である。ただし SI-21 より古いとみられる。**確認状況** 重複によって大部分が削平されており、確認できたのはカマド下部の掘方のみである。**主軸方向** N-60° -W **覆土・床面・柱穴等** 不明。**カマド** 南北方向に長い不整な楕円形の掘方が遺存していた。長軸 85 cm、短軸 65 cm、深さ 7 cm である。掘方内には焼土粒子や粘土ブロックを含む褐色土が堆積している。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。



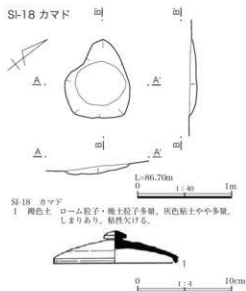
第349図 Q区 SI-16 遺構実測図

Q区 SI-18

(第350図、第216-220表、図版一〇一・一四二)

位置 調査区南部にあたる AV-71 グリッドに位置する。

重複関係 SI-16・21 と重複しているがいずれも遺存状況が良くないため、新旧関係は不明である。ただし SI-21 より古いとみられる。**確認状況** 重複によって大部分が削平されており、確認できたのはカマド下部の掘方のみである。**主軸方向** N-38° -W **覆土・床面・柱穴等** 不明。**カマド** 不整な楕円形の掘方が遺存していた。長軸 83 cm、短軸 70 cm、深さ 7 cm ほどである。掘方内には焼土粒子を多量に含んだ褐色土が堆積している。**出土遺物** 須恵器蓋1点を図示した。このほかに土師器裏3点 117.04 g が出土している。**時期** 8世紀中葉。



第350図 Q区 SI-18 遺構・出土遺物実測図

第220表 Q区SI-18出土遺物観察表

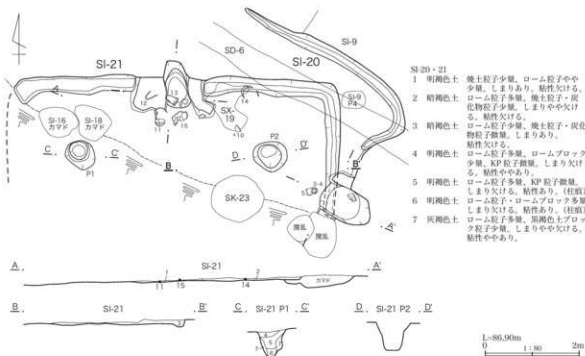
種別 No.	No.	種類 図様	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
350	1	須恵器 蓋	口径 底径 器高 12.9 3.4	外面 2.5Y6/1 黄灰 内面 7.5Y5/2 灰オリーブ	砂粒・礫少量	良好		大片部内面ナデ	完形	覆土中	Q区SI-18 No.2	函西産

Q区SI-20 (第351-352図、第216-221表、図版一〇二・一四二)

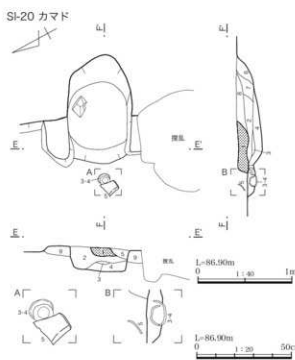
位置 調査区南部にあたるAV-71グリッドに位置する。**重複関係** SD-6、SX-19より古く、SI-9・21より新しい。**平面形状・規模** 重複等によって大部分が削平されており、確認できたのは方形基調の竪穴の北・東壁の一部である。東西が5m以上、南北が3m以上、壁は遺存状況の良い部分で12cmほどである。**主軸方向** N-115° - E **覆土** 焼土粒子を少量含む明褐色土と、ローム粒子を多量に含む暗褐色土が堆積している。**床面** カマド前面では貼床とみられる明褐色土が認められたが、他の部分では判然としない。また壁に沿って幅25cm、深さ5cmほどの壁溝が巡っている。**柱穴等** 確認されていない。**カマド** 東壁中央に位置している。灰褐色土を積んで構築した袖と、それに挟まれた燃焼部と下部の掘方が遺存していた。袖は幅33cm、竪穴壁からの長さ50cm、高さ10cm、両袖間の幅60cmである。燃焼部は非常に良く焼けており、赤褐色に焼土化していた。やや奥まった部分には砂岩質の割石が据えられており、支脚とみられる。粘土(1層)が塊状に流れ出している。カマドの前には浅い掘り込みがあり、合わせ口にした土師器環2点が遺棄されていた。カマドに関する儀礼の痕跡とみられる。**出土遺物** 土師器環4点、甕1点を図示した。1・2は流れ込みか。このほかに、土師器環7点55.72g、甕25点403.35g、須恵器環3点108.2g、甕2点11.97gが出土している。**時期** 10世紀前葉。

Q区SI-21 (第351-352図、第216-221表、図版一〇二・一四二・一四三)

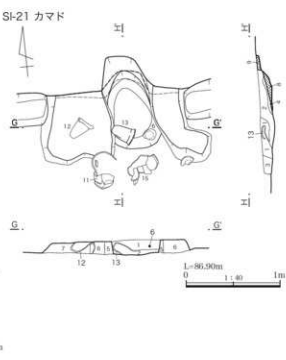
位置 AU・AV-71、AV-72グリッドに位置する。**重複関係** SI-20、SD-6、SK-23、SX-19より古く、SI-16・18より新しい。**平面形状・規模** 調査区外または削平されており、確認できたのは北壁と東壁の一部である。北壁は6.8m、東壁は2.8m以上、壁は遺存状況の良い部分で8cmほどの方形基調である。**主軸方向** N-0° **覆土** ローム粒子・焼土粒子・炭化物を少量含む暗褐色土が堆積している。**床面** 確認された範囲では貼床等は確認できず、地山であるローム層を床面としている。やや凹凸があるがおおむね平坦となっている。また壁に沿って幅20～40cm、深さ5cmほどの壁溝が巡っている。**柱穴等** 2基確認した。平面形はいずれも楕円形で、P1が長軸65cm、短軸55cm、深さ54cm。P2が長軸70cm、短軸62cm、深さ60cmほどである。**カマド** 北壁中央に位置している。淡灰褐色粘土を積んで構築された袖と、それに挟まれた燃焼部や煙道部、下部の掘方を確認した。袖は幅75cm、竪穴壁からの長さ75cm、高さ10cm、両袖間の幅60cmである。左袖には袖内に埋め込まれて状態の長胴甕が出土しており、芯材に用いられたものと思われる。燃焼部および袖の内側は良く焼けており、赤褐色に焼土化していた。燃焼部の中央には逆位の状態で遺棄された土師器環1点が出土しており、カマド廃絶時の儀礼行為の1つとみられる。同様の事例は重複するSI-20でもみられる。煙道部は竪穴壁から短く立ち上がり、底面には段を有している。**出土遺物** 土師器環4点、鉢1点、甕1点、甕5点を図示した。このほかに土師器環12点88.56g、鉢1点34.9g、甕83点1669.65gが出土している。**時期** 7世紀前葉。



- SI-20・21
- 1 明褐色土 焼土粒子少量、ローム粒子やや多量、しまりあり、粘性欠ける。
 - 2 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物粒子少量、しまりやや欠ける。粘性欠ける。
 - 3 暗褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子微量、しまりあり、粘性欠ける。
 - 4 明褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量、KP粒子微量、しまり欠ける。粘性ややあり。
 - 5 明褐色土 ローム粒子多量、KP粒子微量、しまり欠ける。粘性あり。(柱頭)
 - 6 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまり欠ける。粘性あり。(柱頭)
 - 7 灰褐色土 ローム粒子多量、灰褐色土ブロック粒子少量、しまりやや欠ける。粘性ややあり。

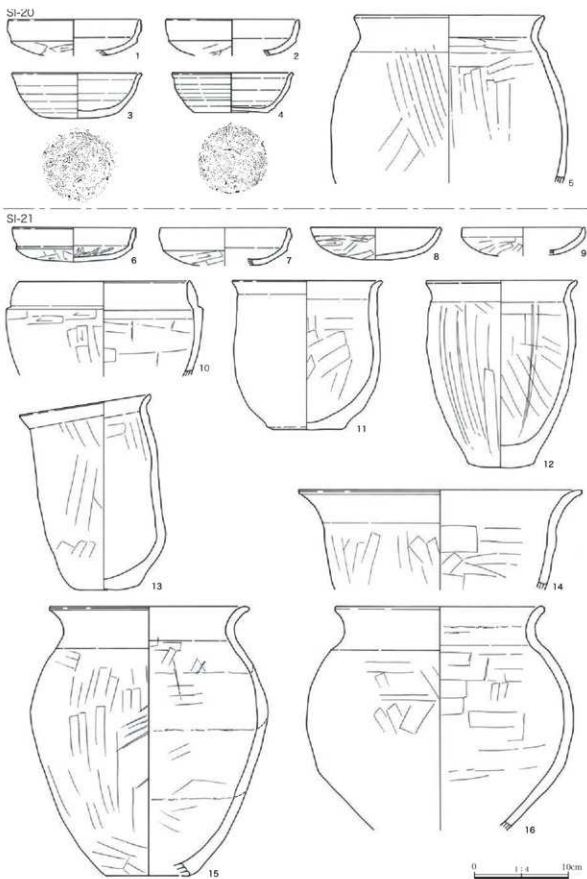


- SI-20 カマド
- 1 灰色粘土 褐色土少量、しまりあり、粘性ややあり。(天井・側溝土)
 - 2 褐色土 焼土、しまり欠ける。
 - 3 赤褐色土 焼土。
 - 4 褐色土 ローム粒子多量、白色粘土微量、しまり欠ける。粘性欠ける。
 - 5 灰褐色土 赤色粘土粒子・焼土粒子・ローム粒子やや多量、しまりあり、粘性やや欠ける。(土層構造不明箇所)
 - 6 暗赤褐色土 焼土ブロック主体、しまりあり、粘性欠ける。(灰土)
 - 7 褐色土 焼土粒子・黒褐色土粒子多量、しまり欠ける。粘性欠ける。(灰土)
 - 8 暗灰褐色土 焼土少量、焼土粒子やや多量、しまりあり、粘性欠ける。
 - 9 灰褐色土 焼土粒子少量、ローム粒子・灰色粘土粒子やや多量、しまりあり、粘性やや欠ける。(地)
 - 10 明褐色土 ローム粒子多量、しまりあり。(陥床)



- SI-21 カマド
- 1 灰色粘土 褐色土ブロック・焼土ブロック少量、しまりあり、粘性やや欠ける。
 - 2 赤褐色土 焼土主体、灰色粘土少量、しまりあり、粘性ややあり。
 - 3 明褐色土 ローム粒子・焼土粒子・灰色粘土ブロック・炭化物粒子少量、しまりあり、粘性欠ける。(灰土)
 - 4 淡灰褐色粘土 焼けた粘土、しまりあり、粘性ややあり。(天井側溝)
 - 5 赤褐色土 焼土からなる、焼けた粘土、しまりあり、粘性欠ける。(地)
 - 6 淡灰褐色粘土 粘土微量、しまりあり、粘性あり。(地)
 - 7 明灰褐色土 粘土主体、焼土多量、しまりややあり、粘性ややあり。(地の明れ)
 - 8 赤褐色粘土 焼土多量、ローム粒子少量、しまりややあり、粘性ややあり。(灰面の粘土)
 - 9 淡灰褐色粘土 焼土粒子少量、しまりあり、粘性ややあり。(構造不明箇所)

第351図 Q区SI-20・21遺構実測図



第352圖 Q区SI-20・21出土遺物実測図

第221表 Q区SI-20・21出土遺物観察表

種別 No.	種類 No.	種類 名称	非開掘 (cm)	色調	胎土・石質	焼成	表面の状態	胎形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状況	注記	所在地・備考
352	1	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 8.0 器高 [3.8]	外面 2.5Y3/1 に赤い黄褐色 内面 5YR5/4 に赤い赤褐色	砂粒・微量	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/4 残存	覆土中	Q区SI-20	流れ込みか
352	2	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 8.0 器高 [3.8]	外面 10YR5/3 に赤い黄褐色 内面 7.5YR4/3 赤	砂粒微量	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/8 残存	覆土中	Q区SI-20	流れ込みか
352	3	土師器 坏	口径 12.7 底径 8.0 器高 4.2	外面 10YR7/3 に赤い黄褐色 内面 7.5YR6/6 赤	砂粒多量、微量	良好	内外面 黒褐色あり 底部に焼成跡の ひび割れあり	内外面 ロクロナデ 底部系切り	完整	カマド 前表面 直上	Q区SI-20 No.3	
352	4	土師器 坏	口径 13.6 底径 7.1 器高 4.8	7.5YR6/6 赤	砂粒多量、微量	良好	内外面 黒褐色あり	口縁〜体部外面 ロクロ ナデ 底部系切り 内面 ロクロナデ	ほぼ完整	カマド 前表面 直上	Q区SI-20 No.3	
352	5	土師器 費	口径 (20.0) 底径 8.0 器高 [17.7]	7.5YR5/4 に赤い黄褐色	砂粒・微量	良好		口縁部 ヨコナデ 胴部ヘラナデ	口縁部	カマド 前表面 約25 cm	Q区SI-20 No.1 カマド	
352	6	土師器 坏	口径 13.0 底径 6.0 器高 -	外面 7.5YR6/6 赤 内面 5YR5/4 に赤い赤褐色	砂粒・微量	良好	口縁部外面〜内 面 漆仕上げ	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ後ミガキ	口縁部 3/4 残存	カマド 前表面 より5 〜10 cm	Q区SI-21 No.1	
352	7	土師器 坏	口径 (13.8) 底径 - 器高 [4.0]	外面 7.5YR6/4 に赤い黄褐色 内面 7.5YR5/4 に赤い黄褐色	砂粒微量	良好	内外面 漆仕上げ か	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/4 残存	覆土中	Q区SI-21	
352	8	土師器 坏	口径 (13.8) 底径 - 器高 [3.5]	外面 7.5YR6/6 赤 内面 5YR6/6 赤	砂粒・微量	良好	外面 黒褐色あり	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/2 残存	カマド 内	Q区SI-21 カマド一括	
352	9	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 (6.8) 器高 [3.0]	外面 10YR6/3 に赤い黄褐色 内面 7.5YR4/2 赤褐色	砂粒少量	良好		口縁部 ヨコナデ 体部外面 ミガキ 内面 ナデ	口縁部 1/8 残存	カマド 内	Q区SI-21 カマド	
352	10	土師器 鉢	口径 (18.0) 底径 10.1 器高 [10.1]	外面 7.5YR6/4 に赤い黄褐色 内面 7.5YR6/4 に赤い黄褐色	砂粒微量	良好		口縁部 ヨコナデ 体部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/4 残存	床面直 上	Q区SI-21 No.10	
352	11	土師器 費	口径 (15.8) 底径 8.2 器高 15.8	外面 5YR6/6 赤 内面 10YR4/2 赤黄褐色	砂粒・微量	良好	歪んでいる	口縁部 ヨコナデ 胴部内面 ナデ 底部 ケズリ	口縁部 1/3 残存	床面直 上	Q区SI-21 No.6	
352	12	土師器 費	口径 (15.8) 底径 (6.8) 器高 (19.8)	外面 7.5YR6/3 に赤い黄褐色 内面 10YR7/4 に赤い黄褐色	砂粒少量、微量	良好		口縁部 ヨコナデ 胴部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ 底部 ケズリ	口縁部 1/4、底 部2/3 残 存	カマド 内表面 直上	Q区SI-21 No.8	
352	13	土師器 費	口径 14.0 底径 6.0 器高 20.7	外面 10YR7/8 明黄褐色 内面 10YR7/4 に赤い黄褐色	砂粒・微量	良好	歪んでいる まぶ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ 底部 ナデ	ほぼ完整	カマド 前表面 直上	Q区SI-21 No.2	
352	14	土師器 散	口径 (30.0) 底径 - 器高 [10.6]	外面 7.5YR6/4 に赤い黄褐色 内面 5YR5/6 明赤褐色	砂粒・微量	良好		口縁部 ヨコナデ 胴部ヘラナデ	口縁部 1/16 残 存	床面直 上	Q区SI-21 No.9	
352	15	土師器 費	口径 (21.0) 底径 (8.4) 器高 [28.5]	外面 5YR6/8 赤 内面 7.5YR7/6 赤	砂粒・微量	良好	内面 積層	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ・ケズリ	口縁部 1/8、底 部1/4 残 存	床面直 上	Q区SI-21 No.3	
352	16	土師器 費	口径 (21.8) 底径 - 器高 [23.5]	外面 7.5YR4/2 赤褐色 内面 7.5YR5/4 に赤い黄褐色	砂粒・微量	良好		口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁部 1/5 残存	覆土中	Q区SI-21	

2 溝

2条確認され、SD-3は台地上を南北に、SD-6は斜面に対しL字状に延びている。

第222表 Q区 溝計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SD-3	AU-70-71	N-20°-E	緩い弧状	19.50	0.75	0.08~0.20	逆台形	有	
SD-6	AU-71 AV-71-72 AW-72	N-30°-E	L字状	119.50	0.40~0.50	0.12~0.18	逆台形	有	SK-13より古 SI-9-12-20-21, SK-22-24より新

Q区SD-3 (第353図、第222表、図版一〇二・一〇三)

位置 AU-70・71グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向にやや湾曲しながら延びている。確認できた範囲で長さ9.5m以上、最大幅75cm、深さ8~20cmである。溝の南西側は調査区外であるが、北側は緩やかに立ち上がる。**主軸方向** N-20°-E **覆土** 2箇所断面を図化し、3層の堆積を確認した。いずれも明褐色土でローム粒子を比較的多く含む。**底面** ローム層中につくられており、部分的に凹凸が目立つがおおむね丸みを帯び、断面は逆台形となっている。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環2点17.79g、甕8点69.99g、須恵器甕1点9.95g、緑釉陶器1点2.95gが出土している。**時期** 不明。

Q区SD-6 (第353図、第222-223表、図版一〇三)

位置 AU-71、AV-71・72、AW-72グリッドにかけて位置している。**重複関係** SI-9・12・20・21、SK-13・22・24と重複しており、SK-13より古く、その他より新しい。**平面形状・規模** 調査区の南東端から北西方向に14.5mほど延び、そこで直角に折れ曲がり南西方向に5mほど延びて調査区外に至る。幅は40~50cm、深さは12~18cmほどである。**主軸方向** N-30°-E **覆土** 2箇所断面を観察して図化した。覆土はいずれも褐色土でローム粒子や埴土粒子の混入の有無などが認められる。**底面** ローム層中に作られており、丸みを帯び、壁は比較的緩やかな立ち上がりを示す。**出土遺物** 須恵器甕1点を図示した。このほかに土師器環4点17.97g、甕34点266.77g、須恵器環3点32.84g、甕3点38.93g、出土している。**時期** 不明。

第223表 Q区SD-6出土遺物観察表

図号	No.	種別 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
353	1	須恵器 甕	口径 底径 器高 [6.8]	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 10YR6/2 灰黄期	砂和陶質	良好		胴部外面 平行タタキ 内面 無文当具痕	胴部一部 残存	覆土中	Q区SD-6 一括	

3 土坑

6基の土坑が台地上に散在して確認されている。

第224表 Q区土坑計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SK-5	AT-70	N-20°-E	不整形楕円形	1.25	0.65	0.40	逆台形	有	SI-4より新
SK-8	AV-71	-	円形	0.35	0.30	0.17	U字状	有	SI-2より新
SK-11	AU-70	N-25°-E	楕円形	0.64	0.58	0.30	箱形	有	
SK-13	AU-71	N-40°-E	楕円形	0.90	0.80	0.93	段有	有	SD-6より古
SK-22	AU-71	N-20°-W	楕円形	0.74	0.50	0.15	逆台形	有	SD-6より新
SK-23	AV-72	N-80°-W	楕円形	1.10	1.00	0.40	U字状	無	SI-21より新
SK-24	AW-72	N-52°-W	楕円形	2.00	1.40	0.18	U字状	無	SD-6より古

Q区SK-5 (第354図、第224表、図版一〇〇)

位置 調査区西部にあたるAT-70グリッドに位置する。**重複関係** SI-4と重複しており、本遺構が新しいとみられる。**平面形状・規模** 南北方向に長い不整形楕円形である。長軸125cm、短軸65cm、深さ40cmである。**主軸方向** N-20°-E **覆土** 暗褐色土・黒褐色土・灰褐色土の3層が堆積している。ローム粒子や粘土ブロック、焼土粒子などが含まれており、人為的な埋め戻しとみられる。**底面** 鹿沼軽石層中に作られており、やや丸みを帯びている。壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環2点34.42g、甕1点8.77gが出土している。**時期** 不明。

Q区SK-8 (第354図、第224表)

位置 調査区西部にあたるAV-71グリッドに位置する。**重複関係** SI-2と重複しており、本遺構が新しいとみられる。**平面形状・規模** 南北方向にわずかに長い楕円形である。長軸35cm、短軸30cm、深さ17cmである。**覆土** ローム粒子を多量に含み、焼土・炭化物も混じる暗褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、壁は底面から丸みを帯びて立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕1点9.07gが出土している。**時期** 不明。

Q区SK-11 (第354図、第224表、図版一〇三)

位置 調査区西部にあたるAU-70グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向にわずかに長い楕円形である。長軸64cm、短軸58cm、深さ30cmである。**主軸方向** N-25°-E **覆土** 暗褐色土と褐色土が4層堆積している。**底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びる。壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕2点5.64g、須恵器環2点8.97gが出土している。**時期** 不明。

Q区SK-13 (第354図、第224表、図版一〇三)

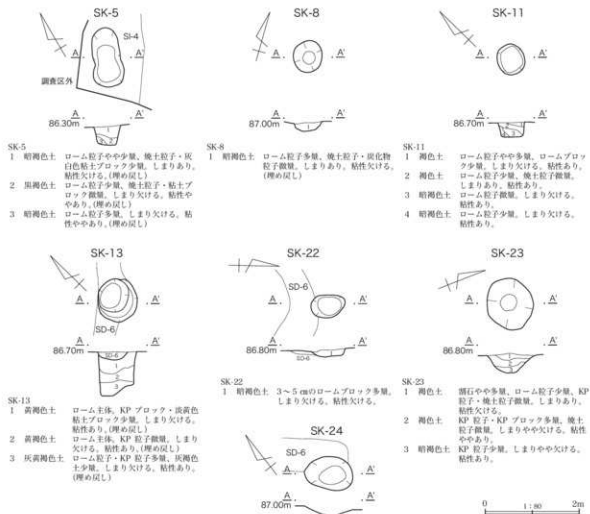
位置 調査区西部にあたるAU-71グリッドに位置する。**重複関係** SD-6と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 東西方向にわずかに長い楕円形である。長軸90cm、短軸80cm、深さ93cmである。**主軸方向** N-40°-E **覆土** 黄褐色土・灰黄褐色土が堆積しており、いずれも地山由来のローム粒子・ロームブロック、鹿沼軽石粒子が多量に含まれている。**底面** 鹿沼軽石層中に作られており、やや凹凸が認められる。壁の状態も1～3層までは円筒形に掘られているが、底面付近に近づくと、雑な掘り方になっている。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、須恵器環1点36.18gが出土している。**時期** 不明。

Q区 SK-22 (第354・335図、第224・225表、図版一〇三)

位置 調査区西部にあたるAU-71グリッドに位置する。**重複関係** SD-6と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 南北方向に長い楕円形である。長軸74cm、短軸50cm、深さ15cmである。**主軸方向** N-20°-W **覆土** 地山由来のロームブロックを多量に含む暗褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びている。壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 土師器高台付環1点を図示した。このほかに土師器裏1点21.46gが出土している。**時期** 不明。

Q区 SK-23 (第354図、第224表)

位置 調査区西部にあたるAV-72グリッドに位置する。**重複関係** SI-21と重複しており、本遺構が新しいとみられる。**平面形状・規模** 東西方向にわずかに長い楕円形である。長軸110cm、短軸100cm、深さ40cmである。**主軸方向** N-80°-W **覆土** ローム粒子・鹿沼軽石粒子を少量含む褐色土と暗褐色土が堆積している。**底面** 鹿沼軽石層中に作られており、丸みを帯びている。壁は比較的緩やかな立ち上がりを示す。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。



第354図 Q区 SK-5・8・11・13・22・23遺構・出土遺物実測図

Q区 SK-24 (第354図、第224表)

位置 調査区南東部にあたるAW-72グリッドに位置する。**重複関係** SD-6と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 東西方向に長い楕円形である。長軸200cm、短軸140cm、深さ18cmである。

主軸方向 N-52° -W **覆土** 不明。**底面** 丸みを帯びている。壁は比較的緩やかな立ち上がりを示す。

出土遺物 出土していない。**時期** 不明。



第355図 Q区 SK-22 出土遺物実測図

第225表 Q区 SK-22 出土遺物観察表

検出 No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
355	1 土師器 高台付杯	口径 底径 (6.2) 器高 (1.9)	外面 10YR5/2 灰黄期 内面 10YR3/1 黒期	砂粒少量	良好	内面 黒色彫理	外面 ロクロナデ 内面 ヘウミガキ 高台粘付	底面 1/5 残存	覆土中	Q区 SK-22	

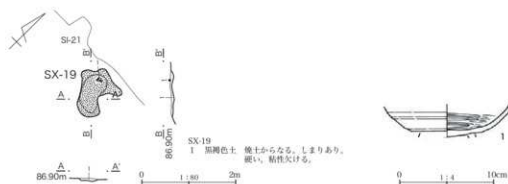
4 その他

焼土遺構が1基、斜面上に確認されている。

Q区 SX-19 (第356図、第226表、図版一〇三)

位置 AV-71グリッドに位置する。**重複関係** SI-20・21と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 不整形に焼土化した範囲が認められた。南北方向に長く、長軸105cm、短軸90cm、深さ5cmほどである。

主軸方向 N-20° -W **覆土** 焼土化し、非常に良く焼けており硬く締まっている。**底面** やや凹凸が認められる。**出土遺物** 土師器の高台付環1点を図示した。このほかに土師器環1点4.7g、土師器甕4点148.2gが出土している。**時期** 出土した土器から9世紀代と推測される。



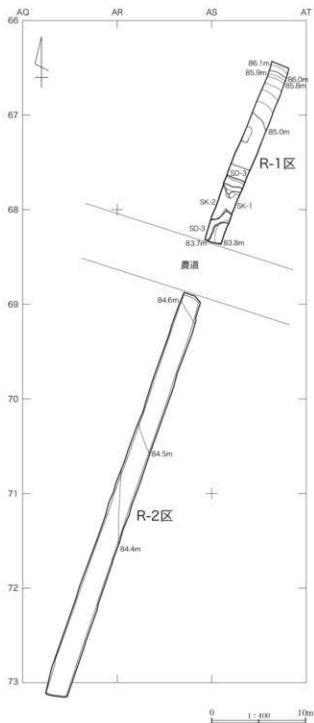
第356図 Q区 SX-19 遺構・出土遺物実測図

第226表 Q区 SX-19 出土遺物観察表

検出 No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
356	1 土師器 高台付環	口径 底径 器高 (3.2)	外面 7.5YR5/4 にふい濁 内面 N2/0 黒	砂粒・赤色粒 子微量	良好	内面 黒色彫理	外面 ロクロナデ 内面 ヘウミガキ	底面 1/2 残存	底面約 5cm	Q区 SX-19 No.1	

第20節 R区

R区は、本遺跡の南東端、北から南へと傾斜する台地の落ち際に遺構が集中している。地下式坑2基、溝1条が確認されている。



第357図 R区全体図

1 地下式坑

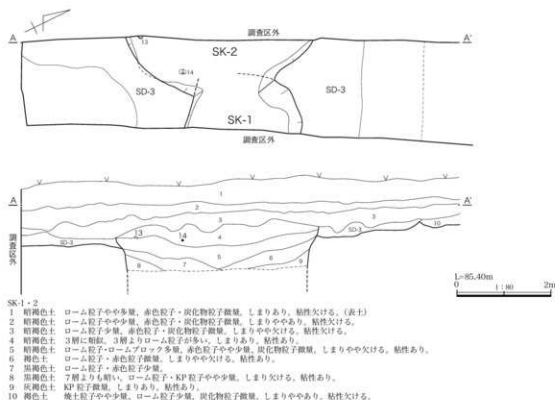
台地の傾斜面に立地する。R-1区に2基が確認されている。

第227表 R区地下式坑計測表

遺構番号	R区	位置	主軸方向	形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	断面形	出土遺物	重複関係
SK-1	1	AS-67-68	不明	方形か	2.40	[1.50]	[1.00]	逆台形	有	SK-2, SD-3より新
SK-2	1	AS-67-68	不明	方形か	4.00	[1.20]	[1.00]	逆台形	有	SK-1より古 SD-3より新

R区SK-1(第358-359図、第227-228表、図版一〇四・一四三)

位置 調査区北部にあたるAS-67・68グリッドに位置する。**重複関係** SK-2、SD-3と重複しており、本遺構が最も新しいとみられる。**平面形状・規模** 東側が調査区外であるが、方形を基調とした地下式坑と考えられる。全体の規模は長軸2.4m、短軸1.5m以上、深さは100cmの深さまで掘り下げた段階で激しい湧水が認められたことから、安全を考慮しそれ以上の掘り下げを断念した。**主軸方向** 不明。**覆土** ローム粒子・ロームブロックを少量含む暗褐色土が堆積している。**底面** 確認出来ていない。**出土遺物** SK-2、SD-3と一緒に取り上げている。土師器環6点、高台付環1点、鉢2点、皿1点、須恵器環5点、高台付皿1点、鉢1点、甕5点、陶器皿1点を図示した。このほかに土師器環81点495.31g、高台付環1点13.71g、鉢1点42.05g、甕50点578.73g、須恵器環117点953.17g、高台付環1点15.51g、蓋4点41.7g、鉢2点73.74g、壺1点17.35g、長頸壺1点26.9g、甕25点713.76g、瓦1点66.09gが出土している。流れ込みと考えられる。**時期** 不明。



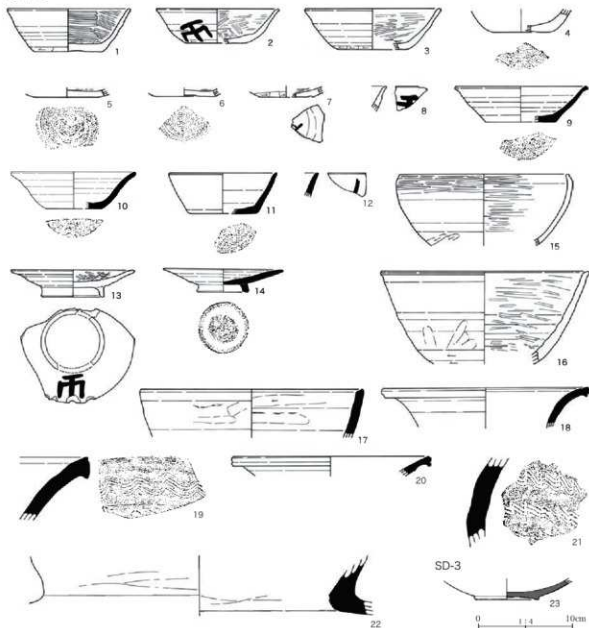
第358図 R区SK-1・2遺構実測図

R区 SK-2 (第358-359図、第227-228表、図版一〇四・一四三)

位置 調査区北部にあたるAS-67・68グリッドに位置する。**重複関係** SK-1、SD-3と重複しており、SK-1より古く、SD-3より新しい。**平面形状・規模** 東側の大部分が調査区外であるが、方形を基調とした地下式坑と考えられる。確認できた部分は主室の一部とみられ、長軸4m、短軸1.2m以上、深さは100cmほど掘り下げた段階で激しい湧水が認められたことから、安全を考慮してそれ以上の掘り下げを断念した。

主軸方向 不明。**覆土** 掘り下げ可能な深さまで、6層確認した。地山由来のロームや鹿沼軽石を多く含む土もあるが、おおむね崩落土と流入土からなる。**底面** 不明。**出土物** SK-1、SD-3と一括で取り上げている。流れ込みと考えられる。**時期** 地下式坑と考えられるため、中近世と推測される。

SK-1-2



第359図 R区 SK-1・2、SD-3 出土遺物実測図

第228表 R区SK-1・2、SD-3出土遺物観察表

排号No	種別 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
359 1	土師器 杯	口径(12.8) 底径 7.2 器高 4.6	外面 7.5YR6/6 釉 内面 N2/0	砂粒微量	良好	外面黒色あり 内面黒色処理	外面 ロクロナデ 底部へう切り残ナデ 内面へうミガキ	口縁～体 部1/4 残存。底部 完全	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	
359 2	土師器 杯	口径(12.8) 底径(6.0) 器高 3.6	外面 7.5YR5/4 にふい黄 内面 7.5YR3/1 黒	砂粒微量	良好	黒色あり「巾 か明大文字 」天 内面黒色処理	外面 ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ 内面へうミガキ	1/4残存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	
359 3	土師器 杯	口径(14.2) 底径(7.2) 器高 4.3	外面 7.5YR6/4 にふい黄 内面 2.5C/3/1 釉オリーブ灰	砂粒・透明粒 子・白雲母少 量	良好	黒色処理	外面 ロクロナデ 体～底部外面回転ヘラケ ズリ 内面へうミガキ	口縁部 1/12、体 部1/8、底 部1/6残 存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	
359 4	須恵器 杯	口径 - 底径(6.8) 器高 [2.3]	外面 10YR7/3 にふい黄 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒微量	やや 不良	内面黒色処理	底部糸切り	体部一部、 底部1/4 残存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	産地不明
359 5	土師器 杯	口径 - 底径(6.8) 器高(0.85)	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 N2/0 黒	砂粒微量、 白雲母少量	良好	内面黒色処理	底部へう切り残ナデ	体部一部、 底部7/8 残存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	
359 6	土師器 杯	口径 - 底径(6.2) 器高(0.75)	外面 2.5Y6/3 にふい黄 内面 N3/0 黒	砂粒微量	良好	内面黒色処理	底部糸切り 内面へうミガキ	底部1/4 残存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	
359 7	土師器 高台付杯	口径 - 底径(6.0) 器高 1.1	外面 5YR5/6 明赤釉 内面 N2/0 黒	砂粒微量	良好	黒色あり 黒色処理	外面ヘラケズリ 内面へうミガキ	底部一部 残存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	
359 8	土師器 杯	口径 - 底径(7.4) 器高 [2.7]	外面 7.5YR4/2 黄灰 内面 N2/0 黒	砂粒少量	良好	黒色あり 黒色処理	体部下端 回転ヘラケズリ	口縁部一 部残存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	
359 9	須恵器 杯	口径(13.8) 底径(7.4) 器高 3.8	外面 2.5Y6/1 黄灰 内面 2.5Y5/2 黄灰黄	砂粒・微量 黒色粒子若干	良好		底部ナデ	口縁部一 部、体部 1/8、底部 1/3残存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	益子産
359 10	須恵器 杯	口径(13.0) 底径(6.0) 器高 3.9	外面 2.5Y6/3 にふい黄 内面 2.5Y5/3 黄灰	砂粒・微量、 黒色粒子若干	良好		ロクロ目面滑 底部ナデ	口縁部一 部、体部 1/6、底部 1/4残存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	益子産
359 11	須恵器 杯	口径(11.2) 底径(7.2) 器高 4.4	7.5Y5/1 灰	砂粒・白色粒 子微量	良好	底部内面 黒い	底部ナデ	口縁部一 部、体部 1/8、底部 1/4残存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	益子産
359 12	須恵器 杯	口径 - 底径 - 器高 [2.55]	10YR7/2 にふい黄 釉	砂粒少量	やや 不良	黒色あり		口縁部一 部残存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	益子産
359 13	土師器 皿	口径(13.0) 底径 6.3 器高 2.9	外面 7.5YR6/4 にふい黄 内面 2.5C/3/1 釉オリーブ灰	砂粒・白雲母 少量	良好	黒色あり「巾 か明大文字 」天 内面黒色処理	外面 ロクロナデ 内面へうミガキ 高台幅付	口縁～体 部1/3、 底部全周 残存	SK2層 上層	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	
359 14	須恵器 皿	口径 12.7 底径 5.4 器高 2.6	内外面 2.5Y6/1 黄灰 外面口縁部～内 面体部 N5/0 灰	砂粒・微量 少量	良好		ロクロナデ 高台幅付	2/3残存	SK2層 上層	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	益子産
359 15	土師器 鉢鉢形	口径(17.4) 底径 - 器高 [7.5]	外面 10YR7/4 にふい黄 内面 N2/0 黒	砂粒・黄・白 雲母少量	良好	黒色あり 黒色処理	口縁部外面～内面へうミ ガキ 体部外面 ロクロナデ 体 部下端 手持ちヘラケズリ	口縁部 1/5、体部 約1/8残 存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	
359 16	土師器 鉢	口径(21.8) 底径 - 器高 [9.8]	外面 7.5YR6/4 にふい黄 内面 10YR6/3 にふい黄	砂粒少量、赤 色粒子微量	良好		口縁部外面～内面 ロク ロナデへうミガキ 体部外面 ナデ 体部下端 回転ヘラケズリ	口縁～体 部1/5残 存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	
359 17	須恵器 鉢	口径(23.4) 底径 - 器高 [5.1]	外面 10YR5/3 にふい黄 内面 10YR5/3 にふい黄	砂粒微量	良好		内外面 ロクロナデ	口縁部 1/8残存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	産地不明
359 18	須恵器 鉢	口径(21.6) 底径 - 器高 -	外面 10YR5/2 灰黄釉 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒・白雲母 少量	良好		ロクロ目面滑	口縁部 1/8残存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	新治産
359 19	須恵器 鉢	口径 - 底径 - 器高 [6.7]	外面 2.5Y6/2 黄灰 内面 10YR7/2 にふい黄	砂粒・微量 少量	良好		ロクロナデ後縁波状文 1列	口縁部一 部残存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	産地不明
359 20	須恵器 鉢	口径(20.4) 底径 - 器高 -	外面 N3/0 黄灰 内面 2.5Y3/1 黄灰	砂粒少量	良好		ロクロナデ	口縁部 1/8残存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	産地不明
359 21	須恵器 鉢	口径 - 底径 - 器高 [9.4]	外面 5Y4/1 灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒微量	良好		縁波状文	口縁下部 一部残存	覆土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	産地不明

359	22	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [6.35]	10YR4/1 灰	砂粒・塵少量	良好		内外面ナデ	上部1/8 残存	甕土中	R区SK-1・ 2・SD-3 一括	鉢子産か
359	23	緑釉陶器 甕	口径 - 底径 - 器高 [2.3]	2.5GY4/1 黒オリーブ灰		良好			体部一部 底部1/2 残存	甕土上 層	R区SD-3 確認面	甕内産

2 溝

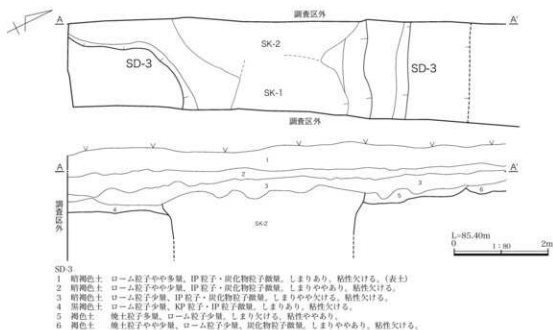
台地上を東西方向に延びる溝が1条確認されている。

第229表 R区溝計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SD-3	AR-68 AS-67/68	不明	直線	8.55	0.60～ 2.05	0.30	逆台形	有	SK-1・2より古

R区SD-3 (第359-360図、第228-229表、図版一〇四・一四三)

位置 調査区北部にあたるAR・AS-67・68グリッドに位置する。重複関係 SK-1・2と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 大部分が削平されており詳細は不明であるが、東西方向に延びる溝の南壁の立ち上がり部分を確認したと思われる。確認できた範囲で長さ8.55m以上、幅0.6～2m以上、深さ30cm以上とみられる。**主軸方向** 東西方向に延びているが、上端は大きく蛇行しており詳細は不明。**覆土** ローム粒子・塵沼軽石粒子を含む黒褐色土と焼土粒子を多量に含む褐色土が堆積している。**底面** 地山である黒褐色土中に作られている。やや凹凸が目立ち、壁は非常に緩やかな立ち上りを呈する。**出土遺物** SK-1・2と一括で取り上げている。**時期** 出土した遺物から推測すると古代か。



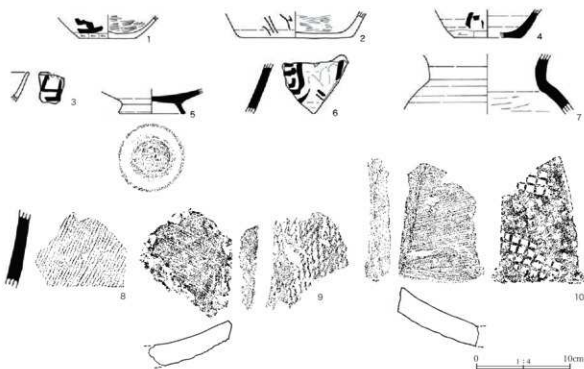
第360図 R区SD-3遺構実測図

3 遺構外の遺物

R区遺構外の遺物 (第361図、第230表、図版一四三・一四四)

表土中から出土した土師器杯3点、須恵器杯1点、高台付杯1点、鉢1点、壺か1点、甕1点、瓦2点を

図示した。



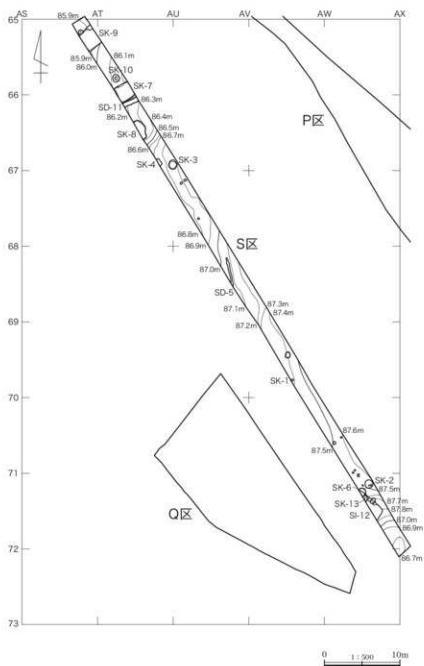
第361図 R区遺構外出土遺物実測図

第230表 R区遺構外出土遺物観察表

検出 No.	種別 品名	寸法 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	表面の状態	形状・形状の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
360 1	土師器 環	口径 底径 6.0 器高 [2.5]	外面 7.5YR6/4 にふい肌 内面 N3/O 焼灰	砂粒・塵少量	良好	黒書あり「申」 か個人文字	外面 ロクロナデ 内面ヘラミガキ 底部下端 回転ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	体部一 部、底部 11/12 残存	-	R区 東平部包含 層	
360 2	土師器 環	口径 - 底径 (12.0) 器高 [2.6]	外面 5YR5/6 明赤黒 内面 7.5YR5/4 にふい肌	砂粒少量	良好	黒書か	内面ヘラミガキ 体部下端 回転ヘラケズリ	体部一 部、底部 1/4 残存	-	R区 東平部包含 層	
360 3	土師器 環	口径 - 底径 - 器高 [3.3]	外面 7.5YR5/4 にふい肌 内面 N2/O 黒	砂粒・塵少量	良好	黒書あり「申」 か個人文字 「人」	外面 ロクロナデ 内面ヘラミガキ	口縁～体 部一 部残存	-	R区 東平部包含 層	
360 4	須恵器 環	口径 - 底径 (7.0) 器高 [3.0]	7.5YR6/4 にふい肌	砂粒・白雲母 少量	不良	黒書あり	内外面 ロクロナデ 底部下端 回転ヘラケズリ	体一底部 1/5 残存	-	R区 東平部包含 層	益子産
360 5	須恵器 高台付環	口径 - 底径 6.8 器高 [2.6]	2.5Y/1 黄灰	砂粒・塵多量	良好	内面 厚化粧か	高台付 黄灰	体部一 部、高台 ～底部全 毀残存	-	R区 東平部包含 層	益子産
360 6	須恵器 鉢	口径 - 底径 - 器高 [5.3]	10YR6/2 灰黄黒	砂粒・塵少量	良好	黒書あり	内外面 ロクロナデ	体部一 部 残存	-	R区 東平部包含 層	産地不明
360 7	須恵器 壺か	口径 - 底径 - 器高 [6.4]	2.5Y6/2 灰黄	砂粒・白色粒 子微量	良好		頸部 ココナデ 内面ナデ	口縁～頸 部 1/8 残 存?	-	R区 東平部包含 層	産地不明
360 8	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [8.3]	外面 5V4/1 灰 内面 7.5Y5/1 灰	砂粒・塵少量	良好		胴部外面 平行タタキ 内面ナデ	胴部一 部 残存	-	R区 東平部包含 層	産地不明
360 9	平瓦	厚 2.7 重 241.85	外面 5YR5/4 にふい肌 内面 10YR6/3 にふい肌	砂粒少量	やや 不良		凸面 縦タタキ 凹面 糸切り廻・布目 縞面ヘラケズリ	一部残存	-	R区 東平部包含 層	
360 10	平瓦	厚 3.0 重 391.40	10YR5/3 にふい肌	砂粒・塵少量	やや 不良		凸面 横タタキ 凹面 糸切り廻 側面ヘラケズリ・面取 止端面ヘラケズリ	一部残存	-	R区 東平部包含 層	

第21節 S区

S区は、本遺跡の南東端、南から北へ傾斜する台地～斜面上に遺跡が散在する。竪穴建物跡1軒、方形竪穴2基、地下式坑1基、溝2条、土坑7基、ピット10基が確認されている。確認面はロームで、表土下約0.5mである。



第362図 S区全体図

1 竪穴建物跡

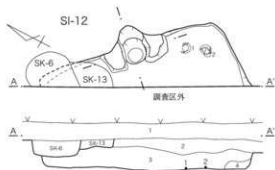
調査区の南端の台地上の台地上で1軒確認されている。

第231表 S区竪穴建物跡計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	東西 (m)	南北 (m)	深さ (m)	ビット	仰	カマド	竪溝	間仕切溝	出土 遺物	重複関係	
SI-12	AW-71	N-40° 東	方形	4.00	1.40	0.42	無	無	有	無	無	無	有	SK-6・13より古

S区 SI-12 (第363図、第231-232表、図版一〇四・一〇五・一四四)

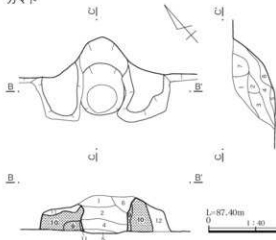
位置 調査区南部にあたるAW-71グリッドに位置する。 **重複関係** SK-6・13と重複しており、本遺構が古い。 **平面形状・規模** 西側が調査区外であるが、方形を基調とした竪穴建物の東壁と南壁の一部を確認した。東西4.0m、南北1.4m以上、壁は遺存状況の良い部分で42cmほどである。 **主軸方向** N-40°



- SI-12
- 1 褐色土 ローム粒子少量、しまりやや欠ける。粘性あり。
 - 2 暗褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子微量、しまりややあり。粘性欠ける。
 - 3 褐色土 ローム粒子・灰褐色土粒子やや多量、灰褐色土ブロック・灰褐色土ブロック少量、炭化物粒子微量、しまりあり、粘性欠ける。
 - 4 黒褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子微量、しまりややあり。粘性ややあり。

L=87.60m
0 1:40 2m

カマド



- SI-12 カマド
- 1 灰褐色土 山砂やや多量、焼土粒子少量、しまり欠ける。粘性欠ける。(灰土)
 - 2 褐色砂質土 山砂多量、焼土粒子やや多量、しまり欠ける。粘性欠ける。(灰土)
 - 3 褐色土 山砂少量、しまり欠ける。粘性欠ける。(灰土)
 - 4 暗褐色砂質土 焼土主体、山砂少量、しまり欠ける。粘性欠ける。(灰土)
 - 5 赤褐色土 焼土、しまり欠ける。粘性欠ける。(燃焼部)
 - 6 暗褐色土 山砂少量、しまり欠ける。粘性あり。(灰土)
 - 7 黄褐色砂質土 山砂主体、焼土粒子少量、しまりあり、粘性欠ける。(燃焼天井)
 - 8 暗褐色砂質土 山砂ブロック多量、焼土粒子やや少量、しまり欠ける。粘性欠ける。(灰土)
 - 9 暗赤褐色土 焼土質、灰褐色粘土少量、しまりややあり。粘性あり。(燻内壁)
 - 10 灰褐色粘土 しまりあり。粘性あり。(燻)
 - 11 赤褐色土 粘土。焼けている。(燻内壁)
 - 12 暗灰褐色土 粘土多量、褐色土やや少量、焼土粒子少量、しまりやや欠ける。粘性欠ける。(燻前石)

第363図 S区 SI-12 遺構・出土遺物実測図

- E 床面 確認できた範囲では貼床等は認められず、地山である鹿沼軽石層を床面としており、平坦となっている。覆土 褐色土と黒褐色土を確認した。このうち竪穴の大部分を覆う褐色土にはローム粒子のほか、火山灰と考えられる灰褐色土粒子が混入する。柱穴等 確認されていない。カマド 東壁中央に位置している。灰褐色系の粘土(9~11層)を積んで構築した袖と、それに挟まれた燃焼部と煙道が遺存していた。袖は幅50cm、竪穴壁からの長さ45cm、高さ36cm、両袖間の幅46cmである。燃焼部は赤褐色に焼石化しており、その範囲は袖の内側にも及んでいる。煙道は竪穴壁から短く張り出し立ち上がる。一部天井構築土に用いられたとみられる黄褐色砂質土が確認された。出土遺物 須恵器杯1点、鉢1点を図示した。このほかに土師器鉢1点17.76g、甕18点456.03gが出土している。時期 8世紀後葉。

第232表 S区SI-12出土遺物観察表

種別 No.	種別 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	構成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 位置	注記	産地・備考
363	1	須恵器 杯	口径 13.4 底径 9.1 器高 4.2	外周 7.5YR6/4 内周 7.5YR5/4 にぶい層	砂粒・礫少量	不良	ロケロ口縁著 底面ヘラ切り幾ナシ	口縁~体 部 3/4 底面残存	床面直 上	S区SI-12 No.2	菓子産
363	2	須恵器 鉢	口径 24.6 底径 14.2	内外周 10YR5/1 灰 土 5Y5/2 灰オリーブ	砂粒・礫少量	良好	ロケロ口縁著 体部下端 回転ヘラケズ	口縁~体 部 3/4 残 存	床面直 上	S区SI-12 No.1	菓子産

2 方形竪穴

調査区の北部、台地の斜面上に2基が確認されている。

第233表 S区方形竪穴計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	備考
SK-7	AT-65-66	N-60°-E	長方形	2.20	[2.05]	0.50	竪坑状	有	
SK-9	AS-AT-65	N-50°-E	長方形	2.70	[2.00]	0.20	竪坑状	有	

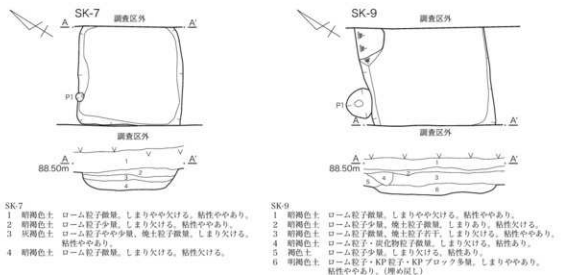
S区SK-7 (第364図、第233・234表、図版一〇五)

位置 調査区北部にあたるAT-65・66グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 東西両端が調査区外であるが、南北方向にわずかに長い長方形である。長軸2.2m、短軸2.05m以上、深さ50cmほどである。主軸方向 N-60°-E 覆土 暗褐色土と灰褐色土が認められる。底面 ローム層中に作られておりやや丸みを帯びるが、おおむね平坦となっている。柱穴等 南西壁際に1基が確認されている。直径22cm、深さ22cmの円形である。出土遺物 土師器高台付杯1点、須恵器甕1点を図示した。このほかに土師器杯7点35.91g、高台付杯2点20.66g、甕24点132.5g、須恵器杯4点13.24gが出土している。流れ込みである。時期 形状から中近世と推測される。

S区SK-9 (第364図、第233表、図版一〇五)

位置 調査区北端にあたるAS・AT-65グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 東西両端が調査区外であるが、東西方向に長い長方形の方形竪穴であると思われる。確認できた範囲で長軸2.7m、短軸2m以上、壁は遺存状況の良い部分で20cmほどである。また、南壁の一部がスロープ状になっており、入口とみられる。主軸方向 N-50°-E 覆土 地山由来のローム粒子・鹿沼軽石ブロックを多量に含む明褐色土が認められた。人為的な埋め戻しとみられる。底面 地山であるローム層および黒褐色土層中に作られており、平坦となっている。柱穴等 南西壁に1基が確認されている。長軸61cm、短軸55cm、深

さ 26 cm の楕円形である。出土遺物 図示できる遺物はないが、土師器杯 2 点 5.65 g、甕 3 点 36.14 g、須恵器杯 3 点 10.23g、蓋 1 点 2.53g、甕 1 点 18.84 g、陶器 1 点 8.07 g が出土している。時期 形状から中近世か。



SK-7 出土遺物



第364図 S区 SK-7・9 遺構・出土遺物実測図

第234表 S区 SK-7 出土遺物観察表

種別 No	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	産地・備考
364	1	土師器 高台付杯	口径 - 底径 - 器高 [1.9] 高台 (6.8)	外面 7.5YR8/6 浅黄褐色 内面 7.5YR7/6 橙	砂粒・微塵量	不良	底部回転ヘラケズリ 高台貼付	底～高台 一部残存	埋土中	S区 SK-7	
364	2	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [4.45]	外面 10YR5/2 灰黄褐色 内面 2.5Y6/1 灰	砂粒少量	良好	胴部外面 平行タキ 胴部内面 ナズ	胴部一部 残存	埋土中	S区 SK-7	堀ノ内産か

3 地下式坑

調査区の北部、台地の斜面上に、方形竅穴に隣接して 1 基が確認されている。

第235表 S区 地下式坑計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	備考
SK-8	AT-66	不明	T字状か	2.70	1.10	0.45	逆台形	有	

S区 SK-8 (第365図、第235・236表)

位置 調査区北部にあたる AT-66 グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 西側が調査区外、削平されているが、南北方向に長い地下式坑とみられる。壁が崩れているが、方形を基調とした主室と、その北側に取り付け竅坑からなる。主室と竅坑の境界が判然としないが、全体の規模は長軸 2.7 m、短軸 1.1 m、壁は遺存状況の良い部分で主室・竅坑ともに 45 cm ほどである。**主軸方向** 不明。**覆土** 褐色土および明褐色土が堆積している。下層の明褐色土には粘土粒子が多量に含まれており、人為的な埋め戻しの可能性が

ある。底面 地山である鹿沼軽石層中に作られており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。出土遺物 土師器高台付杯1点、須恵器環1点を図示した。このほかに土師器杯5点19.92g、甕14点153.86g、須恵器杯4点33.23g、甕4点16.82g、瓦1点127.19gが出土している。流れ込みと考えられる。時期 形状から中近世と推測される。



第365図 S区SK-8遺構・出土遺物実測図

第236表 S区SK-8出土遺物観察表

図版No.	No.	附加器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	産地・備考
365	1	須恵器環	口径 6.8 底径 器高 [2.15]	外面 10R5/1 赤灰 内面 10YR5/1 厚灰	砂粒・硬少量	良好		底部へ少切り残ナデ	体部一部、底部1/2残存	覆土中	S区SK-8	磁子産
365	2	土師器高台付杯	口径 7.5 底径 (9.0) 器高 [3.2]	外面 7.5Y2/1 黒 内面 10YR6/4 にぶい黄粉 外底 10YR6/4 にぶい黄粉	砂粒・硬少量	良好	外面 悪い	ロクロナデ高台貼付	体一部残存	覆土中	S区SK-8	

4 溝

調査区北部に2条の溝が台地の傾斜に対しSD-5は平行、SD-11は直行するように延びている。

第237表 S区溝計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	断面形	出土遺物	備考
SD-5	AU-68	N-12°-W	直線状	3.70	0.20～0.30	0.10未満	逆台形	無	
SD-11	AT-66	N-65°-E	直線状	2.00	0.60～0.70	0.20	逆台形	有	

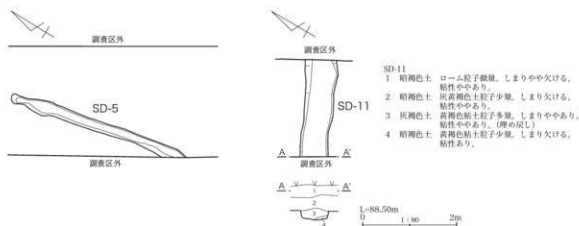
S区SD-5 (第366図、第237表、図版一〇五)

位置 調査区中央部にあたるAU-68グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 南北方向に直線的に延びる溝である。確認できた範囲で長さ3.7m以上、幅20～30cm、深さ10cm未満の浅い溝である。主軸方向 N-12°-W 覆土 不明。底面 ローム層中に作られており、丸みを帯びている。壁は比較的急斜度で立ち上がっている。出土遺物 出土していない。時期 不明。

S区SD-11 (第366図、第237表、図版一〇六)

位置 調査区北部にあたるAT-66グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 東西方向に直線的に延びているとみられる。確認できた範囲で長さ2m以上、幅60～70cm、深さ20cmである。主軸方向 N-65°-E 覆土 黄褐色粘土粒子を多量に含む灰褐色土と、暗褐色土が堆積している。底面

ローム層中に作られており平坦となっている。壁は垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 図示できる遺物はな
いが、土師器杯 10点 13.28 g、甕 2点 14.87 g、須恵器杯 4点 17.43 gが出土している。 **時期** 不明。



第366図 S区SD-5・11遺構実測図

5 土坑

台地の傾斜面に散在し、7基が確認された。

第238表 S区土坑計測表

遺構番号	旧番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	備考・重関関係
SK-1	SK-1	AV-69	N-20°-E	楕円形	0.80	0.65	0.30	皿底状	有	
SK-2	SK-2	AW-71		円形	1.05	1.05	0.20	皿状	無	
SK-3	SK-3	AT・AU-66	N-0°	楕円形	1.20	1.07	0.08	皿状	無	
SK-4	SK-4	AT-66	N-29°-W	方形	1.00	0.60	0.32	箱形	有	
SK-6	SK-6a	AW-71	N-32°-E	楕円形	[1.00]	[0.96]	0.32	皿底状	有	SK-12、SK-13より新
SK-10	SK-10	AT-65	N-25°-W	楕円形	1.00	0.90	0.14	段有	有	
SK-13	SK-6b	AW-71	N-32°-E	楕円形か	[0.80]	[0.52]	0.20	皿底状	無	SK-12より古 SK-6より新

S区SK-1 (第367図、第238-239表、図版一〇六)

位置 調査区中央部にあたるAV-69グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 南北方向に長い楕円形である。長軸 80 cm、短軸 65 cm、深さ 30 cmである。 **主軸方向** N-20°-E **覆土** ローム粒子をやや多く含み、粘性のある褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 図示した須恵器は甕と考えられる。1点が出土している。 **時期** 不明。

S区SK-2 (第367図、第238表)

位置 調査区南部にあたるAW-71グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 直径 105 cmほどの円形で、深さは 20 cmである。 **覆土** ローム粒子や焼土粒子をわずかに含む褐色土が堆積している。 **底面** 底面はローム層中に作られており、凹凸が著しい。壁は急斜度で立ち上がる。 **出土遺物** 出土し

ていない。時期 不明。

S区SK-3 (第367図、第238表)

位置 調査区北部にあたるAT・AU-66グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向にわずかに長い楕円形である。長軸120cm、短軸107cm、深さ8cmである。**主軸方向** N-0° **覆土** 多量のローム粒子や焼土粒子を含む褐色土が堆積している。人為的な埋め戻しとみられる。**底面** ローム層中に作られており平坦となっている。壁は比較的緩やかな立ち上がりを呈する。**出土遺物** 出土していない。時期 不明。

S区SK-4 (第367図、第238表、図版一〇六)

位置 調査区北部にあたるAT-66グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 西側が調査区外であるが、方形を基調とした土坑とみられる。確認できた範囲で長軸100cm、短軸60cm、深さ32cmである。**主軸方向** N-29° -W **覆土** ローム粒子をやや多く含む明褐色土が堆積している。**底面** 地山である鹿沼軽石層中に作られており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環3点4.55g、須恵器環1点6.79g、甕1点32.56gが出土している。時期 不明。

S区SK-6 (第367図、第238・239表、図版一〇四・一〇六)

位置 調査区南部にあたるAW-71グリッドに位置する。**重複関係** SI-12、SK-13より新しい。**平面形状・規模** 大部分が調査区外であることから詳細は不明である。南北方向に長い楕円形とみられ、長軸100cm以上、短軸96cm以上、深さ32cmである。**主軸方向** N-32° -E **覆土** 2層堆積しており、地山由来のローム粒子を微量に含んでいる。**底面** ローム層中に作られている。平坦で壁は垂直に立ち上がる。**出土遺物** 須恵器甕1点を図示した。このほかに土師器甕10点101.4g、須恵器甕1点42.3gが出土している。時期 不明。

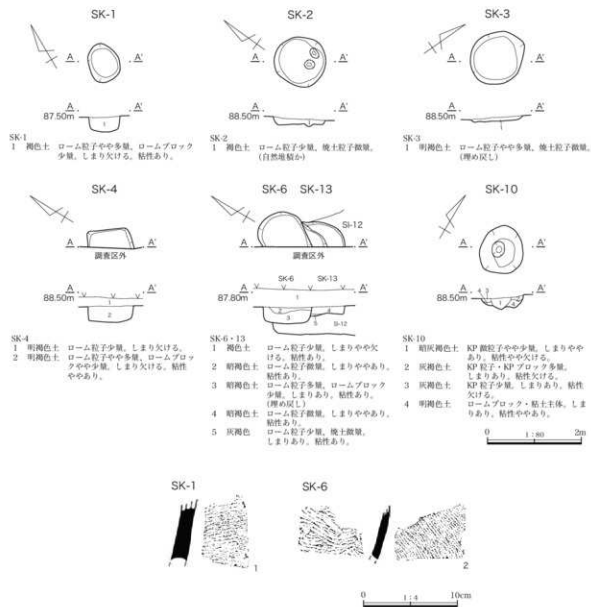
S区SK-10 (第367図、第238表、図版一〇六)

位置 調査区北部にあたるAT-65グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向にわずかに長い楕円形である。長軸100cm、短軸90cm、深さ14cmほどである。**主軸方向** N-25° -W **覆土** 4層に分層した。確認段階ではわからなかったが、一度掘り返されているようである。1層が掘り返し後の覆土、2～3層が当初の段階の堆積土である。**底面** 地山であるローム層中に作られている。中央の掘り返された部分は、周辺より1段深く掘り込まれている。全体的に丸みを帯び、壁は緩やかな立ち上がりを呈する。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕3点77.19g、須恵器環3点9.11gが出土している。時期 不明。

S区SK-13 (第367図、第238表、図版一〇六)

位置 調査区南部にあたるAW-71グリッドに位置する。**重複関係** SI-12より古く、SK-6より新しい。**平面形状・規模** いずれも大部分が調査区外であることから詳細は不明である。確認できた範囲で、北西-南東方向が80cm以上、北東-南西方向が52cm以上、深さ20cmである。**主軸方向** N-32° -E **覆土**

2層堆積しており、いずれも地山由来のローム粒子を微量に含んでいる。底面 ローム層中に作られている。中央付近が一段下がる。出土遺物 出土していない。時期 不明。



第 367 図 S 区 SK-1～4・6・10・13 遺構・SK-1・6 出土遺物実測図

第 239 表 S 区 SK-1・6 出土遺物観察表

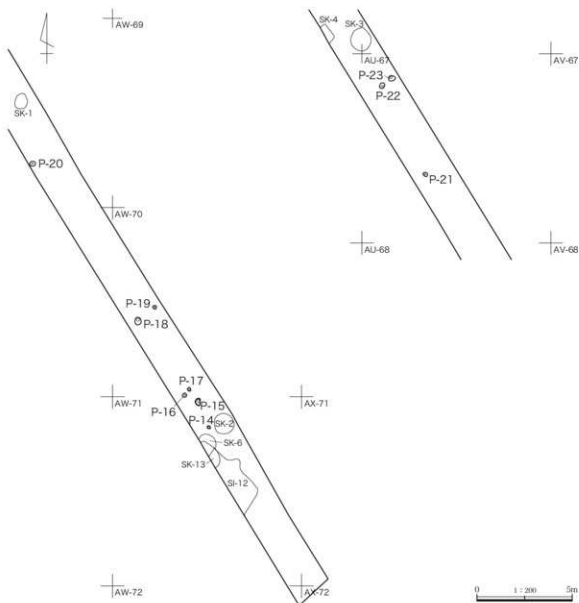
検体 No.	No.	発見 品種	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の状態	断面・形状の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
367	1	須恵器 費か	口径 - 底径 - 器高 [6.4]	5Y4/1 灰	砂粒・微塵量	良好		断面外面 平行タタキ 内面 ナナ	断面一部 残存	覆上中	S 区 SK-1	産地不明
367	2	須恵器 費	口径 - 底径 - 器高 [5.6]	外面 10YR6/4 にふい裏面 内面 7.5YR6/4 にふい背	砂粒微量	不良		断面外面 平行タタキ 内面 同心円当貝殻	断面一部 残存	覆上中	S 区 SK-6	産地不明

6 ピット

P区では調査区の中央部と南東端 10 基のピットが確認されている。計測表にまとめている。

第240表 S区ピット計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土 遺物	備考
P-14	AW-71	N 28° E	楕円形	0.60	0.30	0.29	無	
P-15	AW-71	N 0°	不整形	0.76	0.50	0.16	無	
P-16	AW-70	-	円形	0.47	0.43	0.21	無	
P-17	AW-70	-	円形	0.40	0.32	0.20	無	
P-18	AW-70	N 20° E	楕円形	0.80	0.68	0.28	無	
P-19	AW-70	-	円形	0.40	0.39	0.28	無	
P-20	AV-69	-	円形	0.60	0.53	0.26	無	
P-21	AU-67	-	円形	0.50	0.42	0.14	無	
P-22	AU-67	N 25° E	楕円形	0.62	0.50	0.17	無	
P-23	AU-67	N 90° E	楕円形	0.74	0.57	0.51	無	



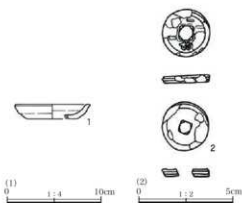
第368図 S区ピット遺構実測図

7 遺構外の遺物

表土中から出土したものを掲載する。

S区遺構外の遺物（第369図、第241表、図版一五〇）

かわらけと銅銭が出土している。1は胎土に白雲母が含まれる。2の銅銭の種類は不明である。



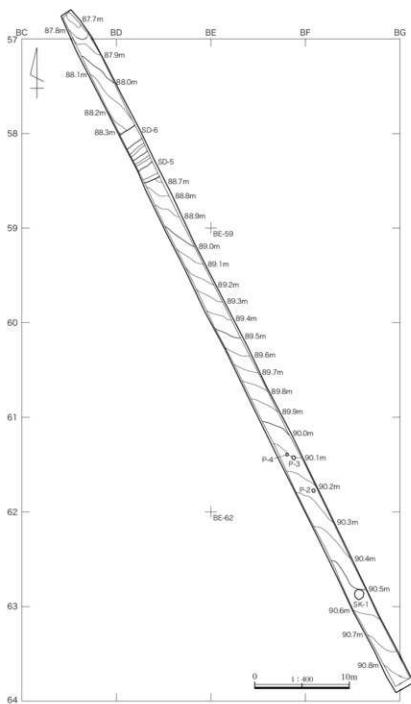
第369図 S区遺構外出土遺物実測図

第241表 S区遺構外出土遺物観察表

種別 No.	品	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	断面・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
369	1	かわらけ	口径 7.6 底径 5.4 器高 1.5	外面 10YR7/3 にぶい黄橙 内面 5YR4/4 にぶい赤黒	白雲母少量	良好		内外面 ロクロナデ	1/4 残存	表土中	S区一旗	
369	2	銅銭	長 2.5 幅 2.5 厚 0.4 重 7.65						完存	表土中	S区一旗	3枚重なって 出土

第22節 T区

T区は、本遺跡の南東端、O区の南から北へ傾斜する台地上に立地している。溝2条、土坑1基、ピット3基が確認されている。確認面は鹿沼軽石層の直上で、表土下約80cmである。



第370図 T区全体図

1 溝

台地の傾斜面に直交する方向に2条が確認されている。

第242表 T区溝計測表

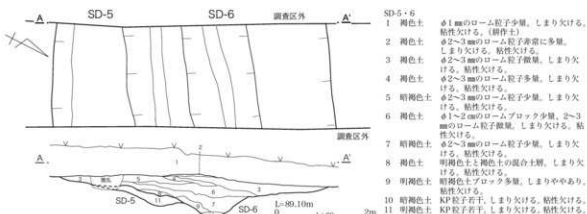
遺構番号	位置	主軸方向	形状	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	断面形	出土遺物	重複関係
SD-5	BD-58	N-65°-E	直線状か	[2.60]	[2.20]	0.60	V字状	無	SD-6より古
SD-6	BD-57・58	N-65°-E	直線状か	[6.00]	[2.20]	0.90	V字状	無	SD-5より新

T区SD-5・6(第371図、第242表、図版一〇六・一〇七)

位置 調査区北部にあたるBD-57・58に位置する。**重複関係** SD-6が新しく、SD-5が古い。**平面形状・規模** ともに東西方向に直線的にのびる溝とみられる。確認できた範囲で、長さは調査区の幅である2.2m。

SD-5が幅2.6m以上、深さ60cm、SD-6が幅6m以上、深さ90cmとなっている。**主軸方向** N-65°-E

覆土 部分的に地山由来のロームを多量に含んでいるが、これらは壁の崩落土とみられ、基本的には自然堆積土と考えられる。**底面** ローム層中に作られており、底面は幅狭くなっている。壁は比較的緩やかな立ち上がりを呈する。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。



第371図 T区SD-5・6遺構実測図

2 土坑

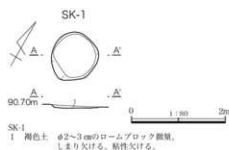
台地の傾斜面上に1基が確認されている。

第243表 T区土坑計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	断面形	出土遺物	重複関係
SK-1	BF-62	N-3°-E	不整形	1.00	1.00	0.10	竪状	無	

T区SK-1 (第371図, 第243表)

位置 調査区南部にあたるBF-62グリッドに位置する。
重複関係 なし。**平面形状・規模** やや不整な円形で、直径100cm、深さ10cm未満となっている。**主軸方向** N-3°-E **覆土** 褐色土がわずかに堆積している。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。



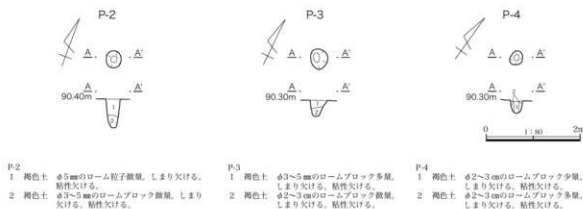
第372図 T区SK-1遺構実測図

3 ビット

台地上に3基確認されている。柱穴の可能性が高い。

第244表 T区ビット計測表

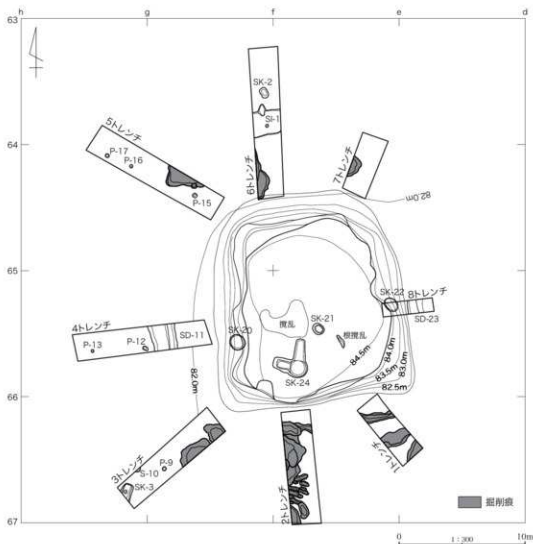
遺構番号	旧番号	主軸方向	位置	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形状	出土遺物	重複関係
P-2	SK-2	-	BF-61	円形	0.30	0.30	0.60	U字状	無	
P-3	SK-3	-	BE-61	円形	0.40	0.40	0.34	U字状	無	
P-4	SK-4	-	BE-61	円形	0.30	0.30	0.24	U字状	無	



第373図 T区ビット実測図

第4章 本沼大塚遺跡

本沼大塚遺跡では、竪穴建物跡1軒、塚1基、溝2条、土坑6基、ピット7基が確認されている。また、本沼大塚(塚)の確認のため、トレンチを8本入れている。遺物は縄文時代の土器・石器、弥生時代の土器、土師器・須恵器、陶器、砥石・瓦が出土している。



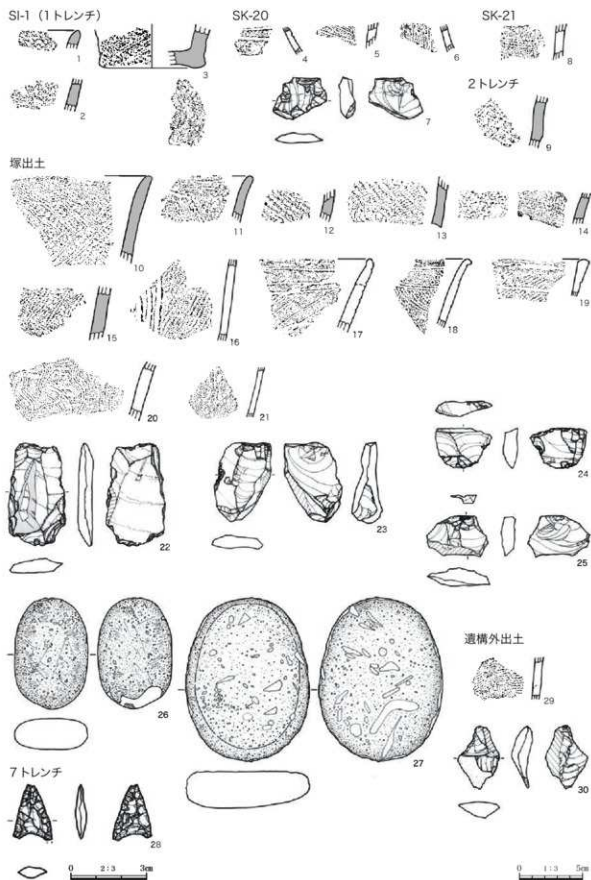
第374図 本沼大塚遺跡全体図

第1節 縄文・弥生時代の遺構・遺物

縄文土器 (第375図、図版一四七)

SI-1 から 1～3 の縄文前期の土器が出土している。胎土に繊維を含む。1 は口縁部、3 は底部で、2 は 1 組の燃糸を羽状に施している。

SK-20 から 4・5 が出土している。4 は縄文施文後、横位の沈線が施される。5 と 6 は条線文である。



第 375 図 本沼大塚遺跡縄文・弥生土器・石器遺物実測図

- SK-21から8が出土している。櫛歯状の沈線が施文される。後期か。
- 塚の盛土内からは縄文前期～後期の土器が出土している。墳頂から12～14・16～18、盛土内から10・11・15・19～21が出土している。
- 10～15は前期の土器で、胎土に繊維を含む。10は付加条2種による羽状文、14の外面はループ文、内面は擦痕が顕著にみられる。15は2本1組の燃糸文である。
- 16はLRを横方向に施文後、縦位の沈線文が施される。
- 17～19は堀ノ内式か。17は沈線文、18はLRを横方向に施した後、沈線、磨り消している。竹管による刺突も施されている。19は縄文施文後に、沈線を施す。
- 20は縦方向の波状沈線が施されている。
- 2トレンチの9は、縄文前期の土器で、附加条2種の縄文を羽状に施す。胎土には繊維が含まれる。黒浜か。

石器 (第375図、第245表、図版一四七)

- SK-20から1点、塚の盛土内より7点、7トレンチより1点の合計9点の出土である。
- SK-20は墳頂部に掘られており、7トレンチの1点を除く8点は盛土の際に混在したものである。
- 9点の内訳は7トレンチの石鏃1点、二次加工のある剥片が6点、磨石1点、石皿1点である。
- 二次加工のある剥片は22がホルンフェルス、それ以外の7・23～25・30はチャートを石材に使用する。チャート製石器に残る礫面を観察すると、河川の転石のみではなく、層状チャートを利用していることがうかがえる。中でも23～25・30の4点は色調が近似しており、また肥厚な剥片をそのまま用いるなど、同一母岩の可能性が非常に高い。
- 26は磨石、27は小型ではあるが、背面が磨面として顕著に使用された石皿である。どちらも安山岩である。
- 唯一定形石器である28の石鏃は、流紋岩を使用する凹基無茎鏃である。先端及び両脚部の末端を欠損する。前期中葉の土器の出土があり、この時期に所属するとしても問題ないと思われる。

第245表 本沼大塚遺跡出土石器観察表

図版No.	№	種別	器種	遺存状況	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	注記名	特徴
375	7	剥片石器	2次加工のある剥片	完存	チャート	4.75	3.21	1.24	13.68	SK-20 フク土	表面にボシ面あり。
375	22	剥片石器	2次加工のある剥片	完存	ホルンフェルス	8.14	4.56	1.12	58.46	塚盛土 №10	表面の一部はスレがみられる。
375	23	剥片石器	2次加工のある剥片	完存	チャート	6.30	4.51	2.33	53.24	塚盛土 №12	表面と上部に自然面あり。
375	24	剥片石器	2次加工のある剥片	完存	チャート	4.43	3.16	1.23	17.44	塚頂上 №12	表面にボシ面。上面も同時割れあり。
375	25	剥片石器	2次加工のある剥片	完存	チャート	4.81	3.29	1.47	22.44	塚盛土 №11	表面に凹理面あり。
375	26	磨石器	磨石	一部欠損	安山岩	11.69	7.79	3.30	482.08	塚盛土 №13	一部に磨打痕があり、その後使用している。
375	27	磨石器	石皿	完存	安山岩	17.40	13.05	3.90	1202.4	塚盛土 №14	平盤状に浅く凹む。
375	28	打製石器	石鏃	一部欠損	流紋岩	2.23	1.48	0.43	0.98	7ト №1	凹基無茎鏃。両脚は連続的に剥離が入り、断面はレンズ状となる。
375	30	剥片石器	2次加工のある剥片	完存	チャート	4.96	3.24	1.66	15.23	表層	表面は上部。表面と同時割れあり。表面に自然面あり。

弥生土器 (第375図、図版一四八)

3点が出土している。

SK-20から6が出土している。中期か。

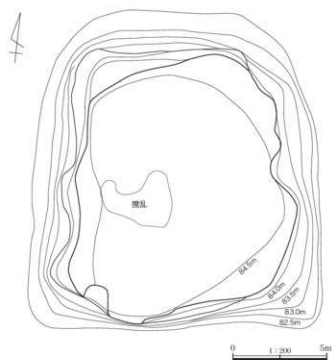
塚の盛土内から21が出土している。櫛歯状工具による沈線が施されている。

表探の29はLRが縦方向に施されている。

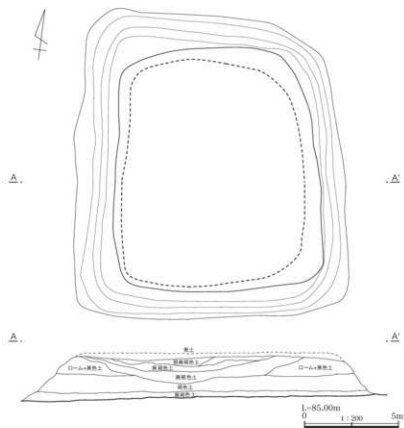
第2節 塚

塚 (第376-379図、第246表、図版一〇八・一〇九・一四六・一四七)

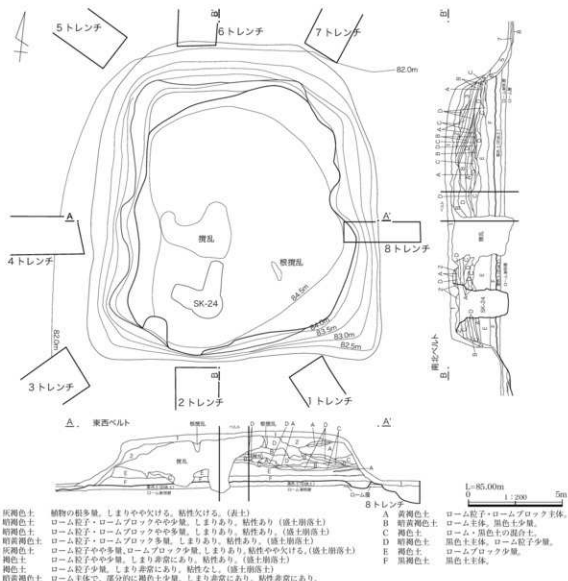
立地 小泉分校裏遺跡が立地する台地西側と低地を挟んだ台地上に立地している。 **重複関係** SK-20～22・24、SD-23と重複しており、SK-24より古く、その他より新しい。 **確認状況** 調査以前より高さ2mほどの方形の塚として認識されている状況であった。塚の上部には草が生い茂り、部分的に崩落している箇所も認められた。 **平面形状・規模** 平面形は南北方向に長い長方形となっている。ただし部分的に大きく削られたとみられる痕跡が認められることから、本来の形状を保っているかについては不明である。調査前の現況で、南北17m、東西15m、高さ2.6mで、表土除去後の盛土確認段階の計測で南北16m、東西14m、高さ2.3mである。なお周囲のトレンチ調査の結果から、塚に伴う周溝や区画施設などは確認されていない。 **周辺の掘削痕** 塚の周辺にトレンチを入れた結果、竪穴建物などは別に、地山であるローム層を不規則に掘り込んだ掘削痕が1～3・5・6トレンチ(374図)で確認された。確認された部分では10～20cmほどの深さでローム層を掘り込んでおり、塚の構築に伴う掘削痕と考えている。後述する塚の盛土には地山由来とみられるローム層やロームブロックが多く確認されていることから、盛土確保のために塚の周辺を掘削したものと思われる。 **塚の構築土** 塚の土層は東西・南北方向に設定した土層観察ベルト(第378図A-A'、B-B')で図化を行った。またベルト除去作業中に攪乱範囲等を外した部分において断面の見通し図を作成した(第378図A-A')。塚の構築土は、地山であるロームと旧表土に由来する黒褐色土で構成されており、それぞれの含有量によってA～Fの6つに大別して注記した。このうちA・Bがローム主体、Cはロームと黒色土の割合が5:5、D・E・Fは黒色土が主体の土である。 **塚の構築方法** 塚の構築方法は、まず標高82.4m付近に位置する旧表土上に、黒褐色土と褐色土を用いて高さ1mほどの方形の基底部分を構築する。そしてその上に暗褐色系の土と、黄褐色系の土を交互に積み上げて構築している。見通し図作成時の観察によれば、まずロームと黒色土により外周部を構築し、その後内側を埋めていくような構築方法であったと考えられる。 **出土遺物** 墳頂部および墳丘盛土から縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、瓦、石器、石製品が出土している。土師器高台付杯1点、かわらけ2点、陶器小碗2点、碗2点、鉢1点、平瓦1点、石製品2点を図示した(第379図)。1は底部に「×」が刻まれる。また、割れ口に油煙が付着し、燈明具として使用されていた可能性が高い。3は盛土の下層より出土し、構築時期に近い時期の遺物の可能性が高い。7は底面に「〇86」とある。戦時下の統制番号(生産者別標記番号)で、昭和15～20年に生産されたものである。墳頂から出土した近代以降とみられる8の陶器の碗には「栃木縣佛教會」と刻まれており、比較的近年まで塚が信仰の場であった可能性が窺える。8の碗と9の鉢の外表面は鉄釉が施されている。12は石鍋か。被熱している。 **時期** 不明。各時期の遺物が混在しており、構築時期を特定するのは困難である。



第 376 図 本沼大塚遺跡塚調査前現状測量図



第 377 図 本沼大塚遺跡塚表土除去後南面見通し図

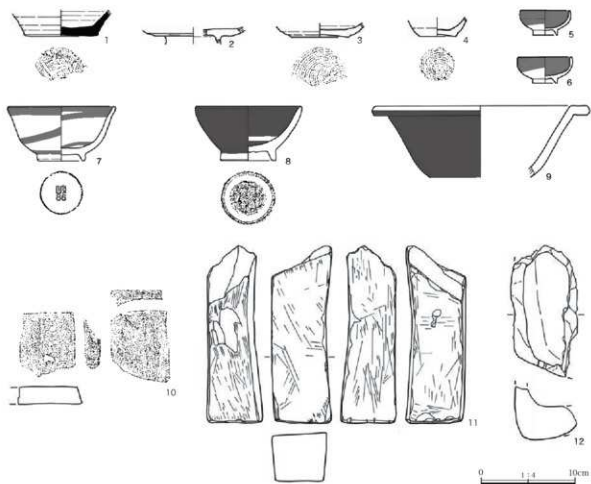


第 378 図 本沼大塚遺跡塚遺構実測図

第 246 表 本沼大塚遺跡塚出土遺物観察表

種別 No.	No.	種類 図種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状況	断面・形状の特徴	遺存 状態	出土 状況	注記	産地・備考
379	1	葉志器 罎	口径 底径 (7.9) 高さ (2.8)	2.5Y3/1 黄灰	砂粒微量	良好	割差あり(※) 割れ口に肉付付着		底部 1/4 残存	一括	墳頂	磁子産
379	2	土師器 高台付罎	口径 - 底径 - 高さ (1.8)	外面 7.5YR6/6 黄 内面 5YR5-6 暗赤褐	砂粒・微少量	良好		体~底部外面 回転へう クズリ 内面へラミガキ 高台付付着	底部 1/4 残存	一括	墳頂	
379	3	かわらけ	口径 - 底径 (6.2) 高さ (1.5)	2.5Y7/3 淡黄	砂粒・微少量	良好		体部~底部内面 ロクロナ ナデ 底部 糸切り	底部 1/2 残存	一括	塚塚土下層	
379	4	かわらけ	口径 - 底径 3.9 高さ (2.0)	外面 2.5Y8/1 灰白 内面 10YR6/6 暗黄褐	砂粒・黒色粒 子微量	良好		体部内面 ロクロナナデ 底部 糸切り 内面 ロクロナデ	底部完全存	一括	塚塚土	
379	5	陶器 小碗	口径 (5.2) 底径 2.6 高さ 2.7	7.5YR7/4 に5~4H	細砂粒微量	良好	灰軸		口縁~体 部 2/3 欠 損	一括	塚塚土	
379	6	陶器 小碗	口径 5.6 底径 2.6 高さ 2.8	外面 10YR6/4 に5~黄褐 内面 10Y7/1 灰白	細砂粒微量	良好	灰軸		元形	一括	塚塚土	
379	7	陶器 碗	口径 (11.4) 底径 (4.8) 高さ 5.8	2.5Y5/6 黄褐 輪 5YR2/4 梅暗赤	細砂粒微量	良好	底面「O」 黄輪・灰軸		口縁~体 部 3/4 欠 損	一括	塚塚土	

379	8	陶器 碗	口径 (11.2) 底径 5.9 器高 5.8	外面 10YR6/4 にぶい黄褐色 内面 10YR7/4 にぶい黄褐色	細砂粒微量	良好	底部に「根本國義 教尊」押印あり	口縁～体 部一部残 存、底部 完存	一括	墳頂	
379	9	陶器 鉢	口径 (23.0) 底径 - 器高 (7.6)	外面 5YR2/4 褐色赤褐色 内面 2.5YR8/3 淡黄	細砂粒少量	良好	外面 鉄軸 内面 灰軸	口縁～体 部一部残 存	一括	墳頂	
379	10	平瓦	厚 1.8 重 113.2	外面 10YR4/1 暗灰 内面 5YR3/1 黒褐色	砂粒微量	良好	凸面 ナデ 凹面 ナデ 側面 ナデ 端部 ナデ	一部残存	一括	墳頂	
379	11	砥石	長 18.7 幅 6.1 厚 5.9 重 1098.0		泥岩		研磨面 4面	一部欠損	一括	墳頂	
379	12	石皿か	長 13.9 幅 7.0 厚 3.8 重 498.3		砂岩			一部残存	一括	墳頂	



第379図 本沼大塚遺跡塚出土遺物実測図

第3節 本沼大塚墳丘下より確認された遺構

1 土坑

塚の墳丘下より確認された。土坑3基が確認されている。

第247表 本沼大塚遺跡土坑計測表

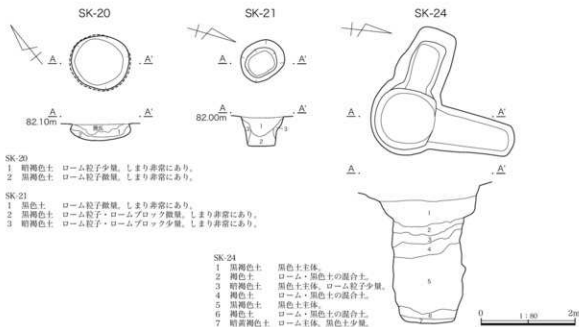
遺構番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SK-20	塚中央	-	円形	1.10	1.10	0.35	袋状	有	塚より古
SK-21	塚中央	N-55°-W	楕円形	0.95	0.80	0.60	逆台形	有	塚より古 陥し穴か
SK-24	塚墳頂	不明	円形+長方形 張山2箇所	1.50 北張山1.70 西張山1.40	1.50 北張山0.95 西張山1.10	2.80	筒状	無	塚より新

SK-20 (第374-380図、第247表、図版一〇九)

位置 塚の墳丘下、西に位置している。**重複関係** 塚と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 平面形は直径110cmほどの円形で、深さは35cmほどである。**覆土** 良く締まっている暗褐色土と黒褐色土の2層である。**底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びている。壁はわずかにオーバーハングして立ち上がる。**出土遺物** 覆土中より弥生土器片および石器(第373図4~7)が出土している。**時期** 不明。

SK-21 (第374-380図、第247表、図版一〇九)

位置 塚の墳丘下、中央に位置している。**重複関係** 塚と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 北西-南東方向にわずかに長い楕円形で、長軸95cm、短軸80cm、深さ60cmである。**主軸方向** N-55°-W **覆土** 3層確認した。いずれの土も地山由来のローム粒子・ロームブロックをわずかに含み、良く締まっている。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は底面から垂直に立ち上がり、途中でやや緩やかな立ち上がりとなる。**出土遺物** 覆土中より縄文土器片や石鏃が出土している。**時期** 不明。形状や覆土の特徴から3トレンチのSK-3と同じように縄文時代の遺構の可能性も考えられる。



第380図 本沼大塚遺跡 SK-20・21・24 遺構実測図

SK-24 (第374-380図、第247表)

位置 塚の墳丘下、南にあたる平坦面に立地している。 **重複関係** 塚と重複しており、本遺構が新しい。

平面形状・規模 円形の掘り込みの北側と西側に長方形に張り出す部分が取り付くような形状をしている。円形部分が直径150cm、深さ280cmほど、北側の張り出し部分が長軸170cm、短軸95cm、西側の張り出し部分が長軸140cm、短軸110cmである。盗掘または土取りのための穴とみられるが詳細は不明である。

主軸方向 不明。 **覆土** 7層に分層しているが、いずれも塚盛土に由来する土である。堆積状況から人為的に埋め戻したものとみられる。 **底面** 丸みを帯びている。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

第4節 トレンチより確認された遺構と遺物

塚の形状や土層断面状況等の確認のため、トレンチを8本設定した。塚と直接関わるものではないが、塚構築以前の遺構として、竪穴建物跡1軒、溝2条、土坑3基、ピット7基が確認された。

第248表 本沼大塚遺跡竪穴建物跡計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	東西 (m)	南北 (m)	深さ (m)	ピット	枳	カマド	貯蔵穴	壁溝	出土 遺物	重複関係
SK-1	6トレンチ	N-4°-W	長方形	2.20	2.00	0.16	1	無	有	無	無	有	

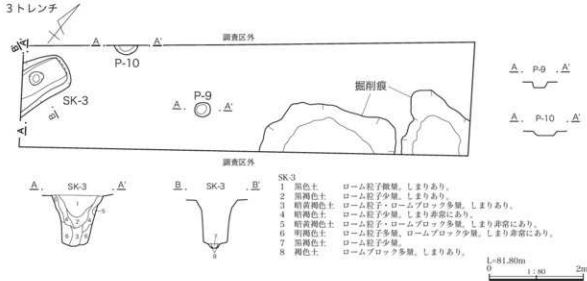
第249表 本沼大塚遺跡トレンチ内溝・土坑・ピット計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SK-2	6トレンチ	N-30°-W	楕円長方形	0.85	0.55	0.30	逆台形	有	
SK-3	3トレンチ	N-15°-E	長方形	[1.20]	0.85	1.07	逆台形	無	
P-9	3トレンチ	-	円形	0.34	0.30	0.10	逆台形	無	
P-10	3トレンチ	不明	楕円形	0.50	[0.20]	0.08	逆台形	無	
SD-11	4トレンチ	N-0°	直線状	[2.05]	2.16	0.60	U字状	無	
P-12	4トレンチ	N-40°-W	楕円形	0.48	0.30	0.16	逆台形	無	
P-13	4トレンチ	-	円形	0.22	0.20	0.08	逆台形	無	
P-15	5トレンチ	-	円形	0.36	0.32	0.18	逆台形	無	
P-16	5トレンチ	-	円形	0.28	0.26	0.18	逆台形	無	
P-17	5トレンチ	-	円形	0.32	0.32	0.20	U字状	無	
SK-22	8トレンチ	N-40°-W	楕円形	1.25	0.92	0.17	逆台形	無	塚より古
SD-23	8トレンチ	N-0°	直線状	[2.08]	[1.08]	0.90	U字状	無	塚より古

1 1 トレンチ (第374-381図、図版一〇八・一一〇)

塚の墳丘を構築するための掘削痕が2ヶ所確認されている。c～fが掘削された部分で、排土が塚の盛土に使用されたと推測される。出土遺物は確認されていない。

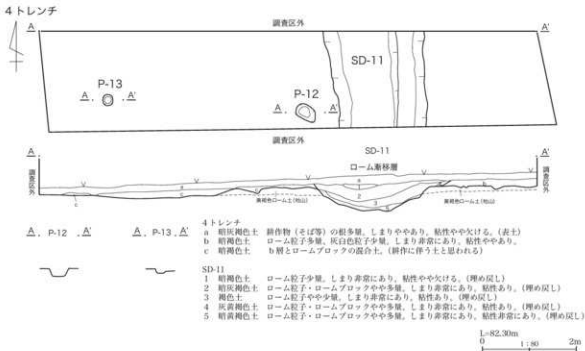
査区外であるが、南西-北東方向に長い長方形とみられる。確認できた範囲で長軸 120 cm 以上、短軸 85 cm、深さ 107 cm である。主軸方向 N-15°-E 覆土 上層は黒色系の土が堆積し、下層は地山由来のローム粒子・ロームブロックを多量に含む黄褐色系の土が堆積する。底面 ローム層中に作られており幅狭く丸みを帯びている。中央に直径 25 cm、深さ 12 cm ほどの小穴が存在する。壁は急角度で立ち上がる。出土遺物 出土していない。時期 不明。形状や覆土の特徴から縄文時代の陥し穴の可能性が高い。



第 383 図 本沼大塚遺跡 3 トレンチ遺構実測図

4 4 トレンチ (第 374-384 図、第 249 表、図版一〇八・一一〇)

塚の西側に位置する。溝 1 条とピット 2 基が確認されている。出土遺物は確認されていない。



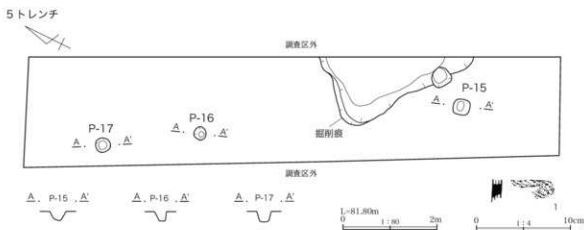
第 384 図 本沼大塚遺跡 4 トレンチ遺構実測図

SD-11 (第382図、第249表、図版一〇八)

位置 塚の西側に位置する4トレンチにおいて確認された。**重複関係** なし。塚を挟んでSD-23と並行して確認されているが、伴うものかどうかは不明である。**平面形状・規模** 確認できた範囲は一部だが、南北方向に延びる溝とみられる。長さはトレンチの幅約2.05m、幅約2.16m、深さ60cmである。**主軸方向** N-0° **覆土** ローム粒子やロームブロックが多く含まれる土が堆積しており、人為的な埋め戻しの可能性が高い。**底面** ローム層中に作られており、こまかな凹凸はあるが、丸みを帯びている。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

5 5トレンチ (第374・385図、第249-251表、図版一〇八、一一〇)

塚の北西に位置する。塚の墳丘を構築するための掘削痕とピット3基が確認されている。出土遺物は須恵器の甕1点を図示した。



第385図 本沼大塚遺跡5トレンチ遺構・出土遺物実測図

第251表 本沼大塚遺跡5トレンチ出土遺物観察表

種別No.	No.	総称 分類	計測値 (cm・g)	色調	動土・石質	構成	断面の状態	断面・形状の特徴	遺存 状態	出土 位置	注記	産地・備考
385	1	須恵器 甕	1口径 底径 深径 [245]	外面 5Y6/1 灰 内面 5Y8/1 灰白	砂粒微量	良好		断面外面 平行タタキ 内面 ナズ	一部 残存	一基	5T	産地不明

6 6トレンチ (第374-386図、第249-252表、図版一〇八、一一〇、一一四七)

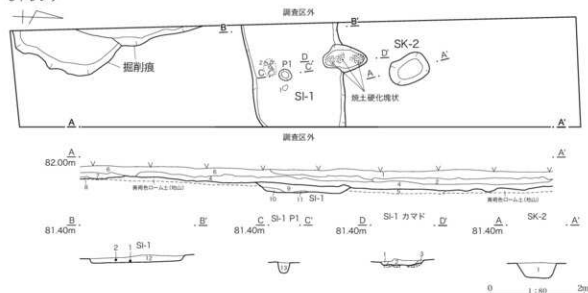
塚の北側に位置する。竪穴建物跡1軒と土坑1基が確認されている。

SI-1 (第386図、第247-252表、図版一〇八、一一〇、一一四七)

位置 塚の北部に位置する6トレンチの中央部において確認した。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西両端が調査区外であるが、東西方向に長い長方形とみられる。確認できた範囲で東西2.2m、南北2mほどである。壁は遺存状況の良い部分で16cmほどである。**主軸方向** N-4°-W **床面** 貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。細かな凹凸があるがおおむね平坦となっている。**覆土** 地山由来のローム粒子のほか、焼土粒子・炭化物をわずかに含む暗褐色土が堆積している。土層は良く締まっており、人為的な堆積土の可能性が高い。**柱穴等** P1は長軸28cm、短軸24cm、深さ22cmの楕円形である。**カマド** 北壁中央に位置している。遺存状況はあまり良くなく袖などは失われており、下部の燃焼部を確認した。規模は南北90cm、東西60cmほどで、竪穴壁から半分ほど北側に張り出している。底面は非

常に良く焼けており、部分的に焼土化し、堅く焼き締まっていた。 **出土遺物** 南壁中央付近から土師器環が2点まとまって出土している。その他に覆土中より縄文土器片が出土している。1・2ともに須恵器模倣の土師器環である。両方とも、内面および外面（口縁部）に赤彩が施されている。 **時期** 7世紀前葉。

6 トレンチ



6 トレンチ・SK-1

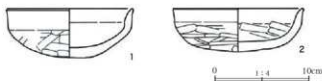
- 1 暗灰褐色土 薪作物（そば等）の根多量。しまりややあり。粘性やや欠ける。（表土）
- 2 暗褐色土 ローム粒子多量。灰白色粒子少量。しまり非常にあり。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 2層よりローム粒子の混入が少なくない。
- 4 褐色土 ローム粒子やや中少量。灰白色粒子少量。しまり非常にあり。粘性あり。
- 5 灰黄褐色土 ローム粒子、ロームブロック・褐色土の混合土。しまり非常にあり。粘性非常にあり。
- 6 灰褐色土 ローム粒子やや中少量。ローム粒子少量。しまりあり。粘性やや欠ける。
- 7 褐色土 ローム粒子やや中少量。しまり非常にあり。粘性あり。下部の硬塊土・崩落土と区別される。
- 8 暗黄褐色土 ローム土塊。所々に褐色土少量混入。しまり非常にあり。粘性非常にあり。
- 9 茶褐色土 ローム粒子やや中少量。しまりあり。粘性やや欠ける。
- 10 暗灰黄褐色土 ローム粒子やや中少量。しまりあり。粘性やや欠ける。
- 11 暗黄褐色土 ローム粒子やや中少量。炭化物少量。しまりあり。粘性あり。
- 12 暗褐色土 ローム粒子少量。焼土粒子・炭化物粒子若干。しまりあり。
- 13 褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。

Si-1 カマド

- 1 褐色土 ローム粒子多量。
- 2 黒褐色土 ローム粒子少量。焼土粒子・炭化物粒子微量。
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量。

SK-2

- 1 明褐色土 ローム粒子多量。ロームブロック（3cm大）少量。しまりあり。



第386図 本沼大塚遺跡6 トレンチ遺構・出土遺物実測図

第252表 本沼大塚遺跡6 トレンチ出土遺物観察表

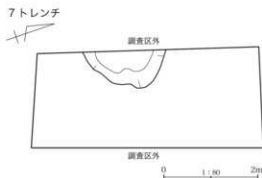
調査 No.	発掘 No.	総量 四角	計測値 (m・g)	色調	粘土・石膏 焼成	表面の状態	断面の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
382	1	土師器 環	口径 (13.4) 底径 - 断面 5.2	外面 10YR8/3 浅黄褐色 内面 7.5YR6/6 暗	砂粒・微少量 黒雲母微量	良好	口縁部~内面 赤彩あり	口縁部 コナデ 体部 ナデ	口縁~底 部 1/3 残 上	Si-1 No.1	
382	2	土師器 環	口径 (13.8) 底径 - 断面 4.6	外面 7.5YR7/6 内面 5YR7/4 に赤・暗	砂粒・微・黒 雲母少量	良好	口縁部~内面 赤彩あり 外面 黒褐色	口縁部 コナデ 体部 ナデ	口縁~底 部 1/2 残 5cm	Si-1 No.2	

SK-2 (第386図、第249表、図版一〇八、一一一)

位置 塚の北部に位置する6 トレンチにおいて確認された。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 南北方向に長い隅丸長方形である。長軸 85 cm、短軸 55 cm、深さ 30 cmである。 **主軸方向** N-30°-W **覆土** 地山由来のローム粒子を多量に含んだ明褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は緩やかに立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

7 7トレンチ (第374-387図、図版一〇八・一一一)

塚の北東に位置する。塚の墳丘を構築するための掘削痕が確認されている。チャート製の石蔵が1点出土している。



第387図 本沼大塚遺跡7トレンチ遺構実測図

8 8トレンチ (第374-388図、第249表、図版一一一)

塚の東側に位置する。溝1条と土坑1基が確認されている。出土遺物は確認されていない。

SD-23 (第374-388図、第249表)

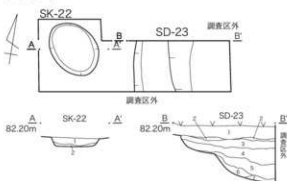
位置 塚の東側に位置する8トレンチにおいて確認された。**重複関係** なし。塚を挟んでSD-11と並行して確認されているが、伴うものかどうかは不明である。**平面形状・規模** 確認できた範囲は一部だが、南北方向に延びる溝の西壁の一部とみられる。幅2m以上、深さ90cmと、規模の大きい溝である可能性がある。**主軸方向** N-0° **覆土** 底面を覆う暗黄褐色土と黄褐色土は壁の崩落土とみられる。これより上層の土も非常に良く締まっていることから、人為的な埋め戻しの可能性が考えられる。**底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びている。壁は比較的緩やかな立ち上がりで、途中に段を有する。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

SK-22 (第374-388図、第249表、図版一一一)

位置 塚の東に位置する8トレンチにおいて確認された。**重複関係** 塚と重複しており、本遺構が古い。

平面形状・規模 南北方向に長い楕円形で、長軸125cm、短軸92cm、深さ17cmである。**主軸方向** N-40° -W **覆土** 上層に堆積する黒褐色土と底面を覆う褐色土の2層である。**底面** ローム層中に作られており平坦となっている。壁は緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

8トレンチ



SK-22

- 1 黒褐色土 ローム粒子微量、しまりあり。
- 2 褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック微量、しまりあり。

SD-23

- 1 黒褐色土 ローム粒子少量、しまりあり。(表土)
- 2 黒色土 ローム粒子微量、しまりあり。硬い。(灰土)
- 3 明灰褐色土 ローム躯体顆粒子少量、ローム粒子微量、しまりあり。
- 4 暗褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック微量、しまりあり。
- 5 褐色土 ローム粒子少量、しまりあり。
- 6 暗黄褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック少量、しまり非常にあり。
- 7 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまり非常にあり。

第388図 本沼大塚遺跡8トレンチ遺構実測図

第5章 総括

第1節 置きカマド

1. 置きカマドについて

(1) 栃木県出土の置きカマド

本遺跡の調査において、M区 SI-25 から古墳時代中期後葉のほぼ完形に復元された置きカマド1点が、潰れた状態で出土している。栃木県における置きカマドの出土事例は、市貝町多田羅遺跡から出土した平安時代の事例（栃木県教育委員会 1991）が知られるのみである。なお、多田羅遺跡の事例は破片であることから、全体の形状が窺える本遺跡の事例は非常に希少といえる。また、この置きカマドは竪穴建物跡の堆積土中に複数の土器とともに、意図的に遺棄されたような状態で出土している点も注目される。

(2) 置きカマドの性格

ここでいう置きカマドは、「韓竈」「竈形土器」「移動式竈」「炊飯具形土器」などと呼称されるものと同一のものであり、持ち運びが可能なカマド形の土製品である。

置きカマドの機能については、古代の文献資料である「正倉院文書」や「延喜式」などに記載される「韓竈」「辛竈」に相当することが指摘され、祭祀などの非日常時の調理に使用されたと考えられている（福田 1978）。

西日本では古墳時代中期に出現し、一部集落から出土するとともに、古墳時代後期になると模造品として古墳に副葬されることが知られている（森本 1996・中野 2018）。このような西日本の置きカマドは韓式系土器の一種とされ、いわゆる渡来系文化の波及を示す遺物として認識されている。また近年では小野本敦氏によって移動性の高い海民との関連も指摘されている（小野本 2022）。

2. 関東地方出土の置きカマド

関東地方においても置きカマドが確認されており、いくつかの検討もなされている。神谷佳明氏は山梨・神奈川・東京・群馬・新潟における古代の置きカマドの事例を集成し（神谷 1988）、湯原勝美氏は千葉県事例を集成している（湯原 1995）。水口由紀子氏は、多摩ニュータウン遺跡群の置きカマドを検討するとともに、千葉県の事例と比較して、土器製作集団と置きカマドの密接な関係を指摘している（水口 1990）。これらの研究はいずれも古代を対象としたものだが、栃木に隣接する茨城県では古墳時代の置きカマドがいくつか確認され、集成もなされている（黒澤 1996）。また近年では、これら古墳時代の置きカマドを渡来系資料と認識したうえで、渡来系文化導入の様相を検討する研究もみられる（小林 2020、日高 2018、皆川 2022）。

ここでは小泉分校裏遺跡の事例との対比を目的として、茨城県における古墳時代の置きカマドの事例を挙げる。

(1) 茨城県桜川市八幡前遺跡（(財)茨城県教育財団 1995a）

茨城県西部に位置する桜川市にある遺跡で、市域を流れる桜川左岸の段丘上に立地している。古墳時代中期から後期にかけての竪穴建物跡が26軒確認されている。古墳時代の置きカマドは5・28b・30号住居跡、2号竪穴遺構、遺物包含層から5点出土している。全形が判明するのは2号竪穴と遺物包含層の2点があるがいずれも小泉分校裏遺跡の事例よりやや高さがある。また、焚口の底は粘土紐を張り付けて作られており、側面に円窓を有する点も異なっている。破片である5号住居跡の事例も底は粘土紐貼り付けによって作られ

ており、掛け口部分にも粘土紐による隆帯が付けられる。28b号住居跡の事例も底部分の作りが小泉分校裏遺跡の事例と相違している。

(2) 茨城県つくば市中台遺跡（財）茨城県教育財団 1995b）

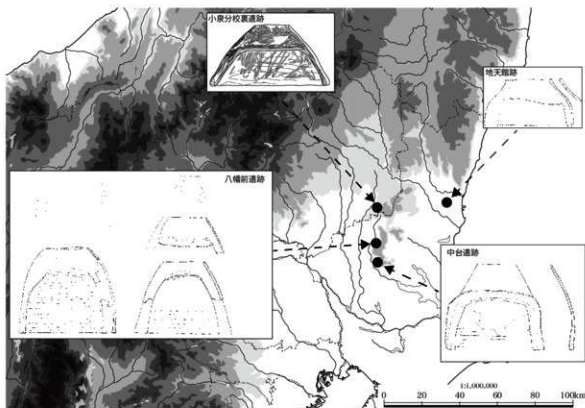
茨城県南部に位置するつくば市に所在し、桜川左岸の筑波山西縁の台地上に立地している。古墳時代中期の置きカマドはD地区第4b号住居跡から出土している。全体の形状は上下が貫通した円錐台で、基部径45.6cm、器高46.5cmと小泉分校裏遺跡の事例より高さがある。また、焚口部分には粘土紐貼り付けによって庇が作り出されており、小泉分校裏遺跡の事例と相違している。

なお、本住居跡からは置きカマドのほかに多量の土師器が出土しており、なかには土器の一部を打ち欠き穿孔している個体が見受けられる。また、遺物が集中して出土する範囲からは多量の炭化物や焼土が検出されており、遺物の廃棄に際して火を用いた特殊な行為が行われた可能性が考えられる。

(3) 茨城県那珂市地天館跡（那珂市教育委員会 2015）

茨城県北部に位置する那珂市に所在し、久慈川と那珂川に挟まれた那珂台地の中央部に位置する。古墳時代の置きカマドは第8号住居跡から1点出土している。法量は基部径45.5cm、器高24.5cmと小泉分校裏遺跡の事例に比べやや小ぶりであるとともに、焚口部分に庇が付かない。なお、本住居跡からは渡来系資料と評価される多孔式甕や畿内から搬入したとみられるTK208段階の無蓋高坏、子持勾玉などの特殊な遺物が出土している。

以上のように、茨城県の事例はいずれも本遺跡の事例と時期的にも近く、また八幡前遺跡・中台遺跡は距離的にも本遺跡と近い。置きカマド自体の形状や細部の特徴、特に庇の構造については差異が大きいが、や



第389図 古墳時代の置きカマド

や特殊な出土状況が認められる点は、本遺跡の事例と共通した要素とみられる。このような時期的・地理的なまとまりや、出土状況の共通性からは、本遺跡の置きカマドについてはこれらの遺跡と同様の背景を有して用いられたものと思われる。

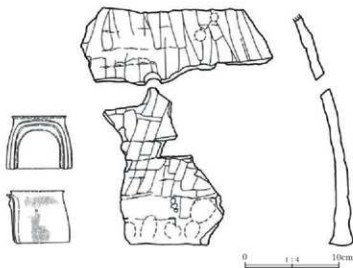
本遺跡ではM区SI-25以外に同時期の遺構・遺物が確認できていないため詳細は不明であるが、先述した渡来文化の影響や、土器製作集団との関わりを含めて、今後検討する必要がある。

【参考文献】

- 稲田孝司 1978「忌の竈と王権」『考古学研究』第25巻1号
 (財)茨城県教育財団 1995a『茨城県教育財団調査報告書第99集(仮称)真壁町南椎尾地区住宅団地事業地内埋蔵文化財調査報告書 小山道跡 八幡前遺跡』
 (財)茨城県教育財団 1995b『茨城県教育財団文化財調査報告書第102集(仮称)北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 中台道跡』
 小野本敏 2022「古代佐渡の調理文化と海民の動態」『物質文化』102号 物質文化研究会
 神谷佳明 1988「東国出土の甕形土器についての検討」『群馬の考古学』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 黒澤秀雄 1996「古墳時代の置きカマドについて」『研究ノート』(財)茨城県教育財団
 小林孝秀 2020「つくば市西栗山遺跡出土の多孔式甕」『生産の考古学』3 酒井清治先生古希記念
 栃木県教育委員会 1991『多田羅遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告書第118集
 那珂市教育委員会 2015『茨城県那珂市 地天館跡』
 中野 咲 2018「日韓における移動式カマドの展開様相」『研究紀要』第22集 由良大和古代文化研究会
 日高 慎 2018『渡来系資料からみた東国古墳時代の交流ルートの解明』平成26～29年度科学研究費助成事業 基盤研究(C) 研究成果報告書
 森本 徹 1996「韓国冷水里古墳出土の甕形土器」『大阪文化財研究』第10号
 水口由紀子 1990「南関東における甕形土器をもつ集落遺跡の性格」『物質文化』第54号 物質文化研究会
 橋川貴之 2022「久慈川流域における古墳時代中期の渡来系資料」『研究ノート』第19号 (公財)茨城県教育財団
 湯原勝美 1995「集落内出土の甕型土器」『研究紀要』創刊号 山武考古学研究所

(参考)

平安時代の土坑(墓の可能性あり)から出土し、甕形土器として報告されている。側面に小孔がある。



第390図 市貝町多田羅遺跡出土置きカマド(栃木県1991より転載)

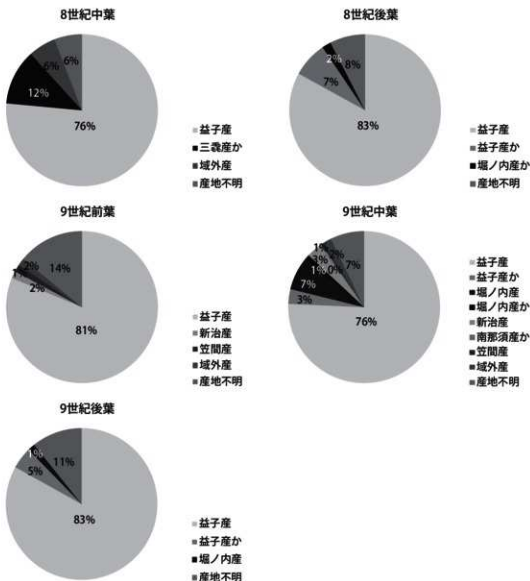
第2節 須恵器について

須恵器の窯は、谷津入窯やカスガ入窯が低地を挟んだ台地の西側に所在する。本遺跡では東に少し離れた脇屋窯や滝ノ入・倉見沢窯が操業していた時期の土器が主に確認された。

5～8世紀前葉までの時期と10世紀以降は、生産地が特定できない須恵器がほとんどであるため、益子以外からの搬入品と考えられる。8世紀中葉～9世紀にかけては、益子産が主流となっているが、他の地域の窯の製品も少量出土している。

出土量（比率）によって様々な解釈ができ、南比企や大戸、群馬、東海などの下野国以外の製品は窯の管理者間などの上層部の交流により、ある程度の割合を占めるものは、技術の習得などのために堀ノ内や新治などの他の窯の工人と交流した結果である可能性、割合の高い製品は、流通などにより土器が搬入されたと考えられる。

特に8世紀後半から9世紀中葉頃が本遺跡の最盛期である。本遺跡では、歪みのある土器や焼成時にひび



第391図 小泉分校裏遺跡報告書掲載須恵器の時期・産地別の割合

の入ってしまった須恵器が出土する。これは窯などで焼成した土器のうち、流通にのせられないものなどを集落内で使用したと推測される。そして、本遺跡が工人と密接に係わっていたことを示している。

第253表 小泉分校高遺跡報告書掲載須恵器の時期・産地別一覧表

時 期	益子産	益子産か	瀬ノ内産	瀬ノ内産か	三良産か	新治産	高部産産か	笠間産	城外産	産地不明
5世紀										1
6世紀前半										4
6世紀中葉										2
6世紀後半										6
6世紀末～7世紀前半										8
7世紀前半以前										1
7世紀前半									1 瀬西か	31
7世紀中葉										2
7世紀後半										
8世紀前半										
8世紀中葉	13				2				1 瀬西	1
8世紀後半	44	4		1						4
9世紀前半	52					1				9
9世紀前半か	2							3 笠間か高部産	1 瀬西	
9世紀中葉	168	7	16	2		7	1	1	4 西毛1 大戸1 南比企1 瓶外1	16
9世紀中葉～後半	1									
9世紀後半	54	3	1							7
9世紀代	1									
9世紀後半～10世紀										1
10世紀前半										3
11世紀前半	2									
11世紀後半	2								1 瀬西	2
時期不明	31	3		2		4				21
合 計	370	17	17	5	2	12	1	2	8	119

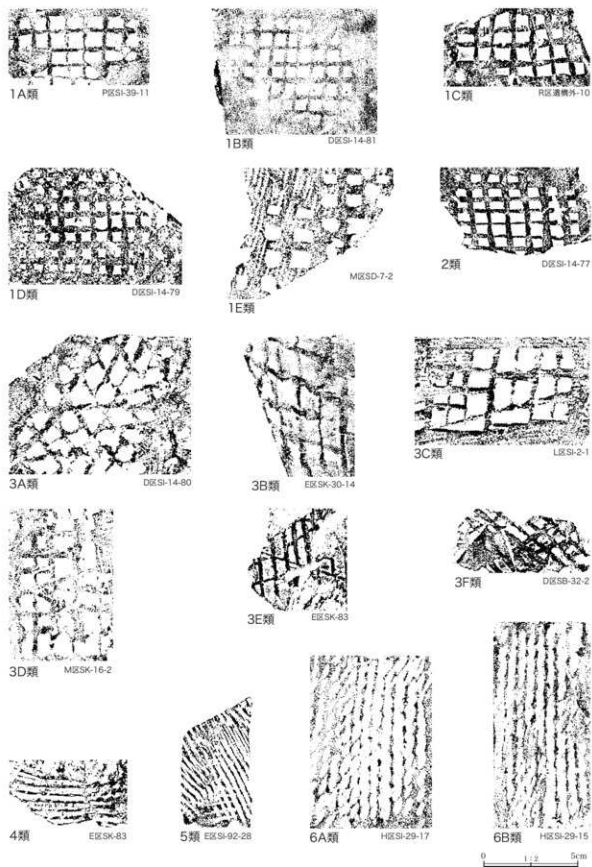
第3節 瓦について

焼成した瓦を本遺跡に持ち込み、カマドの構築材として使用しているものがあった。

『谷津入窯跡群・カスガ入窯跡群・西山窯跡』の調査報告書（津野2013）では供給先（下野薬師寺等）で分類されている型を対照している。この分類を踏まえ、本遺跡で出土した瓦を分類する。

第254表 瓦叩き具の分類と時期

年代\分類	1A	1B	1C	1D	1E	2	3A	3B	3C	3D	3E	3F	4	5	6A	6B
9世紀	■	■	■	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
時期不明			R区 遺構外	L区 SK-30	M区 SD-7					M区 SK-16						
出土遺構	PE SI-39	DE SI-14		DE SI-14		DE SI-14	DE SI-14 SB-19 PE SI-37	EK SI-75 SK-30	EK SI-75 LK SI-2	EK SI-75	EK SK-83	DE SB-32	EK SK-83	EK SI-92	HK SI-29	HK SI-29



第 392 図 平瓦叩き具分類図

瓦は、男瓦、女瓦、道具瓦（鬼瓦？）が出土している。女瓦の叩き具は、格子叩き・平行叩き・縄叩きの3種に大別され、格子叩きは正格子・長格子・斜格子・擬格子の4類に細分される。なお、従来使用されていた「型押文」という名称は、平行叩きや縄叩きの分類には用いなかった。ここでは女瓦の叩き具の種別により、正格子叩きを1類、長格子叩きを2類、斜格子を3類、擬格子を4類、平行叩きを5類、縄叩きを6類とし、叩き具の規格等により細分される場合にはアルファベットを付した。

- 1A類：正格子叩き。目数4×8。右下隅の格子が楕円形となる。下野薬師寺143か。
 1B類：正格子叩き。目数7×11以上。
 1C類：正格子叩き。目数4×8以上。左上隅の格子が他より大きくなる。
 1D類：正格子叩き。目数10×7以上。一部の格子が台形となる。下野薬師寺40か。
 1E類：正格子叩き。目数7×11以上。格子目の大きさがまばらで、枠線も幅5mm以上と太くなる。
 2類：長格子叩き。目数7×8以上。上から1・2番目の縁線が他より太くなる。下野国分寺240か。
 3A類：斜格子叩き。叩き具の摩滅により一部の凸線が不明瞭となる。
 3B類：斜格子叩き。目数3以上×6以上で、斜格子になっている。カスガ入型押文3。
 3C類：斜格子叩き。目数4×7。斜位に凸線がのびて、一部格子凸線が欠いて台形の枠になる部分がある。叩き具の摩滅によって3段階に分けられる。カスガ入型押文5の叩き具の右端を切断してつくられたもの。カスガ入型押文4-1。
 3D類：斜格子叩き。目数7×7。斜位に凸線がのびて、一部格子凸線が欠いて、台形の枠になる部分がある。カスガ入型押文5。
 3E類：斜格子叩き。カスガ入型押文1に似るが斜格子の線2本が交差し×字状となる。
 3F類：斜格子叩き。長格子に複数の斜格子の線が入る。
 4類：擬格子叩き。下野系讓の叩き具か。
 5類：平行叩き。幅3mmほど。須恵器製の叩き具か。
 6A類：短縄叩き。6.5×8.5cmほどの長方形の叩き具と推定される。
 6B類：長縄叩き。6×10cmほどの長方形の叩き具と推定される。

各叩き具について、出土した遺構の時期から、上限・下限をみていくと、3B・3C・3Dはカスガ入窟で確認されていることから、おおむね9世紀前半の範囲に入るものと思われる。

カスガ入で確認できたものも含め、11世紀を除き、全て9世紀前・中葉の範囲に収まり、全ての叩き具の時期をこの時期と考えてよいであろう。

これらの瓦は益子窯跡群で生産されたものとみられ、これまで不明であった益子窯における叩き具の変遷を考えるうえで、一指標になるであろう。

【参考文献】

- 大金宣亮 1969『栃木県埋蔵文化財調査報告第2冊 下野国分尼寺跡』栃木県教育委員会
 大橋泰夫 1996『栃木県埋蔵文化財調査報告第169集 下野国分寺跡Ⅱ』栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
 須田 勉ほか 2004『史跡 下野薬師寺跡Ⅰ』下野市教育委員会
 田熊清彦 1990『栃木県埋蔵文化財調査報告第100集 下野国分跡Ⅹ 瓦類調査報告』栃木県教育委員会
 津野 仁 2013『栃木県埋蔵文化財調査報告第364集 下野国分尼寺跡Ⅱ』
 津野 仁 2022『栃木県埋蔵文化財調査報告第407集 谷津入窯跡群・カスガ入窯跡群・西山窯跡』
 中村享史 2010『栃木県埋蔵文化財調査報告第334集 下野国分尼寺跡』

第4節 集落の変遷

今回の発掘調査では、広く面的に調査した部分は少ないものの、台地上に展開された集落の一部を明らかにすることができた。小泉分校裏遺跡の立地する地形は、台地の東側と西側が低地、一部に東西方向の谷が入り込む。

遺構は台地縁辺北側のA区、台地中央南に位置するD・E区と、西側のG・N区で多く確認された。

旧石器時代から縄文時代にかけての遺物の出土はあるものの、その時代の遺構はほとんど確認されておらず、縄文時代の陥し穴と考えられる土坑が6基確認されているだけである。弥生時代は、後期の二軒屋式と十王台式の土器が出土する。弥生時代と古墳時代前期の土器の出土地点を見ると、台地の南西向きの斜面から多く出土している。

古墳時代中期から奈良・平安時代の遺構が多く確認された。

遺構の分布状況や地形により2つのグループ（群）に分類する。

1群・・・A・H・I区 2群・・・D・E・G・L・M・N・O・P・Q・R・S区

遺構を調査した範囲内で時期別にみると第392図・第254表のように変遷している。

5世紀は南東の台地上のL区でSI-12の1軒が確認されている。

6世紀になると、1・2群の両方で竪穴建物跡が確認される。台地西側斜面（G・M区）がこの時期の集落の中心と考えられる。

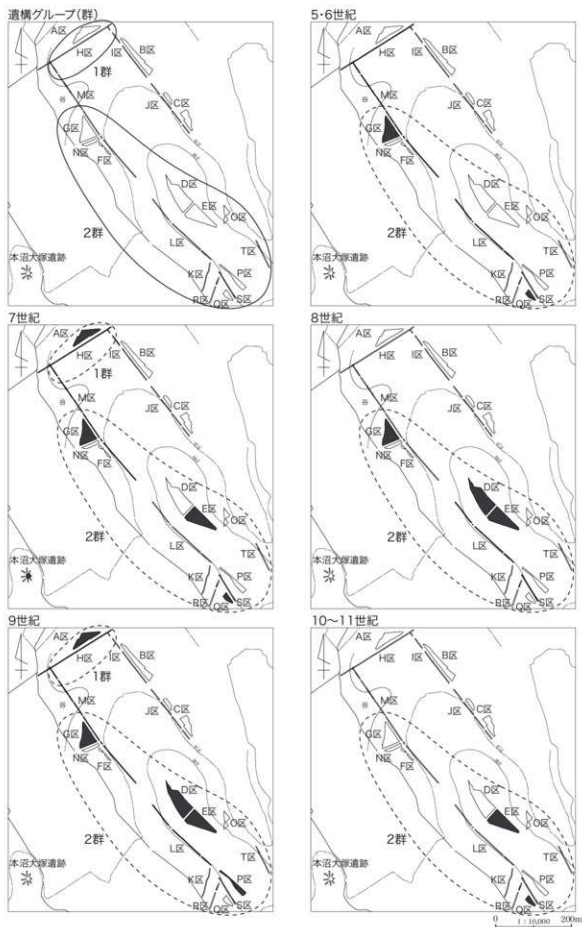
7世紀後葉～8世紀前葉の遺構は1・2群とも確認されていないが、8世紀中葉になると2群内で竪穴建物跡と掘立柱建物跡が確認される。この時期の集落の中心は台地上（D・E区）と考えられる。

9世紀になると、7世紀後葉～8世紀前葉にかけて遺構がみられなかった1群でも再び竪穴建物跡が確認されるが、2群内では引き続き台地上（D・E・L区）で竪穴建物跡と掘立柱建物跡が確認され、9世紀前半に遺構の増加がみられる。

10～11世紀は2群内で数軒の竪穴建物跡が確認される程度で、集落の規模が縮小する。

第255表 小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡 竪穴建物跡・掘立柱建物跡調査区別時期一覧表

時期	1群					2群					本沼大塚	
	A区	H区	I区	D区	E区	G区	L区	M区	P区	Q区		S区
5～6世紀		SI-8・17・19				SI-3・4・40	SI-12・15	SI-9・12・21・25・26・27・28・31・36b			SI-2	
7世紀	SI-4	SI-10・11・13・21・27	SI-1	SI-43	SI-68	SI-38・42・43・44・46・73	SI-38	SI-4・13・24・30a	SI-19	SI-12・21		SI-1
8世紀				SI-13・23・29	SI-11・35・74	SI-1・2	SI-25・34・42	SI-8	SI-10・11	SI-9・18	SI-12	
9世紀	SI-1・2・3	SI-5・29		SI-6・7・9・11・12・14・24・25・28	SI-4・29・43・44・51・61・64・67・72・75・84・86・87・89・91・92・115・128	SI-5・6・8・41・72	SI-2・7・24・26・39	SI-2・6・10	SI-21・27・28・35・36・37・39			
10～11世紀				SI-3・10・27・30・32・34・41・42	SI-69・139・185						SI-20	
時期不明		SI-5・14		SI-16・26・48	SI-9・10・15・49	SI-9・71	SI-1・13・18・29・40	SI-3・5・14・15・34	SI-5	SI-4・7・10・16		



第393図 小泉分校裏遺跡遺構グループ(群)変遷図

第255表 小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡 竪穴建物・掘立柱建物時期別消長表

群・調査区	年代	I		II	III	IV	V	
		5世紀	6世紀	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	11世紀
1群	A区							
	H区							
	区							
	D区							
	E区							
2群	G区							
	L区							
	M区							
	N区							
	P区							
本沼大塚	O区							
	R区							
	S区							

図示しなかったが、中世はまとまりがなく、2群内（L・O・P・R区）の台地斜面で方形竪穴や地下式坑・溝などが散在し、台地東側斜面（B区）では火葬遺構も確認されている。

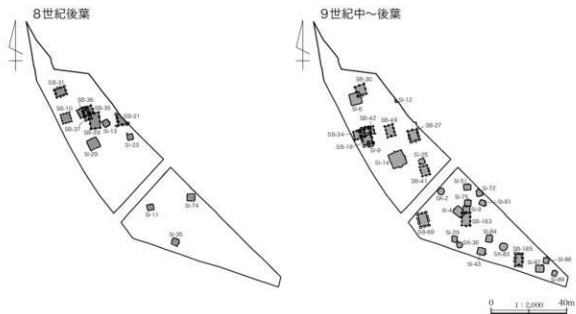
第5節 集落の性格

広く面的に調査できたD・E区では8世紀後半～9世紀後葉の時期の掘立柱建物跡や円形有段遺構が多く確認されている。このことから、当該期にはD・E区及びその周辺がこの集落の中心であったと推測される。

この集落の性格について、掘立柱建物跡と大型竪穴建物跡の配置関係や遺跡内から出土した文字資料から考察していきたい。

(1) 掘立柱建物跡と大型竪穴建物跡

掘立柱建物跡や大型竪穴建物跡の時期は、遺構の切り合い関係による新旧と軸方向、出土した土器により判断した。なお、掘立柱建物跡の時期については、土器の出土状況（柱痕内や掘方埋土内か）による厳密



第394図 D・E区竪穴建物跡・掘立柱建物跡・円形有段遺構変遷図

な検討を経なければならぬが、ここでは柱穴内から出土した土器の時期を参考とした。

8世紀後葉 SB-10・35は東西に並び、SB-21が南北棟であることからL字形の建物配置とみられる。これらの掘立柱建物跡に囲まれた中に、竪穴建物跡のSI-29（一辺約6m）が位置する。なお、SB-21の掘立柱建物の掘方は長方形を呈し、大型である。SB-21・39は同じ場所での建て替えが行われている。

9世紀中葉～後葉 SB-19・49が東西に並び、SB-27・41が南北に配される。SB-19・27・42は建て替えが確認されている。これらの掘立柱建物跡に囲まれた中に、大型竪穴建物跡のSI-14（一辺約7～8m）が位置する。この建物の柱穴は長軸約50cmと大型で、2時期分あり、建て替えがあったことがわかる。また、南面の壁の中央が張り出す。この竪穴建物跡からは須恵器環が多く出土している。

この建物の配置が調査区内で完結した場合、菅原祥夫氏の言う地方豪族の上位層の居室の正直C・東山田型と類似する（菅原1998）。しかし、調査区外に延び、コの字形配置となれば、官衙的な性格を帯びるものと考えられる。

本遺跡で確認されたSI-14からは多量の須恵器環が出土し、ここが大量の食事を提供する炊事場であった可能性があり、この時期には珍しい張り出しも確認され、遺構内からは裏の破片も出土していることから、この場所に酒などを入れていた大甕を据えていた可能性が推測され、竈屋の可能性もある。竈屋は「上野国交替実録帳」の新田郡の居家の条などに「竈屋宅宇」との記載があり、官衙や官衙に関連した遺跡でも、規則的な配置の中に存在したと推測される。

(2) 出土文字史料からみた遺跡の性格

本遺跡からは多くの墨書土器が出土しており、とりわけ遺跡の性格に関わるものとして、P区のSI-35・36から「曹」、P区SI-37から「大領」の可能性のある墨書土器を挙げることができる。それらの時期は9世紀前葉～後葉であり、掘立柱建物群の存在した時期と重なる。これら墨書土器は、掘立柱建物群がある台地中央部よりも南に下った位置からの出土であるが、遺跡の性格を考える上で看過できないものである。

「曹」の意味で最も可能性の高いのは、役所の機関を示す曹司であろう。

栃木県内でもこの事例はあり、那須官衙遺跡から3kmの位置にある駒形6号墳周辺遺跡で「南曹司」銘墨書土器が出土している（大田原市なす風土記の丘湯津上資料館他2015）。この遺跡の詳細は不明であり、郡家から離れたこの遺跡が、郡家の中で果たした役割も明らかでない。

国府では武蔵国府で「南曹」銘墨書土器が出土している（江口2014・深澤2022）。これらは、国衙や郡家の様々な機関が国府や郡内に分散して設置されていたことを示している。

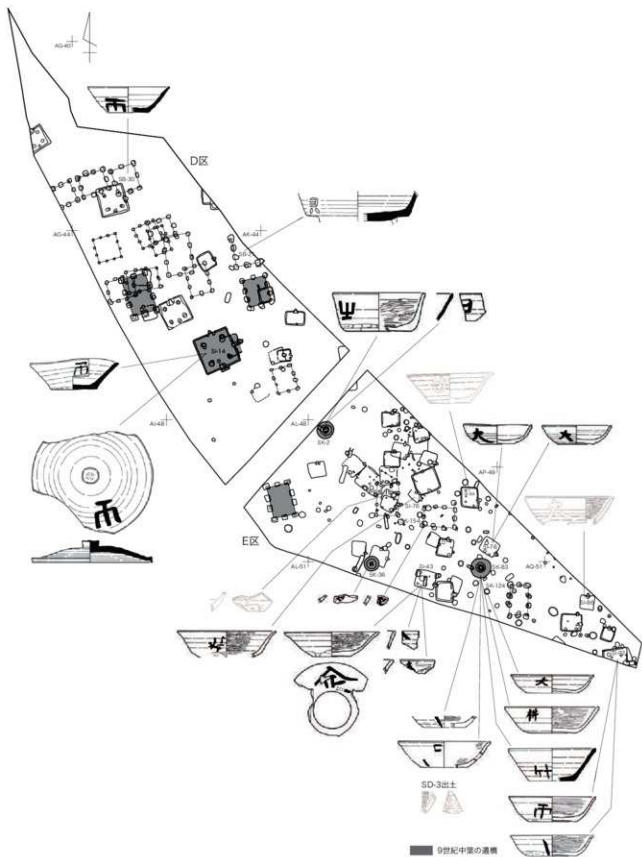
神奈川県平塚市厚木道遺跡では、大型の掘立柱建物跡や「曹司」の墨書が出土しているなど、国府の出先機関の存在が指摘されている（平塚市博物館HP上）。

また、本遺跡では「大領」の可能性のある墨書土器も出土しており、前掲した那須官衙遺跡と「南曹司」の関係性を参考にすれば、本遺跡は郡家と関連する施設という評価になるであろう。これが郡家のどのような施設であるかは、周辺に分布する窯業遺跡との関連を考える必要がある。

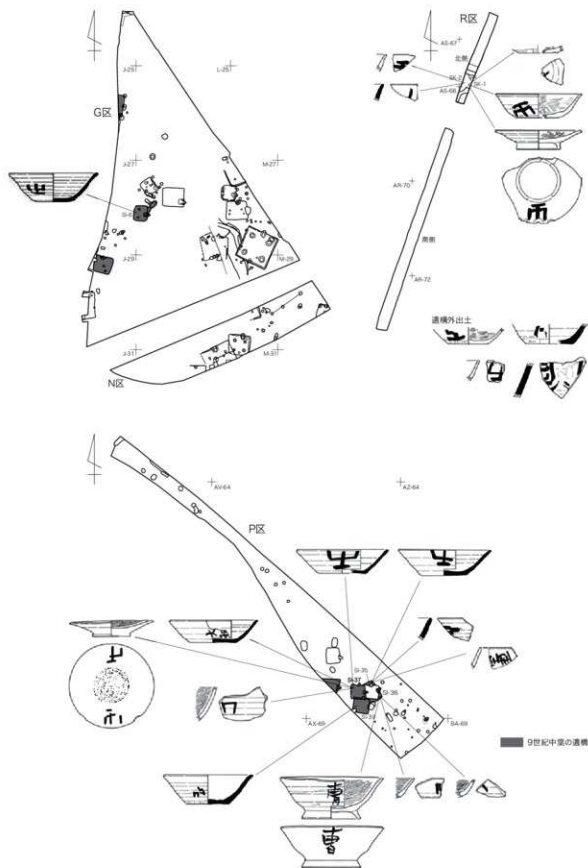
本遺跡周辺には、益子窯群群の一支部で西山・水沼・小泉支群が所在する（益子町2023）。さらに、現在把握できているこの支群の時期は、8世紀後半に窯場が多くなり、9世紀前半まで盛んである。その後の資料は少ないが、毘沙門入窯跡や天正寺入窯跡は9世紀代とされている（津野2023）。

これらの窯の時期は、D区の掘立柱建物群の時期と併行する。これらのことから判断すると、この掘立柱建物群は、周辺の窯業生産を管轄・管理に関わる施設と想定することができる。

郡の機関で作業に従事する者に郡雑任がある。これについては、西山良平氏の研究（西山1982）や森公章



第395図 D・E区墨書土器出土状況



第396図 G・P・R区墨書土器出土状況

氏の研究（森 2009）などがある。これらの研究によれば、郡家周辺で勤務する郡雑任に「器作」があり、『類聚三代格』巻6 弘仁13年（822）閏9月20日官符にこの職名がみられる。森氏はこの器作について、郡務運営の構造として、郡司一厨長一器作という関係を想定している。

本遺跡の対岸に所在するカスガ入窯跡では、須恵器の生産を行っているほかに、官寺である下野薬師寺へも補修瓦を供給している。このことから器生産専従ではないが、窯業生産従事者を郡家の関連施設で管理していたということが想定される。

また、「大領」の可能性のある墨書土器が出土したことも、手工業生産の一部門である窯業生産が、郡によって経営、管理されていたことを示すものではないだろうか。

遺跡の性格を郡家の関連施設と想定して遺構をみると、大型竪穴建物が竈屋にあたり、この竈屋で作った魚酒振る舞いが想起される。『類聚三代格』巻19 延暦9（790）年4月16日官符で「応し禁断喫田大魚酒事」として、殷富の人による所謂魚酒型労働を禁じている。この魚酒型労働は、臨時の大量の労働力の獲得、労働現場での共同性（連帯感）の形成が目的であるという意見があり（吉野 2016）、本遺跡の周囲に存在する窯場に従事する窯業生産者へ魚酒振る舞いが行われたことが第一に想定される。

第二に、前掲弘仁13年の官符は「応し給食備丁事」という、正税からの給食支出規定である。このため、本遺跡は器作を含む窯業生産者に給食を行った施設の可能性も想定される。

以上のことから、本遺跡は大型の掘方をもつ掘立柱建物跡群や竈屋と考えられる竪穴建物跡、そして円形有段遺構、さらには円面硯や「曹」などの墨書土器が出土する、郡との関わりをもつ遺跡と捉えることができる。

断定はできないが、台地のほぼ中央にあたるD区・E区周辺に郡の手工業生産の役割を担った窯業生産を管理する施設があり、周囲の竪穴建物（住居）群には、周辺の窯に従事する工人などが生活する場が展開していたと推測される。

【参考文献】

- 江口 桂 2014『古代武蔵国府の成立と展開』同成社
 大田原市なす風土記の丘湯津土資料館・那珂川町なす風土記の丘資料館 2015『那須官衙の時代一律令期地域社会の移り変わり』
 大野 悟・栗山雄輝 2002 平塚市埋蔵文化財シリーズ36『厚木道遺跡』平塚市教育委員会
 菅原祥夫 1998「陸奥国南部における富豪層居宅の倉庫群—福島県郡山市正直C・東山田遺跡の分析事例を中心として—」『古代の稲倉と村落・郷里の支配』奈良国立文化財研究所
 菅原祥夫 2007「東北の豪族居宅」『古代豪族居宅の構造と機能』奈良国立文化財研究所
 田中広明 2019「古代の地方官衙・集落・寺院と大甕」『官衙・集落と大甕』奈良国立文化財研究所
 津野 仁 2023「古代益子窯跡群の新資料」『栃木県考古学会誌』第44集
 西山良平 1982「郡雑任」の機能と性格『日本史研究』234
 服部敬史 1987「東国における奈良時代前半の須恵器生産とその意義」『信濃』第39巻第7号
 深澤靖幸 2022「国府の構造と景観」『古代国府の実像を探る』雄山閣
 前沢和之 1978「『上野国交替実録帳』郡家項について」『群馬県史研究』第7号 群馬県史編さん委員会
 益子町教育委員会 2023『益子町遺跡地図』
 森 公章 2009『地方木簡と郡家の機構』同成社
 山中敏史 2007「地方豪族居宅の建物構造と空間構成」『古代豪族居宅の構造と機能』奈良文化財研究所
 吉野秋二 2016「古代の労働力編成と酒」『古代日本とその周辺地域における手工業生産の基礎研究（改定増補版）』大阪大学大学院文学研究科考古学研究室

附編 理化学分析

第1節 小泉分校裏遺跡出土の人骨について

パレオ・ラボ 藤田 高

1. はじめに

小泉分校裏遺跡から、数体の人骨が発掘された。人骨は焼骨（埋葬時に火葬が施された）がほとんどであり、それゆえに詳細な所見を取ることは難しいが、鑑定によって解明しえたことを以下に記す。

2. 人骨の所見

・人骨1（B区SK-1）（成人以降・性別不明）

焼骨である。桡骨片、脊椎骨、肩甲骨、寛骨、頭骨、上腕骨頭、大腿骨などの破片が確認された。人骨は熱を加えられると歪みやひびが生じ、そのため詳細な形態学的所見を取る事が難しい。しかし、前記の断片化した骨をよく見ると、骨端の癒合は完了しているようであり、成人には達していた個体であると判断された。性別は不明である。骨片化している骨が多いが、部位が全身に及んでいることから、1個体を火葬し、埋葬したものであろう。

・人骨2（B区、SK-2 覆土中）（成人以降・性別不明）

焼骨である。頭の骨が骨片化しているのが確認された。一部前腕骨（桡骨と尺骨をいう）とみられる骨片が混在する。

・人骨3（B区、覆土中、SK-3）（年齢不詳・性別不明）

焼骨である。上腕骨、前腕骨の骨片が確認された。残存部位が少ないので年齢は不詳であるが、骨片から判断して、思春期以降、およそ個体の骨格の大きさが定まった時期以降の個体ではないかと推定された。

・人骨4（P区SK-1）（成人以降・性別不明）

焼骨である。頭骨（おそらく頭頂骨）の骨片が確認された。縫合がはっきりと残存していることから、若い個体と推定可能である。性別は不明である。

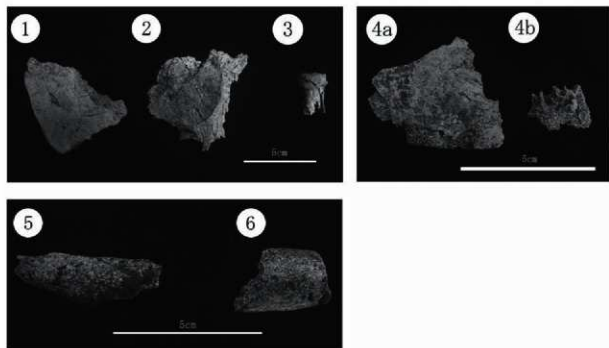
3. まとめ

小泉分校裏遺跡出土人骨（人骨1～4）は、全て焼骨であり、死亡時に火葬されたものであろう。火葬の風習は奈良時代くらいから広まったとされるが、いわゆる地方における火葬の風習の実態は、詳らかであるとは言い難い。東北北部では秋田・岩手地方で古代の火葬墓が（黒崎，1992）、青森地方では、密教が10世紀後半前後に伝播していたことが指摘されており（山田，2006）、青森市新田（1）遺跡で10～11世紀の溝跡から仏像や光背、祭祀具などが出土しているが（青森市教育委員会，2005）、同時期の火葬骨はほとんど見つからない。朝日山（2）遺跡において確認された火葬人骨と思われる出土人骨例は、平安時代の青森地方に火葬習俗が存在した可能性を示唆するものとして重要である。本遺跡の年代が古代（古墳期から平安期）とすれば、栃木県における古代の火葬を考える上で、重要な遺跡と人骨になりうる。なお、放射性炭素年代測定では、SK-1（人骨1）は14世紀～15世紀に相当する暦年代範囲であった（第2節放射性炭素年

代測定(項参照)。

【参考文献】

- 青森市教育委員会 (2005) 青森市埋蔵文化財調査報告書 81: 石江遺跡群発掘調査概報 新田 (1) 遺跡・高間 (1) 遺跡, 9p, 青森市教育委員会.
- 黒崎 直 (1992) 飛鳥・奈良時代 7 墓. 小野昭ほか編「図解・日本の人類遺跡」: 224-225, 東京大学出版会.
- 澤田純明・奈良貴史・中嶋友文・斉藤慶史・百々幸雄・平田和明 (2010) 骨組織形態学的方法による骨小片の人類鑑別 - 東北北部の平安時代遺跡から出土した焼骨の分析 -, Anthropological Science (Japanese Series), 118, 23-36.
- White, T.D. and Folkens, P.A. (2005) The Human Bone Manual. Academic Press, Elsevier, Tokyo.
- 山田雄正 (2006) 野尻 (3) 遺跡出土の鏡について, 青森市教育委員会編「青森県埋蔵文化財調査報告書第 414 集: 野尻 (3) 遺跡 II」, 249-262, 青森市教育委員会.



図版 1 小泉分校裏遺跡出土の人骨

1. SK-1 の頭骨片
2. SK-1 の髑髏耳状面部
3. SK-1 の焼骨頭部
- 4a. SK-1 の頭骨片 (P 区)
- 4b. SK-1 の頭骨片 (P 区)。縫合が確認でき若い個体であることが推定される
5. SK-3 の全腕骨片 (焼骨か尺骨のいずれか)
6. SK-3 の上腕骨片

第2節 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・加藤和浩・廣田正史・佐藤正教・山形秀樹・Zaur Lomtadize・黒沼保子

1. はじめに

小泉分校裏遺跡から出土した焼骨について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

試料は、B区のSK-1から出土した焼骨（ヒトの右？尺骨近位端：PLD-49499）である。

測定試料の情報、調整データは表1のとおりである。人骨（焼骨）は、白色になるまで良く焼けており、コラーゲンの抽出が望めなかったため、骨を構成する無機質に含まれる炭酸塩を測定の対象とした。焼骨を、Lanting et al. (2001)の方法に従って、1.5%の次亜塩素酸ナトリウム溶液と1Mの酢酸で洗浄した後、リン酸との反応でCO₂ガス化した。試料は調整後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

第1表 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-49499	調査区：B区 遺構：SK-1 状態：焼骨	種類：骨（ヒト・右？尺骨近位端） 状態：dry	超音波洗浄 サルフィックス処理 処理備考：cremated bone

3. 結果

第2表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した14C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い（¹⁴Cの半減期5730 \pm 40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年較正にはOxCal4.4（較正曲線データ：IntCal20）を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.27%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2 σ 暦年代範囲は95.45%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入

る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

第2表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年に較正した年代範囲	
				1 の暦年代範囲	2 の暦年代範囲
PLD-49499	-17.70 \pm 0.20	604 \pm 19	605 \pm 20	1313-1329 cal AD (20.80%) 1335-1361 cal AD (35.26%) 1388-1396 cal AD (12.20%)	1304-1366 cal AD (75.77%) 1382-1401 cal AD (19.68%)

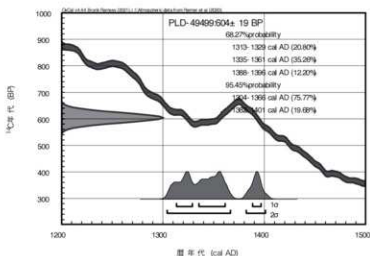
4. 考察

B区のSK-1から出土した焼骨(PLD-49499)は、2 の暦年代範囲(確率95.45%)で 1304-1366 cal AD (75.77%) および 1382-1401 cal AD (19.68%) の暦年代範囲を示した。これは 14 世紀初頭～ 15 世紀初頭で、鎌倉時代～室町時代に相当する。

なお、骨の炭酸塩は主に食物中の炭水化合物と脂肪、あるいは過剰な蛋白質に由来する。したがって、海産の食物に由来する脂肪やタンパク質が主食でない限り、炭酸塩の ^{14}C 年代はリザーバー効果の影響を大きく受けないとされている (Lanting et al., 2001)。また、骨中の炭酸塩はゆっくりではあるが一定の速度で置換されるため、 ^{14}C 年代は死亡するまでの 10～20 年の平均値を示していると考えられる。

【引用・参考文献】

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
 Lanting, J. N., Aerts-Bijma, A. T. and van der Plicht, J. (2001) Dating of Cremated Bones. Radiocarbon, 43(2A), 249-254.
 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会。
 Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Kohler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reintj, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)



第1図 暦年較正結果

第3節 炭化材の樹種同定

パレオ・ラボ 黒沼保子

1. はじめに

芳賀郡益子町の小泉分校裏遺跡から出土した炭化材の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は小泉分校裏遺跡から出土した古代の炭化材 16 点の、合計 16 点である。なお、1 試料内に複数の樹種がみられた試料があり、分析総数は 20 点となった。小泉分校裏遺跡の M 区の SI-22・SI-27・SI-31 と、G 区の SI-42 は古墳時代中期後半～後期、それ以外の遺構は平安時代の遺構と推測されている。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で 3 断面（横断面、接線断面、放射断面）を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製 VHX-D510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3. 結果

樹種同定の結果、針葉樹のカヤ、広葉樹のサクラ属とエノキ属、クリ、コナラ属クヌギ節（以下、クヌギ節）、コナラ属アカガシ亜属（以下、アカガシ亜属）、クマシデ属イヌシデ節（以下、イヌシデ節）、単子葉類のタケ亜科の、合計 8 分類群が確認された。結果の一覧を表 1、遺跡および遺構別の樹種同定結果を表 2 に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1) カヤ *Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc. イチイ科 図版 1 la-1c (No.4)

仮道管と放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。仮道管壁に 2 本対のらせん肥厚がある。分野壁孔はヒノキ型で、1 分野に 4 個程度存在する。

カヤは宮城県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は木理直道で緻密であり、弾性および耐久性が強く、水湿にも強い。

第 1 表 樹種同定結果一覧

分析 No.	遺跡名	区	出土遺構	取り上げ番号	樹種	形状	残存径	推定時期
1-1	小泉分校裏遺跡	B	SK-2	フク土中	サクラ属	割材	半径 2.8cm	不明
1-2	小泉分校裏遺跡	B	SK-2	フク土中	タケ亜科	-	直径 1.5cm	-
2	小泉分校裏遺跡	B	SK-3	フク土中	エノキ属	割材	2.0 × 2.5cm	不明
3	小泉分校裏遺跡	D	SK-45	一括	コナラ属クヌギ節	丸木?	半径 1.3cm	不明
4	小泉分校裏遺跡	E	SK-68	No.2	カヤ	丸木?	9.0 × 5.0cm	不明
5	小泉分校裏遺跡	E	SK-68	No.15	コナラ属アカガシ亜属	不明	1.0 × 2.0cm	不明
6	小泉分校裏遺跡	E	SI-72	北カマドフク土一括	クマシデ属イヌシデ節	割材?	1.0 × 3.3cm	9世紀中葉
7	小泉分校裏遺跡	E	SK-32	フク土一括	コナラ属アカガシ亜属	不明	2.0 × 1.0cm	不明
8	小泉分校裏遺跡	G	SI-42	No.1	カヤ	みかん割り状	半径 3.5cm	-
9	小泉分校裏遺跡	G	SI-42	No.5	クリ	不明(破片)	1.5 × 1.0cm	7世紀中葉以前
10	小泉分校裏遺跡	G	SI-42	No.7	クリ	不明(破片)	1.0 × 2.0cm	-
11	小泉分校裏遺跡	M	SI-27	C-3	コナラ属アカガシ亜属	不明	2.5 × 3.0cm	-
12	小泉分校裏遺跡	M	SI-27	C-9	コナラ属アカガシ亜属	丸木?	半径 2.5cm	6世紀前葉
13	小泉分校裏遺跡	M	SI-27	C-10	コナラ属アカガシ亜属	丸木?	半径 2.5cm	-
14	小泉分校裏遺跡	M	SI-31	C-1	コナラ属アカガシ亜属	丸木	直径 4.0cm	-
15	小泉分校裏遺跡	M	SI-31	C-2	コナラ属アカガシ亜属	不明	3.5 × 2.0cm	6世紀後葉
16	小泉分校裏遺跡	M	SI-21	フク土	コナラ属アカガシ亜属	不明	3.0 × 3.0cm	6世紀前葉

(2) サクラ属 (広義) *Prunus* s.l.バラ科 図版1 2a-2c (No.1-1)

やや小型の道管が、単独あるいは斜め方向に2～3個複合する散孔材である。道管の穿孔は単一で、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、1～5列幅である。

サクラ属は温帯に生育する落葉または常緑の高木または低木である。サクラ属はさらにサクラ亜属やスモモ亜属、モモ亜属、ウワミズザクラ亜属などに分類され、25種がある。木材組織からはモモとバクチノキ以外は識別困難なため、この2種を除いたサクラ属とする。材は、比較的重硬および緻密だが、加工は容易である。

(3) エノキ属 *Celtis* アサ科 図版1 3a-3c (No.2)

大型の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では径を減じた薄壁の小道管が集団をなして接線から斜めに配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状～翼状となる。道管の穿孔は単一である。小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は3～8列幅の異性で、鞘細胞がある。接線断面において、放射組織と軸方向柔組織が層界状に配列する。

エノキ属は熱帯から温帯に分布する落葉性の小高木から高木で、エゾエノキやエノキなど4種がある。材は比較的硬いが、強度や耐朽性は低く、狂いが出やすい。

(4) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版1 4a-4c (No.9)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(5) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版2 5a-5c (No.3)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギとアベマキがある。材は重硬および強靱で、加工困難である。

(6) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 図版2 6a-6c (No.5)

円形でやや大型の道管が、単独で放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織がある。

アカガシ亜属は主に暖帯に分布する常緑高木で、アカガシやシラカシ、ツクバネガシ、アラカシなど8種がある。イチイガシ以外は木材組織による識別が困難なため、イチイガシを除いたアカガシ亜属とする。材は、きわめて堅硬および強靱で、水湿に強い。

(7) クマシデ属イヌシデ節 *Carpinus* sect. *Eucarpinus* カバノキ科 図版2 7a-7c (No.6)

やや小型から中型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して分布する散孔材である。道管の穿孔は単一である。軸方向柔組織は、晩材部で1列幅の接線状となる。放射組織は同性で1～3列幅、集合放射組織がみられる。

イヌシデ節は暖帯から温帯の低山地に分布する落葉中高木で、イヌシデとイワシデ、アカシデがある。材は重硬で靱性が大きく、割製しにくい。

(8) タケ亜科 Subfam. Bambusoideae イネ科 図版2 8a (No.1-2)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類で、維管束は柔細胞中に散在する。維管束は1対の道管とそれと直

行する原生木部間隙と師部で形成され、その周囲を厚膜組織からなる維管束鞘が取り囲む。

タケ・ササの仲間で、日本では12属が含まれるが、稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。割裂性が非常に大きい。

第2表 遺跡および遺構別の樹種同定結果

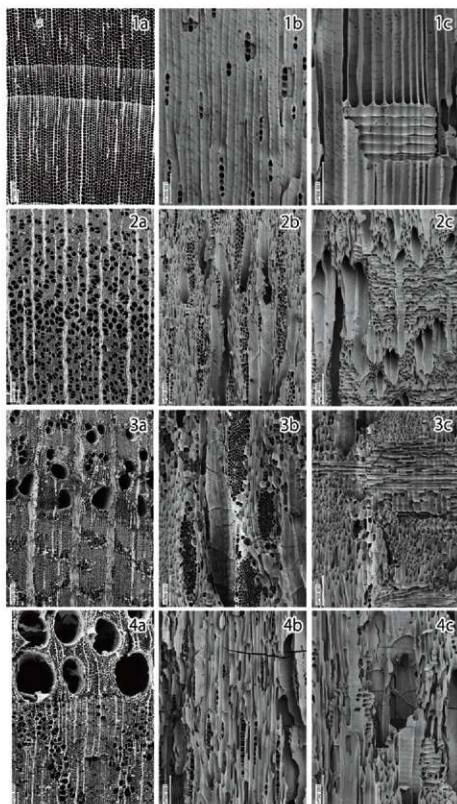
樹種	遺跡名		小泉分校裏遺跡										
	時期	遺構名	古墳時代中期後半～後期			奈良・平安時代							
			SI-27	SI-31	SK-22	SI-42	SI-72	SK-2	SK-3	SK-32	SK-45	SK-68	合計
カヤ					1							1	2
サクラ属							1						1
エノキ属								1					1
クリ					2								2
コナラ属クヌギ節										1			1
コナラ属アカガシ亜属	3	2	1						1		1		8
クマシデ属イヌシデ節						1							1
タケ亜科							1						1
合計	3	2	1	3	1	2	1	1	1	1	2		17

4. 考察

小泉分校裏遺跡では、古墳時代中期後半～後期のM区SI-27・SI-31・SK-22でアカガシ亜属、G区SI-42でカヤとクリが確認された。奈良・平安時代のE区SI-72ではイヌシデ節、B区SK-2でサクラ属とタケ亜科、B区SK-3でエノキ属、E区SK-32でアカガシ亜属、D区SK-45でクヌギ節、E区SK-68でカヤとアカガシ亜属が確認された。古墳時代中期後半～後期の遺構ではアカガシ亜属が比較的多く、奈良・平安時代の遺構では広葉樹を中心に多様な樹種が確認されている。針葉樹のカヤは緻密な材である。広葉樹は、いずれも重硬～硬さ中庸な材である。

【引用・参考文献】

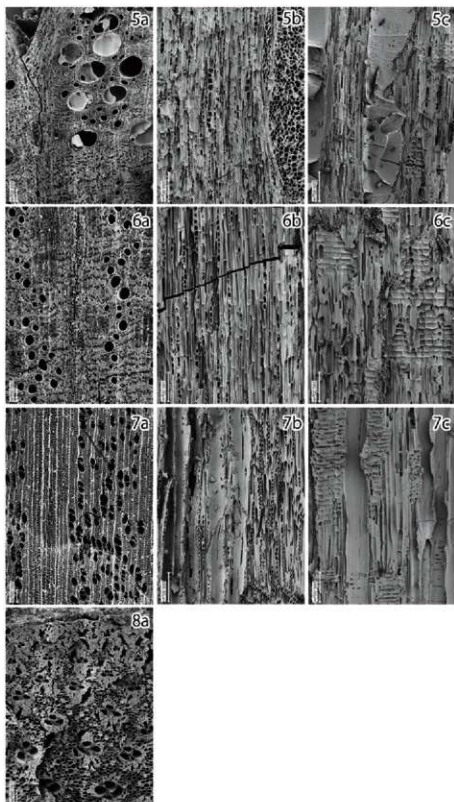
- 平井信二（1996）木の大百科，394p，朝倉書店。
 伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学—出土木製品用材データベース—，449p，海青社。
 伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌，238p，海青社。



図版 1 炭化材の走査型電子顕微鏡写真 (1)

1a-1c. カヤ (No.4)、2a-2c. サクラ属 (No.1-1)、3a-3c. エノキ属 (No.2)、4a-4c. クリ (No.9)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面



図版2 炭化材の走査型電子顕微鏡写真 (2)

5a-5c. コナラ属クヌギ節(No.3)、6a-6c. コナラ属アカガシ亜属(No.5)、7a-7c. クマシデ属イヌシデ節(No.6)、
8a. タケ亜科 (No.1-2)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

第4節 小泉分校裏遺跡の石材同定

藤根 久 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

栃木県芳賀郡益子町大字小泉・長堤および大字本沼に所在する小泉分校裏遺跡では、砥石等が出土した。これらの石製品について、肉眼観察による石材同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、77点である(表1)。石材の同定は、主に肉眼観察により行い、デジタルカメラによる石材表面の撮影を行った。

3. 結果

表2に、肉眼観察による石材同定の結果を示す。石材同定では、表面の色調、構成鉱物、岩石組織の特徴等について観察した。以下に、代表的な石材の特徴について記載する。また、図版1、2に代表的な岩石の写真を示す。

(1) チャート(図版1-1)

黒灰色や緑灰色などからなる貝殻状断口を呈するガラス質石材で、カマドの構築材などに利用されている。

(2) 泥岩・頁岩(図版1-2)

黄白色や黒灰色などの泥質岩で、主に砥石などに利用されている。

(3) 砂岩(図版1-3)

灰色や黄灰色などの砂質岩であり、礫を少量含む岩石もある。砥石などに利用されている。

(4) 礫混じり砂岩・礫岩(図版1-4)

黒灰色や黄灰色の灰色礫からなり、磨石などに利用されている。

(5) 泥質凝灰岩・凝灰岩(図版1-5)

白色や灰白色の凝灰質岩で、砥石などに利用されている。

(6) 安山岩(図版1-6)

黒灰色や灰色で、複合した長石類の斑晶からなる斑状組織の岩石である。砥石や石皿、磨石、打製石器など、多くの石製品に利用されている。

(7) 流紋岩(図版1-7)

灰白色や白色で、輝石・石英の斑晶からなる斑状組織の岩石である。砥石や石礫などに利用されている。

(8) 粘板岩 (図版 1-8)

黒色や黄灰色、黒灰色で、扁平で剥離性のある岩石である。砥石などにも利用されている。

(9) 片岩 (図版 2-9)

黒色や灰色、緑色で、片状組織を示す岩石である。砥石に利用されている。

(10) ホルンフェルス (図版 2-10)

黒灰色の再結晶が斑状を示す岩石である。

(11) 蛇紋岩 (図版 2-11)

灰色で剥離性のある岩石である。

(12) 滑石 (図版 2-12)

緑灰色や黒灰色で、蛭質またはやや蛭質の岩石である。石製模造品に利用されている。

第1表 石製品とその詳細

No.	調査区	道 橋 名	遺物 番号	器 種	石材	特徴記載	注 記	備考
1	A区	SI-1	3	石 (用途不明)	チャート	褐色	No. 4	
2	D区	SI-6	12	編物石	砂岩	黄灰色	No. 14	
3	D区	SI-6	13	石 (用途不明)	チャート	黒・灰色	-	
4	D区	SI-6	14	砥石か	泥岩	オリープ灰色、軟質	-	
5	D区	SI-6	15	石 (用途不明)	チャート	オリープ灰色	-	
6	D区	SI-6	16	石 (用途不明)	蛇紋岩	灰色、剥離性高い、ロウ質ではない	-	
7	D区	SI-14	82	カマド支脚か	砂岩	灰色、白雲母	No. 76	
8	D区	SI-25	8	砥石	砂岩	灰色、白雲母	No. 6	
9	D区	SI-26	3	砥石	片岩	黒色-灰色縞状、ホルンフェルス様	No. 2	
10	E区	SI-12	8	石 (用途不明)	チャート	赤褐色	No. 1	
11	E区	SI-4	6	石 (用途不明)	チャート	黒色・淡褐色	No. 5	
12	E区	SI-43	25	砥石	砂岩	灰色、白雲母	No. 11	
13	E区	SI-43	26	石 (用途不明)	チャート	赤褐色	カマドNo. 3	
14	E区	SI-44	31	編物石か	砂岩	灰色	-	中粒
15	E区	SI-86	4	砥石	泥質凝灰岩	白色	-	
16	E区	SI-89	4	石 (用途不明)	安山岩	灰色、複合長石斑晶、斑状	No. 2	
17	E区	SI-92	29	石 (用途不明)	砂岩	灰色、白雲母	No. 4	中粒
18	E区	SI-92	30	カマド構築材か	安山岩	黒灰色、複合長石斑晶、斑状	No. 8	石皿兼 凹石転用
19	E区	SK-2	42	石 (用途不明)	砂岩	灰色	No. 56	中粒
20	E区	SK-83	36	石 (用途不明)	砂岩	灰色、黒色礫少量 5mm	No. 11	中粒
21	E区	SK-83	37	磨石	礫岩	黄灰色、灰色礫 8mm	No. 5	
22	E区	SK-83	38	磨石	砂岩	灰白色、礫少量 3mm	No. 6	中粒
23	E区	SI-51	29	砥石	流紋岩	灰白色、斑状、硬質	南西覆土一括	
24	E区	SI-51	30	石 (用途不明)	礫混じり砂岩	黄灰色	No. 18	
25	E区	SI-61	10	石 (用途不明)	砂岩	黒灰色	No. 10	中粒
26	E区	SI-61	11	石 (用途不明)	砂岩	表面赤化	No. 13	中粒
27	E区	SI-67	5	カマド構築材か	砂岩	黒灰色	No. 3	中粒
28	E区	SI-67	6	カマド構築材か	チャート	黒灰、表面赤化	No. 1	
29	E区	SI-68	14	石 (用途不明)	チャート	黒灰色	No. 6	
30	E区	SI-68	15	石 (用途不明)	チャート	オリープ黒色	No. 13	
31	E区	SI-68	16	石 (用途不明)	安山岩	斑晶質	カマド周辺	
32	E区	SI-72	15	石 (用途不明)	砂岩	黒色	No. 14	中粒
33	E区	SI-72	16	石 (用途不明)	チャート	赤褐色	No. 7	

34	E区	SI-75	16	砥石	安山岩	溶岩	掘方内	石皿転用
35	E区	SI-76	9	カマド構築材	砂岩	黄灰色、白雲母	カマドNo.4	中粒
36	E区	SI-76	10	カマド構築材	安山岩	細粒、黒灰色	カマドNo.1	
37	E区	SI-76	11	カマド構築材	安山岩	大型輝石、灰色	カマドNo.3	石皿転用
38	E区	SI-77	8	砥石	流紋岩	灰白色、斑状、硬質	床下SK	
39	E区	SI-77	9	カマド構築材	安山岩	黒灰色、長石斑晶	No.5	石皿転用
40	E区	SI-84	6	砥石か	砂岩	灰色、白雲母	No.1	中粒
41	E区	SI-86	5	石(用途不明)	砂岩	灰色	No.1	中粒
42	E区	SI-87	7	石(用途不明)	安山岩	灰色、複合長石斑晶、斑状	No.1	
43	G区	P-29	1	不明石製品	凝灰岩	白色、礫質含む(斑状構造ではない)	-	
44	G区	SI-1	8	砥石か	砂岩	黄灰色、黒色礫少量5mm	SE	中粒
45	G区	SI-1	9	石(用途不明)	砂岩	黒灰色、細粒	カマド	
46	G区	SI-2	11	石(用途不明)	安山岩	灰色、長石斑晶、斑状	NE	
47	G区	SI-8	5	砥石	砂岩	黄白色	-	中粒
48	G区	SI-8	6	石(用途不明)	安山岩	灰色、長石斑晶、斑状	カマド	
49	G区	SI-40	17	砥石	礫岩	黒灰色	S	
50	G区	SI-42 SD-45	4	砥石	安山岩	灰色、輝石・長石斑晶、斑状	覆土一括	
51	G区	SI-44	25	砥石	粘板岩	緑灰色、頁岩系	SW	
52	G区	SI-72	12	砥石	砂岩	灰色、黒色礫3mm	No.10	
53	G区	SI-72	13	石(用途不明)	砂岩	灰色	No.11	
54	H区	SI-10	12	石製模造品	滑石	緑灰色、やや硬質	No.9	
55	H区	SI-19	17	石(用途不明)	砂岩	黄灰色、黒色礫混じり3mm	No.19	
56	H区	SI-29	18	石(用途不明)	砂岩	緑灰色、やや細粒	No.7	
57	I区	I-2	-	石(用途不明)	粘板岩	黒色、剥離性やや有り	一括	中・古生層
58	L区	SI-24	11	石(用途不明)	安山岩	黒灰色、複合長石斑晶、斑状	-	石皿を転用
59	L区	SI-29	2	石(用途不明)	頁岩	黒色	-	礫石か
60	M区	SI-36	5	砥石か	安山岩	灰色、複合長石斑晶、斑状	No.3	
61	P区	SI-27	3	カマド支脚	砂岩	灰色、やや粗粒	-	
62	P区	SI-37	22	砥石	砂岩	灰色	No.7	
63	P区	SI-37	23	砥石	砂岩	黄灰色	貼床中	
64	P区	SI-37	24	砥石	砂岩	灰色	No.10	
65	P区	SI-37	25	砥石か	砂岩	黄灰色	No.3	
66	R区	-	4	打製石斧	安山岩	灰色、長石斑晶、斑晶小型	北	
67	本沼大塚	SK-20	7	剥片	チャート	黒色	覆土	
68	本沼大塚	墳頂	11	砥石	泥岩	黄灰色	-	
69	本沼大塚	墳頂	12	石鏝か	砂岩	灰色、細粒	-	
70	本沼大塚	塚盛土	22	石(用途不明)	ホルンフェルス	黒灰色	-	
71	本沼大塚	塚盛土	23	剥片	チャート	黒灰色	-	
72	本沼大塚	墳頂	24	剥片	チャート	暗灰色	-	
73	本沼大塚	塚盛土	25	剥片	チャート	黒灰色	-	
74	本沼大塚	塚盛土	26	磨石	安山岩	灰白色(内部灰色)	-	
75	本沼大塚	塚盛土	27	磨石	安山岩	淡褐色	-	
76	本沼大塚	7T	28	石鏝	流紋岩	白色、輝石・石英斑晶	-	
77	本沼大塚	表採	30	剥片	チャート	黒灰色	-	

第2表 石製品と石材の集計

大分類	中分類	岩石名	石鏝	打製石斧	剥片	磨石	礫石か	砥石	砥石か	カマド構築材	カマド構築材か	編物石か	石鏝か	石製模造品	石(用途不明)	総計	
堆積岩	砕屑岩	チャート			5						1				9	15	
		泥岩						1	1								2
		頁岩					1										1
		砂岩				1	7	3	1	3	2	1		11		29	
		礫混じり砂岩													1	1	
	礫岩				1		1									2	
	火山砕屑岩	泥質凝灰岩						1								1	
火成岩	火山岩	凝灰岩													1	1	
		安山岩		1	2	2	1	3	1						6	16	
		流紋岩	1				2										3
変成岩	広域変成岩	粘板岩					1								1	2	
		片岩					1									1	
	接触変成岩	ホルンフェルス													1	1	
		蛇紋岩														1	1
		滑石											1		1		
		総計	1	1	5	4	1	16	5	4	5	2	1	1	31	77	

4. 周辺の地質環境

遺跡周辺では、図1の示す岩石が分布する。

第四紀後期更新世の砂・礫・泥からなる中位段丘堆積物（凡例 tm1、凡例 tm2）、礫・砂及び泥からなる宝木段丘堆積物（凡例 O）が分布する。

後期中新世の硬質泥岩及び凝灰岩からなる大金層（凡例 Og）が分布する。

中期更新世の主として海成の砂・泥・礫からなる友部層（凡例 Tb）、礫・砂及び泥からなる境林層など（凡例 Sk）、流紋岩・デイサイト軽石凝灰岩（凡例 Oy）や礫岩・砂岩及び凝灰岩（凡例 Yy）からなる大谷層・藪塚層などが分布する。

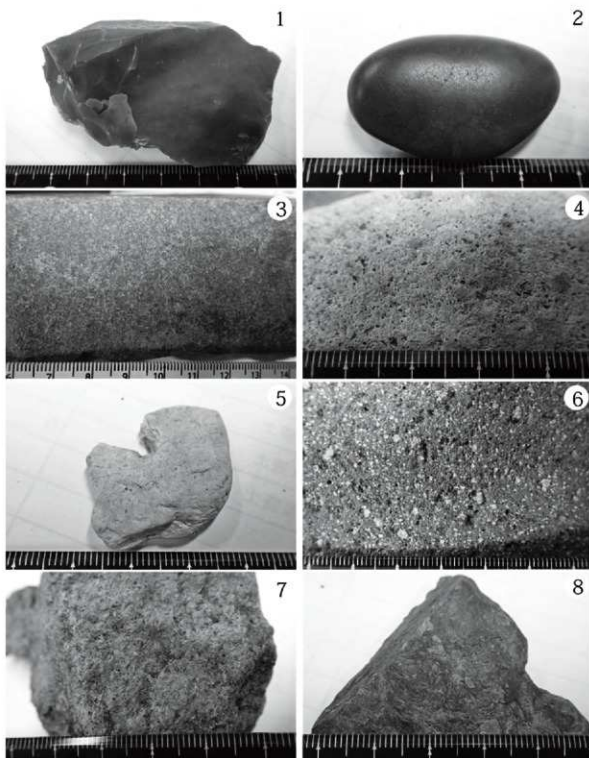
前期中新世のデイサイト火砕堆積物及び安山岩溶岩の茂木層（凡例 Mt）、安山岩溶岩・同火山角礫岩及び凝灰岩からなる山内層（凡例 Ym）、安山岩・玄武岩溶岩及び火砕岩からなる日向層など（凡例 Hn）が分布する。

中生代の後期白亜紀・前期古第三紀の中粒黒雲母花崗岩及び細粒白雲母含有黒雲母花崗岩からなる加波山花崗岩（凡例 Kg）、細粒角閃石含有黒雲母花崗閃緑岩及び中・粗粒角閃石黒雲母花崗閃緑岩からなる稲田花崗岩（凡例 Ig）、かんらん石斑れい岩・角閃石斑れい岩・斜長岩などからなる斑れい岩類（凡例 Gb）が分布する。ジュラ紀の泥岩を含む砂岩（凡例 Js）や砂岩泥岩互層・泥岩・珪質泥岩及び混在岩（凡例 Jsm）、チャート（凡例 Jc）からなる八溝層群が分布する。



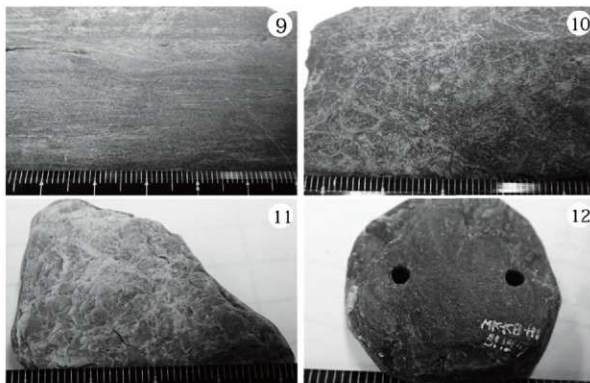
第1図 1周辺の地質 (須藤ほか(1991)20万分の1地質図「宇都宮」と吉岡ほか(2001)20万分の1地質図「水戸」第2版)を編集)

[凡例] tm1・tm2: 中位段丘堆積物、O: 宝木段丘堆積物、Tb: 友部層、Sk: 境林層など、Og: 大金層、Oy・Yy: 大谷層・藪塚層など、Mt: 茂木層、Ym: 山内層、Hn: 日向層など、Kg: 加波山花崗岩、lg: 稲田崗岩、Cb: 斑れい岩類、Js・Jsm・Jc: 八溝層群、Jsm-B・Jsm-C・Jsm-S: 筑波変成岩類



図版1 岩石表面のデジタルカメラ接写写真(1)

1. チャート (No.75) 2.頁岩 (No.66) 3.砂岩 (No.3) 4.礫岩 (No.24)
 5.凝灰岩 (No.64) 6.安山岩 (No.20) 7.流紋岩 (No.68) 8.粘板岩 (No.58)



図版 2 岩石表面のデジタルカメラ撮写真 (2)

9. 片岩 (No.60) 10. ホルンフェルス (No.73) 11. 蛇紋岩 (No.48) 12. 滑石 (No.65)

なお、筑波山周辺には、白雲母黒雲母粘板岩からなる雲母帯 (凡例 Jsm-B)、董青石黒雲母片岩・董青石黒雲母ホルンフェルス・結晶質石灰岩及び変成チャートからなる董青石帯 (凡例 Jsm-C)、珪線石黒雲母片麻岩及び珪線石黒雲母片岩からなる珪線石帯 (凡例 Jsm-S) が変成を受けた筑波変成岩類が分布する。

5. 考察

表 3 に、器種と石材の関係についてまとめた。

利用されていた石材は、多い順に、砂岩、安山岩、チャート、流紋岩などである。これらの石材の多くは、遺跡周辺に分布する岩石と考えられる。

安山岩や流紋岩、凝灰岩類は、鬼怒川または支流の上流域に分布する岩石と考えられる。

片岩やホルンフェルスなどの変成岩類は、筑波山周辺に分布する筑波変成岩類と考えられる。また、蛇紋岩や滑石も、斑れい岩類などの塩基性岩に伴う変成岩あるいは鉱物と考えられ、筑波山のかんらん石斑れい岩など (凡例 Gb) に付随する岩石と考えられる (図 1)。

【引用文献】

- 地学団体研究会・新地学事典編集委員会 (2003) 新版 地学事典, 1443p, 平凡社。
 須藤定久・牧本 博・秦 光明・宇野沢 昭・滝沢文教・坂本 亨・駒沢正夫・広島俊明 (1991) 20 万分の 1 地質図「宇都宮」。地質調査所。
 吉岡敏和・滝沢文教・高橋雅紀・宮崎一博・坂野靖行・柳沢幸夫・高橋 浩・久保和也・関 陽児・駒沢正夫・広島俊明 (2001) 20 万分の 1 地質図「水戸 第 2 版」。経済産業省産業技術総合研究所地質調査所。

写真図版



小泉分校裏遺跡（南から）



D区・E区全景（上空から）



A区 SI-1 土層堆積状況 (南から)



A区 SI-1 遺物出土状況 (南から)



A区 SI-1 遺物出土状況 (南から)



A区 SI-1 遺物出土状況 (南東から)



A区 SI-1 カマド (南から)



A区 SI-1 完掘 (南から)



A区 SI-2 土層堆積状況 (東から)



A区 SI-2 遺物出土状況 (南から)



A区 SI-2 カマド付近遺物出土状況 (南東から)



A区 SI-2 カマド付近遺物出土状況 (南西から)



A区 SI-2 完掘 (南西から)



A区 SI-2 カマド掘方 (南から)



A区 SI-3 土層堆積状況 (東から)



A区 SI-3 遺物出土状況 (北東から)



A区 SI-3 完掘 (南から)



A区 SI-4 土層堆積状況 (東から)

図版四
遺構 (A区)



A区 SI-4 遺物出土状況 (南から)



A区 SD-20 完掘 (北から)



A区 SD-29 完掘 (北東から)



A区 SD-91 完掘 (北東から)



A区 SK-14 完掘 (東から)



A区 SK-16・17 完掘 (西から)



A区 SK-28 完掘 (西から)



A区 SK-32・P-33 完掘 (東から)



A区 SK-43 完掘 (東から)



A区 SK-95 完掘 (北から)



A区 北東ピット群 (西から)



A区 北西ピット群 (南東から)



A区 全景 (西から)



B区 SD-4 完掘 (南から)



B区 SD-5 完掘 (南東から)



B区 SD-4・5 完掘 (北から)



B区 SD-6 土層堆積状況 (西から)



B区 SD-6 完掘 (東から)



B区 SK-1 遺構確認状況 (南西から)



B区 SK-1 土層堆積状況 (南から)



B区 SK-1 土層堆積状況 (南西から)



B区 SK-1 人骨等出土状況 (南西から)



B区 SK-1 人骨等出土状況 (北東から)



B区 SK-1 作業風景 (東から)



B区 SK-1 人骨出土状況 (北から)



B区 SK-1 人骨出土状況 (南西から)



B区 SK-1 人骨出土状況アップ (南から)



B区 SK-1 完掘 (北東から)



B区 SK-2 遺構確認状況 (南西から)



B区 SK-2 土層堆積状況 (南から)



B区 SK-2 土層堆積状況 (南西から)



B区 SK-2 人骨等確認状況 (北東から)



B区 SK-2 遺物出土状況アップ (東から)



B区 SK-2 完掘 (南西から)



B区 SK-3 遺構確認状況 (南西から)



B区 SK-3 土層堆積状況 (南西から)



B区 SK-3 土層堆積状況 (西から)



B区 SK-3 人骨等確認状況 (北東から)



B区 SK-3 遺物出土状況 (東から)



B区 SK-3 遺物出土状況 (東から)



B区 SK-3 完掘 (東から)



B区 SK-1～3 完掘 (東から)



C区 SE-3 土層堆積状況 (北東から)



C区 SD-2・SK-1 完掘 (西から)



C区 SD-5 作業風景 (南から)



C区 SD-5 作業風景 (南から)



C区 SK-7 土層堆積状況 (北東から)



C区 南ビット群 (南西から)



C区全景(南から)



D区 SI-6 土層堆積状況(南西から)



D区 SI-6 遺物出土状況(西から)



D区 SI-6 土鈴出土状況(北西から)



D区 SI-6 カマド(西から)



D区 SI-7 北東隅遺物出土状況(西から)



D区 SI-7 完掘(南から)



D区 SI-7 カマド(東から)



D区 SI-9 遺物出土状況 (南東から)



D区 SI-11 遺物出土状況 (南から)



D区 SI-11・12 完掘 (北西から)



D区 SI-13 土層堆積状況 (南から)



D区 SI-13 遺物出土状況 (西から)



D区 SI-13 カマド (南西から)



D区 SI-14 東カマド (西から)



D区 SI-14 P1 土層断面状況 (南東から)



D区 SI-14 P3 土層断面状況 (南東から)



D区 SI-14 P4 土層断面状況 (南東から)



D区 SI-14 南側張り出し (北西から)



D区 SI-14 完掘 (南から)



D区 SI-16 カマド掘方 (南東から)



D区 SI-23 土層堆積状況 (南から)



D区 SI-23 遺物出土状況 (西から)



D区 SI-23 完掘 (南から)



D区 SI-23 カマド (南東から)



D区 SI-24 土層堆積状況 (南から)



D区 SI-24 遺物出土状況 (南から)



D区 SI-24 遺物出土状況 (南から)



D区 SI-24 完掘 (南西から)



D区 SI-24 カマド (南から)



D区 SI-24 カマド掘方 (南東から)



D区 SI-25 土層堆積状況 (南から)



D区 SI-25 カマド遺物出土状況 (西から)



D区 SI-25 完掘 (西から)



D区 SI-26 土層堆積状況 (南から)



D区 SI-26 遺物出土状況 (南から)



D区 SI-26 カマド (南西から)



D区 SI-28 カマド掘方 (西から)



D区 SI-29 P1 土層断面状況 (南東から)



D区 SI-29 P2 土層断面状況 (南東から)



D区 SI-29 P3 土層断面状況 (南東から)



D区 SI-29 P4 土層断面状況 (南東から)



D区 SI-29 完掘 (南から)



D区 SI-29 カマド (南から)



D区 SI-43 土層堆積状況 (南から)



D区 SI-43 完掘 (南東から)



D区 SI-10 柱痕確認状況 (南西から)



D区 SI-10 P4 石出土状況 (南西から)



D区 SB-10 P2 土層断面状況 (南から)



D区 SB-10 完掘 (南から)



D区 SB-19 柱痕確認状況 (東から)



D区 SB-19 P1 土層断面状況 (北西から)



D区 SB-19 P4 土層断面状況 (西から)



D区 SB-19 P7 土層断面状況 (南東から)



D区 SB-19 P7 完掘 (南から)



D区 SB-27・SB-19 柱痕確認状況 (南から)



D区 SB-27 P9 土層断面状況 (南西から)



D区 SB-30・31・32 柱痕確認状況 (南東から)



D区 SB-30 P4 土層断面状況 (東から)



D区 SB-30 P6 土層断面状況 (西から)



D区 SB-30 P8 土層断面状況 (西から)



D区 SB-31 柱痕確認状況 (南から)



D区 SB-31 P1 完掘 (南から)



D区 SB-31 完掘 (南東から)



D区 SB-32 P6 土層断面状況 (南から)



D区 SB-32 完掘 (南東から)



D区 SB-34 柱痕確認状況 (南から)



D区 SB-35 P8 土層断面状況 (西から)



D区 SB-35 柱痕確認状況 (南から)



D区 SB-34 P10 土層断面状況 (西から)



D区 SB-36 柱痕確認状況 (南から)



D区 SB-37 柱痕確認状況 (西から)



D区 SB-37 P4 土層断面状況 (西から)



D区 SB-35・36・37 完掘 (南から)



D区 SB-39 柱痕確認状況 (西から)



D区 SB-39 P9 土層断面状況 (西から)



D区 SB-41 柱痕確認状況 (南西から)



D区 SB-42 P6 土層断面状況 (南東から)



D区 SD-1・3 土層堆積状況 (南東から)



D区 SK-20 完掘 (南西から)



D区 SK-33 土層堆積状況 (南東から)



D区 SK-33 完掘 (東から)



D区 SK-44 土層堆積状況 (東から)



D区 SK-45 土層堆積状況 (南から)



D区 SK-46 完掘 (南から)



D区 調査風景 (南から)



D区 SI-14 周辺全景 (西から)



D区 SI-29 周辺全景 (西から)



E区 SI-4 土層堆積状況 (北東から)



E区 SI-4 カマド (南東から)



E区 SI-4 完掘 (南東から)



E区 SI-9 土層堆積状況・完掘 (西から)



E区 SI-10 カマド (南東から)



E区 SI-11 カマド (南東から)



E区 SI-11 完掘 (南東から)



E区 SI-12 土層堆積状況 (南東から)



E区 SI-12 遺物出土状況 (北東から)



E区 SI-12 遺物出土状況 (北西から)



E区 SI-12 カマド遺物出土状況 (北西から)



E区 SI-12 完掘 (南から)



E区 SI-15 カマド掘方 (南から)



E区 SI-29 カマド遺物出土状況 (西から)



E区 SI-29 カマド掘方 (西から)



E区 SI-29 完掘 (西から)



E区 作業風景 (北から)



E区 SI-35 東カマド掘方 (西から)



E区 SI-43・SK-59・201 遺物出土状況 (西から)



E区 SI-43 カマド土層堆積状況 (南西から)



E区 SI-44 土層堆積状況 (北から)



E区 SI-44 カマド土層堆積状況 (南から)



E区 SI-44 遺物出土状況 (西から)



E区 SI-44 かわらけ出土状況 (北から)



E区 SI-44 カマド遺物出土状況 (南西から)



E区 SI-43・44・128 完掘 (東から)



E区 SI-49 土層堆積状況 (南東から)



E区 SI-49 土層堆積状況・完掘 (南から)



E区 SI-51 作業風景 (南から)



E区 SI-51 遺物出土状況 (南から)



E区 SI-51 北東部遺物出土状況 (南から)



E区 SI-51 西壁際遺物出土状況 (南から)



E区 SI-51 遺物出土状況(南から)



E区 SI-51 カマド遺物出土状況(南から)



E区 SI-51 カマド袖遺物出土状況(南から)



E区 SI-61 土層堆積状況(南から)



E区 SI-61 遺物出土状況(北西から)



E区 SI-61 カマド遺物出土状況(西から)



E区 SI-61 遺物出土状況(南から)



E区 SI-61 カマド掘方・SK-73 完掘(南西から)



E区 SI-64 土層堆積状況 (南西から)



E区 SI-64 遺物出土状況 (西から)



E区 SI-64 カマド袖遺物出土状況 (西から)



E区 SI-64 カマド掘方 (西から)



E区 SI-67 土層堆積状況 (南から)



E区 SI-67 刀装具出土状況 (南西から)



E区 SI-67 カマド土層堆積状況 (南から)



E区 SI-67 北カマド (南から)



E区 SI-67 東カマド土層堆積状況(北西から)



E区 SI-67 東カマド遺物出土状況(南から)



E区 SI-67 北カマド袖断割り状況(南から)



E区 SI-67 完掘(南から)



E区 SI-68 土層堆積状況(南から)



E区 SI-68 遺物出土状況(南東から)



E区 SI-68 完掘(南東から)



E区 SI-68 カマド掘方(南から)



E区 SI-72 土層堆積状況 (南から)



E区 SI-72 遺物出土状況 (南から)



E区 SI-72 東カマド遺物出土状況 (南から)



E区 SI-72 北カマド土層堆積状況 (西から)



E区 SI-72 北カマド遺物出土状況 (南西から)



E区 SI-72 東カマド土層堆積状況 (南から)



E区 SI-72 調査風景 (南東から)



E区 SI-72 完掘 (南西から)



E区 SI-72 北カマド掘方 (南から)



E区 SI-74 土層堆積状況 (南から)



E区 SI-74 完掘 (南から)



E区 SI-74・75 周辺全景 (西から)



E区 SI-75 土層堆積状況 (南から)



E区 SI-75 カマド土層堆積状況 (東から)



E区 SI-75 遺物出土状況 (南から)



E区 SI-75 南西部遺物出土状況 (南東から)



E区 SI-75 南西部遺物出土状況 (西から)



E区 SI-75 中央部遺物出土状況 (南から)



E区 SI-75 完掘 (西から)



E区 SI-75 カマド掘方 (南から)



E区 SI-76 土層堆積状況 (北西から)



E区 SI-76 カマド遺物出土状況 (南西から)



E区 SI-77 土層堆積状況 (南から)



E区 SI-77 遺物出土状況 (南から)



E区 SI-77 カマド遺物出土状況(西から)



E区 SI-77 カマド遺物出土状況(西から)



E区 SI-77・84 完掘(西から)



E区 SI-78 遺物出土状況(北西から)



E区 SI-78 北東部遺物出土状況(南から)



E区 SI-78 遺物出土状況(南西から)



E区 SI-78 カマド遺物出土状況(西から)



E区 SI-78 掘方完掘(北西から)



E区 SI-84 土層堆積状況 (南から)



E区 SI-84 遺物出土状況 (西から)



E区 SI-84 北東部遺物出土状況 (南西から)



E区 SI-84 旧カマド掘方 (南から)



E区 SI-84 新カマド土層堆積状況 (東から)



E区 SI-84 新カマド (南から)



E区 SI-84 完掘 (西から)



E区 SI-86 土層堆積状況 (東から)



E区 SI-86 完掘 (南から)



E区 SI-86 カマド土層堆積状況 (東から)



E区 SI-87 土層堆積状況 (東から)



E区 SI-87 遺物出土状況 (南から)



E区 SI-87 東カマド土層堆積状況 (東から)



E区 SI-87 東カマド土層堆積状況 (東から)



E区 SI-87 北カマド土層堆積状況 (東から)



E区 SI-87 北カマド遺物出土状況 (東から)



E区 SI-87 東カマド石出土状況(南から)



E区 SI-87 完掘(南から)



E区 SI-89 土層堆積状況(南から)



E区 SI-89 遺物出土状況(東から)



E区 SI-89 カマド遺物出土状況(南から)



E区 SI-92 土層堆積状況(北から)



E区 SI-92 カマド①土層堆積状況(東から)



E区 SI-92 カマド②土層堆積状況(東から)



E区 SI-92 カマド②土層堆積状況(南から)



E区 SI-92 カマド③煙出部分(南から)



E区 SI-92 カマド③土層堆積状況(西から)



E区 SI-92 カマド③土層堆積状況(北から)



E区 SI-92 カマド③煙出部分(南から)



E区 SI-92 遺物出土状況(東から)



E区 SI-92 鉄製品出土状況(西から)



E区 SI-92 カマド③遺物出土状況(西から)



E区 SI-92 カマド① (南から)



E区 SI-92 カマド② (南から)



E区 SI-92 カマド②掘方 (南から)



E区 SI-92 カマド③袖断割り (西から)



E区 SI-92 カマド③ (西から)



E区 SI-92 カマド③ (南から)



E区 SI-92 カマド③ (北西から)



E区 SI-92 カマド③煙道内土層堆積状況 (北から)



E区 SI-92 カマド③煙道内土層堆積状況(北西から)



E区 SI-92 カマド③煙道(西から)



E区 SI-92 カマド③煙道(南から)



E区 SI-92 カマド③煙道(北西から)



E区 SI-92 カマド③煙道石(西から)



E区 SI-92 カマド③掘方(西から)



E区 SI-92 完掘(南から)



E区 SI-92 完掘(北西から)



E区 SI-115 土層堆積状況・完掘 (北から)



E区 SI-128 土層堆積状況 (南から)



E区 SI-128 完掘 (東から)



E区 SB-69 柱痕確認状況 (南から)



E区 SB-69 P1 土層断面状況 (西から)



E区 SB-69 P4 土層断面状況 (北から)



E区 SB-69 P5 土層断面状況 (東から)



E区 SB-69 P7 土層断面状況 (南から)



E区 SB-69 P8 土層断面状況 (西から)



E区 SB-69 P9 土層断面状況 (西から)



E区 SB-69 P10 土層断面状況 (西から)



E区 SB-69 完掘 (東から)



E区 SB-139 柱痕確認状況 (東から)



E区 SB-139 P1 土層断面状況 (南から)



E区 SB-139 P2 土層断面状況 (東から)



E区 SB-139 P3 土層断面状況 (東から)



E区 SB-139 P4 土層断面状況 (南東から)



E区 SB-139 P7 完掘 (南から)



E区 SB-139 P8 土層断面状況 (南西から)



E区 SB-139 P9 土層断面状況 (南西から)



E区 SB-139 完掘 (東から)



E区 SB-139 全景 (西から)



E区 SB-183 P3 土層断面状況 (東から)



E区 SB-183 完掘 (南から)



E区 SB-183 全景(北から)



E区 SB-185 P3 完掘(北東から)



E区 SB-185 P4 遺物出土状況(南西から)



E区 SB-185 P5 完掘(南西から)



E区 SB-185 P9 完掘(南から)



E区 SB-185 P10 完掘(西から)



E区 SB-185 完掘(北から)



E区 SB-185 全景(北から)



E区 SD-3 遺物出土状況 (北西から)



E区 SD-3 完掘 (南東から)



E区 SK-2 遺物出土状況 (西から)



E区 SK-2 遺物出土状況 (東から)



E区 SK-2 作業風景 (南西から)



E区 SK-2 遺物出土状況 (北東から)



E区 SK-2 土層堆積状況 (東から)



E区 SK-2 遺物出土状況 (北東から)



E区 SK-2 遺物出土状況(東から)



E区 SK-2 底面ビット土層堆積状況(西から)



E区 SK-2 底面ビット完掘(南から)



E区 SK-2 作業風景(南西から)



E区 SK-2 完掘(南西から)



E区 SK-36 土層堆積状況(東から)



E区 SK-36 作業風景(東から)



E区 SK-36 底面ビット土層堆積状況(南から)



E区 SK-36 完掘 (西から)



E区 SK-83 土層堆積状況 (南西から)



E区 SK-83 遺物出土状況 (南から)



E区 SK-83 遺物出土状況 (北から)



E区 SK-83 底面ビット土層堆積状況 (南東から)



E区 SK-83 完掘 (東から)



E区 SK-83 底面ビット完掘 (南から)



E区 SK-5・6 完掘 (南西から)



E区 SK-13 遺物出土状況 (南西から)



E区 SK-19 遺物出土状況 (西から)



E区 SK-22 土層堆積状況 (南東から)



E区 SK-22 完掘 (西から)



E区 SK-24 遺物出土状況 (南から)



E区 SK-30・31 遺物出土状況 (東から)



E区 SK-31 遺物出土状況 (南から)



E区 SK-32 土層堆積状況 (東から)



E区 SK-33 完掘・34 遺物出土状況 (南から)



E区 SK-37 完掘 (南から)



E区 SK-38 完掘 (南から)



E区 SK-40 完掘 (南西から)



E区 SK-41 完掘 (南から)



E区 SK-47 完掘 (南から)



E区 SK-52・53 完掘 (南西から)



E区 SK-55 土層堆積状況 (南から)



E区 SK-56 土層堆積状況 (南から)



E区 SK-59 土層堆積状況 (南から)



E区 SK-62 完掘 (南から)



E区 SK-73 完掘 (南から)



E区 SK-82 土層堆積状況 (北東から)



E区 SK-82 完掘 (東から)



E区 SK-88 土層堆積状況 (南西から)



E区 SK-88 粘土出土状況 (南から)



E区 SK-88 完掘 (南西から)



E区 SK-90 完掘 (南から)



E区 SK-93 遺物出土状況 (西から)



E区 SK-94 完掘 (南から)



E区 SK-96 完掘 (東から)



E区 SK-97 完掘 (南から)



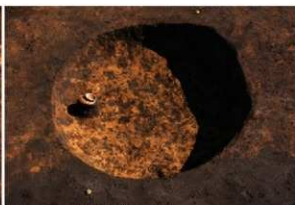
E区 SK-106 遺物出土状況 (南から)



E区 SK-107 完掘 (南から)



E区 SK-114 完掘 (東から)



E区 SK-124 遺物出土状況 (西から)



E区 SK-124 完掘 (南から)



E区 SK-126 土層堆積状況 (南から)



E区 SK-129 土層堆積状況 (東から)



E区 SK-137 土層堆積状況 (東から)



E区 SK-143 完掘 (南から)



E区 SK-147 完掘 (南から)



E区 SK-150 完掘 (東から)



E区 SK-153 完掘 (東から)



E区 SK-155 完掘 (南から)



E区 SK-158 土層堆積状況 (東から)



E区 SK-165 完掘 (西から)



E区 SK-166・167 完掘 (南東から)



E区 SK-178 完掘 (南から)



E区 SI-43内 SK-184 土層堆積状況 (東から)



E区 SK-184 完掘 (西から)



E区 SX-63 完掘 (南から)



E区 P-138 土層堆積状況・完掘 (南西から)



F区 SK-1 完掘 (南東から)



F区 SK-2 遺物出土状況 (南から)



F区 SK-3 完掘 (東から)



F区 SK-4 完掘 (南から)



F区 SK-6 土層堆積状況 (南西から)



F区 SK-7 完掘 (南西から)



F区 表土除去作業 (北西から)



F区 北区全景 (東から)



G区 谷部サブレンチ土層堆積状況 (東から)



G区 SI-1 土層堆積状況 (西から)



G区 SI-1 カマド (西から)



G区 SI-1 カマド遺物出土状況 (北西から)



G区 SI-1 完掘 (西から)



G区 SI-2 土層堆積状況 (南から)



G区 SI-2 遺物出土状況 (南から)



G区 SI-2 遺物出土状況 (南から)



G区 SI-2 完掘 (南から)



G区 SI-2 カマド袖断割り (南から)



G区 SI-2 カマド掘方 (南東から)



G区 SI-2 焼土痕確認状況 (東から)



G区 SI-3 遺物出土状況 (南西から)



G区 SI-3 P1 遺物出土状況 (南東から)



G区 SI-3 完掘 (北西から)



G区 SI-4 土層堆積状況 (南から)



G区 SI-4 遺物出土状況 (南から)



G区 SI-4 遺物出土状況 (東から)



G区 SI-4 遺物出土状況 (南から)



G区 SI-4 カマド遺物出土状況 (東から)



G区 SI-4 カマド遺物出土状況 (南から)



G区 SI-4 カマド袖断割り (南から)



G区 SI-4 カマド袖芯材 (南から)



G区 SI-5・SK-7 切り合い状況 (北東から)



G区 SI-5 土層堆積状況 (西から)



G区 SI-5 遺物出土状況 (北西から)



G区 SI-5 カマド土層堆積状況 (東から)



G区 SI-5 カマド遺物出土状況 (北から)



G区 SI-5 完掘 (北西から)



G区 SI-6 土層堆積状況（西から）



G区 SI-6 遺物出土状況（西から）



G区 SI-6 カマド土層堆積状況（南東から）



G区 SI-6 遺物出土状況（西から）



G区 SI-6 カマド掘方（西から）



G区 SI-8a 土層堆積状況（南から）



G区 SI-8a カマド確認状況（西から）



G区 SI-8a カマド土層堆積状況（西から）



G区 SI-8b 土層堆積状況 (南から)



G区 SI-8b 完掘 (北東から)



G区 SI-8a・b 周辺 (南西から)



G区 SI-38 遺物出土状況 (南西から)



G区 SI-38 遺物出土状況 (北から)



G区 SI-38 カマド (南から)



G区 SI-40 土層堆積・遺物出土状況 (南東から)



G区 SI-40・41 切り合い状況 (東から)



G区 SI-40 遺物出土状況 (西から)



G区 SI-40 遺物出土状況 (北から)



G区 SI-40 南壁遺物出土状況 (北西から)



G区 SI-40 遺物出土状況 (西から)



G区 SI-40 P1 土層堆積状況 (北から)



G区 SI-40 完掘 (北から)



G区 SI-41 土層堆積状況 (西から)



G区 SI-41 遺物出土状況 (西から)



G区 SI-41 遺物出土状況 (西から)



G区 SI-41 遺物出土状況 (西から)



G区 SI-41 カマド土層堆積状況 (西から)



G区 SI-41 カマド土層堆積状況 (南から)



G区 SI-41 完掘 (西から)



G区 SI-41 カマド遺物出土状況 (西から)



G区 SI-41 カマド遺物出土状況 (東から)



G区 SI-42・SD-45 土層堆積状況 (南から)



G区 SI-42 炭化材出土状況 (西から)



G区 SI-42 炭化材出土状況 (東から)



G区 SI-42 完掘 (北東から)



G区 SI-43 土層堆積状況 (南東から)



G区 SI-43 カマド土層堆積状況 (東から)



G区 SI-43 カマド遺物出土状況 (南から)



G区 SI-43 完掘 (南から)



G区 SI-43 旧カマド (南から)



G区 SI-44 土層堆積状況 (西から)



G区 SI-44 P1 土層断面状況 (南から)



G区 SI-44 P3 土層断面状況 (南から)



G区 SI-44 遺物出土状況 (南西から)



G区 SI-44 P3 粘土出土状況 (北西から)



G区 SI-44 カマド遺物出土状況 (南西から)



G区 SI-44 完掘 (南西から)



G区 SI-44 カマド遺物出土状況 (南西から)



G区 SI-44 カマド遺物出土状況 (南から)



G区 SI-44 カマド掘方 (南西から)



G区 SI-40・41・43・44 全景 (西から)



G区 SI-46 土層堆積状況 (東から)



G区 SI-46 カマド土層堆積状況 (南から)



G区 SI-46 遺物出土状況 (南から)



G区 SI-47 土層堆積状況 (西から)



G区 SI-47 P1 底面 (南から)



G区 SI-47 発掘 (西から)



G区 SI-71 カマド掘方 (西から)



G区 SI-71・72 土層堆積状況 (東から)



G区 SI-72 土層堆積状況 (南から)



G区 SI-72 遺物出土状況 (東から)



G区 SI-72 遺物出土状況 (南から)



G区 SI-72 遺物出土状況 (西から)



G区 SI-72 カマド遺物出土状況 (南から)



G区 SI-72 P2・3完掘 (南から)



G区 SI-72完掘 (南から)



G区 SI-73 土層堆積・遺物出土状況 (東から)



G区 SI-73 貯蔵穴・P2 土層堆積状況 (南から)



G区 SI-73 遺物出土状況 (南東から)



G区 SI-73 遺物出土状況 (南から)



G区 SI-73 遺物出土状況 (東から)



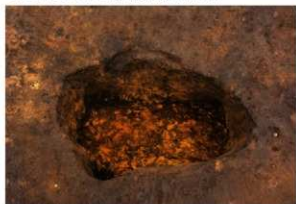
G区 SI-73 カマド遺物出土状況 (東から)



G区 SI-73 カマド土層堆積状況 (東から)



G区 SB-79 P2 (東から)



G区 SB-79 P2 完掘 (西から)



G区 SD-20・24 土層堆積状況 (東から)



G区 SD-20・24・74 土層堆積状況 (東から)



G区 SD-20・24・74 完掘 (東から)



G区 SD-25 完掘 (東から)



G区 SD-25 完掘 (西から)



G区 SD-45 土層堆積状況 (北西から)



G区 SD-45 完掘 (南東から)



G区 SD-74 土層堆積状況 (南から)



G区 SD-74 完掘 (南東から)



G区 SD-75 土層堆積状況 (東から)



G区 SD-75・SK-76 完掘 (北から)



G区 SK-7 焼土確認状況 (南西から)



G区 SK-17 土層堆積状況 (南から)



G区 SK-19 完掘 (南から)



G区 SK-19 底面アッブ (北西から)



G区 SK-26・27 土層堆積状況 (南東から)



G区 SK-29 土層堆積状況 (南から)



G区 SK-36 完掘 (北東から)



G区 SK-51 土層堆積状況 (南から)



G区 SK-52 遺物出土状況 (東から)



G区 SK-53 P-49・50・55 完掘 (南西から)



G区 SK-54 完掘 (西から)



G区 SK-55 完掘 (東から)



G区 SK-56 完掘 (北西から)



G区 SK-57 遺物出土状況 (東から)



G区 SK-57 遺物出土状況 (東から)



G区 SK-76 土層堆積状況 (西から)



G区 SK-77 土層堆積状況・完掘 (西から)



G区 SK-81 完掘 (北から)



G区 SK-85 土層堆積状況 (南から)



G区 重機表土除去 (西から)



G区 作業風景 (東から)



H-1区 西端谷部土層堆積状況 (南西から)



H-2区 確認状況 (北東から)



H-1区 東端南北トレンチ完掘 (南から)



H区 SI-5 土層堆積状況 (南東から)



H区 SI-5 遺物出土状況 (東から)



H区 SI-5 貼床土層堆積状況（南東から）



H区 SI-8 土層堆積状況（東から）



H区 SI-8 硬化部分（南西から）



H区 SI-8 完掘（北から）



H区 SI-10 粘土出土状況（南西から）



H区 SI-10 土層堆積状況（北西から）



H区 SI-10 遺物出土状況（南西から）



H区 SI-10 石製模造品出土状況（北西から）



H区 SI-10・11 完掘（南西から）



H区 SI-13 作業風景（南西から）



H区 SI-13 遺物出土状況（南西から）



H区 SI-13 遺物出土状況（東から）



H区 SI-13 遺物出土状況（北東から）



H区 SI-13 遺物出土状況（北西から）



H区 SI-13 完掘（西から）



H区 SI-14 土層堆積状況・完掘（北西から）



H区 SI-17 遺物出土状況 (南西から)



H区 SI-19 遺物出土状況 (西から)



H区 SI-19 遺物出土状況 (北西から)



H区 SI-19 遺物出土状況 (北から)



H区 SI-19 完掘 (西から)



H区 SI-21 遺物出土状況 (西から)



H区 SI-21 カマド (南から)



H区 SI-21 カマド掘方 (西から)



H区 SI-21・SK-34 完掘（西から）



H区 SI-27 遺物出土状況（北西から）



H区 SI-27 遺物出土状況（南西から）



H区 SI-27 完掘（南西から）



H区 SI-29 土層堆積状況（北西から）



H区 SI-29 遺物出土状況（北西から）



H区 SI-29 遺物出土状況（北から）



H区 SI-29 遺物出土状況（北西から）

図版七四
遺構 (H区)



H区 SD-9 土層堆積状況 (北西から)



H区 SD-9 遺物出土状況 (南西から)



H区 SD-28・SI-29 遺物出土状況 (西から)



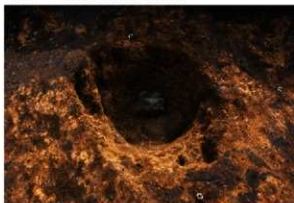
H区 SD-30 土層堆積状況 (東から)



H区 SK-34 土層堆積状況 (西から)



H区 SK-34 完掘 (南西から)



H区 SK-4 石出土状況 (北西から)



H区 SK-22・23・24・25 完掘 (西から)



H区 SK-25 土層堆積状況（西から）



H区 SK-26 土層堆積状況・完掘（西から）



H-1区 全景（南西から）



H-1区 全景（北東から）



SD-53・H-2区 土層堆積状況・完掘（南東から）



I-1区 全景（南東から）



I区 SI-1 土層堆積状況（東から）



I区 SI-1 遺物出土状況（南東から）



I区 SI-1 遺物出土状況(東から)



I区 SI-1 カマド遺物出土状況(南東から)



I区 SI-1 カマド土層堆積状況(南東から)



I区 SI-1 掘方土層堆積状況(東から)



I区 SK-2 完掘(南東から)



I-2区 トレンチ作業風景(北西から)



I-2区 全景(南東から)



J区 SD-1 完掘(北東から)



J-2区 遺構確認状況（南東から）



J区 SD-2 土層堆積状況（南西から）



J区 SD-3 完掘（南東から）



J区 SD-5 完掘（北東から）



J区 SD-6・7 完掘（南西から）



J区 SK-4 完掘（北東から）



J-3区 トレンチ掘削（南東から）



J-3区 遺構確認状況（北西から）



J区 SD-9 土層堆積状況（南東から）



J区 SD-8・9 完掘（北東から）



J区 SD-10 完掘（北東から）



J-4区 遺構確認状況（北西から）



K区 土層堆積状況（南東から）



K区 全景（南東から）



L区 SI-1 土層堆積状況・完掘（南西から）



L区 SI-2 完掘（西から）



L区 SI-7 土層堆積状況・完掘（北東から）



L区 SI-12 土層堆積状況・完掘（北東から）



L区 SI-13 土層堆積状況・完掘（南西から）



L区 SI-15 土層堆積状況・完掘（南西から）



L区 SI-18 土層堆積状況・完掘（北東から）



L区 SI-18 紡錘車出土状況（東から）



L区 SI-18 カマド（北東から）



L区 SI-24 完掘（南東から）



L区 SI-25 遺物出土状況 (西から)



L区 SI-25 遺物出土状況 (南西から)



L区 SI-25 土層堆積状況・遺物出土状況 (南西から)



L区 SI-26 土層堆積状況・遺物出土状況 (北東から)



L区 SI-29 土層堆積状況・完掘 (南西から)



L区 SI-34 土層堆積状況・遺物出土状況 (北東から)



L区 SI-34 遺物出土状況 (北東から)



L区 SI-38 遺物出土状況 (南から)



L区 SI-38 遺物出土状況（北東から）



L区 SI-39・40 完掘（北東から）



L区 SI-42・SK-37 土層堆積状況・完掘（南西から）



L区 SB-43 柱痕確認状況（南西から）



L区 SD-6 土層堆積状況・完掘（北東から）



L区 SD-10 土層堆積状況・完掘（北東から）



L区 SD-10 集石出土状況（東から）



L区 SD-10 完掘（東から）



L区 SD-17 土層堆積状況 (東から)



L区 SD-17 完掘 (南東から)



L区 SD-19・SK-20 土層堆積状況・完掘 (北東から)



L区 SK-41 土層堆積状況・完掘 (北東から)



L区 SK-16 土層堆積状況・完掘 (北東から)



L区 SK-21 土層堆積状況・完掘 (西から)



L区 SK-23 土層堆積状況 (北東から)



L区 SK-33 土層堆積状況・完掘 (北東から)



L区 SK-36 土層堆積状況・完掘（南西から）



L-1区 全景（北西から）



L-2区 全景（南東から）



M区 5区谷部サブレンチ土層堆積状況（西から）



M区 SI-2 遺物出土状況（西から）



M区 SI-2 遺物出土状況（南西から）



M区 SI-2 紡錘車出土状況（北から）



M区 SI-2 遺物出土状況（北から）



M区 SI-2・SK-1 完掘 (南西から)



M区 SI-3 遺物出土状況 (北西から)



M区 SI-4 遺物出土状況 (南西から)



M区 SI-3・4 完掘 (南東から)



M区 SI-5 完掘 (南東から)



M区 SI-6 完掘 (南東から)



M区 SI-8 完掘 (南から)



M区 SI-9 遺物出土状況 (北西から)



M区 SI-9 遺物出土状況 (南西から)



M区 SI-10 粘土出土状況 (西から)



M区 SI-12 遺物出土状況 (南東から)



M区 SI-13 貯蔵穴 P2 土層断面状況 (東から)



M区 SI-12・SD-11 完掘 (南東から)



M区 SI-13・SK-14 土層堆積状況 (南東から)



M区 SI-13・SK-14 完掘 (南から)



M区 SI-15 周辺全景 (南東から)



M区 SI-21 遺物出土状況 (西から)



M区 SI-21 遺物出土状況 (南から)



M区 SI-21 間仕切り溝 (西から)



M区 SI-21 完掘 (西から)



M区 SI-24 遺物出土状況 (南から)



M区 SI-24 遺物出土状況 (東から)



M区 SI-24 カマド確認状況 (南から)



M区 SI-24 カマド (南から)



M区 SI-24 完掘 (南東から)



M区 SI-25 遺物出土状況 (東から)



M区 SI-25 置きカマド出土状況 (南東から)



M区 SI-25 完掘 (北から)



M区 SI-26 完掘 (北西から)



M区 SI-26 掘方完掘 (南から)



M区 SI-26 完掘 (南から)



M区 SI-27 南部土層堆積状況 (南西から)



M区 SI-27 遺物出土状況 (西から)



M区 SI-27 中央部炭化材出土状況 (北から)



M区 SI-27 北部土層堆積状況 (南西から)



M区 SI-27 遺物出土状況 (南西から)



M区 SI-28 遺物出土状況 (南東から)



M区 SI-28 遺物出土状況 (東から)



M区 SI-28 完掘 (北西から)



M区 SI-31・SK-32 遺物出土状況 (南東から)



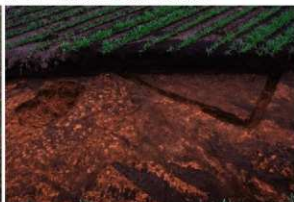
M区 SI-31 炭化材出土状況 (西から)



M区 SI-31 炭化材出土状況 (北東から)



M-2区全景 (南東から)



M区 SI-34・SK-35 完掘 (南西から)



M区 SI-36 遺物出土状況 (南東から)



M区 SI-36a 遺物出土状況 (南西から)



M区 SI-36a 遺物出土状況 (南西から)



M区 SI-36a 炭化材出土状況 (南西から)



M区 SI-36b 遺物出土状況 (北から)



M区 SI-36 完掘 (北西から)



M区 SK-29 粘土出土状況 (北東から)



M区 SK-29・30 遺物出土状況 (北東から)



M区 SK-32 土層堆積状況 (東から)



M区 SK-32 粘土出土状況 (南から)



M区 SK-32 完掘 (北から)



M区 SD-7 完掘 (西から)



M区 SD-17 完掘（南東から）



M区 SD-23 完掘（南東から）



M区 SD-33 完掘（西から）



M区 SD-37 全景（南東から）



M区 SK-14 土層堆積状況（北東から）



M区 表土除去作業（北西から）



M区 埋没谷（南から）



O区 SK-1 土層堆積状況（西から）



O区 SK-1 完掘 (西から)



O区 SK-3・4・9 土層堆積状況 (南東から)



O区 SK-3・4・9 完掘 (南西から)



O区 SD-20 完掘 (南東から)



O区 SK-2 完掘 (西から)



O区 SK-5・6・8 完掘 (南西から)



O区 SK-6 土層堆積状況 (東から)



O区 SK-8 土層堆積状況 (南から)



O区 SK-12・14・15 土層堆積状況（南から）



O区 SK-12～17 完掘（東から）



O区 SK-26・27 土層堆積状況（北西から）



O区 SK-26・27 完掘（南東から）



O区 SK-29 土層堆積状況（北から）



O区 SK-29 完掘（北から）



O区 下段全景（北西から）



P区 SI-5 土層堆積状況（西から）



P区 SI-10 カマド土層堆積状況 (南西から)



P区 SI-11 カマド土層堆積状況 (南西から)



P区 SI-19 土層堆積状況 (西から)



P区 SI-19 カマド (西から)



P区 SI-19 完掘 (西から)



P区 SI-21 完掘 (北西から)



P区 SI-21 カマド掘方 (西から)



P区 SI-27 カマド掘方 (西から)



P区 SI-28 カマド土層堆積状況 (北西から)



P区 SI-28 カマド掘方 (西から)



P区 SI-35 土層堆積状況 (南から)



P区 SI-35 完掘 (南から)



P区 SI-36 完掘 (西から)



P区 SI-37 土層堆積状況 (南東から)



P区 SI-37 遺物出土状況 (西から)



P区 SI-37 遺物出土状況 (西から)



P区 SI-37 カマド遺物出土状況 (西から)



P区 SI-39 土層堆積状況 (西から)



P区 SI-39 遺物出土状況 (南から)



P区 SI-39 完掘 (南から)



P区 SK-1 土層堆積状況 (南東から)



P区 SK-1 完掘 (東から)



P区 SK-1 完掘 (西から)



P区 SK-1 P1 完掘 (南から)



P区 SK-1 P2 完掘 (東から)



P区 SK-1 P2 完掘 (北東から)



P区 SK-6 土層堆積状況 (南から)



P区 SK-12 土層堆積状況 (南西から)



P区 SK-13 土層堆積状況 (南西から)



P区 SK-14 土層堆積状況 (南西から)



P区 SK-15 土層堆積状況 (南から)



P区 SK-15 完掘 (南東から)



P区 SK-16 土層堆積状況 (南から)



P区 SK-16 完掘 (北から)



P区 SK-22 土層堆積状況 (南から)



P区 SK-22 完掘 (南西から)



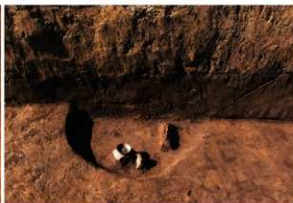
P区 SK-31 土層堆積状況・完掘 (北西から)



P区 SK-33・34 土層堆積状況 (南東から)



P区 SK-33・34 完掘 (南東から)



P区 SK-38 土層堆積・遺物出土状況 (北東から)



P区 作業風景 (南東から)



P区 作業風景 (南から)



P区 南部全景 (西から)



Q区 SI-2 土層堆積状況 (東から)



Q区 SI-2 カマド掘方 (南から)



Q区 SI-2 貯蔵穴土層堆積状況 (南から)



Q区 SI-2 貯蔵穴遺物出土状況 (東から)



Q区 SI-2 完掘 (南から)



Q区 SI-4 カマド (南から)



Q区 SI-4・SI-5 完掘 (南から)



Q区 SI-7 カマド掘方 (西から)



Q区 SI-7 完掘 (南西から)



Q区 SI-9 土層堆積状況 (南から)



Q区 SI-9 遺物出土状況 (東から)



Q区 SI-9 カマド (南から)



Q区 SI-9 完掘 (南から)



Q区 SI-10 土層堆積状況 (西から)



Q区 SI-10 完掘 (西から)



Q区 SI-12 遺物出土状況 (西から)



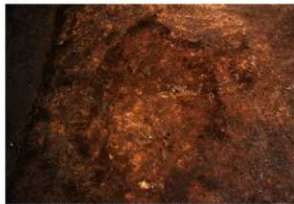
Q区 SI-12 完掘 (西から)



Q区 SI-12 カマド (西から)



Q区 SI-12 カマド掘方 (南西から)



Q区 SI-16 カマド完掘 (南東から)



Q区 SI-18 カマド完掘 (南東から)



Q区 SI-20 カマド (北西から)



Q区 SI-20 カマド土器出土状況 (北西から)



Q区 SI-20 カマド土器出土状況・アップ (西から)



Q区 SI-20 遺物出土状況 (北西から)



Q区 SI-21 カマド遺物出土状況 (南から)



Q区 SI-21 完掘 (南東から)



Q区 SI-21 カマド掘方 (南から)



Q区 SD-3 南壁土層堆積状況 (北から)



Q区SD-3完掘(南から)



Q区SD-6完掘(東から)



Q区SK-11完掘(北から)



Q区SK-13土層堆積状況(西から)



Q区SK-22土層堆積状況(東から)



Q区SK-22完掘(東から)



Q区SX-19土層堆積状況(西から)



Q区SX-19完掘(西から)



Q区全景 (北から)



Q区全景 (南東から)



R区 SK-1・2・SD-3 土層堆積状況 (北東から)



R区 SK-1・2・SD-3 土層堆積状況 (南西から)



R区 南全景 (東から)



R区 北全景 (北東から)



R区 南西壁土層堆積状況 (東から)



S区 SI-12・SK-6 土層堆積状況・完掘 (北東から)



S区 SI-12 遺物出土状況 (南東から)



S区 SI-12 カマド (南西から)



S区 SI-12 カマド掘方 (南西から)



S区 SI-12・SK-2・6・13 全景 (南西から)



S区 SK-7 土層堆積状況・完掘 (南から)



S区 SK-9 土層堆積状況 (北東から)



S区 SK-9 完掘 (南から)



S区 SD-5 完掘 (南東から)



S区 SD-11 完掘 (北から)



S区 SK-1 完掘 (南から)



S区 SK-4 土層堆積状況 (南東から)



S区 SK-6・13 土層堆積状況・完掘 (東から)



S区 SK-10 土層堆積状況 (南東から)



S区 全景 (南東から)



T区 SD-5 土層堆積状況 (北東から)



T区 SD-6 土層堆積状況 (北東から)



T区 SD-5・6 調査風景 (東から)



T区 SD-5・6 完掘 (北から)



T区 P-2 完掘 (南東から)



T区 P-3 完掘 (南東から)



T区 P-4 土層断面状況 (南東から)



T区 P-4 完掘 (南東から)



T区 全景 (南東から)



T区 全景 (北西から)



本沼大塚遺跡全景（北上空から）



本沼大塚現況（南西から）



塚土層断面（北西から）



塚東西土層断面（南から）



塚南北土層断面（東から）



塚南土層断面（南から）



塚上位南北土層断面南（東から）



SK-20 完掘（東から）



SK-21 完掘（南から）



1 トレンチ 掘削痕（北西から）



2 トレンチ 掘削痕（北から）



3 トレンチ 完掘（南東から）



SK-3 土層堆積状況（南東から）



SK-3 完掘（南東から）



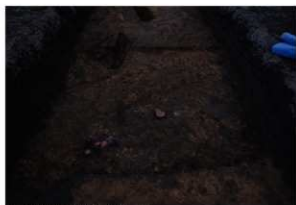
4 トレンチ 完掘（東から）



5 トレンチ 作業風景（南東から）



6 トレンチ 完掘（南から）



SI-1 遺物出土状況 (南から)



SI-1 カマド掘方 (南から)



SI-1 完掘 (南から)



SK-2 完掘 (西から)



7 トレンチ 掘削痕 (南西から)



SD-23 土層堆積状況 (南から)



SK-22 完掘 (南から)



作業風景 (南東から)







D-SI-14-14 · 刻書「一」



D-SI-14-15



D-SI-14-23



D-SI-14-24



D-SI-14-25



D-SI-14-33



D-SI-14-34



D-SI-14-36 · 刻書



D-SI-14-38



|



D-SI-14-46



D-SI-14-48



D-SI-14-41



D-SI-14-49



D-SI-14-50 · 墨書



D-SI-14-57



D-SI-14-58



D-SI-14-61



D-SI-14-68



D-SI-14-69



D-SI-14-72



D-SI-14-79



D-SI-14-80



D-SI-14-83



D-SI-14-81



D-SI-23-1



D-SI-23-2



D-SI-24-1



D-SI-24-2



D-SI-24-3



D-SI-24-4



D-SI-25-1



D-SI-25-3



D-SI-25-5 · 刻畫













E-SI-68-3



E-SI-68-4



E-SI-68-6



E-SI-68-7



E-SI-68-8



E-SI-68-9



E-SI-68-10



E-SI-68-11



E-SI-68-13



E-SI-68-14



E-SI-72-1



E-SI-72-2



E-SI-72-3



E-SI-72-4



E-SI-72-6 · 刻畫



E-SI-72-8



E-SI-75-1



E-SI-75-2



E-SI-75-3



E-SI-75-4



E-SI-75-5・刻書



E-SI-75-6



E-SI-75-8



E-SI-75-15



E-SI-75-9



E-SI-75-12



E-SI-76-2・墨書



E-SI-76-3



E-SI-76-4



E-SI-76-5



E-SI-77-1



E-SI-76-6



E-SI-76-7



E-SI-77-2



E-SI-77-4



E-SI-77-5



E-SI-77-8



E-SI-78-1・磨書



E-SI-78-2・磨書



E-SI-78-3



E-SI-78-9



E-SI-78-4



E-SI-78-8・刻書



E-SI-78-16



E-SI-84-3



E-SI-86-1・磨書



E-SI-86-2



E-SI-86-3・刻書



E-SI-87-4



E-SI-86-4



E-SI-86-5



E-SI-87-5





E-SK-2-16



E-SK-2-19



E-SK-2-20



E-SK-2-21・刻書



E-SK-2-22



E-SK-2-23



E-SK-2-24



E-SK-2-25



E-SK-2-26



E-SK-2-28



E-SK-2-29



E-SK-2-31



E-SK-2-33



E-SK-2-35



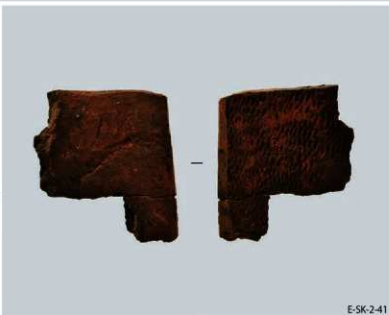
E-SK-2-39



E-SK-2-40



E-SK-36-2・墨書



E-SK-2-41



E-SK-36-4



E-SK-36-5



E-SK-83-1



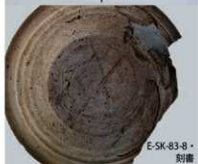
E-SK-83-3・墨書



E-SK-83-5・墨書



E-SK-83-7



E-SK-83-8・
刻書



E-SK-83-9



E-SK-83-10



E-SK-83-19・
靱圧痕



E-SK-83-22



E-SK-83-23



E-SK-83-19・
刻書



E-SK-83-27



E-SK-83-28



E-SK-83-33



E-SK-83-39



E-SK-13-4



E-SK-25-7



E-SK-30-10

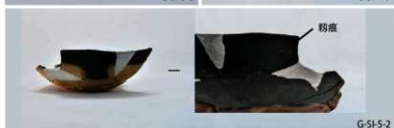


E-SK-31-12



E-SK-88-20









G-SI-44-4



G-SI-44-5



G-SI-44-6



G-SI-44-7



G-SI-44-8



G-SI-44-9



G-SI-44-17



G-SI-44-18



G-SI-44-19



G-SI-44-20



G-SI-44-21



G-SI-44-22



G-SI-44-25

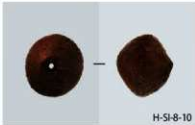


G-SI-46-1



G-SI-72-1







1



H-SI-13-7



H-SI-13-9



H-SI-13-12



H-SI-13-13



H-SI-17-1



H-SI-13-14



H-SI-19-1



H-SI-19-2



H-SI-19-3



H-SI-19-4



H-SI-13-16







H-SI-29-16



H-SI-29-17



H-SK-26-1



I-SI-1-6



I-2-SI-1-3



I-SI-1-5



J-3-SD-9-1









P-SI-19-1



P-SI-21-5



P-SI-21-10



P-SI-35-1・墨書



P-SI-35-2・墨書



P-SI-35-5・墨書



P-SI-35-6・墨書



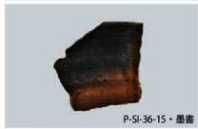
P-SI-35-8



|

後

P-SI-36-14・墨書



P-SI-36-15・墨書



P-SI-37-1



P-SI-37-2・墨書



P-SI-37-4・墨書



P-SI-37-8



P-SI-37-11・墨書



P-SI-37-8



P-SI-37-11・墨書



|



P-SI-37-12・墨書



P-SI-37-17





Q-SI-21-8



Q-SI-21-12



R-SK-1-2-SD-3-8 · 墨書



Q-SI-21-10



Q-SI-21-11



Q-SI-21-13



R-SK-1-2-SD-3-1



R-SK-1-2-SD-3-2 · 墨書



|

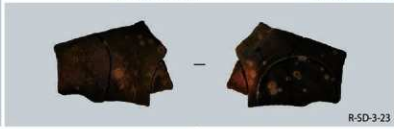
R-SK-1-2-SD-3-13 · 墨書



R-SK-1-2-SD-3-14



R-SK-1-2-SD-3-15



R-SD-3-23



R-SK-1-2 · SD-3-16



R-遺構外-1 · 墨書



R-遺構外-3 · 墨書



R-遺構外-5



R-遺構外-6・墨書



S-SI-12-1



S-SI-12-2



旧石器時代石器



A-縄文土器



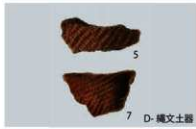
B-縄文土器



C-縄文土器



E-縄文土器



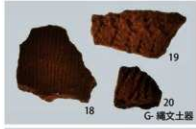
D-縄文土器



H-縄文土器



L-縄文土器



G-縄文土器



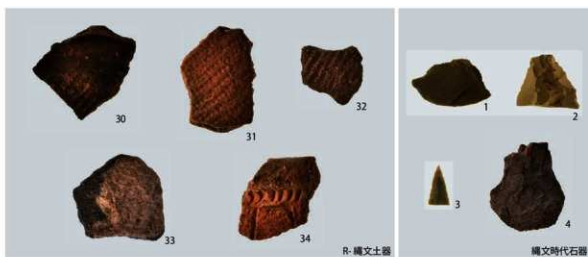
P-縄文土器



Q-縄文土器



M-縄文土器



R- 縄文土器

縄文時代石器

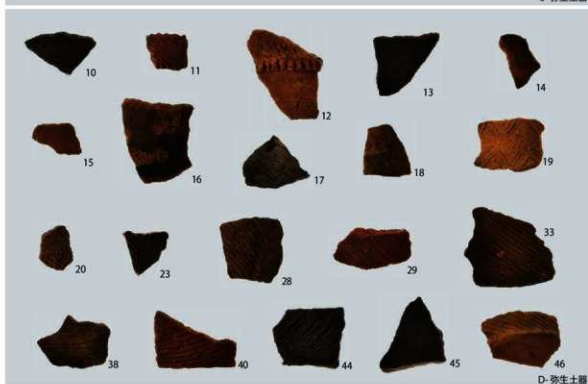


A- 弥生土器

B- 弥生土器



C- 弥生土器



D- 弥生土器









E-SI-92-31



E-SI-92-32



E-SI-128-8



E-SB-185-3



E-SK-40-27



E-SK-53-28



F-SK-9-3



G-SI-1-11



G-SI-6-10



G-SI-41-11



G-SD-25-1



G-SK-57-4



G-遺構外-2



H-SI-29-20



H-SI-29-19



H-遺構外-2



H-遺構外-3



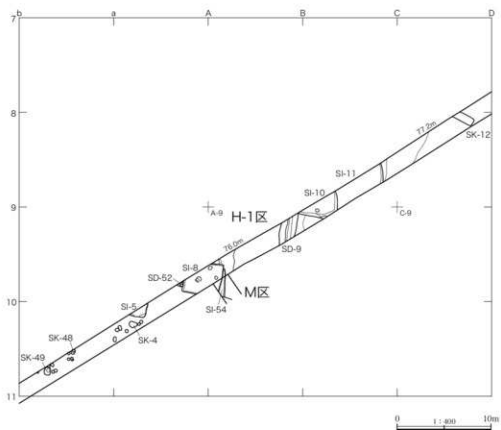
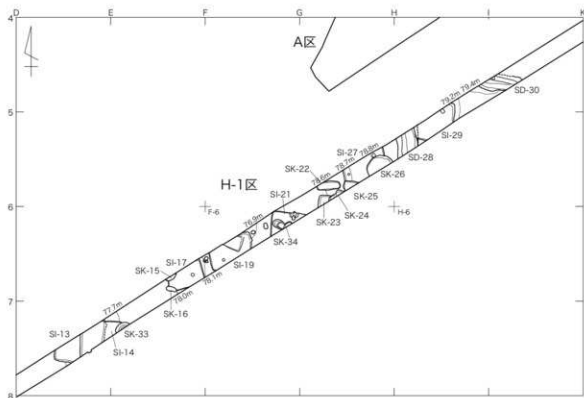
M-SI-36a-6 ~ 15



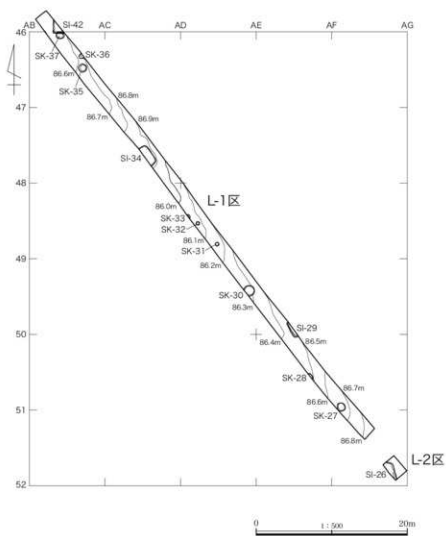
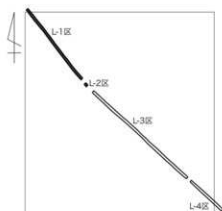
P-SK-38-3



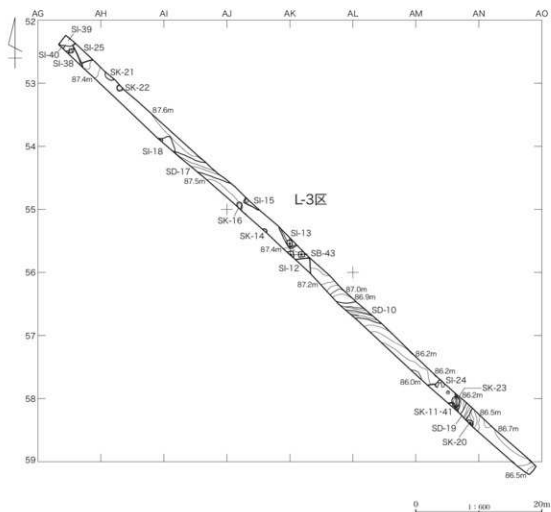
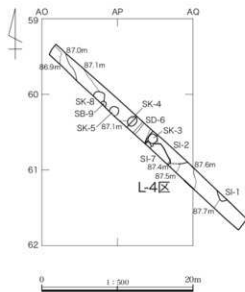
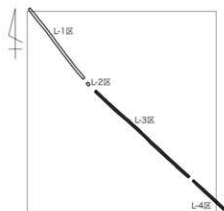
S-遺構外-2



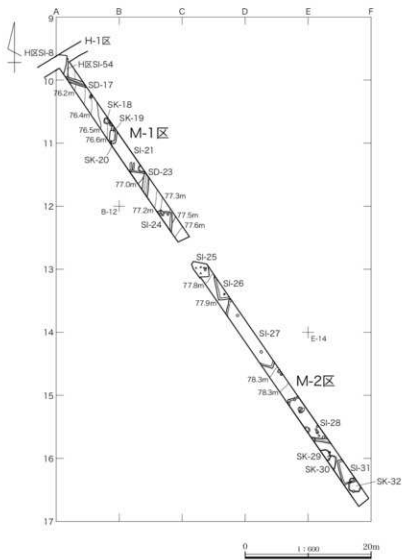
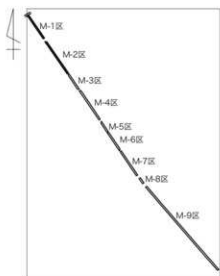
H-1 区拡大図



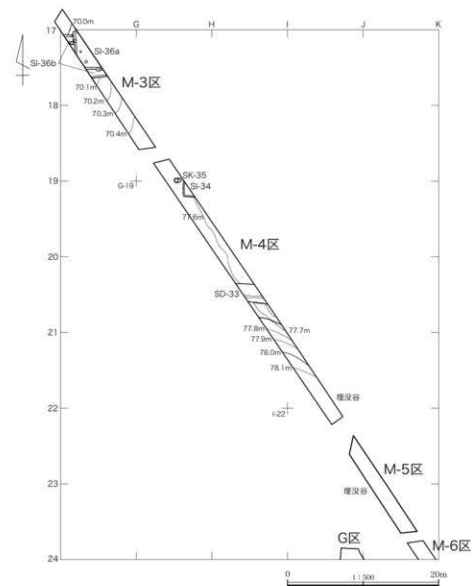
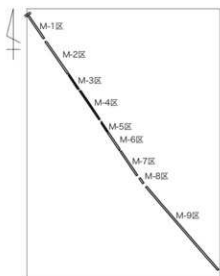
L-1・2区全体図



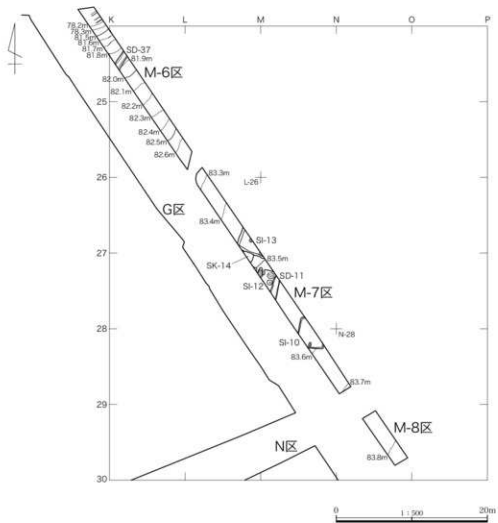
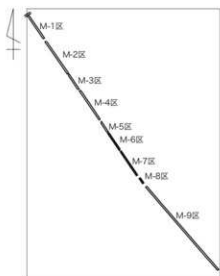
L-3・4区全体図



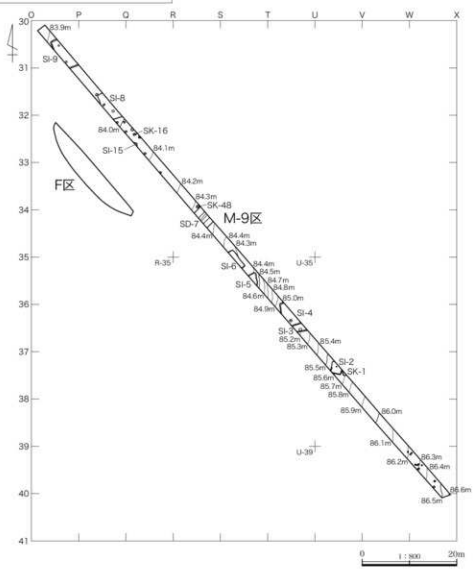
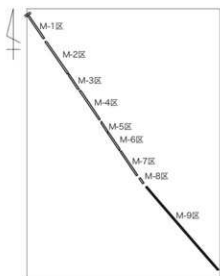
M-1-2 区全体図



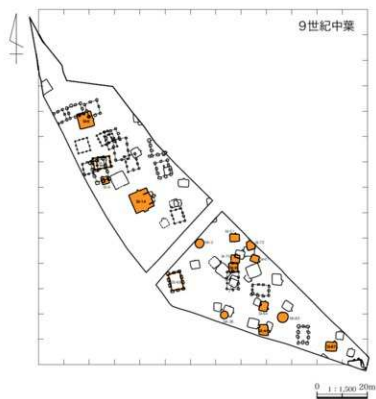
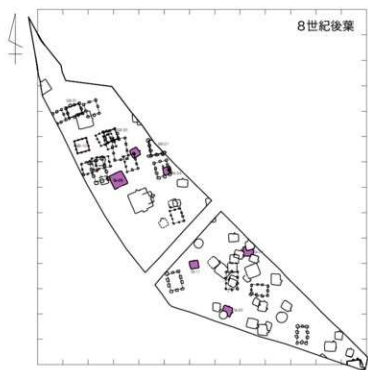
M-3・4・5 区全体図



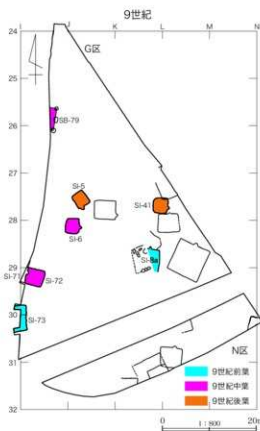
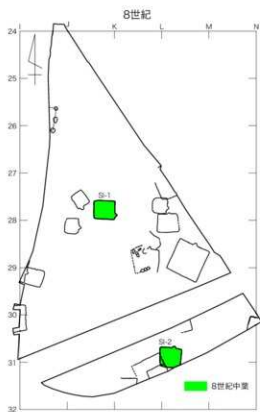
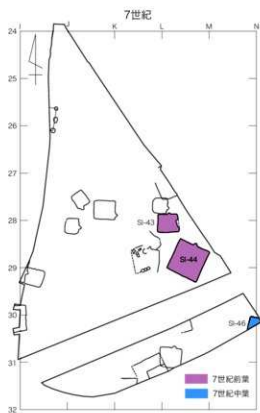
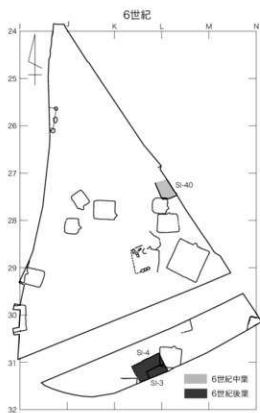
M-6・7・8区全体図



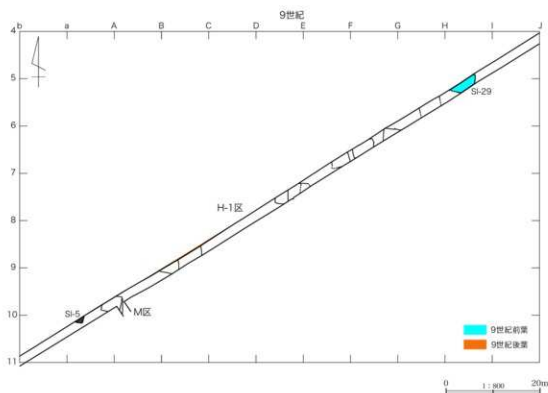
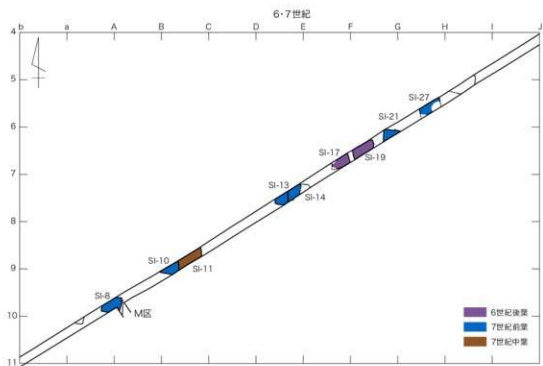
M-9区全体図



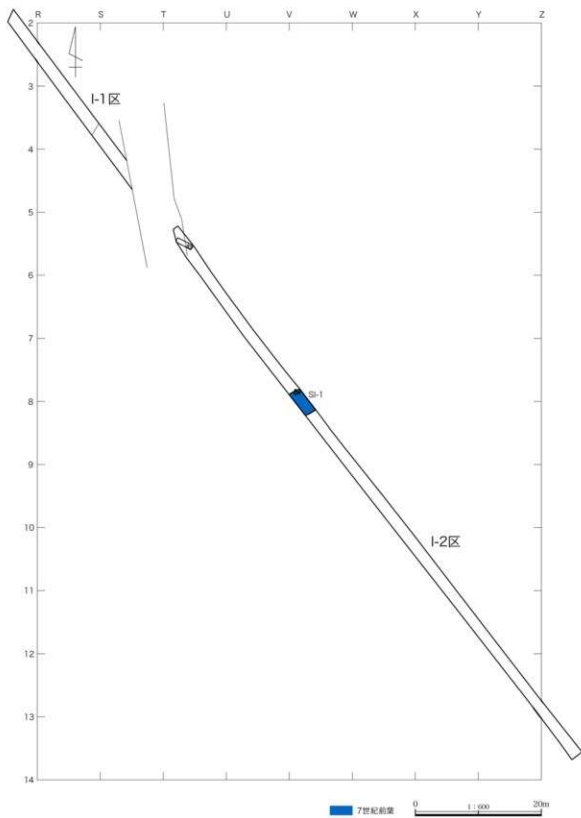
D・E区竪穴建物・掘立柱建物・円形有段遺構変遷図



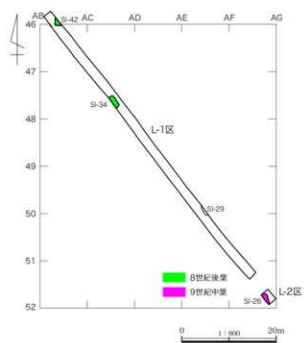
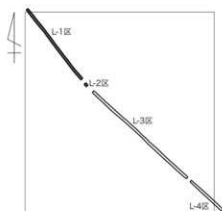
G区竪穴建物・掘立柱建物変遷図



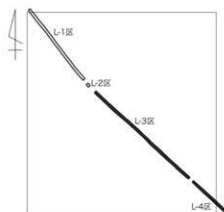
H-1区竪穴建物変遷図



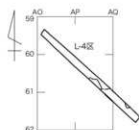
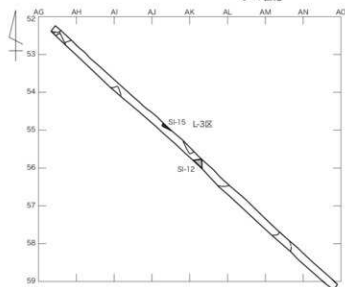
I区竪穴建物配置図



L-1・2区竪穴建物変遷図

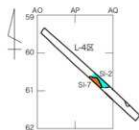
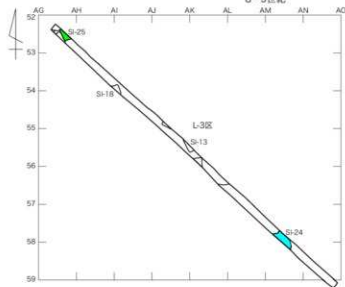


5~7世紀



5世紀
6世紀~7世紀

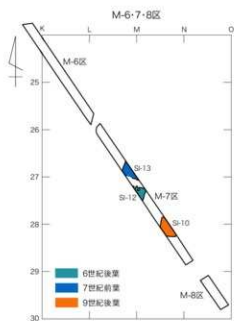
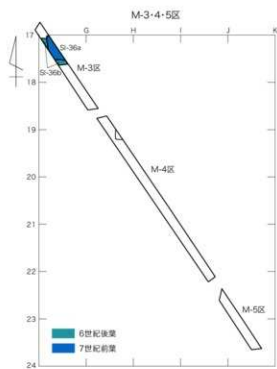
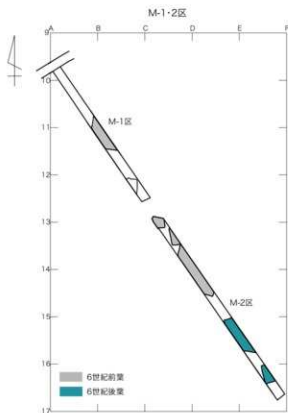
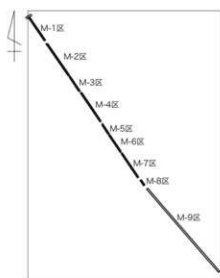
8・9世紀



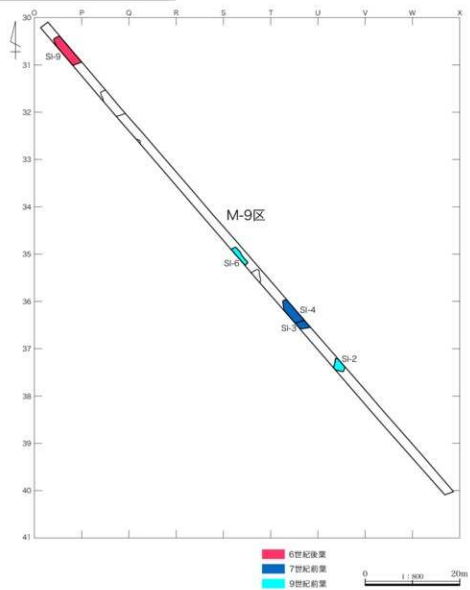
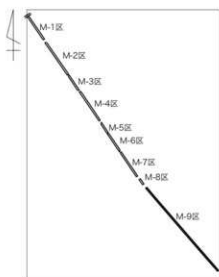
8世紀後葉
9世紀前葉
9世紀後葉

0 1000 2000

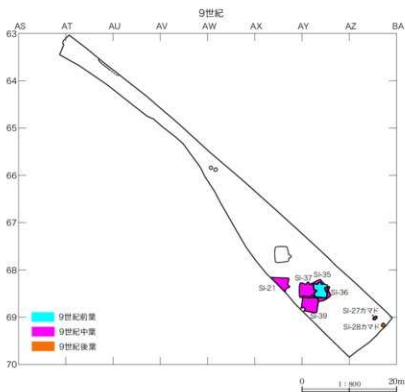
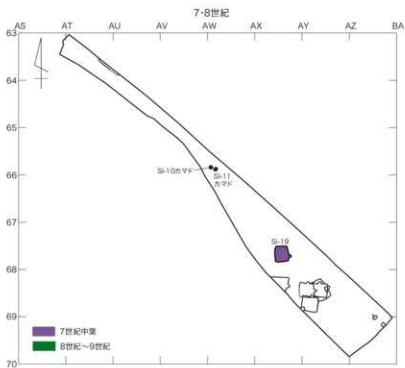
L-3・4 区竪穴建物変遷図



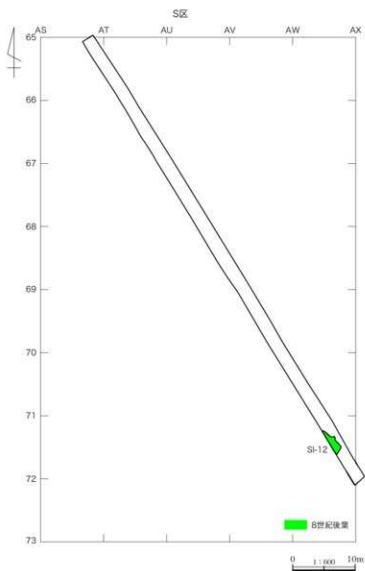
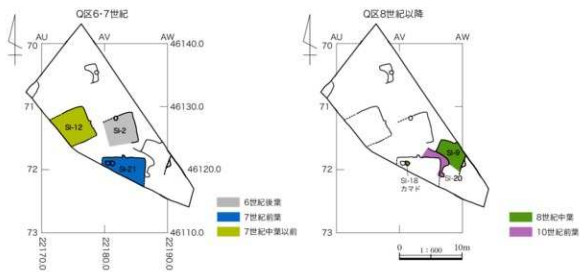
M-1~8 区竖穴建物変遷図



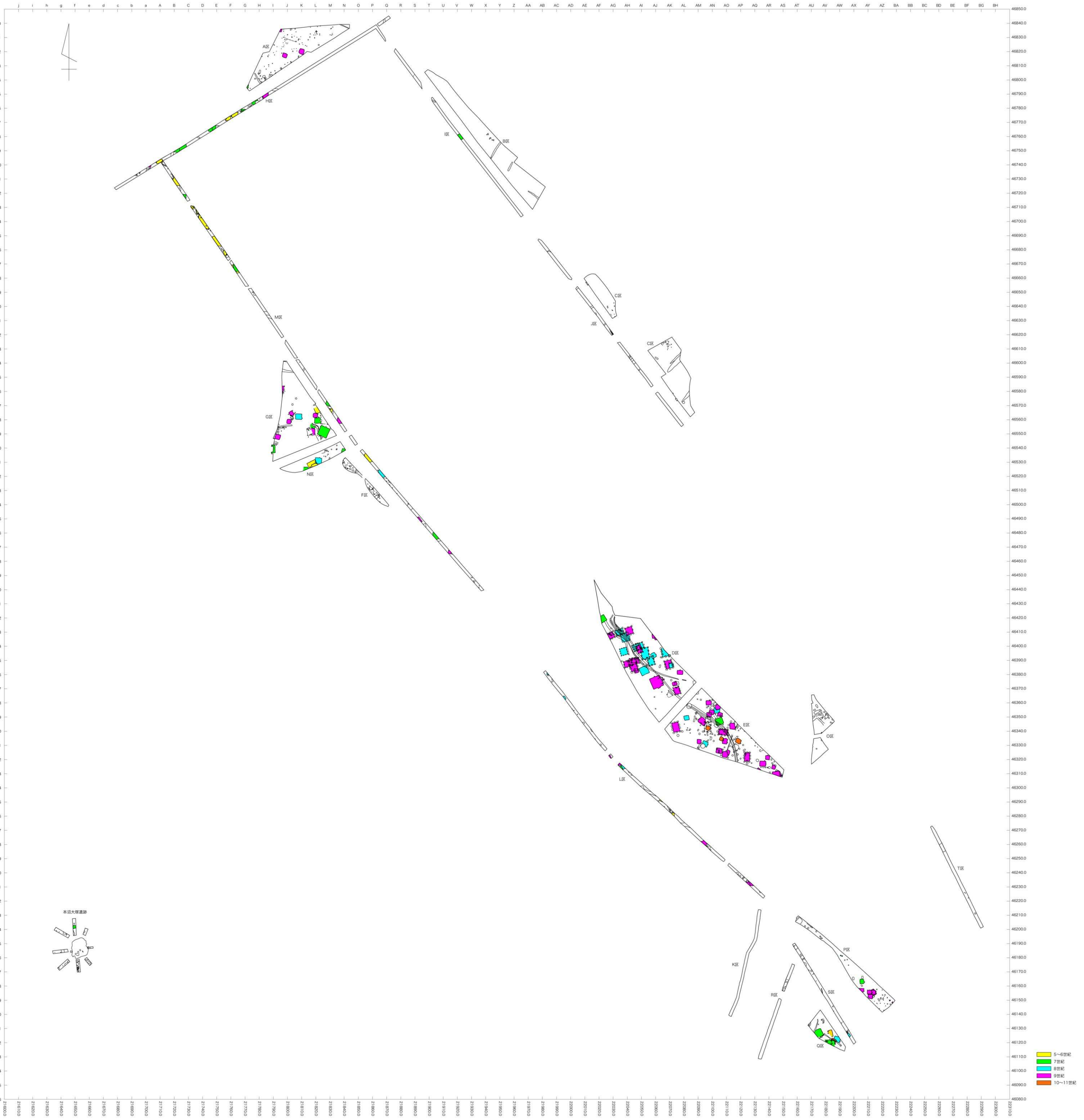
M-9区竪穴建物変遷図



P区竪穴建物変遷図



Q・S区竪穴建物変遷図



小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡配置圖

報告書抄録

ふりがな	こいずみぶんこうらいせき・もとぬまおつかいせき
書名	小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡
副書名	農地整備事業（経営体育成型）小泉・本沼地区における埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第418集
編著者名	今平昌子 神林幸太郎
編集機関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県 公益財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦 2024年3月28日（令和6年3月28日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 東 経		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
こいずみぶんこうらいせき 小泉分校裏 遺跡	こいずみぶんこうらいせき 小泉・長堤・ 本沼地内	212	4583	36° 41′ 75″	140° 07′ 96″	20200701 ～ 20210330 20210601 ～ 20220330	15,407	農地整備事業 （経営体育成 型）小泉・本 沼地区
もとぬまおつかいせき 本沼大塚遺 跡	もとぬまおつかいせき 本沼地内	216	6089	36° 41′ 61″	140° 07′ 48″	20201117 ～ 20210125	400	

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物	特記事項
小泉分校裏 遺跡	集 落 跡	古墳～ 奈良・平安 中世～近現 代	竪穴建物跡 141 掘立柱建物跡 22 欄列 3 方形竪穴 5 地下式坑 7 円形有段土坑 3 井戸跡 1 溝 58 土坑 281 ピット 332 焼土遺構 2		縄文土器・弥生土器・土師器・ 須恵器・かわらけ・陶磁器・陶器・ 土製品・石製品・金属器・古銭 等	置きカマドがほ ぼ完形で出土。 墨書土器・刻書 土器。
本沼大塚遺 跡	集 落 跡 塚	古墳～ 奈良・平安 近世～近現 代	塚 1 竪穴建物跡 1 溝 2 土坑 6 ピット 7		縄文土器・弥生土器・土師器・ 須恵器・陶器・石製品・古銭等	近世～近現代の 塚

要 約	<p>小泉分校裏遺跡は小貝川の東岸に位置する。今回の調査では1つの舌状台地上に古墳時代中期から奈良・平安時代を中心とした集落が確認された。古墳時代中期の竪穴建物跡から置きカマドが出土する。台地の中央部では大型掘立柱建物跡と竪穴建物跡が規則的な配置を呈しており、益子窯跡群との関わりが推測される。</p> <p>本沼大塚遺跡は塚が現存し、最近まで信仰の対象であった可能性が推測される。</p>
-----	---

栃木県埋蔵文化財調査報告第 418 集

小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡

—農地整備事業（経営体育成型）小泉・本沼地区における埋蔵文化財発掘調査—

発行 栃木県

宇都宮市瑞田 1-1-20

T E L 028 (623) 3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町 1-8

T E L 028 (643) 1011

編集 公益財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫 474 番地

T E L 0285 (44) 8441

発行日 令和 6 年 3 月 28 日発行

印刷 株式会社泰明グラフィックス
